



デベロッパーガイド

Amazon Transcribe



Amazon Transcribe: デベロッパーガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは Amazon Transcribe	1
Amazon Transcribe および HIPAA 適格性	1
料金	2
利用可能なリージョンとクォータ	2
利用可能な機能は次のとおりです。	4
サポートされている言語	7
サポートされているプログラミング言語	18
文字セット	20
アブハズ	23
アフリカーンス語	26
アラビア語	26
アストゥリアス語	27
アゼルバイジャン語	28
アルメニア語	29
バシキール語	30
バスク語	32
ベラルーシ語	33
ベンガル語	34
ボスニア語	36
ブルガリア語	36
カタロニア語	37
中部クルド語	38
中国語 (簡体字)	39
中国語 (繁体字)	41
中国語、広東語	42
クロアチア語	42
チェコ語	42
デンマーク語	43
オランダ語	44
英語	45
エストニア語	45
ペルシア語	45
フィンランド語	47
フランス語	47

ガリシア語	48
グルジア語	49
ドイツ語	50
ギリシャ語	51
グジャラート語	52
ハウサ語	54
ヘブライ語	54
ヒンディー語	55
ハンガリー語	58
アイスランド語	58
インドネシア語	59
イタリア語	59
日本語	60
カビル語	60
カンナダ語	61
カザフ語	63
キニヤルワンダ語	64
韓国語	65
キルギス語	65
ラトビア語	68
リトアニア語	68
ルガンダ語	69
マケドニア語	69
マレー語	72
マラヤーラム語	72
マルタ語	74
マラーティー語	75
牧地マリ語	77
モンゴル語	79
ノルウェーブークモール語	82
オディア/オリヤ語	82
バシュト語	84
ポーランド語	86
ポルトガル語	86
パンジャブ語	88
ルーマニア語	90

ロシア語	90
セルビア語	91
シンハラ語	94
スロバキア語	96
スロベニア語	97
ソマリ語	97
スペイン語	98
スンダ語	99
スワヒリ語	99
スウェーデン語	100
タガログ語/フィリピン語	100
タミル語	101
タタール語	102
テルグ語	104
タイ語	106
トルコ語	108
ウクライナ語	109
ウイグル語	110
ウズベク語	113
ベトナム語	114
ウェールズ語	118
ウォロフ語	119
ズールー語	120
仕組み	121
データの入力および出力	121
メディア形式	122
音声チャンネル	123
サンプルレート	124
Output	124
文字起こし番号	127
入門	129
にサインアップする AWS アカウント	129
AWS CLI および SDKsのインストール	130
IAM 認証情報を設定する	131
Amazon S3 バケットの作成	131
IAM ポリシーの作成	132

での文字起こし AWS Management Console	134
での文字起こし AWS CLI	143
新しい文字起こしジョブの開始	143
文字起こしジョブのステータス取得。	144
文字起こしジョブの一覧表示	146
文字起こしジョブの削除	146
AWS SDKs	147
AWS SDKs の使用	159
HTTP または WebSocket による文字起こし	160
ストリーミングトランスクリプション	162
ベストプラクティス	163
ストリーミングと部分的な結果	164
部分的な結果の安定化	165
ストリーミング文字起こしの設定	169
イベントストリームエンコード	183
データフレーム	186
ジョブキューイング	187
ジョブキューイングの有効化	187
リソースのタグ付け	192
タグベースのアクセスコントロール	193
Amazon Transcribe リソースへのタグの追加	194
スピーカーをパーティション化する (ダイアライゼーション)	198
バッチ文字起こしで、スピーカーをパーティション化する	199
ストリーミング文字起こしでスピーカーをパーティション化する	202
出力例	205
マルチチャネルの音声文字起こし	212
バッチ文字起こしでのチャンネル識別の使用	213
ストリーミング文字起こしでのチャンネル識別の使用	217
出力例	218
言語識別	227
バッチ言語識別	227
多言語音声の言語識別	228
言語識別の精度の向上	229
言語識別と他の Amazon Transcribe 機能の組み合わせ	230
バッチ文字起こしによる言語識別の使用	231
ストリーミング言語識別	238

多言語音声の言語識別	239
ストリーミングメディアでの言語識別を使用	239
代替文字起こし	246
代替文字起こしのリクエスト	248
文字起こし精度の向上	253
カスタム語彙	254
カスタム語彙テーブルとリスト	255
テーブルを使用してカスタム語彙を作成する	256
リストを使用してカスタム語彙を作成する	267
カスタム語彙の使用	270
カスタム言語モデル	277
データソース	277
トレーニングデータとチューニングデータ	278
カスタム言語モデルの作成	279
カスタム言語モデルの使用	284
単語のフィルタリング	292
語彙フィルターを作成する	293
カスタム語彙フィルターの作成	294
カスタム語彙フィルターの使用	299
バッチ文字起こしでカスタム語彙フィルターを使用する	270
ストリーミング文字起こしでのカスタム語彙フィルターの使用	274
有害な音声を検出	308
有害な音声検出機能の使用	309
バッチ文字起こしでの有害な音声の検出機能の使用	309
出力例	314
編集済みトランスクリプト	316
バッチジョブで PII を編集する	317
リアルタイムストリームの PII の編集または識別	324
出力例	329
編集された出力例 (バッチ)	330
編集済みストリーミング出力の例	332
PII 識別の出力例	334
字幕の作成	336
字幕ファイルの生成	337
コールセンターの音声の分析	340
一般的なユースケース	340

考慮事項と追加情報	342
利用可能なリージョンとクォータ	343
通話後分析	344
通話後のインサイト	344
カテゴリを作成する	347
文字起こしを開始する	359
通話後分析出力	368
通話の生成要約の有効化	381
リアルタイムコール分析	385
リアルタイムインサイト	386
カテゴリを作成する	388
通話後分析とリアルタイム文字起こし	395
文字起こしを開始する	403
リアルタイムコール分析出力	411
Amazon Chime 通話の文字起こし	417
コードの例	419
基本	420
アクション	420
シナリオ	484
Amazon Transcribe ストリーミングアプリケーションを構築する	485
テキストを音声に変換し、テキストに戻す	485
カスタム語彙を作成し改良する	486
音声の文字起こしとジョブデータを取得する	496
セキュリティ	508
Identity and Access Management	509
対象者	509
アイデンティティを使用した認証	510
ポリシーを使用したアクセスの管理	513
と IAM の Amazon Transcribe 連携方法	516
混乱した代理の防止	523
アイデンティティベースのポリシーの例	524
トラブルシューティング	533
データ保護	535
ネットワーク間トラフィックのプライバシー	536
データ暗号化	536
サービス改善のためのデータ使用をオプトアウトする	539

モニタリング Amazon Transcribe	540
によるモニタリング CloudWatch	541
Amazon Transcribe によるモニタリング CloudTrail	541
Amazon EventBridge で を使用する Amazon Transcribe	545
コンプライアンス検証	554
耐障害性	555
インフラストラクチャセキュリティ	555
脆弱性分析と管理	556
VPC エンドポイントAWS PrivateLink	556
共有サブネット	558
セキュリティに関するベストプラクティス	559
Amazon Transcribe 医療	561
利用可能なリージョンとクォータ	562
医療専門分野	563
医療用語と測定値の文字起こし	564
文字起こし番号	567
医療会話の文字起こし	569
音声ファイルの文字起こし	570
リアルタイムストリームの文字起こし	574
スピーカーパーティショニングを有効にする	577
マルチチャネルの音声文字起こし	587
メディカルディクテーションの文字起こし	595
音声ファイルの文字起こし	596
ストリーミングのメディカルディクテーションの書き起こし	600
医療用カスタム語彙の作成と使用	603
医療用カスタム語彙のテキストファイルを作成する	604
テキストファイルを使用して医療用カスタム語彙を作成する	608
医療用カスタム語彙を使用した音声ファイルの文字起こし	610
医療用カスタム語彙を使用してリアルタイムストリームを文字起こし	612
Amazon Transcribe Medical の文字セット	615
トランスクリプトで PHI を識別する	616
音声ファイル内の PHI の識別	618
リアルタイムストリームでの PHI の識別	622
代替文字起こしの生成	624
VPC エンドポイントAWS PrivateLink	627
Amazon Transcribe Medical VPC エンドポイントに関する考慮事項	627

Amazon Transcribe Medical 用のインターフェイス VPC エンドポイントの作成	628
Amazon Transcribe Medical ストリーミング用の VPC エンドポイントポリシーの作成	628
共有サブネット	630
AWS HealthScribe	631
セキュリティ	632
サービスの可用性	632
技術要件	632
サポートされている医療専門分野	633
ワークフロー	633
トランスクリプトファイル	634
臨床ドキュメントファイル	634
HISTORY_AND_PHYSICAL テンプレートセクション	636
GIRPP テンプレートセクション	637
BIRP テンプレートセクション	637
SIRP テンプレートセクション	638
DAP テンプレートセクション	638
BH_SOAP テンプレートセクション	639
PH_SOAP テンプレートセクション	639
変換ジョブ	640
AWS HealthScribe 文字起こしジョブの開始	640
ストリーミング	655
ガイドラインと要件	656
ResourceAccessRoleArn ロールのアクセス許可	656
Starting AWS HealthScribe ストリーミング文字起こし	658
AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化	674
カスタマーマネージドキーの作成	676
AWS HealthScribe でのカスタマーマネージドキーの指定	679
AWS KMS 暗号化コンテキスト	680
AWS HealthScribe の暗号化キーのモニタリング	683
ドキュメント履歴	686
AWS 用語集	699
.....	dcc

とは Amazon Transcribe

Amazon Transcribe は、機械学習モデルを使用して音声を変換する自動音声認識サービスです。をスタンドアロンの文字起こしサービス Amazon Transcribe として使用したり、任意のアプリケーションに speech-to-text 機能を追加したりできます。

を使用すると Amazon Transcribe、言語のカスタマイズによる特定のユースケースの精度を向上させたり、コンテンツをフィルタリングして顧客のプライバシーやオーディエンスに適した言語を確保したり、マルチチャネルオーディオのコンテンツを分析したり、個々のスピーカーの音声をパーティション化したりできます。

リアルタイムでメディアを文字起こし (ストリーミング) することも、Amazon S3 バケット (バッチ) にあるメディアファイルを文字起こしすることもできます。文字起こしの種類ごとにどの言語がサポートされているかを確認するには、[サポートされている言語および言語固有の機能](#) の表を参照してください。

トピック

- [Amazon Transcribe および HIPAA 適格性](#)
- [料金](#)
- [利用可能なリージョンとクォータ](#)

このサービスの短いビデオツアーについては、[「What is Amazon Transcribe ?」](#) を参照してください。

詳細については、「[の Amazon Transcribe 仕組み](#)」および「[の開始方法 Amazon Transcribe](#)」を参照してください。

Tip

Amazon Transcribe API に関する情報は [API リファレンス](#) にあります。

Amazon Transcribe および HIPAA 適格性

Amazon Transcribe は AWS HIPAA 適格性と BAA でカバーされています。BAA のお客様は、保管中および転送中のすべての PHI を使用中に暗号化する必要があります。PHI の自動識別は、が

Amazon Transcribe 動作するすべてのリージョンで追加料金なしで利用できます。詳細については、「[HIPAA の適格性と BAA](#)」をご覧ください。

料金

Amazon Transcribe はpay-as-you-go料金のサービスです。料金は、毎月請求される文字起こしされた音声の秒数に基づいています。

使用料は 1 秒ごとに課金され、1 リクエストあたりの最低料金は 15 秒です。PII コンテンツのリダクションやカスタム言語モデルなどの機能には追加料金が適用されることに注意してください。

それぞれのコスト情報については AWS リージョン、[Amazon Transcribe 「料金表」](#)を参照してください。

利用可能なリージョンとクォータ

Amazon Transcribe は、以下でサポートされています AWS リージョン。

リージョン	文字起こしタイプ
af-south-1 (ケープタウン)	バッチ、ストリーミング
ap-east-1 (香港)	バッチ
ap-northeast-1 (東京)	バッチ、ストリーミング
ap-northeast-2 (ソウル)	バッチ、ストリーミング
ap-south-1 (ムンバイ)	バッチ、ストリーミング
ap-southeast-1 (シンガポール)	バッチ、ストリーミング
ap-southeast-2 (シドニー)	バッチ、ストリーミング
ca-central-1 (カナダ、中部)	バッチ、ストリーミング
eu-central-1 (フランクフルト)	バッチ、ストリーミング
eu-north-1 (ストックホルム)	バッチ

リージョン	文字起こしタイプ
eu-west-1 (アイルランド)	バッチ、ストリーミング
eu-west-2 (ロンドン)	バッチ、ストリーミング
eu-west-3 (パリ)	バッチ
me-south-1 (バーレーン)	バッチ
sa-east-1 (サンパウロ)	バッチ、ストリーミング
us-east-1 (バージニア北部)	バッチ、ストリーミング
us-east-2 (オハイオ)	バッチ、ストリーミング
us-gov-east-1 (GovCloud、米国東部)	バッチ、ストリーミング
us-gov-west-1 (GovCloud、米国西部)	バッチ、ストリーミング
us-west-1 (サンフランシスコ)	バッチ
us-west-2 (オレゴン)	バッチ、ストリーミング

Important

リージョンのサポートは Amazon Transcribe、[Amazon Transcribe Medical](#)、[コール分析](#)で異なります。

サポートされている各リージョンのエンドポイントを取得するには、「AWS 全般のリファレンス」の「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

文字起こしに関連するクォータのリストについては、「AWS 全般のリファレンス」の「[Service Quotas](#)」を参照してください。一部のクォータは、リクエストに応じて変更することができます。調整可能列に「はい」と表示されている場合は、増加をリクエストできます。そのためには、表示されたリンクを選択します。

Amazon Transcribe features

ユースケースに最適な Amazon Transcribe ソリューションを決定するために、次の表に特徴の比較を示します。

「バッチ」と 'post-call' は、Amazon S3 バケットにあるファイルの文字起こしを指し、「ストリーミング」と 'real-time' は、メディアをリアルタイムで文字起こしすることを指します。

機能	Amazon Transcribe	Amazon Transcribe Medical ¹	Amazon Transcribe 通話分析
設定オプション			
代替文字起こし	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし
チャンネル識別	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	post-call, real-time
ジョブキューイング	バッチ	なし	post-call
言語識別	バッチ、ストリーミング	なし	post-call
多言語識別	バッチ、ストリーミング	なし	なし
話者ダイアライゼーション	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	post-call
文字起こし番号 ²	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	post-call, real-time
会話分析			
コールの特性	なし	なし	post-call
コールサマリー ²	なし	なし	post-call

機能	Amazon Transcribe	Amazon Transcribe Medical ¹	Amazon Transcribe 通話分析
カスタムの分類	なし	なし	post-call
リアルタイムのカテゴリイベント	なし	なし	real-time
リアルタイムの問題検出 ²	なし	なし	real-time
リアルタイムのスピーカーの感情	なし	なし	real-time
スピーカーの感情	なし	なし	post-call
言語のカスタマイズ			
カスタム言語モデル ²	バッチ、ストリーミング	なし	post-call, real-time
カスタム語彙	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	post-call, real-time
リソース組織			
タグ付け	バッチ	バッチ	post-call
機密データ			
個人の健康情報の識別 ²	なし	バッチ、ストリーミング	なし
個人を特定できる情報の識別 ²	ストリーミング	なし	real-time
音声の編集 ²	なし	なし	post-call, real-time
編集済みトランスクリプト ²	バッチ、ストリーミング	なし	post-call, real-time

機能	Amazon Transcribe	Amazon Transcribe Medical ¹	Amazon Transcribe 通話分析
語彙フィルタリング	バッチ、ストリーミング	なし	post-call, real-time
動画			
字幕	バッチ	なし	なし

 ¹ Amazon Transcribe Medical は米国英語でのみ使用できます。

² この機能は一部の言語ではご利用いただけません。詳細については [サポートされている言語および言語固有の機能](#) の表をご覧ください。

サポートされている言語および言語固有の機能

でサポートされている言語 Amazon Transcribe を次の表に示します。また、言語固有の機能も示しています。文字起こしを進める前に、使用する機能がメディアの言語に対応していることを確認してください。

Amazon Transcribe 機能の完全なリストを表示するには、[機能の概要](#)を参照してください。

次の表では、「バッチ」とは Amazon S3 バケットにあるメディアファイルの文字起こしを指し、「ストリーミング」とはストリーミングされたメディアをリアルタイムで文字起こしすることを指します。コール分析文字起こしの場合、'post-call' は Amazon S3 バケットにあるメディアファイルの文字起こしを指し、はストリーミングされたメディアをリアルタイムで文字起こしすることを'real-time'指しています。

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
アブハズ	ab-GE	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
アフリカーンス語	af-ZA	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
アラビア語 、(ガルフ)	ar-AE	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	なし	post-call
アラビア語 、(モダンスタンダード)	ar-SA	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
アルメニア語	hy-AM	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
アストゥリアス語	ast-ES	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
アゼルバイジャン語	az-AZ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
バシキール語	ba-RU	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
バスク語	eu-ES	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
ベラルーシ語	be-BY	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ベンガル語	bn-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ボスニア語	bs-BA	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ブルガリア語	bg-BG	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
カタロニア語	ca-ES	バッチ、 ストリーミング	ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
中部クルド語 (イラン)	ckb-IR	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
中部クルド語 (イラク)	ckb-IQ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
中国語、 広東語	zh-HK (yue-HK)	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
中国語 (簡体字)	zh-CN	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	なし	post-call
中国語 (繁体字)	zh-TW	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
クロアチア語	hr-HR	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
チェコ語	cs-CZ	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
デンマーク語	da-DK	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
オランダ語	nl-NL	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
英語 英語 (オーストラリア)	en-AU	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	ストリーミング	post-call, real-time

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
英語 英語 (イギリス)	en-GB	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	ストリーミング	post-call, real-time
英語 英語 (インド)	en-IN	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	なし	post-call
英語 英語 (アイルランド)	en-IE	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	なし	post-call
英語 英語 (ニュージーランド)	en-NZ	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
英語 英語 (スコットランド)	en-AB	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	なし	post-call
英語 英語 (南アフリカ)	en-ZA	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
英語 、アメリカ	en-US	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	post-call, real-time
英語 英語 (ウェールズ)	en-WL	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	なし	post-call
エストニア語	et-EE	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード *番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
エストニア語	et-ET	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ペルシア語	fa-IR	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
フィンランド語	fi-FI	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
フランス語	fr-FR	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call, real-time
フランス語 フランス語 (カナダ)	fr-CA	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call, real-time
ガリシア語	gl-ES	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
グルジア語	ka-GE	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ドイツ語	de-DE	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	post-call, real-time
ドイツ語 ドイツ語 (スイス)	de-CH	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
ギリシャ語	el-GR	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
グジャラート語	gu-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ハウサ語	ha-NG	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ヘブライ語	he-IL	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
ヒンディー語 英語 (インド)	hi-IN	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	バッチ	なし	post-call
ハンガリー語	hu-HU	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
アイスランド語	is-IS	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
インドネシア語	id-ID	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
イタリア語	it-IT	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call, real-time
日本語	ja-JP	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	post-call

[言語]	言語コード ド番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
カビル語	kab-DZ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
カンナダ語	kn-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
カザフ語	kk-KZ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
キニヤルワンダ語	rw-RW	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
韓国語	ko-KR	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	なし	post-call
キルギス語	ky-KG	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ラトビア語	lv-LV	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
リトアニア語	lt-LT	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ルガンダ語	lg-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
マケドニア語	mk-MK	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
マレー語	ms-MY	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
マラヤーラム語	ml-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
マルタ語	mt-MT	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
マラーティー語	mr-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
牧地マリ語	mhr-RU	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
モンゴル語	mn-MN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ノルウェーブークモール語	no-NO	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
オディア/オリヤ語	or-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
パシュト語	ps-AF	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ポーランド語	pl-PL	バッチ、 ストリーミング	なし	バッチ、 ストリーミング	なし	いいえ	なし
ポルトガル語	pt-PT	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	バッチ、 ストリーミング	なし	なし	post-call

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
ポルトガル語 ポルトガル語 (ブラジル)	pt-BR	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call, real-time
パンジャブ語	pa-IN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ルーマニア語	ro-RO	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
ロシア語	ru-RU	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
セルビア語	sr-RS	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
シンハラ語	si-LK	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スロバキア語	sk-SK	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
スロベニア語	sl-SI	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ソマリ語	so-SO	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
スペイン語	es-ES	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	なし	なし	post-call
スペイン語 、 アメリカ	es-US	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	バッチ、ストリーミング	post-call, real-time
スunda語	su-ID	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スワヒリ語 (ケニア)	sw-KE	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スワヒリ語 (ブルンジ)	sw-BI	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スワヒリ語 (ルワンダ)	sw-RW	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スワヒリ語 (タンザニア)	sw-TZ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スワヒリ語 (ウガンダ)	sw-UG	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
スウェーデン語	sv-SE	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし

[言語]	言語コード 番号	データ入力	文字起こし番号	頭字語	カスタム言語モデル	リダクション	コール分析*
タガログ語/フィリピン語	tl-PH	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
タミル語	ta-IN	バッチ	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
タタール語	tt-RU	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
テルグ語	te-IN	バッチ	なし	いいえ	いいえ	いいえ	なし
タイ語	th-TH	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
トルコ語	tr-TR	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ウクライナ語	uk-UA	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
ウイグル語	ug-CN	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ウズベク語	uz-UZ	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし
ベトナム語	vi-VN	バッチ、ストリーミング	なし	バッチ、ストリーミング	なし	いいえ	なし
ウェールズ語	cy-WL	バッチ	なし	バッチ	なし	いいえ	なし

バッチ文字起こし	ストリーミング文字起こし
.NET	.NET (Transcribe Medical と HealthScribe はサポートされていません)
AWS コマンドラインインターフェイス (CLI)	CLI はストリーミングをサポートしません。
C++	C++
Go	Go
Java V2	Java V2
JavaScript	JavaScript V3
PHP v3	PHP v3
Python Boto3	用の Python ストリーミング SDK Amazon Transcribe
Ruby v3	Ruby v3
Rust	Rust

で SDKs 「」を参照してください[AWS SDKs](#)。 Amazon Transcribe

使用可能なすべての AWS SDKs [「構築するツール AWS」](#)を参照してください。

 Tip

また、SDK コードサンプルは、次の GitHub リポジトリにあります。

- [AWS コードの例](#)
- [Amazon Transcribe 例](#)

カスタム語彙および語彙フィルターの文字セット

Amazon Transcribe がサポートする言語ごとに、認識 Amazon Transcribe できる特定の文字セットがあります。カスタム語彙または語彙フィルターを作成する場合は、その言語の文字セットに記載されている文字のみを使用してください。サポートされていない文字を使用すると、カスタム語彙または語彙フィルターが失敗します。

Important

カスタム語彙ファイルが、対応された Unicode コードポイントと、次の文字セット内にリスト化されたコードポイントシーケンスのみを使用していることを必ず確認してください。

多くの Unicode 文字は、異なるコードポイントを使用していても、一般的なフォントでは同じように表示されることがあります。このガイドに記載されているコードポイントのみに対応しています。例えば、フランス語の単語 déjà は 合成済み 文字 (1 つの Unicode 値がアクセント付き文字を表す) または 分解 文字 (2 つの Unicode 値はアクセント付き文字を表し、1 つは基本文字、もう 1 つはアクセントを表す) を使用してレンダリングできます。

- 合成済みバージョン 0064 **00E9** 006A **00E0** (déjà としてレンダリングされます)。
- 分解バージョン 0064 **0065** **0301** 006A **0061** **0300** (déjà としてレンダリングされます)。

トピック

- [アブハズ語の文字セット](#)
- [アフリカーンス語の文字セット](#)
- [アラビア語の文字セット](#)
- [アストウリアス語の文字セット](#)
- [アゼルバイジャン語の文字セット](#)
- [アルメニア語の文字セット](#)
- [バシキール語の文字セット](#)
- [バスク語の文字セット](#)
- [ベラルーシ語の文字セット](#)
- [ベンガル語の文字セット](#)
- [ボスニア語の文字セット](#)

- [ブルガリア語の文字セット](#)
- [カタロニア語の文字セット](#)
- [中部クルド語の文字セット](#)
- [中国語、北京語 \(中国本土\)、簡体字の文字セット](#)
- [中国語、北京語 \(台湾\)、繁体字の文字セット](#)
- [中国語、広東語 \(香港\)、繁体字セット](#)
- [クロアチア語の文字セット](#)
- [チェコ語の文字セット](#)
- [デンマーク語の文字セット](#)
- [オランダ語の文字セット](#)
- [英語の文字セット](#)
- [エストニア語の文字セット](#)
- [ペルシャ語の文字セット](#)
- [フィンランド語の文字セット](#)
- [フランス語の文字セット](#)
- [ガリシア語の文字セット](#)
- [グルジア語の文字セット](#)
- [ドイツ語の文字セット](#)
- [ギリシャ語の文字セット](#)
- [グジャラート語の文字セット](#)
- [ハウサ語の文字セット](#)
- [ヘブライ語の文字セット](#)
- [ヒンディー語の文字セット](#)
- [ハンガリー語の文字セット](#)
- [アイスランド語の文字セット](#)
- [インドネシア語の文字セット](#)
- [イタリア語の文字セット](#)
- [日本語の文字セット](#)
- [カビル語の文字セット](#)
- [カンナダ語の文字セット](#)

- [カザフ語の「文字セット」](#)
- [キニヤルワンダ語の文字セット](#)
- [韓国語の文字セット](#)
- [キルギス語の文字セット](#)
- [ラトビア語の文字セット](#)
- [リトアニア語の文字セット](#)
- [ルガンダ語の文字セット](#)
- [マケドニア語の文字セット](#)
- [マレー語の文字セット](#)
- [マラヤーラム語の文字セット](#)
- [マルタ語の文字セット](#)
- [マラーティー語の文字セット](#)
- [牧地マリ語の文字セット](#)
- [モンゴル語の文字セット](#)
- [ノルウェーブークモール語の文字セット](#)
- [オディア/オリヤ語の文字セット](#)
- [パシュト語の文字セット](#)
- [ポーランド語の文字セット](#)
- [ポルトガル語の文字セット](#)
- [パンジャブ語の文字セット](#)
- [ルーマニア語の文字セット](#)
- [ロシア語の文字セット](#)
- [セルビア語の文字セット](#)
- [シンハラ語の文字セット](#)
- [スロバキア語の文字セット](#)
- [スロベニア語の文字セット](#)
- [ソマリ語の文字セット](#)
- [スペイン語の文字セット](#)
- [スンダ語の文字セット](#)
- [スワヒリ語の文字セット](#)

- [スウェーデン語の文字セット](#)
- [タガログ語/フィリピン語の文字セット](#)
- [タミル語の文字セット](#)
- [タタール語の文字セット](#)
- [テルグ語の文字セット](#)
- [タイ語の文字セット](#)
- [トルコ語の文字セット](#)
- [ウクライナ語の文字セット](#)
- [ウイグル語の文字セット](#)
- [ウズベク語の文字セット](#)
- [ベトナム語の文字セット](#)
- [ウェールズ語の文字セット](#)
- [ウォロフ語の文字セット](#)
- [ズールー語の文字セット](#)

アブハズ語の文字セット

アブハズ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
a	0430	лъ	0459
б	0431	һь	045A
в	0432	ћ	045B
г	0433	ќ	045C

文字	Code	文字	Code
д	0434	#	045D
е	0435	ŷ	045E
ж	0436	ц	045F
з	0437	г	0491
и	0438	ф	0493
й	0439	ж	0497
к	043A	з	0499
л	043B	қ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	т	04A1
о	043E	ң	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	қ	04A9
с	0441	с	04AB
т	0442	т	04AD
у	0443	у	04AF
ф	0444	ф	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7

文字	Code	文字	Code
ш	0448	h	04BB
щ	0449	ё	04BD
ъ	044A	ё	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ä	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ý	04F3
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9
#	0525		

アフリカーンス語の文字セット

アフリカーンス語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できません。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ï	00EF
è	00E8	ó	00F3
é	00E9	ô	00F4
ê	00EA	ö	00F6
ë	00EB	ú	00FA
í	00ED	û	00FB
î	00EE	ü	00FC

アラビア語の文字セット

アラビア語のカスタムボキャブラリーでは、次の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用できません。ハイフン (-) を使用して単語を区切ることもできます。

文字	Code	文字	Code
ع	0621	س	0633
آ	0622	ش	0634

文字	Code	文字	Code
أ	0623	ص	0635
ؤ	0624	ض	0636
إ	0625	ط	0637
ئ	0626	ظ	0638
ل	0627	ع	0639
ب	0628	غ	063A
ة	0629	ف	0641
ت	062A	ق	0642
ث	062B	ك	0643
ج	062C	ل	0644
ح	062D	م	0645
خ	062E	ن	0646
د	062F	ه	0647
ذ	0630	و	0648
ر	0631	ى	0649
ز	0632	ي	064A

アストゥリアス語の文字セット

アストゥリアス語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できません。

- a~z
- - (ハイフン)

- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ñ	00F1
é	00E9	ó	00F3
í	00ED	ú	00FA
ü	00FC		

アゼルバイジャン語の文字セット

アゼルバイジャン語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できません。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ä	00E4	ğ	011F
ç	00E7	ı	0131
ö	00F6	ş	015F
ü	00FC	ə	0259
.	0307		

アルメニア語の文字セット

アルメニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ա	0561	ւ	0574
բ	0562	յ	0575
գ	0563	և	0576
դ	0564	ռ	0577
ե	0565	ն	0578
զ	0566	ժ	0579
է	0567	ղ	057A
ը	0568	ջ	057B
թ	0569	և	057C
ժ	056A	ս	057D
ի	056B	վ	057E
լ	056C	ա	057F
խ	056D	ք	0580
ծ	056E	ց	0581

文字	Code	文字	Code
l̥	056F	ɭ	0582
h	0570	ɰ	0583
à	0571	f	0584
ɲ	0572	o	0585
fi	0573	ɸ	0586

バシキール語の文字セット

バシキール語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
a	0430	лъ	0459
б	0431	њ	045A
в	0432	ћ	045B
г	0433	ќ	045C
д	0434	#	045D
е	0435	ѣ	045E
ж	0436	џ	045F
з	0437	ѓ	0491

文字	Code	文字	Code
и	0438	ƒ	0493
й	0439	ж	0497
к	043A	з	0499
л	043B	қ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	т	04A1
о	043E	ң	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	ѐ	04A9
с	0441	ç	04AB
т	0442	т	04AD
у	0443	ү	04AF
ф	0444	ұ	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7
ш	0448	h	04BB
щ	0449	ё	04BD
ъ	044A	ё	04BF
ы	044B	#	04CA

文字	Code	文字	Code
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ä	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ý	04F3
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9

バスク語の文字セット

バスク語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ñ	00F1
é	00E9	ó	00F3
í	00ED	ú	00FA
ü	00FC		

ベラルーシ語の文字セット

ベラルーシ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	с	0441
б	0431	т	0442
в	0432	у	0443
г	0433	ф	0444
д	0434	х	0445
е	0435	ц	0446
ж	0436	ч	0447
з	0437	ш	0448

文字	Code	文字	Code
й	0439	ы	044B
к	043A	ь	044C
л	043B	э	044D
м	043C	ю	044E
н	043D	я	044F
о	043E	ё	0451
п	043F	і	0456
р	0440	ŷ	045E

ベンガル語の文字セット

ベンガル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ু	0981	দ	09A6
ং	0982	ধ	09A7
ঃ	0983	ন	09A8
অ	0985	প	09AA
আ	0986	ফ	09AB

文字	Code	文字	Code
ই	0987	ব	09AC
ঈ	0988	ভ	09AD
উ	0989	ম	09AE
ঊ	098A	য	09AF
ঋ	098B	র	09B0
এ	098F	ল	09B2
ঐ	0990	শ	09B6
ও	0993	ষ	09B7
ঔ	0994	স	09B8
ক	0995	হ	09B9
খ	0996	.	09BC
গ	0997	#	09BD
ঘ	0998	†	09BE
ঙ	0999	†	09BF
চ	099A	†	09C0
ছ	099B	ূ	09C1
জ	099C	ূ	09C2
ঝ	099D	ূ	09C3
ঞ	099E	ূ	09C4
ট	099F	ূ	09C7

文字	Code	文字	Code
Ѓ	09A0	Ѕ	09C8
Д	09A1	Ї	09CB
Ђ	09A2	Ћ	09CC
Ѓ	09A3	Ќ	09CD
Ћ	09A4	#	09CE
Ќ	09A5	Љ	09D7

ボスニア語の文字セット

ボスニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ć	0107	đ	0111
č	010D	š	0161
ž	017E		

ブルガリア語の文字セット

ブルガリア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z

- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	п	043F
б	0431	р	0440
в	0432	с	0441
г	0433	т	0442
д	0434	у	0443
е	0435	ф	0444
ж	0436	х	0445
з	0437	ц	0446
и	0438	ч	0447
й	0439	ш	0448
к	043A	щ	0449
л	043B	ъ	044A
м	043C	ь	044C
н	043D	ю	044E
о	043E	я	044F

カタロニア語の文字セット

カタロニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	ï	00EF
ç	00E7	ò	00F2
è	00E8	ó	00F3
é	00E9	ú	00FA
í	00ED	ü	00FC
ı	0140		

中部クルド語の文字セット

中部クルド語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ئ	0626	م	0645
ل	0627	ن	0646
پ	0628	و	0648

文字	Code	文字	Code
ت	062A	پ	067E
ج	062C	چ	0686
ح	062D	ر	0695
خ	062E	ژ	0698
د	062F	ڤ	06A4
ر	0631	ک	06A9
ز	0632	گ	06AF
س	0633	ڄ	06B5
ش	0634	ھ	06BE
ع	0639	و	06C6
غ	063A	ؤ	06C7
ف	0641	ى	06CC
ق	0642	ئ	06CE
ل	0644	ه	06D5

中国語、北京語 (中国本土)、簡体字の文字セット

中国語 (簡体字) のカスタム語彙の場合、Phrase フィールドには次のファイルに表示されている任意の文字が使用できます。

- [zh-cn-character-set](#)

SoundsLike フィールドには、以下のファイルに一覧表示されているピンイン音節を含めることができます。

• ピンイン文字セット

SoundsLike フィールドにピンイン音節を使用する場合、音節をハイフン (-) で区切ります。

Amazon Transcribe は、数字を使用した中国語 (簡体字) の 4 つのトーンを表します。次の表では、「ma」という単語に対応する声調記号を示しています。

声調	声調記号	声調番号
Tone 1	māi	ma1
Tone 2	má	ma2
Tone 3	mǎ	ma3
Tone 4	mà	ma4

Note

5 番目 (ニュートラル) トーンの場合、トーン 1 を使用できます。ただし、「er」を除き、トーン 2 にマッピングする必要があります。例えば、「打转儿」は「da3-zhuan4-er2」として表されます。

中国語 (簡体字) のカスタム語彙の場合、IPA フィールドを使用しませんが、カスタム語彙テーブルに IPA ヘッダーを含める必要があります。

テキスト形式の入力ファイルの例を以下に示します。この例では、スペースを使用して列を揃えています。入力ファイルでは、TAB 文字を使用して列を区切る必要があります。DisplayAs 列にのみスペースを含めます。

Phrase	SoundsLike	IPA	DisplayAs
##	kang1-jian4		
##	qian3-ze2		
####	guo2-fang2-da4-chen2		
#####	shi4-jie4-bo2-lan3-hui4		###

中国語、北京語 (台湾)、繁体字の文字セット

中国語 (繁体字) のカスタム語彙の場合、Phrase フィールドには次のファイルに表示されている任意の文字が使用できます。

- [zh-tw-character-set](#)

SoundsLike フィールドには、以下のファイルに一覧表示されているピンイン音節を含めることができます。

- [zhuyin-character-set](#)

SoundsLike フィールドにピンイン音節を使用する場合、音節をハイフン (-) で区切ります。

Amazon Transcribe は、数字を使用した中国語 (繁体字) の 4 つのトーンを表します。次の表では、「ㄇㄩˊ」という単語に対応する声調記号を示しています。

声調	声調記号
Tone 1	ㄇㄩˊ
Tone 2	ㄇㄩˊˊ
Tone 3	ㄇㄩˇ
Tone 4	ㄇㄩˋ

中国語 (繁体字) のカスタム語彙の場合、IPA フィールドを使用しませんが、カスタム語彙テーブルに IPA ヘッダーを含める必要があります。

テキスト形式の入力ファイルの例を以下に示します。この例では、スペースを使用して列を揃えています。入力ファイルでは、TAB 文字を使用して列を区切る必要があります。DisplayAs 列にのみスペースを含めます。

Phrase	SoundsLike	IPA	DisplayAs
##	###`-##		
##	###~-##'		
####	###'-##'-##`-##~		

```
#####      #`-####`-##'-##~-####`      ###
```

中国語、広東語 (香港)、繁体字セット

中国語 (広東語) 香港のカスタム語彙の場合、Phraseフィールドは次のファイルに記載されている任意の文字を使用できます。

- [zh-hk-character-set](#)

クロアチア語の文字セット

クロアチア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ć	0107	đ	0111
č	010D	š	0161
ž	017E		

チェコ語の文字セット

チェコ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	d'	010F
é	00E9	ě	011B
í	00ED	ň	0148
ó	00F3	ř	0159
ú	00FA	š	0161
ý	00FD	t'	0165
č	010D	ů	016F
ž	017E		

デンマーク語の文字セット

デンマーク語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
Å	00C5	æ	00E6
Æ	00C6	é	00E9
Ø	00D8	ø	00F8
å	00E5		

オランダ語の文字セット

オランダ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	î	00EE
á	00E1	ï	00EF
â	00E2	ñ	00F1
ä	00E4	ò	00F2
ç	00E7	ó	00F3
è	00E8	ô	00F4
é	00E9	ö	00F6
ê	00EA	ù	00F9
ë	00EB	ú	00FA
ì	00EC	û	00FB
í	00ED	ü	00FC

英語の文字セット

英語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

エストニア語の文字セット

エストニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ä	00E4	ü	00FC
õ	00F5	š	0161
ö	00F6	ž	017E

ペルシャ語の文字セット

ペルシャ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
ع	0621	ط	0638

文字	Code	文字	Code
آ	0622	ع	0639
أ	0623	غ	063A
ؤ	0624	ف	0641
ئ	0626	ق	0642
ا	0627	ل	0644
ب	0628	م	0645
ت	062A	ن	0646
ث	062B	ه	0647
ج	062C	و	0648
ح	062D	ـ	064E
خ	062E	ع	064F
د	062F	ـ	0650
ذ	0630	و	0651
ر	0631	پ	067E
ز	0632	چ	0686
س	0633	ژ	0698
ش	0634	ک	06A9
ص	0635	گ	06AF
ض	0636	ی	06CC
ط	0637		

フィンランド語の文字セット

フィンランド語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ä	00E4	ö	00F6
å	00E5	š	0161
ž	017E		

フランス語の文字セット

フランス語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
À	00C0	à	00E0
Â	00C2	â	00E2

文字	Code	文字	Code
Ç	00C7	ç	00E7
È	00C8	è	00E8
É	00C9	é	00E9
Ê	00CA	ê	00EA
Ë	00CB	ë	00EB
Î	00CE	î	00EE
Ï	00CF	ï	00EF
Ô	00D4	ô	00F4
Ö	00D6	ö	00F6
Ù	00D9	ù	00F9
Û	00DB	û	00FB
Ü	00DC	ü	00FC

ガリシア語の文字セット

ガリシア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ñ	00F1

文字	Code	文字	Code
é	00E9	ó	00F3
í	00ED	ú	00FA
ü	00FC		

グルジア語の文字セット

グルジア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ა	10D0	რ	10E0
ბ	10D1	ს	10E1
გ	10D2	ჭ	10E2
დ	10D3	ყ	10E3
ე	10D4	ვ	10E4
ზ	10D5	ქ	10E5
წ	10D6	შ	10E6
ჩ	10D7	ც	10E7
ც	10D8	ძ	10E8
ძ	10D9	წ	10E9

文字	Code	文字	Code
Œ	10DA	ß	10EA
ð	10DB	đ	10EB
ċ	10DC	ȝ	10EC
ꞥ	10DD	ȝ	10ED
ǝ	10DE	ḃ	10EE
ɟ	10DF	Ꝥ	10EF
ṽ	10F0		

ドイツ語の文字セット

ドイツ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a～z
- A～Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ä	00E4	Ä	00C4
ö	00F6	Ö	00D6
ü	00FC	Ü	00DC
ß	00DF		

ギリシャ語の文字セット

ギリシャ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ά	03AC	ν	03BD
έ	03AD	ξ	03BE
ή	03AE	ο	03BF
ί	03AF	π	03C0
ϋ	03B0	ρ	03C1
α	03B1	ς	03C2
β	03B2	σ	03C3
γ	03B3	τ	03C4
δ	03B4	υ	03C5
ε	03B5	φ	03C6
ζ	03B6	χ	03C7
η	03B7	ψ	03C8
θ	03B8	ω	03C9
ι	03B9	ϊ	03CA

文字	Code	文字	Code
κ	03BA	ü	03CB
λ	03BB	ó	03CC
μ	03BC	ω	03CE
ĩ	0390		

グジャラート語の文字セット

グジャラート語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ઁ	0A81	ઃ	0AA6
ઃ	0A82	ઁ	0AA7
ઃ	0A83	ઁ	0AA8
અ	0A85	૫	0AAA
અ	0A86	ઃ	0AAB
ઈ	0A87	૫	0AAC
ઈ	0A88	૫	0AAD
ઉ	0A89	૫	0AAE
ઉ	0A8A	૫	0AAF

文字	Code	文字	Code
ઋ	0A8B	૨	0AB0
ૠ	0A8D	ૢ	0AB2
ૡ	0A8F	ૣ	0AB3
ૢ	0A90	૤	0AB5
ૣ	0A91	૥	0AB6
૤	0A93	૦	0AB7
૥	0A94	૧	0AB8
૦	0A95	ૡ	0AB9
૧	0A96	ૢ	0ABC
ૡ	0A97	ૣ	0ABE
ૢ	0A98	૤	0ABF
ૣ	0A99	૥	0AC0
૤	0A9A	૦	0AC1
૥	0A9B	૧	0AC2
૦	0A9C	ૡ	0AC3
૧	0A9D	ૢ	0AC5
ૡ	0A9E	ૣ	0AC7
ૢ	0A9F	૤	0AC8
ૣ	0AA0	૥	0AC9
૤	0AA1	૦	0ACB

文字	Code	文字	Code
ᄀ	0AA2	ᄁ	0ACC
ᄂ	0AA3	ᄃ	0ACD
ᄄ	0AA4	ᄅ	0AD0
ᄆ	0AA5	ᄇ	0AE0

ハウサ語の文字セット

ハウサ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ƙ	0199	ḃ	0253
ƴ	01B4	ḍ	0257
~	0303		

ヘブライ語の文字セット

ヘブライ語のカスタムボキャブラリーでは、次の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
-	002D	◌	05DD

文字	Code	文字	Code
ॠ	05D0	ॡ	05DE
ॢ	05D1	ॣ	05DF
।	05D2	॥	05E0
०	05D3	०	05E1
ॠ	05D4	ॡ	05E2
ॢ	05D5	ॣ	05E3
।	05D6	॥	05E4
०	05D7	०	05E5
ॠ	05D8	ॡ	05E6
ॢ	05D9	ॣ	05E7
।	05DA	॥	05E8
०	05DB	०	05E9
ॠ	05DC	ॡ	05EA

ヒンディー語の文字セット

ヒンディー語のカスタムボキャブラリーでは、次の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
-	002D	ॐ	0925
.	002E	ॐ	0926
ॐ	0901	ॐ	0927

文字	Code	文字	Code
.	0902	न	0928
:	0903	प	092A
अ	0905	फ	092B
आ	0906	ब	092C
इ	0907	भ	092D
ई	0908	म	092E
उ	0909	य	092F
ऊ	090A	र	0930
ऋ	090B	ल	0932
ए	090F	व	0935
ऐ	0910	श	0936
ऑ	0911	ष	0937
ओ	0913	स	0938
औ	0914	ह	0939
क	0915	ट	093E
ख	0916	डि	093F
ग	0917	ी	0940
घ	0918	ु	0941
ङ	0919	ॆ	0942
च	091A	ॆ	0943

文字	Code	文字	Code
छ	091B	ॠ	0945
ज	091C	ॡ	0947
झ	091D	ॢ	0948
ञ	091E	ॣ	0949
ट	091F	।	094B
ठ	0920	॥	094C
ड	0921	०	094D
ढ	0922	ॠ	095B
ण	0923	ॡ	095C
त	0924	ॢ	095D

Amazon Transcribe は、次の文字をマッピングします。

文字	マッピング先
त (0929)	न (0928)
र (0931)	र (0930)
क (0958)	क (0915)
ख (0959)	ख (0916)
ग (095A)	ग (0917)
फ (095E)	फ (092B)
य (095F)	य (092F)

ハンガリー語の文字セット

ハンガリー語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ö	00F6
é	00E9	ú	00FA
í	00ED	ü	00FC
ó	00F3	ő	0151
ű	0171		

アイスランド語の文字セット

アイスランド語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ú	00FA
é	00E9	ý	00FD

文字	Code	文字	Code
ð	00F0	þ	00FE
í	00ED	æ	00E6
ó	00F3	ö	00F6

インドネシア語の文字セット

インドネシア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

イタリア語の文字セット

イタリア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
À	00C0	à	00E0
Ä	00C4	ä	00E4

文字	Code	文字	Code
Ç	00C7	ç	00E7
È	00C8	è	00E8
É	00C9	é	00E9
Ê	00CA	ê	00EA
Ë	00CB	ë	00EB
Ì	00CC	ì	00EC
Ò	00D2	ò	00F2
Ù	00D9	ù	00F9
Ü	00DC	ü	00FC

日本語の文字セット

日本語のカスタム語彙の場合、DisplayAs フィールドはすべてのひらがな、カタカナ、漢字と全角ローマ字の大文字をサポートします。

Phrase フィールドは、次のファイルに一覧表示されている文字をサポートします。

- [ja-jp-character-set](#)

カビル語の文字セット

カビル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ï	00EF	đ	1E0D
č	010D	ħ	1E25
ř	0159	ŗ	1E5B
ǧ	01E7	ş	1E63
ε	025B	ţ	1E6D
γ	0263	ẓ	1E93

カンナダ語の文字セット

カンナダ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
೦	0C82	೧	0CA7
೨	0C83	೨	0CA8
೩	0C85	೩	0CAA
೪	0C86	೪	0CAB
೫	0C87	೫	0CAC
೬	0C88	೬	0CAD

文字	Code	文字	Code
ಉ	0C89	ಮ	0CAE
ಊ	0C8A	ಯ	0CAF
ಋ	0C8B	ರ	0CB0
ಎ	0C8E	ಲ	0CB2
ಏ	0C8F	ಳ	0CB3
ಐ	0C90	ವ	0CB5
ಒ	0C92	ಶ	0CB6
ಓ	0C93	ಷ	0CB7
ಔ	0C94	ಸ	0CB8
ಕ	0C95	ಖ	0CB9
ಖ	0C96	#	0CBC
ಗ	0C97	#	0CBD
ಘ	0C98	ಞ	0CBE
ಙ	0C99	ತ	0CBF
ಚ	0C9A	ತೆ	0CC0
ಛ	0C9B	ಠ	0CC1
ಜ	0C9C	ಠ	0CC2
ಝ	0C9D	ಠ	0CC3
ಞ	0C9E	ಕಿ	0CC6
ಟ	0C9F	ಕೀ	0CC7

文字	Code	文字	Code
ᄀ	0CA0	ᄁ	0CC8
ᄂ	0CA1	ᄃ	0CCA
ᄄ	0CA2	ᄅ	0CCB
ᄆ	0CA3	ᄇ	0CCC
ᄈ	0CA4	ᄉ	0CCD
ᄊ	0CA5	ᄋ	0CD5
ᄌ	0CA6	ᄍ	0CD6
ᄎ	0CE0		

カザフ語の「文字セット」

カザフ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
т	0442	ы	044B
б	0431	я	044F
о	043E	с	0441
п	043F	h	04BB
ш	0448	д	0434

文字	Code	文字	Code
и	0438	р	0440
ч	0447	г	0433
н	043D	ё	0451
қ	049B	й	0439
і	0456	ө	04E9
щ	0449	в	0432
е	0435	э	044D
ə	04D9	ң	04A3
ю	044E	л	043B
з	0437	ф	0444
х	0445	к	043A
ц	0446	у	0443
ү	04AF	ж	0436
м	043C	ғ	0493
ь	044C	а	0430
ъ	044A	ұ	04B1

キニヤルワンダ語の文字セット

キニヤルワンダ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できません。

- a~z
- - (ハイフン)

- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ó	00F3
â	00E2	ô	00F4
ã	00E3	ú	00FA
ç	00E7	ü	00FC
è	00E8	ā	0101
é	00E9	ē	0113
ê	00EA	ī	012B
ë	00EB	ō	014D
í	00ED	ū	016B
ï	00EF	’	0301

韓国語の文字セット

韓国語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。詳細については、Wikipedia の「[ハングル音節文字](#)」を参照してください。

キルギス語の文字セット

キルギス語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	лъ	0459
б	0431	њ	045A
в	0432	ћ	045B
г	0433	ќ	045C
д	0434	#	045D
е	0435	ђ	045E
ж	0436	џ	045F
з	0437	ѓ	0491
и	0438	ѣ	0493
й	0439	ж	0497
к	043A	з	0499
л	043B	ќ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	т	04A1
о	043E	ћ	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	џ	04A9
с	0441	џ	04AB
т	0442	џ	04AD

文字	Code	文字	Code
у	0443	ү	04AF
ф	0444	ұ	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7
ш	0448	h	04BB
щ	0449	ё	04BD
ъ	044A	ё	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ă	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ÿ	04F3

文字	Code	文字	Code
ī	0457	#	04F7
j	0458	ÿ	04F9

ラトビア語の文字セット

ラトビア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ā	0101	ķ	0137
č	010D	ļ	013C
ē	0113	ņ	0146
ģ	0123	š	0161
ī	012B	ū	016B
ž	017E		

リトアニア語の文字セット

リトアニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ǎ	0105	ǐ	012F
č	010D	š	0161
ę	0119	ų	0173
è	0117	ū	016B
ž	017E		

ルガンダ語の文字セット

ルガンダ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ÿ	00FF	ŋ	014B

マケドニア語の文字セット

マケドニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	љ	0459
б	0431	њ	045A
в	0432	ћ	045B
г	0433	ќ	045C
д	0434	#	045D
е	0435	ђ	045E
ж	0436	џ	045F
з	0437	ѓ	0491
и	0438	ѣ	0493
й	0439	жѝ	0497
к	043A	џ	0499
л	043B	ќ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	т	04A1
о	043E	ћ	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	џ	04A9
с	0441	џ	04AB
т	0442	џ	04AD

文字	Code	文字	Code
у	0443	у	04AF
ф	0444	у	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7
ш	0448	h	04BB
щ	0449	е	04BD
ъ	044A	е	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ă	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
ѓ	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ÿ	04F3

文字	Code	文字	Code
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9

マレー語の文字セット

マレー語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

マラヤーラム語の文字セット

マラヤーラム語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
。	0D02	ᳵ	0D28
ഃ	0D03	ᳶ	0D2A
ഔ	0D05	᳷	0D2B
഑	0D06	᳸	0D2C

文字	Code	文字	Code
ഇ	0D07	ഭ	0D2D
ഇ൬	0D08	മ	0D2E
ഉ	0D09	യ	0D2F
ഉ൬	0D0A	ര	0D30
ഋ	0D0B	റ	0D31
എ	0D0E	ല	0D32
ഏ	0D0F	ള	0D33
ഐ	0D10	ഴ	0D34
ഒ	0D12	വ	0D35
ഓ	0D13	ശ	0D36
ഔ	0D14	ഷ	0D37
ക	0D15	സ	0D38
ഖ	0D16	ഹ	0D39
ഗ	0D17	ഓ	0D3E
ഘ	0D18	ഈ	0D3F
ങ	0D19	ീ	0D40
ച	0D1A	ു	0D41
ഛ	0D1B	ൂ	0D42
ജ	0D1C	്യ	0D43
ത	0D1D	െ	0D46

文字	Code	文字	Code
ḡ	0D1E	ḡ	0D47
ḡ	0D1F	ḡ	0D48
ḡ	0D20	ḡ	0D4A
ḡ	0D21	ḡ	0D4B
ḡ	0D22	ḡ	0D4C
ḡ	0D23	ḡ	0D4D
ḡ	0D24	#	0D7A
ḡ	0D25	#	0D7B
ḡ	0D26	#	0D7C
ḡ	0D27	#	0D7D

マルタ語の文字セット

マルタ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	ù	00F9
è	00E8	ć	010B
ì	00EC	ğ	0121

文字	Code	文字	Code
ò	00F2	ħ	0127
ž	017C		

マラーティー語の文字セット

マラーティー語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ॐ	0901	थ	0925
.	0902	द	0926
:	0903	ध	0927
अ	0905	न	0928
आ	0906	प	092A
इ	0907	फ	092B
ई	0908	ब	092C
उ	0909	भ	092D
ऊ	090A	म	092E
ऋ	090B	य	092F
ॐ	090D	र	0930

文字	Code	文字	Code
ए	090F	ल	0932
ऐ	0910	ळ	0933
ऑ	0911	व	0935
ओ	0913	श	0936
औ	0914	ष	0937
क	0915	स	0938
ख	0916	ह	0939
ग	0917	.	093C
घ	0918	।	093E
ङ	0919	ॆ	093F
च	091A	ी	0940
छ	091B	ु	0941
ज	091C	ॊ	0942
झ	091D	ो	0943
ञ	091E	ौ	0945
ट	091F	्	0947
ठ	0920	ॎ	0948
ड	0921	ॏ	0949
ढ	0922	ॐ	094B
ण	0923	ॐ	094C

文字	Code	文字	Code
त	0924	、	094D
ॐ	0950		

牧地マリ語の文字セット

牧地マリ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	љ	0459
б	0431	њ	045A
в	0432	ћ	045B
г	0433	ќ	045C
д	0434	#	045D
е	0435	ђ	045E
ж	0436	џ	045F
з	0437	ѓ	0491
и	0438	ѣ	0493
й	0439	ж	0497
к	043A	з	0499

文字	Code	文字	Code
л	043B	қ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	к	04A1
о	043E	ң	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	қ	04A9
с	0441	ç	04AB
т	0442	т	04AD
у	0443	ү	04AF
ф	0444	ұ	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7
ш	0448	h	04BB
щ	0449	ё	04BD
ъ	044A	ё	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ă	04D3
ю	044E	ě	04D7

文字	Code	文字	Code
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ÿ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ÿ	04F3
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9

モンゴル語の文字セット

モンゴル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
a	0430	лъ	0459
б	0431	һ	045A
в	0432	һ	045B

文字	Code	文字	Code
г	0433	ᠠ	045C
д	0434	#	045D
е	0435	ᠡ	045E
ж	0436	ᠢ	045F
з	0437	ᠣ	0491
и	0438	ᠤ	0493
й	0439	ᠤᠯ	0497
к	043A	ᠤᠰ	0499
л	043B	ᠤᠰ	049B
м	043C	ᠤᠰ	049F
н	043D	ᠤᠰ	04A1
о	043E	ᠤᠰ	04A3
п	043F	ᠤᠰ	04A5
р	0440	ᠤᠰ	04A9
с	0441	ᠤᠰ	04AB
т	0442	ᠤᠰ	04AD
у	0443	ᠤᠰ	04AF
ф	0444	ᠤᠰ	04B1
х	0445	ᠤᠰ	04B3
ц	0446	ᠤᠰ	04B5

文字	Code	文字	Code
ч	0447	ч	04B7
ш	0448	h	04BB
щ	0449	е	04BD
ъ	044A	е	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ä	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ÿ	04F3
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9

ノルウェーブックモール語の文字セット

ノルウェーブックモール語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
å	00E5	æ	00E6
ø	00F8		

オディア/オリヤ語の文字セット

オディア/オリヤ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ୱ	0B01	୩	0B26
୦	0B02	୲	0B27
୪	0B03	୩	0B28

文字	Code	文字	Code
ଅ	0B05	ଢ	0B2A
ଅା	0B06	ଢ଼	0B2B
ଇ	0B07	ବ	0B2C
ଇ	0B08	ଭ	0B2D
ଉ	0B09	ଫ	0B2E
ଊ	0B0A	ଝ	0B2F
ଋ	0B0B	ର	0B30
ଏ	0B0F	ଲ	0B32
ଏଫ	0B10	ଳ	0B33
ଓ	0B13	ଶ	0B36
ଓଫ	0B14	ଷ	0B37
କ	0B15	ସ	0B38
ଖ	0B16	ହ	0B39
ଗ	0B17	.	0B3C
ଘ	0B18	।	0B3E
ଙ	0B19	ଂ	0B3F
ଚ	0B1A	୧	0B40
ଛ	0B1B	୨	0B41
ଜ	0B1C	୩	0B42
ଝ	0B1D	୪	0B43

文字	Code	文字	Code
ᄀ	0B1E	ᄁ	0B47
ᄂ	0B1F	ᄃ	0B48
ᄄ	0B20	ᄅ	0B4B
ᄆ	0B21	ᄇ	0B4C
ᄈ	0B22	ᄉ	0B4D
ᄊ	0B23	ᄋ	0B56
ᄌ	0B24	ᄍ	0B5F
ᄎ	0B25	ᄏ	0B60
#	0B71		

パシュト語の文字セット

パシュト語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
آ	0622	و	0648
ا	0623	ي	064A
ؤ	0624	ښ	064B
ښ	0626	ښ	064C

文字	Code	文字	Code
ا	0627	ء	064D
ب	0628	ـ	064E
ت	062A	ع	064F
ث	062B	ـ	0650
ج	062C	و	0651
ح	062D	و	0652
خ	062E	#	0654
د	062F	ا	0670
ذ	0630	پ	067C
ر	0631	پ	067E
ز	0632	ع	0681
س	0633	خ	0685
ش	0634	چ	0686
ص	0635	د	0689
ض	0636	ر	0693
ط	0637	ر	0696
ظ	0638	ژ	0698
ع	0639	بن	069A
غ	063A	ک	06A9
ف	0641	گ	06AB

文字	Code	文字	Code
ق	0642	گ	06AF
ج	0644	چ	06BC
م	0645	س	06CC
ن	0646	س	06CD
ه	0647	ھ	06D0

ポーランド語の文字セット

ポーランド語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ó	00F3	ł	0142
ą	0105	ń	0144
ć	0107	ś	015B
ę	0119	ź	017A
ż	017C		

ポルトガル語の文字セット

ポルトガル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
À	00C0	à	00E0
Á	00C1	á	00E1
Â	00C2	â	00E2
Ã	00C3	ã	00E3
Ä	00C4	ä	00E4
Ç	00C7	ç	00E7
È	00C8	è	00E8
É	00C9	é	00E9
Ê	00CA	ê	00EA
Ë	00CB	ë	00EB
Í	00CD	í	00ED
Ñ	00D1	ñ	00F1
Ó	00D3	ó	00F3
Ô	00D4	ô	00F4
Õ	00D5	õ	00F5

文字	Code	文字	Code
Ö	00D6	ö	00F6
Ú	00DA	ú	00FA
Ü	00DC	ü	00FC

パンジャブ語の文字セット

パンジャブ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ਅ	0A05	ਧ	0A27
ਆ	0A06	ਨ	0A28
ੲ	0A07	ਪ	0A2A
ਈ	0A08	ਫ	0A2B
ਉ	0A09	ਬ	0A2C
ਊ	0A0A	ਭ	0A2D
ਏ	0A0F	ਮ	0A2E
ਐ	0A10	ਯ	0A2F
ੳ	0A13	ਰ	0A30
ਐ̃	0A14	ਲ	0A32

文字	Code	文字	Code
ਕ	0A15	ਵ	0A35
ਖ	0A16	ਸ	0A38
ਗ	0A17	ਚ	0A39
ਘ	0A18	.	0A3C
ਙ	0A19	ਟ	0A3E
ਚ	0A1A	ਫ	0A3F
ਛ	0A1B	ਭ	0A40
ਜ	0A1C	ਲ	0A41
ਝ	0A1D	ਮ	0A42
ਞ	0A1E	ਨ	0A47
ਟ	0A1F	ਯ	0A48
ਠ	0A20	ਰ	0A4B
ਡ	0A21	ਕ	0A4C
ਢ	0A22	ਖ	0A4D
ਣ	0A23	ਜ਼	0A5C
ਤ	0A24	ੜ	0A70
ਥ	0A25	ਲ਼	0A71
ਦ	0A26	ੲ	0A72
ਏ	0A73		

ルーマニア語の文字セット

ルーマニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ă	0103	#	0219
â	00E2	#	021B
î	00EE	ș	015F
ț	0163		

ロシア語の文字セット

ロシア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
'	0027	п	043F
-	002D	р	0440
.	002E	с	0441
а	0430	т	0442
б	0431	у	0443
в	0432	ф	0444

文字	Code	文字	Code
г	0433	х	0445
д	0434	ц	0446
е	0435	ч	0447
ж	0436	ш	0448
з	0437	щ	0449
и	0438	ъ	044A
й	0439	ы	044B
к	043A	ь	044C
л	043B	э	044D
м	043C	ю	044E
н	043D	я	044F
о	043E	ё	0451

セルビア語の文字セット

セルビア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ć	0107	ı	0456

文字	Code	文字	Code
č	010D	ï	0457
đ	0111	j	0458
š	0161	љ	0459
ž	017E	њ	045A
а	0430	ћ	045B
б	0431	ќ	045C
в	0432	#	045D
г	0433	ђ	045E
д	0434	џ	045F
е	0435	ѓ	0491
ж	0436	ѣ	0493
з	0437	ж	0497
и	0438	з	0499
й	0439	к	049B
к	043A	к	049F
л	043B	л	04A1
м	043C	м	04A3
н	043D	н	04A5
о	043E	о	04A9
п	043F	п	04AB

文字	Code	文字	Code
p	0440	т	04AD
c	0441	у	04AF
т	0442	ү	04B1
y	0443	х	04B3
ф	0444	ц	04B5
x	0445	ч	04B7
ц	0446	h	04BB
ч	0447	е	04BD
ш	0448	ё	04BF
щ	0449	#	04CA
ъ	044A	ă	04D1
ы	044B	ä	04D3
ь	044C	ě	04D7
э	044D	ə	04D9
ю	044E	з	04E1
я	044F	й	04E3
#	0450	ö	04E7
ë	0451	ө	04E9
ђ	0452	ȳ	04EF
í	0453	ÿ	04F1

文字	Code	文字	Code
€	0454	ÿ	04F3
s	0455	#	04F7
İ	04F9		

シンハラ語の文字セット

シンハラ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
#	0D82	#	0DAF
#	0D83	#	0DB0
#	0D85	#	0DB1
#	0D86	#	0DB3
#	0D87	#	0DB4
#	0D88	#	0DB5
#	0D89	#	0DB6
#	0D8A	#	0DB7
#	0D8B	#	0DB8
#	0D8C	#	0DB9

文字	Code	文字	Code
#	0D8D	#	0DBA
#	0D91	#	0DBB
#	0D92	#	0DBD
#	0D93	#	0DC0
#	0D94	#	0DC1
#	0D95	#	0DC2
#	0D96	#	0DC3
#	0D9A	#	0DC4
#	0D9B	#	0DC5
#	0D9C	#	0DC6
#	0D9D	#	0DCA
#	0D9E	#	0DCF
#	0D9F	#	0DD0
#	0DA0	#	0DD1
#	0DA1	#	0DD2
#	0DA2	#	0DD3
#	0DA3	#	0DD4
#	0DA4	#	0DD6
#	0DA5	#	0DD8
#	0DA7	#	0DD9

文字	Code	文字	Code
#	0DA8	##	0DDA
#	0DA9	#	0ddb
#	0DAA	##	0DDC
#	0DAB	###	0DDD
#	0DAC	##	0DDE
#	0DAD	#	0DDF
#	0DAE	#	0DF2

スロバキア語の文字セット

スロバキア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
á	00E1	ň	0148
ä	00E4	ó	00F3
č	010D	ô	00F4
d'	010F	í	0155
é	00E9	š	0161
í	00ED	t'	0165

文字	Code	文字	Code
í	013A	ú	00FA
ř	013E	ý	00FD
ž	017E		

スロベニア語の文字セット

スロベニア語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
č	010D	š	0161
ž	017E		

ソマリ語の文字セット

ソマリ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
s	0073	d	0064
t	0074	a	0061
a	0061	r	0072
n	006E	d	0064

スペイン語の文字セット

スペイン語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
Á	00C1	á	00E1
É	00C9	é	00E9
Í	00CD	í	00ED
Ó	00D3	ó	0XF3
Ú	00DA	ú	00FA
Ñ	00D1	ñ	0XF1
ü	00FC		

スンダ語の文字セット

スンダ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
s	0073	d	0064
t	0074	a	0061
a	0061	r	0072
n	006E	d	0064

スワヒリ語の文字セット

スワヒリ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
s	0073	d	0064
t	0074	a	0061
a	0061	r	0072

文字	Code	文字	Code
n	006E	d	0064

スウェーデン語の文字セット

スウェーデン語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a～z
- A～Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
Ä	00C4	ä	00E4
Å	00C5	å	00E5
Ö	00D6	ö	00F6

タガログ語/フィリピン語の文字セット

タガログ語/フィリピン語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a～z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code		
ñ	00F1		

タミル語の文字セット

タミル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
அ	0B85	ர	0BB0
ஆ	0B86	ல	0BB2
இ	0B87	வ	0BB5
ஈ	0B88	ழ	0BB4
உ	0B89	ள	0BB3
ஊ	0B8A	ற	0BB1
எ	0B8E	ன	0BA9
ஏ	0B8F	ஜ	0B9C
ஐ	0B90	#	0BB6
ஒ	0B92	ஷ	0BB7
ஓ	0B93	ஸ	0BB8
ஔ	0B94	ஹ	0BB9
ஐ	0B83	.	0BCD
க	0B95	ஈ	0BBE
ங	0B99	ர்	0BBF

文字	Code	文字	Code
ஃ	0B9A	஄	0BC0
அ	0B9E	ஆ	0BC1
இ	0B9F	ஈ	0BC2
ஊ	0BA3	஋	0BC6
஋	0BA4	஌	0BC7
எ	0BA8	ஏ	0BC8
ஐ	0BAA	ஊ	0BCA
஋	0BAE	஌	0BCB
஍	0BAF	எ	0BCC

タタール語の文字セット

タタール語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	ӑ	0459
б	0431	ӕ	045A
в	0432	ӗ	045B
г	0433	ӧ	045C

文字	Code	文字	Code
д	0434	#	045D
е	0435	ŷ	045E
ж	0436	ц	045F
з	0437	г	0491
и	0438	ф	0493
й	0439	ж	0497
к	043A	з	0499
л	043B	қ	049B
м	043C	к	049F
н	043D	т	04A1
о	043E	ң	04A3
п	043F	н	04A5
р	0440	қ	04A9
с	0441	с	04AB
т	0442	т	04AD
у	0443	у	04AF
ф	0444	ф	04B1
х	0445	х	04B3
ц	0446	ц	04B5
ч	0447	ч	04B7

文字	Code	文字	Code
ш	0448	h	04BB
щ	0449	е	04BD
ъ	044A	е	04BF
ы	044B	#	04CA
ь	044C	ă	04D1
э	044D	ă	04D3
ю	044E	ě	04D7
я	044F	ə	04D9
#	0450	з	04E1
ë	0451	й	04E3
ђ	0452	ö	04E7
í	0453	ө	04E9
є	0454	ȳ	04EF
s	0455	ÿ	04F1
i	0456	ÿ	04F3
ï	0457	#	04F7
j	0458	Ы	04F9

テルグ語の文字セット

テルグ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

文字	Code	文字	Code
-	002D	త	0C24
ఁ	0C01	థ	0C25
ం	0C02	ద	0C26
ః	0C03	ధ	0C27
అ	0C05	న	0C28
ఆ	0C06	ప	0C2A
ఇ	0C07	ఫ	0C2B
ఈ	0C08	బ	0C2C
ఉ	0C09	భ	0C2D
ఊ	0C0A	మ	0C2E
ఋ	0C0B	య	0C2F
ఌ	0C30	ఎ	0C0E
఍	0C31	ఏ	0C0F
అ	0C32	ఐ	0C10
ఆ	0C33	ఒ	0C12
ఇ	0C35	ఓ	0C13
ఈ	0C36	ఔ	0C14
ఋ	0C37	క	0C15
ౠ	0C38	ఖ	0C16
ౡ	0C39	గ	0C17

文字	Code	文字	Code
ᐃ	0C3E	ᐅ	0C18
ᐄ	0C3F	ᐆ	0C19
ᐅ	0C40	ᐇ	0C1A
ᐆ	0C41	ᐈ	0C1B
ᐇ	0C42	ᐉ	0C1C
ᐈ	0C43	ᐊ	0C1D
ᐉ	0C44	ᐋ	0C1E
ᐊ	0C47	ᐌ	0C1F
ᐋ	0C48	ᐍ	0C20
ᐌ	0C4A	ᐎ	0C21
ᐍ	0C4B	ᐏ	0C22
ᐎ	0C4C	ᐐ	0C23
ᐏ	0C4D		

タイ語の文字セット

タイ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
ก	0E01	ล	0E25
ข	0E02	ฬ	0E26
ฃ	0E03	ว	0E27
ค	0E04	ศ	0E28
ฅ	0E05	ษ	0E29
ฆ	0E06	ส	0E2A
ง	0E07	ห	0E2B
จ	0E08	ฬ	0E2C
ฉ	0E09	อ	0E2D
ช	0E0A	ฮ	0E2E
ฌ	0E0B	ๆ	0E2F
ฌ	0E0C	ะ	0E30
ญ	0E0D	เ	0E31
ฎ	0E0E	า	0E32
ฏ	0E0F	อ	0E34
ฐ	0E10	อ	0E35
ฑ	0E11	อ	0E36
ฒ	0E12	อ	0E37
ณ	0E13	อ	0E38
ด	0E14	น	0E39

文字	Code	文字	Code
๓	0E15	.	0E3A
๔	0E16	๑	0E40
๕	0E17	๒	0E41
๖	0E18	๓	0E42
๗	0E19	๔	0E43
๘	0E1A	๕	0E44
๙	0E1B	๖	0E45
๐	0E1C	๗	0E46
๑	0E1D	๘	0E47
๒	0E1E	๙	0E48
๓	0E1F	๐	0E49
๔	0E20	๑	0E4A
๕	0E21	๒	0E4B
๖	0E22	๓	0E4C
๗	0E23	๔	0E4D
๘	0E24		

トルコ語の文字セット

トルコ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z

- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
Ç	00C7	ö	00F6
Ö	00D6	û	00FB
Ü	00DC	ü	00FC
â	00E2	Ĝ	011E
ä	00E4	ğ	011F
ç	00E7	İ	0130
è	00E8	ı	0131
é	00E9	Ş	015E
ê	00EA	ş	015F
í	00ED	š	0161
î	00EE	ž	017E
ó	00F3		

ウクライナ語の文字セット

ウクライナ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
а	0430	р	0440
б	0431	с	0441
в	0432	т	0442
г	0433	у	0443
д	0434	ф	0444
е	0435	х	0445
ж	0436	ц	0446
з	0437	ч	0447
и	0438	ш	0448
й	0439	щ	0449
к	043A	ь	044C
л	043B	ю	044E
м	043C	я	044F
н	043D	ё	0454
о	043E	і	0456
п	043F	ї	0457
ғ	0491		

ウイグル語の文字セット

ウイグル語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
#	0611	و	0648
#	0613	س	0649
#	0614	ش	064A
ء	0621	=	064
آ	0622	ا	064C
إ	0623	=	064D
ؤ	0624	ا	064E
إ	0625	ا	064F
س	0626	ا	0650
ا	0627	ع	0651
ب	0628	و	0652
ة	0629	#	0653
ت	062A	#	0654
ث	062B	#	0657
ج	062C	ا	0670
ح	062D	ط	0679

文字	Code	文字	Code
خ	062E	ن	067A
د	062F	پ	067B
ذ	0630	ت	067C
ر	0631	ث	067D
ز	0632	پ	067E
س	0633	ث	067F
ش	0634	پ	0680
ص	0635	خ	0681
ض	0636	ج	0683
ط	0637	ج	0684
ظ	0638	خ	0685
ع	0639	ج	0686
غ	063A	ج	0687
-	0640	ط	0688
ف	0641	د	0689
ق	0642	د	068A
ك	0643	ذ	068C
ل	0644	د	068D
م	0645	ذ	068F
ن	0646	ر	0691

文字	Code	文字	Code
o	0647	o	0693
o	0695		

ウズベク語の文字セット

ウズベク語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
т	0442	я	044F
б	0431	с	0441
о	043E	ҳ	04B3
п	043F	д	0434
ш	0448	р	0440
и	0438	ў	045E
ч	0447	г	0433
н	043D	ё	0451
қ	049B	й	0439
е	0435	в	0432
ю	044E	э	044D

文字	Code	文字	Code
з	0437	л	043B
x	0445	ф	0444
ц	0446	к	043A
м	043C	у	0443
ь	044C	ж	0436
ъ	044A	ф	0493
а	0430		

ベトナム語の文字セット

Amazon Transcribe は、数字を使用したベトナム語の 6 つのトーンを表します。次の表では、「ma」という単語に対応する声調記号を示しています。

声調名	声調記号	声調番号
ngang	ma	ma1
sắc	má	ma2
huyền	mà	ma3
hỏi	mả	ma4
ngã	mã	ma5
nặng	mạ	ma6

ベトナム語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- A~Z

- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)
- & (アンパサンド)
- ; (セミコロン)
- _ (ローライン)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	À	00C0
á	00E1	Á	00C1
â	00E2	Â	00C2
ã	00E3	Ã	00C3
è	00E8	È	00C8
é	00E9	É	00C9
ê	00EA	Ê	00CA
ì	00EC	Ì	00CC
í	00ED	Í	00CD
ò	00F2	Ò	00D2
ó	00F3	Ó	00D3
ô	00F4	Ô	00D4
õ	00F5	Õ	00D5
ù	00F9	Ù	00D9

文字	Code	文字	Code
ú	00FA	Ú	00DA
ý	00FD	Ý	00DD
ă	0103	Ă	0102
đ	0111	Đ	0110
ĩ	0129	Ĩ	0128
ũ	0169	Ũ	0168
ơ	01A1	Ơ	01A0
ư	01B0	Ư	01AF
ạ	1EA1	Ạ	1EA0
ả	1EA3	Ả	1EA2
ã	1EA5	Ã	1EA4
ä	1EA7	Ä	1EA6
ă	1EA6	Ă	1EA8
ă	1EAB	Ă	1EAA
ậ	1EAD	Ậ	1EAC
ă	1EAF	Ă	1EAE
ă	1EB1	Ă	1EB0
ă	1EB3	Ă	1EB2
ă	1EB5	Ă	1EB4
ă	1EB7	Ă	1EB6

文字	Code	文字	Code
ẹ	1EB9	Ẹ	1EB8
ě	1EBB	Ě	1EBA
ẽ	1EBD	Ẽ	1EBC
ế	1EBF	Ế	1EBE
ề	1EC1	Ề	1EC0
ể	1EC3	Ể	1EC2
ễ	1EC5	Ễ	1EC4
ệ	1EC7	Ệ	1EC6
ỉ	1EC9	Ỉ	1EC8
ị	1ECB	Ị	1ECA
ọ	1ECD	Ọ	1ECC
ỏ	1ECF	Ỏ	1ECE
ố	1ED1	Ố	1ED0
ồ	1ED3	Ồ	1ED2
ỗ	1ED5	Ỗ	1ED4
ỗ	1ED7	Ỗ	1ED6
ộ	1ED9	Ộ	1ED8
ớ	1EDB	Ớ	1EDA
ờ	1EDD	Ờ	1EDC
ở	1EDF	Ở	1EDE

文字	Code	文字	Code
õ	1EE1	Õ	1EE0
ø	1EE3	Ø	1EE2
ұ	1EE5	Ҫ	1EE4
ű	1EE7	Ű	1EE6
ų	1EE9	Ų	1EE8
ù	1EEB	Ù	1EEA
ű	1EED	Ű	1EEC
ũ	1EEF	Ũ	1EEE
ұ	1EF1	Ҫ	1EF0
ỳ	1EF3	Ỡ	1EF2
Ƶ	1EF5	ƶ	1EF4
Ỳ	1EF7	Ỡ	1EF6
ỹ	1EF9	Ờ	1EF8

ウェールズ語の文字セット

ウェールズ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドで使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	ò	00F2
á	00E1	ó	00F3
â	00E2	ô	00F4
ä	00E4	ö	00F6
è	00E8	ù	00F9
é	00E9	ú	00FA
ê	00EA	û	00FB
ë	00EB	ü	00FC
ì	00EC	ý	00FD
í	00ED	ÿ	00FF
î	00EE	ŵ	0175
ï	00EF	ÿ	0177
ÿ	1EF3		

ウォロフ語の文字セット

ウォロフ語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
à	00E0	ê	00EA
ã	00E3	ë	00EB
ç	00E7	ñ	00F1
è	00E8	ó	00F3
é	00E9	ô	00F4
η	014B		

ズールー語の文字セット

ズールー語のカスタムボキャブラリーでは、次の文字を Phrase フィールドで使用できます。

- a~z
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

以下の Unicode 文字を Phrase フィールドを使用することもできます。

文字	Code	文字	Code
s	0073	d	0064
t	0074	a	0061
a	0061	r	0072
n	006E	d	0064

の Amazon Transcribe 仕組み

Amazon Transcribe は、機械学習モデルを使用して音声を変換します。

トランスクリプトには、文字起こしされたテキストに加えて、各単語や句読点の信頼スコアやタイムスタンプなど、文字起こしされたコンテンツに関するデータが含まれます。出力例については、「[データの入力と出力](#)」セクションを参照してください。文字起こしに適用できる機能の完全なリストについては、「[機能の概要](#)」を参照してください。

文字起こしの方法は、次の 2 つの主要なカテゴリに分類できます。

- バッチ文字起こし: Amazon S3 バケットにアップロードされたメディアファイルを文字起こしします。[AWS CLI](#)、[AWS Management Console](#)、およびさまざまな [AWS SDK](#) を使用してバッチ文字起こしを行うことができます。
- ストリーミング文字起こし: メディアストリームをリアルタイムで文字起こしします。ストリーミング文字起こしには[AWS Management Console](#)、[HTTP/2](#)、[WebSocket](#)、およびさまざまな [AWS SDK](#) を使用できます。

機能と言語のサポートは、バッチ文字起こしとストリーミング文字起こしで異なることに注意してください。さらなる詳細については、「[Amazon Transcribe features](#)」と「[サポートされている言語](#)」を参照してください。

トピック

- [データの入力および出力](#)
- [数字と句読点の文字起こし](#)

開始するための API オペレーション

バッチ: [StartTranscriptionJob](#)

ストリーミング: [StartStreamTranscription](#)、startStreamTranscriptionWebSocket

データの入力および出力

Amazon Transcribe は、音声データを Amazon S3 バケットまたはメディアストリームのメディアファイルとして受け取り、テキストデータに変換します。

Amazon S3 バケットに保存されているメディアファイルを文字起こしする場合は、バッチ文字起こしを実行します。メディアストリームを文字起こしする場合は、ストリーミング文字起こしを実行していることになります。この2つのプロセスには、異なるルールと要件があります。

バッチ文字起こしでは、すべての文字起こしジョブを同時に処理する必要がある場合、[ジョブキューイング](#)を使用します。これにより、Amazon Transcribe は文字起こしジョブを追跡し、スロットが利用可能になったときに処理できます。

Note

Amazon Transcribe は、分析モデルの品質を継続的に向上させるために、コンテンツを一時的に保存することがあります。詳細については、「[Amazon Transcribe よくある質問](#)」を参照してください。によって保存された可能性のあるコンテンツの削除をリクエストするには Amazon Transcribe、でケースを開きます[サポート](#)。

トピック

- [メディア形式](#)
- [音声チャネル](#)
- [サンプルレート](#)
- [Output](#)

メディア形式

サポートされるメディアタイプは、バッチ文字起こしとストリーミング文字起こしでは異なりますが、どちらにも可逆形式が推奨されます。詳細については次の表を参照してください。

	バッチ	ストリーミング
サポートされる形式	• AMR • FLAC • M4A • MP3 • MP4 • Ogg	• FLAC • Ogg Opus • PCM エンコーディング

	バッチ	ストリーミング
	• WebM • WAV	
推奨形式	• FLAC • PCM 16 ビットエンコーディング の WAV	• FLAC • PCM 16 ビット符号付き リトルエンディアン の音声 (WAV は含まない)

最良の結果を得るには、FLAC または PCM 16 ビットエンコーディング の WAV などの可逆形式を使用します。

Note

ストリーミング文字起こしは、すべての言語でサポートされているわけではありません。詳細については、[サポートされている言語の表](#)の「データ入力」列を参照してください。

音声チャネル

Amazon Transcribe は、シングルチャネルとデュアルチャネルのメディアをサポートしています。2 チャネルを超えるメディアは現在サポートされていません。

音声の 1 つのチャネルに複数のスピーカーが含まれていて、文字起こし出力で各スピーカーを分割してラベル付けしたい場合は、[スピーカーパーティショニング \(ダイアライゼーション\)](#) を使用できます。

音声に 2 つの異なるチャネルの音声が含まれている場合は、[チャネル識別](#)を使用して、トランスクリプト内の各チャネルを個別に文字起こしできます。

これらのオプションはどちらも 1 つのトランスクリプトファイルを作成します。

Note

[スピーカーパーティショニング](#)または[チャネル識別](#)を有効にしない場合、トランスクリプトテキストは 1 つの連続したセクションとして提供されます。

サンプルレート

バッチ文字起こしジョブでは、サンプルレートを選択することもできますが、このパラメータはオプションです。リクエストに含める場合は、指定する値が音声の実際のサンプルレートと一致することを確認します。音声と一致しないサンプルレートを指定すると、ジョブが失敗することがあります。

ストリーミング文字起こしでは、リクエストにサンプルレートを含める必要があります。バッチ文字起こしジョブと同様に、指定する値が音声の実際のサンプルレートと一致していることを確認します。

電話録音などの低音質音声のサンプルレートは、通常 8,000 Hz を使用します。忠実度の高いオーディオの場合、は 16,000 Hz ~ 48,000 Hz の値 Amazon Transcribe をサポートします。

Output

文字起こしの出力は JSON 形式です。トランスクリプトの最初の部分には、トランスクリプトそのものが段落形式で含まれ、その後に単語と句読点ごとに追加データが続きます。提供されるデータは、リクエストに含めた機能によって異なります。少なくとも、トランスクリプトにはすべての単語の開始時刻、終了時刻、および信頼スコアが含まれます。[次のセクション](#)では、追加のオプションや機能を含まない基本的な文字起こしリクエストの出力例を示しています。

すべてのバッチ文字起こしは Amazon S3 バケットに保存されます。トランスクリプトを独自の Amazon S3 バケットに保存するか、で安全なデフォルトバケット Amazon Transcribe を使用するかを選択できます。Amazon S3 バケットの作成と使用について詳しくは、「[バケットの使用](#)」を参照してください。

所有する Amazon S3 バケットにトランスクリプトを保存する場合は、文字起こしリクエストでバケットの URI を指定します。バッチ文字起こしジョブを開始する前に、必ずこのバケットの Amazon Transcribe 書き込みアクセス許可を付与してください。独自のバケットを指定した場合、トランスクリプトは削除するまでそのバケットに残ります。

Amazon S3 バケットを指定しない場合、は安全なサービスマネージドバケット Amazon Transcribe を使用し、トランスクリプトのダウンロードに使用できる一時的な URI を提供します。一時的な URI は 15 分間有効であることに注意してください。提供された URI の使用中に AccessDenied エラーが発生した場合は、トランスクリプト用の新しい一時的な URI を取得する GetTranscriptionJob リクエストを行ってください。

デフォルトバケットを選択した場合、ジョブの有効期限 (90 日) になると、トランスクリプトは削除されます。この有効期限を過ぎてもトランスクリプトを保存したい場合は、ダウンロードする必要があります。

ストリーミングトランスクリプトは、ストリームに使用しているのと同じ方法で返されます。

Tip

JSON 出力を単語形式のターンバイターンのトランスクリプトに変換したい場合は、この「[GitHub の例 \(Python3 用\)](#)」を参照してください。このスクリプトは、通話後分析文字起こしや、ダイアライゼーションが有効になっている標準のバッチ文字起こしで動作します。

出力例

トランスクリプトでは、段落形式で完全な文字起こしが得られ、その後に単語ごとの内訳が記載され、すべての単語と句読点のデータが示されます。これには、開始時間、終了時間、信頼スコア、タイプ (pronunciation または punctuation) が含まれます。

次の例は、[追加機能](#)を含まないシンプルなバッチ文字起こしジョブのものです。文字起こしリクエストに追加機能を適用するたびに、文字起こし出力ファイルに追加のデータが追加されます。

基本的なバッチ文字起こしには主に以下の 2 つのセクションがあります。

1. **transcripts**: 1 つのテキストブロックにトランスクリプト全体が含まれます。
2. **items**: transcripts セクションの各単語と句読点に関する情報が含まれます。
3. **audio_segments**: オーディオセグメントは、中断のない音声言語を含む音声録音の特定部分で、一時停止や中断を最小限に抑えます。このセグメントは自然な音声の流れをキャプチャし、開始時刻と終了時刻 audio_segments でキャプチャします。オーディオセグメント内の items 要素は、セグメント内の各項目に対応する識別子のシーケンスです。

文字起こしリクエストに追加機能を含めるたびに、トランスクリプトに追加情報が生成されます。

```
{
  "jobName": "my-first-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "Welcome to Amazon Transcribe."
      }
    ],
    "items": [
      {
```

```
    "id": 0,
    "start_time": "0.64",
    "end_time": "1.09",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "Welcome"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 1,
    "start_time": "1.09",
    "end_time": "1.21",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "to"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 2,
    "start_time": "1.21",
    "end_time": "1.74",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "Amazon"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 3,
    "start_time": "1.74",
    "end_time": "2.56",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "Transcribe"
      }
    ]
  }
```

```
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 4,
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.0",
        "content": "."
      }
    ],
    "type": "punctuation"
  }
],
"audio_segments": [
  {
    "id": 0,
    "transcript": "Welcome to Amazon Transcribe.",
    "start_time": "0.64",
    "end_time": "2.56",
    "items": [
      0,
      1,
      2,
      3,
      4
    ]
  }
],
},
"status": "COMPLETED"
}
```

数字と句読点の文字起こし

Amazon Transcribe は、サポートされているすべての言語に句読点を自動的に追加し、記述システムで大文字と小文字を区別する言語に対して単語を適切に大文字にします。

ほとんどの言語では、数字は単語形式で文字起こしされます。ただし、数字の文字起こしをサポートしている言語の場合、は Amazon Transcribe 数字が使用されているコンテキストに応じて異なる方法で扱います。

たとえば、話者が「Meet me at eight-thirty AM on June first at one-hundred Main Street with three-dollars-and-fifty-cents and one-point-five chocolate bars」と言うと、次のように文字起こしされます。

- 番号文字起こしがサポートされている言語: Meet me at 8:30 a.m. on June 1st at 100 Main Street with \$3.50 and 1.5 chocolate bars
- その他すべての言語: Meet me at eight thirty a m on June first at one hundred Main Street with three dollars and fifty cents and one point five chocolate bars

数字の文字起こしをサポートしている言語を確認するには、「」を参照してください[サポートされている言語および言語固有の機能](#)。

の開始方法 Amazon Transcribe

文字起こしを作成する前に、いくつかの前提条件があります。

- [AWS アカウントにサインアップする](#)
- [AWS CLI と SDKs をインストールする](#) (文字起こし AWS Management Console に を使用している場合は、このステップをスキップできます)
- [IAM 認証情報の設定](#)
- [Amazon S3 バケットをセットアップする](#)
- [IAM ポリシーを作成する](#)

これらの前提条件を満たしたら、文字起こしの準備は完了です。開始するには、以下のリストから希望の文字起こし方法を選択します。

- [AWS CLI](#)
- [AWS Management Console](#)
- [AWS SDK](#)
- [HTTP](#)
- [WebSocket](#)

Tip

を初めて使用する場合 Amazon Transcribe や、機能を試したい場合は、 を使用することをお勧めします[AWS Management Console](#)。また、コンピュータのマイクを使ってストリームを開始したい場合も、これが最も簡単なオプションです。

HTTP/2 と WebSocket を使ったストリーミングは他の文字起こし方法よりも複雑なので、これらの方法を使い始める前に [ストリーミング文字起こしの設定](#) セクションを確認することをおすすめします。ストリーミング文字起こしには SDK を使用することを強くおすすめします。

にサインアップする AWS アカウント

[無料利用枠](#)アカウントまたは[有料アカウント](#)にサインアップできます。どちらのオプションでもすべての にアクセスできます AWS のサービス。無料利用枠にはトライアル期間があり、その間に使用

量を調べ AWS のサービス で見積もることができます。試用期間が終了すると、有料アカウントに移行できます。料金は従量課金制で発生します。詳細については、「[Amazon Transcribe 料金表](#)」を参照してください。

 Tip

アカウントを設定するときは、IAM エンティティの作成に必要なため、AWS アカウント ID をメモしておきます。

AWS CLI および SDKsのインストール

Amazon Transcribe API を使用するには、まず をインストールする必要があります AWS CLI。現在の AWS CLI はバージョン 2 です。[Linux](#)、[Mac](#)、[Windows](#)、[Docker](#) のインストール手順については、[AWS Command Line Interface ユーザーガイド](#)に記載されています。

AWS CLI をインストールしたら、セキュリティ認証情報と 用に[設定](#)する必要があります AWS リージョン。

SDK Amazon Transcribe で を使用する場合は、インストール手順に使用する言語を選択します。

- [.NET](#)
- [C++](#)
- [Go](#)
- [Java V2](#)
- [JavaScript](#)
- [PHP v3](#)
- [AWS SDK for Python \(Boto3\)](#) (バッチ文字起こし)
- [Python](#) (ストリーミング文字起こし)
- [Ruby V3](#)
- [Rust](#) (バッチ文字起こし)
- [Rust](#) (ストリーミング文字起こし)

IAM 認証情報を設定する

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。

日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報を保護し、この認証情報はルートユーザーのみが実行できるタスクに使用します。

ベストプラクティスとして、管理者アクセスを必要とするユーザーを含むユーザーに、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して一時的な認証情報を使用して AWS サービスにアクセスすることを要求します。

フェデレーティッドアイデンティティとは、アイデンティティソースを通じて提供される認証情報を使用して AWS サービスにアクセスするすべてのユーザーです。フェデレーティッド ID が AWS アカウントにアクセスすると、ロールが継承され、ロールは一時的な認証情報を提供します。

アクセスを一元管理する場合は、[AWS IAM Identity Center](#)を使用することをお勧めします。IAM Identity Centerにユーザーとグループを作成します。または、独自の ID ソースのユーザーとグループのセットに接続して同期し、すべての AWS アカウント とアプリケーションで使用できます。詳細については、「[の Identity and Access Management Amazon Transcribe](#)」を参照してください。

IAM ベストプラクティスの詳細については、「」の「[セキュリティのベストプラクティス IAM](#)」を参照してください。

Amazon S3 バケットの作成

Amazon S3 は安全なオブジェクトストレージサービスです。 はファイル (オブジェクトと呼ばれる) をコンテナ (バケットと呼ばれる) に Amazon S3 保存します。

バッチ文字起こしを実行するには、まずメディアファイルを Amazon S3 バケットにアップロードする必要があります。文字起こし出力に Amazon S3 バケットを指定しない場合、 はトランスクリプトを一時 AWS 管理 Amazon S3 バケットに Amazon Transcribe 入力します。管理 AWS 対象バケットの文字起こし出力は、90 日後に自動的に削除されます。

[最初の S3 バケットを作成し、バケットにオブジェクトをアップロードする](#)方法を説明します。

IAM ポリシーの作成

でアクセスを管理するには AWS、ポリシーを作成し、IAM ID (ユーザー、グループ、またはロール) または AWS リソースにアタッチする必要があります。ポリシーは、それがアタッチされているエンティティのアクセス許可を定義します。例えば、ロールは、アクセスを許可するポリシーをそのロールにアタッチした場合にのみ、Amazon S3 バケットにあるメディアファイルにアクセスできます。そのロールをさらに制限する場合は、代わりにそのアクセスを Amazon S3 バケット内の特定のファイルに制限できます。

AWS ポリシーの使用の詳細については、以下を参照してください。

- [のポリシーとアクセス許可 IAM](#)
- [IAM ポリシーの作成](#)
- [と IAM の Amazon Transcribe 連携方法](#)

で利用できるポリシーの例については Amazon Transcribe、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。カスタムポリシーを生成する場合は、[AWS Policy Generator](#) の使用を検討してください。

、AWS Management Console AWS CLI、または AWS SDK を使用してポリシーを追加できます。手順については、[IAM 「ID アクセス許可の追加と削除」](#) を参照してください。

ポリシーには形式があります。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "my-policy-name",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "service:action"
      ],
      "Resource": [
        "amazon-resource-name"
      ]
    }
  ]
}
```

Amazon リソースネーム (ARNs、Amazon S3 バケットなどのすべての AWS リソースを一意に識別します。ポリシーで ARN を使用して、特定のアクションに対して特定のリソースを使用するアクセス許可を付与できます。たとえば、Amazon S3 バケットとそのサブフォルダへの読み取りアクセスを許可する場合は、信頼ポリシーの Statement セクションに次のコードを追加できます。

```
{
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "s3:GetObject",
    "s3:ListBucket"
  ],
  "Resource": [
    "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket",
    "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*"
  ]
}
```

Amazon S3 バケット、amzn-s3-demo-bucket およびそのサブフォルダへの Amazon Transcribe 読み取り (GetObject、ListBucket) および書き込み (PutObject) アクセス許可を付与するポリシーの例を次に示します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:GetObject",
        "s3:ListBucket"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket",
        "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*"
      ]
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket",

```

```
}
    ]
}
    ]
}
```

```
"arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*"
```

での文字起こし AWS Management Console

AWS コンソールは、バッチ文字起こしとストリーミング文字起こしに使用できます。Amazon S3 バケットにあるメディアファイルを文字起こしする場合は、バッチ文字起こしを実行します。音声データのリアルタイムストリームを文字起こしする場合は、ストリーミング文字起こしを実行していることになります。

バッチ文字起こしを開始する前に、まずメディアファイルを Amazon S3 バケットにアップロードする必要があります。を使用して文字起こしをストリーミングする場合は AWS Management Console、コンピュータのマイクを使用する必要があります。

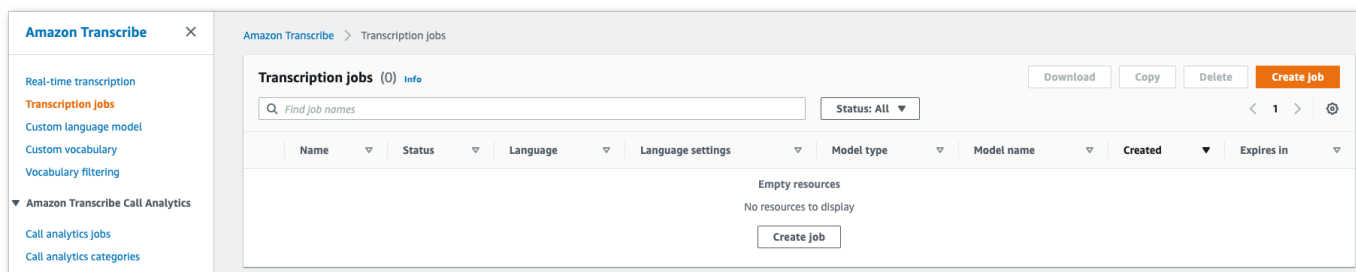
サポートされているメディア形式とその他のメディア要件と制約については、「[データの入力および出力](#)」を参照してください。

以下のセクションを展開して、文字起こしのそれぞれの方法の簡単なチュートリアルをご覧ください。

バッチ文字起こし

まず、文字起こししたいメディアファイルを Amazon S3 バケットにアップロードしたことを確認します。この方法がわからない場合は、「Amazon S3 ユーザーガイド」:「[バケットにオブジェクトをアップロードする](#)」を参照してください。

1. [AWS Management Console](#) から、左のナビゲーションペインで [文字起こしジョブ] を選択します。これにより、文字起こしジョブのリストが表示されます。



[ジョブの作成] を選択します。

2. 「ジョブの詳細を指定」ページのフィールドに入力します。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

[▶ Additional settings](#)

入力場所は、Amazon S3 バケット内のオブジェクトである必要があります。出力場所として、安全な Amazon S3 サービスマネージドバケットを選択するか、独自の Amazon S3 バケットを指定できます。

サービスマネージドバケットを選択した場合、AWS Management Console でトランスクリプトのプレビューを表示したり、ジョブの詳細ページ (以下を参照) からトランスクリプトをダウンロードしたりできます。

独自の Amazon S3 バケットを選択した場合、にプレビューが表示されず AWS Management Console、Amazon S3 バケットに移動してトランスクリプトをダウンロードする必要があります。

Input data [Info](#)

Input file location on S3
Choose an input audio or video file in Amazon S3.

[Browse S3](#)

Valid file formats: MP3, MP4, WAV, FLAC, AMR, OGG, and WebM.

Output data

Output data location type info [Info](#)

☒ **Service-managed S3 bucket**
The output will be removed after 90 days when the job expires.

☐ **Customer specified S3 bucket**
The output will not be removed from bucket even after the job expires.

Subtitle file format [Info](#)

☐ SRT (SubRip)

☐ VTT (WebVTT)

Tags - optional

A tag is a label you can add to a resource as metadata to help you organize, search, or filter your data. Each tag consists of a key and an optional value, in the form 'key:value'.

No tags associated with the resource.

[Add new tag](#)

You can add up to 50 more tags.

[Cancel](#) [Next](#)

[次へ] を選択します。

3. 「ジョブを設定」ページで必要なオプションを選択します。文字起こしで [カスタム語彙](#) または [カスタム言語モデル](#) を使用する場合は、文字起こしジョブを開始する前に、これらを作成する必要があります。

Configure job - optional [Info](#)

Audio settings

☐

Audio identification [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.

☐

Alternative results [Info](#)
Enable to view more transcription results

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

☐

Automatic content redaction [Info](#)
Automatic content redaction removes personally identifiable information (PII) in your transcripts. Redactions in transcripts show up as [PII].

☐

Vocabulary filtering [Info](#)
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

☐

Custom vocabulary [Info](#)
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Cancel

Previous

Create job

[ジョブの作成] を選択します。

4. これで、「文字起こしジョブ」ページに移動しました。ここでは、文字起こしジョブのステータスを確認できます。完了したら、[文字起こし] を選択します。

Transcription jobs (5) Info									
Find job names				Status: All ▼		< 1 > ⚙			
Name	Status	Language	Language settings	Model type	Model name	Created	Expires in		
my-first-transcription	Complete	English, US (en-US)	Specific language	General	-	October 18 2021, 16:48 (UTC-07:00)	89 days		

5. これで、文字起こしの「ジョブ詳細」ページが表示されます。ここには、文字起こしジョブの設定時に指定したすべてのオプションが表示されます。

トランスクリプトを表示するには、出力データの場所の下右側列にあるリンクされたファイルパスを選択します。これにより、指定した Amazon S3 出力フォルダに移動します。出力ファイルを選択します。このファイルには.json 拡張子が付いています。

my-first-transcription-job			
		Delete	Copy
Job details			
Name	Model	Audio identification	Input data location
my-first-transcription-job	None	Disabled	s3://DOC-EXAMPLE-BUCKET/my-media-file.flac 🔗
Status	Created	Alternative results	Output data location
Complete	2/4/2022, 12:11:31 PM	Disabled	Service-managed S3 bucket
Language	Started	Custom vocabulary	
English, US (en-US)	2/4/2022, 12:11:31 PM	None	
Language settings	Ended	PII redaction	
Specific language	2/4/2022, 12:12:50 PM	Disabled	
Expiration Info	Input file format	Vocabulary filter	
The transcription is available for 87 more days.	flac	-	
	Audio sampling rate		
	44100 Hz		

6. トランスクリプトのダウンロード方法は、サービスマネージド Amazon S3 バケットと独自の Amazon S3 バケットのどちらを選択するかによって異なります。
- a. サービスマネージドバケットを選択した場合、文字起こしジョブの情報ページに「文字起こしプレビュー」ペインと「ダウンロード」ボタンが表示されます。

my-first-transcription-job

DeleteCopy

Job details

Name my-first-transcription-job	Model None	Audio identification Disabled	Input data location s3://DOC-EXAMPLE-BUCKET/my-media-file.flac
Status Complete	Created 2/4/2022, 12:11:31 PM	Alternative results Disabled	Output data location Service-managed S3 bucket
Language English, US (en-US)	Started 2/4/2022, 12:11:31 PM	Custom vocabulary None	
Language settings Specific language	Ended 2/4/2022, 12:12:50 PM	PII redaction Disabled	
Expiration Info The transcription is available for 87 more days.	Input file format flac	Vocabulary filter -	
	Audio sampling rate 44100 Hz		

Transcription preview

Download

You can see the first 5,000 characters of the transcription text below. To download the full text, choose Download full transcript.

Text

Audio identification

Subtitles

This is a preview of the content of your transcript. If your transcript is long, you may have to scroll to see the complete preview.

[ダウンロード] を選択し、[トランスクリプトをダウンロード] を選択します。

- 独自の Amazon S3 バケットを選択した場合、文字起こしジョブの情報ページの文字起こしプレビューペインにテキストは表示されません。代わりに、選択した Amazon S3 バケットへのリンクを含む青い情報ボックスが表示されます。

my-first-transcription-job Delete Copy

Job details

Name my-first-transcription-job	Model None	Audio identification Disabled	Input data location s3://DOC-EXAMPLE-BUCKET/my-media-file.flac
Status Complete	Created 2/7/2022, 11:42:17 AM	Alternative results Disabled	Output data location https://s3.us-west-2.amazonaws.com/DOC-EXAMPLE-BUCKET
Language English, US (en-US)	Started 2/7/2022, 11:42:17 AM	Custom vocabulary None	
Language settings Specific language	Ended 2/7/2022, 11:43:37 AM	PII redaction Disabled	
Expiration Info The transcription is available for 89 more days.	Input file format flac	Vocabulary filter -	
	Audio sampling rate 44100 Hz		

Transcription preview Download ▼

Select download to save a local copy of the transcription.

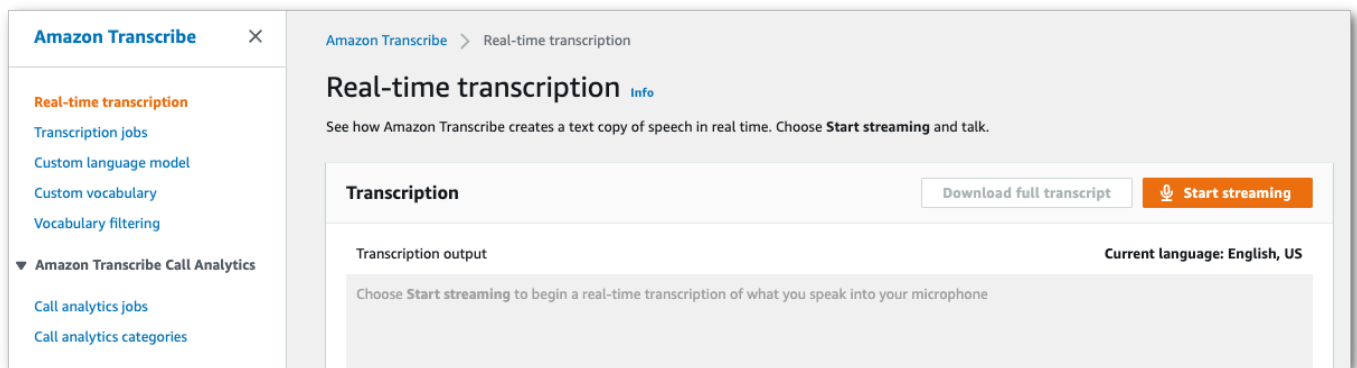
Text | Audio identification | Subtitles

When you use your own S3 bucket for transcription output, Amazon Transcribe does not show the output in the console. You open the output file from your [S3 Bucket](#).

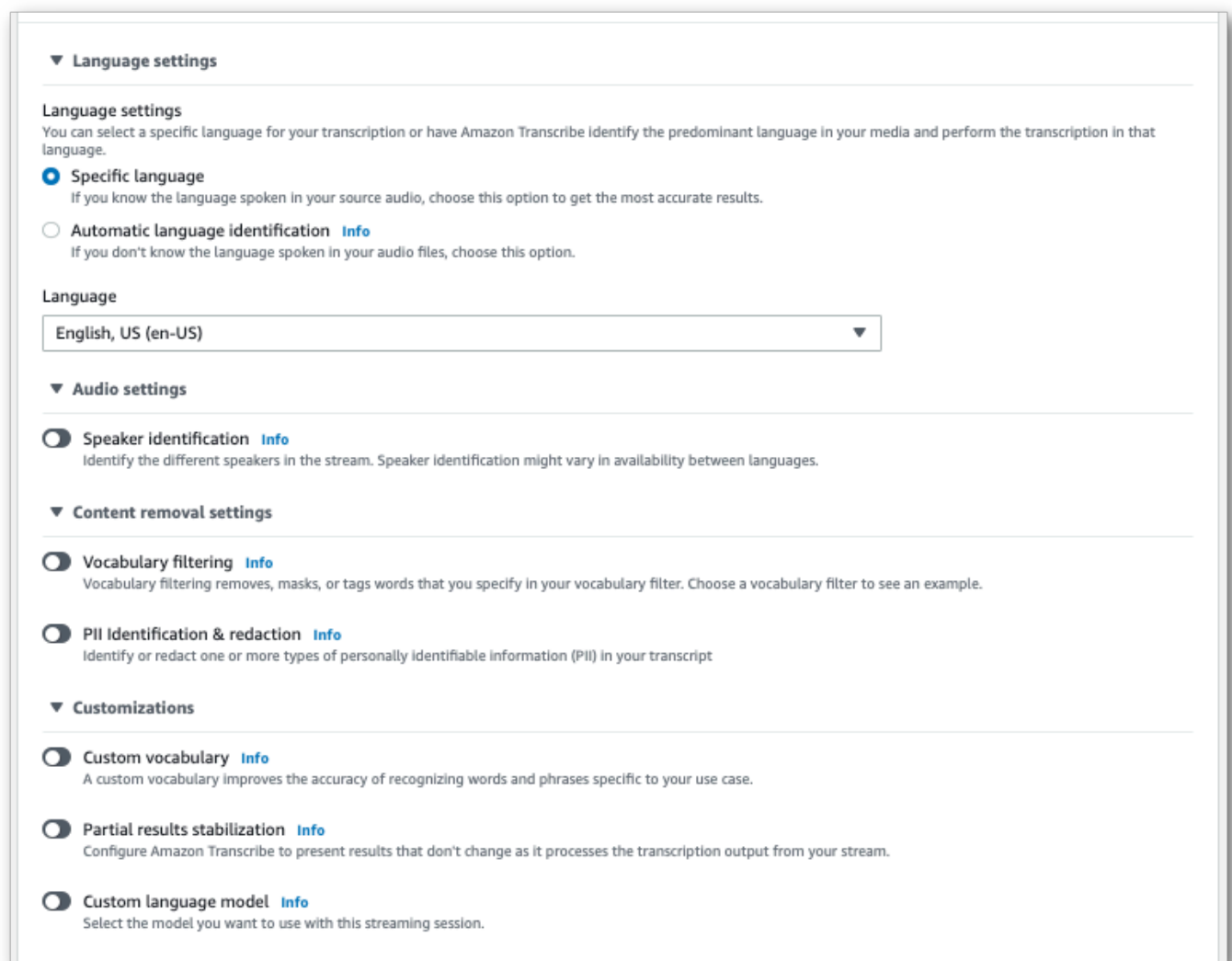
トランスクリプトにアクセスするには、ジョブの詳細ペインの出力データの場所にあるリンク、またはトランスクリプトプレビューペインのブルー情報ボックス内の S3 バケットリンク Amazon S3 を使用して、指定されたバケットに移動します。

ストリーミング文字起こし

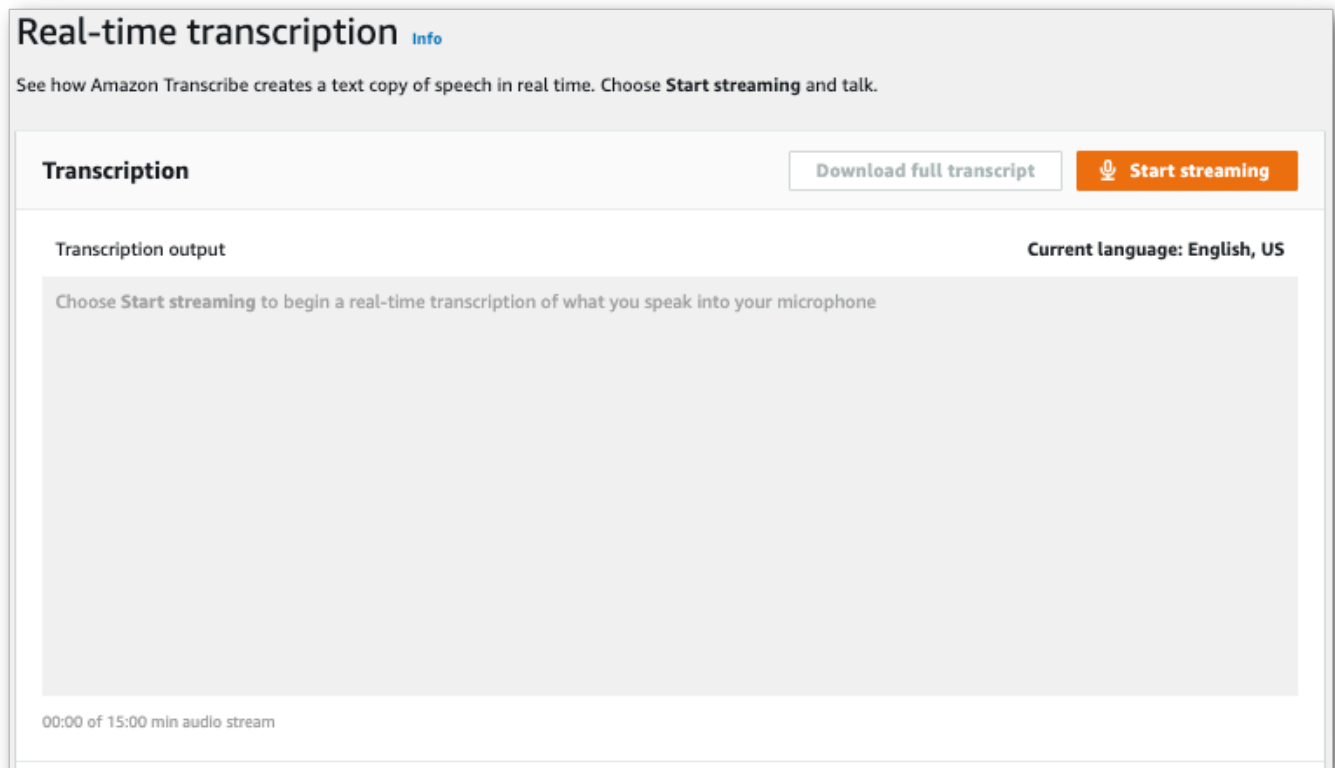
1. [AWS Management Console](#) から、左のナビゲーションペインで [リアルタイム文字起こし] を選択します。これにより、メインのストリーミングページに移動し、ストリームを開始する前に、オプションを選択できます。



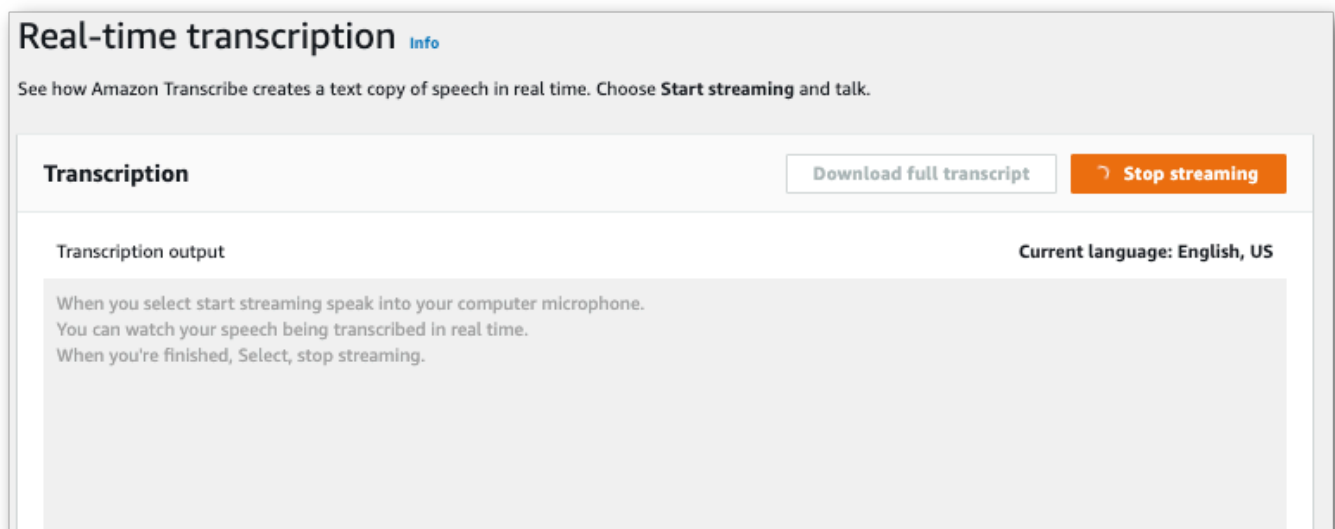
2. 文字起こし出力ボックスの下には、さまざまな言語と音声の設定を選択するオプションがあります。



3. 適切な設定を選択したら、ページの一番上までスクロールして [ストリーミングを開始] を選択し、コンピュータのマイクに向かって話し始めます。音声の文字起こしをリアルタイムで確認できます。



4. 終了したら、[ストリーミングを停止する] を選択します。



[すべてのトランスクリプトをダウンロード] を選択すると、トランスクリプトをダウンロードできるようになりました。

での文字起こし AWS CLI

を使用して文字起こし AWS CLI を開始する場合、すべてのコマンドを CLI レベルで実行できます。または、使用したいコマンドを実行し、その後に AWS リージョン とリクエストボディを含む JSON ファイルの場所を指定することもできます。このガイドの例では両方の方法を示していますが、このセクションでは前者の方法に焦点を当てています。

AWS CLI はストリーミング文字起こしをサポートしていません。

続行する前に、以下の点を確認してください。

- メディアファイルを Amazon S3 バケットにアップロードしました。Amazon S3 バケットの作成方法やファイルのアップロード方法がわからない場合は、[「最初の Amazon S3 バケットの作成」](#) および [「バケットへのオブジェクトのアップロード」](#) を参照してください。
- [AWS CLI](#) をインストールします。

のすべての AWS CLI コマンドは、Amazon Transcribe [AWS CLI コマンドリファレンス](#) で確認できます。

新しい文字起こしジョブの開始

新しい文字起こしを開始するには、start-transcription-job コマンドを使用します。

- ターミナルウィンドウで、次のように入力します。

```
aws transcribe start-transcription-job \
```

次の行に「>」が表示され、次のステップで説明するように、必要なパラメータを追加し続けることができます。

「\」を省略して、すべてのパラメータをスペースで区切って追加することもできます。

- start-transcription-job コマンドには、region、transcription-job-name、media または language-code が identify-language のいずれかを含める必要があります。

出力場所を指定する場合は、リクエストに output-bucket-name を含めます。指定した出力バケットのサブフォルダを指定する場合は、output-key も含めます。

```
aws transcribe start-transcription-job \
```

```
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--language-code en-US
```

すべてのパラメータを追加すると、このリクエストは次のようになります。

```
aws transcribe start-transcription-job --region us-west-2 --transcription-job-  
name my-first-transcription-job --media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-  
input-files/my-media-file.flac --language-code en-US
```

output-bucket-name を使用して出力バケットを指定しない場合、Amazon Transcribe は文字起こし出力はサービスマネージドバケットに配置されます。サービスマネージドバケットに保存されたトランスクリプトは、90 日後に期限切れになります。

Amazon Transcribe は次のように応答します。

```
{  
  "TranscriptionJob": {  
    "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "en-US",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-  
file.flac"  
    },  
    "StartTime": "2022-03-07T15:03:44.246000-08:00",  
    "CreationTime": "2022-03-07T15:03:44.229000-08:00"  
  }  
}
```

[TranscriptionJobStatus](#) が IN_PROGRESS から COMPLETED に変更されれば、文字起こしジョブは成功です。更新された [TranscriptionJobStatus](#) を確認するには、次のセクションで説明するように get-transcription-job または list-transcription-job コマンドを使用します。

文字起こしジョブのステータス取得。

文字起こしジョブに関する情報を取得するには、get-transcription-job コマンドを使用します。

このコマンドに必要なパラメータは、ジョブ AWS リージョン が配置されている とジョブの名前のみです。

```
aws transcribe get-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job
```

Amazon Transcribe は次のように応答します。

```
{  
  "TranscriptionJob": {  
    "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",  
    "LanguageCode": "en-US",  
    "MediaSampleRateHertz": 48000,  
    "MediaFormat": "flac",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
    },  
    "Transcript": {  
      "TranscriptFileUri": "https://s3.the-URI-where-your-job-is-located.json"  
    },  
    "StartTime": "2022-03-07T15:03:44.246000-08:00",  
    "CreationTime": "2022-03-07T15:03:44.229000-08:00",  
    "CompletionTime": "2022-03-07T15:04:01.158000-08:00",  
    "Settings": {  
      "ChannelIdentification": false,  
      "ShowAlternatives": false  
    }  
  }  
}
```

文字起こし出力に独自の Amazon S3 バケットを選択した場合、このバケットは と表示されます TranscriptFileUri。サービスマネージドバケットを選択した場合、一時的な URI が表示されます。この URI を使用してトランスクリプトをダウンロードします。

 Note

サービスマネージド Amazon S3 バケットの一時的な URIs は 15 分間のみ有効です。URI の使用中に `AccesDenied` エラーが発生した場合は、`get-transcription-job` リクエストをもう一度実行して新しい一時的な URI を取得してください。

文字起こしジョブの一覧表示

特定の 内のすべての文字起こしジョブを一覧表示するには AWS リージョン、`list-transcription-jobs` コマンドを使用します。

このコマンドに必要なパラメータは、文字起こしジョブ AWS リージョン が配置されている のみです。

```
aws transcribe list-transcription-jobs \  
  --region us-west-2
```

Amazon Transcribe は次のように応答します。

```
{  
  "NextToken": "A-very-long-string",  
  "TranscriptionJobSummaries": [  
    {  
      "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
      "CreationTime": "2022-03-07T15:03:44.229000-08:00",  
      "StartTime": "2022-03-07T15:03:44.246000-08:00",  
      "CompletionTime": "2022-03-07T15:04:01.158000-08:00",  
      "LanguageCode": "en-US",  
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",  
      "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"  
    }  
  ]  
}
```

文字起こしジョブの削除

文字起こしジョブを削除するには、`delete-transcription-job` コマンドを使用します。

このコマンドに必要なパラメータは、ジョブ AWS リージョン が配置されている とジョブの名前の みです。


```
aws transcribe delete-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job
```

削除リクエストが成功したことを確認するには、`list-transcription-jobs` コマンドを実行します。ジョブがリストに表示されなくなります。

AWS SDKs

SDK は、バッチおよびストリーミング文字起こしの両方に使用できます。Amazon S3 バケットにあるメディアファイルを文字起こしする場合は、バッチ文字起こしを実行します。音声データのリアルタイムストリームを文字起こしする場合は、ストリーミング文字起こしを実行していることになります。

で利用できるプログラミング言語のリストについては Amazon Transcribe、「」を参照してください[サポートされているプログラミング言語](#)。ストリーミング文字起こしは、すべての AWS SDKs ではサポートされていないことに注意してください。サポートされているメディア形式とその他のメディア要件と制約については、「[データの入力および出力](#)」を参照してください。

使用可能なすべての AWS SDKs [「構築するツール AWS」](#) を参照してください。

Tip

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) [AWS SDKs 「」](#) の章を参照してください。
また、SDK コードサンプルは、次の GitHub リポジトリにもあります。

- [AWS コードの例](#)
- [Amazon Transcribe 例](#)

バッチ文字起こし

Amazon S3 バケットにあるメディアファイルの URI を使用して、バッチ文字起こしを作成できます。Amazon S3 バケットの作成方法やファイルのアップロード方法がわからない場合は、「[最初の S3 バケットの作成](#)」および「[バケットへのオブジェクトのアップロード](#)」を参照してください。

Java

```
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import software.amazon.awssdk.services.transcribe.TranscribeClient;
import software.amazon.awssdk.services.transcribe.model.*;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.LanguageCode;

public class TranscribeDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_WEST_2;
    private static TranscribeClient client;

    public static void main(String args[]) {

        client = TranscribeClient.builder()
            .credentialsProvider(getCredentials())
            .region(REGION)
            .build();

        String transcriptionJobName = "my-first-transcription-job";
        String mediaType = "flac"; // can be other types
        Media myMedia = Media.builder()
            .mediaFileUri("s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-  
file.flac")
            .build();

        String outputS3BucketName = "s3://amzn-s3-demo-bucket";
        // Create the transcription job request
        StartTranscriptionJobRequest request =
        StartTranscriptionJobRequest.builder()
            .transcriptionJobName(transcriptionJobName)
            .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
            .mediaSampleRateHertz(16000)
            .mediaFormat(mediaType)
            .media(myMedia)
            .outputBucketName(outputS3BucketName)
            .build();

        // send the request to start the transcription job
        StartTranscriptionJobResponse startJobResponse =
        client.startTranscriptionJob(request);

        System.out.println("Created the transcription job");
```

```

        System.out.println(startJobResponse.transcriptionJob());

        // Create the get job request
        GetTranscriptionJobRequest getJobRequest =
        GetTranscriptionJobRequest.builder()
            .transcriptionJobName(transcriptionJobName)
            .build();

        // send the request to get the transcription job including the job status
        GetTranscriptionJobResponse getJobResponse =
        client.getTranscriptionJob(getJobRequest);

        System.out.println("Get the transcription job request");
        System.out.println(getJobResponse.transcriptionJob());
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }
}

```

JavaScript

```

const { TranscribeClient, StartTranscriptionJobCommand } = require("@aws-sdk/client-transcribe"); // CommonJS import

const region = "us-west-2";
const credentials = {
    "accessKeyId": "",
    "secretAccessKey": "",
};

const input = {
    TranscriptionJobName: "my-first-transcription-job",
    LanguageCode: "en-US",
    Media: {
        MediaFileUri: "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
    },
    OutputBucketName: "amzn-s3-demo-bucket",
};

async function startTranscriptionRequest() {

```

```

const transcribeConfig = {
  region,
  credentials
};
const transcribeClient = new TranscribeClient(transcribeConfig);
const transcribeCommand = new StartTranscriptionJobCommand(input);
try {
  const transcribeResponse = await transcribeClient.send(transcribeCommand);
  console.log("Transcription job created, the details:");
  console.log(transcribeResponse.TranscriptionJob);
} catch(err) {
  console.log(err);
}
}

startTranscriptionRequest();

```

Python

```

import time
import boto3

def transcribe_file(job_name, file_uri, transcribe_client):
    transcribe_client.start_transcription_job(
        TranscriptionJobName = job_name,
        Media = {
            'MediaFileUri': file_uri
        },
        MediaFormat = 'flac',
        LanguageCode = 'en-US'
    )

    max_tries = 60
    while max_tries > 0:
        max_tries -= 1
        job = transcribe_client.get_transcription_job(TranscriptionJobName =
job_name)
        job_status = job['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus']
        if job_status in ['COMPLETED', 'FAILED']:
            print(f"Job {job_name} is {job_status}.")
            if job_status == 'COMPLETED':
                print(
                    f"Download the transcript from\n"

```

```

        f"\t{job['TranscriptionJob']['Transcript']
['TranscriptFileUri']}.")
        break
    else:
        print(f"Waiting for {job_name}. Current status is {job_status}.")
        time.sleep(10)

def main():
    transcribe_client = boto3.client('transcribe', region_name = 'us-west-2')
    file_uri = 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac'
    transcribe_file('Example-job', file_uri, transcribe_client)

if __name__ == '__main__':
    main()

```

ストリーミング文字起こし

ストリーミングされたメディアファイルまたはライブメディアストリームを使用して、ストリーミング文字起こしを作成できます。

標準 AWS SDK for Python (Boto3) はストリーミングでは Amazon Transcribe サポートされていないことに注意してください。Python を使用してストリーミング文字起こしを開始するには、この[非同期 Python SDK for Amazon Transcribe](#)を使用します。

Java

次の例は、音声ストリーミングを書き起こす Java プログラムです。

この例を実行するには、以下の点に注意します。

- [AWS SDK for Java 2.x](#) を使用する必要があります。
- クライアントは [AWS for Java 2.x](#) との互換性を保つために、Java 1.8 を使用する必要があります。
- 指定するサンプルレートは、音声ストリームの実際のサンプルレートと一致する必要があります。

[Amazon Transcribe 「ストリーミング用のクライアントを再試行する \(Java SDK\)」](#) も参照してください。このコードは Amazon Transcribe への接続を管理し、接続にエラーがあるとデータの送

信を再試行します。たとえば、ネットワーク上で一時的なエラーが発生した場合、このクライアントは失敗したリクエストを再送信します。

```
public class TranscribeStreamingDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_WEST_2;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[]) throws URISyntaxException,
        ExecutionException, InterruptedException, LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
            .credentialsProvider(getCredentials())
            .region(REGION)
            .build();

        CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
    new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
    getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException {

        // Signed PCM AudioFormat with 16,000 Hz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            System.exit(0);
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }
}
```

```

private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
    return DefaultCredentialsProvider.create();
}

private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
    return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
        .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
        .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
        .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
        .build();
}

private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
    return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
        .onResponse(r -> {
            System.out.println("Received Initial response");
        })
        .onError(e -> {
            System.out.println(e.getMessage());
            StringWriter sw = new StringWriter();
            e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
            System.out.println("Error Occurred: " + sw.toString());
        })
        .onComplete(() -> {
            System.out.println("=== All records stream successfully ===");
        })
        .subscriber(event -> {
            List<Result> results = ((TranscriptEvent)
event).transcript().results();
            if (results.size() > 0) {
                if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());

                }
            }
        })
        .build();
}

private InputStream getStreamFromFile(String myMediaFileName) {
    try {

```

```

        File inputFile = new
File(getClass().getClassLoader().getResource(myMediaFileName).getFile());
        InputStream audioStream = new FileInputStream(inputFile);
        return audioStream;
    } catch (FileNotFoundException e) {
        throw new RuntimeException(e);
    }
}

private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
    private final InputStream inputStream;
    private static Subscription currentSubscription;

    private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
        this.inputStream = inputStream;
    }

    @Override
    public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

        if (this.currentSubscription == null) {
            this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        } else {
            this.currentSubscription.cancel();
            this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        }
        s.onSubscribe(currentSubscription);
    }
}

public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
    private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
    private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
    private final InputStream inputStream;
    private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
    private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

    SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream inputStream)
{
        this.subscriber = s;
        this.inputStream = inputStream;
    }
}

```



```
@Override
public void request(long n) {
    if (n <= 0) {
        subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
    }

    demand.getAndAdd(n);

    executor.submit(() -> {
        try {
            do {
                ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                    AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                    subscriber.onNext(audioEvent);
                } else {
                    subscriber.onComplete();
                    break;
                }
            } while (demand.decrementAndGet() > 0);
        } catch (Exception e) {
            subscriber.onError(e);
        }
    });
}

@Override
public void cancel() {
    executor.shutdown();
}

private ByteBuffer getNextEvent() {
    ByteBuffer audioBuffer = null;
    byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

    int len = 0;
    try {
        len = inputStream.read(audioBytes);

        if (len <= 0) {
            audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
        } else {
```

```

        audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
    }
} catch (IOException e) {
    throw new UncheckedIOException(e);
}

return audioBuffer;
}

private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
    return AudioEvent.builder()
        .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
        .build();
}
}
}

```

JavaScript

```

const {
    TranscribeStreamingClient,
    StartStreamTranscriptionCommand,
} = require("@aws-sdk/client-transcribe-streaming");
const { createReadStream } = require("fs");
const { join } = require("path");

const audio = createReadStream(join(__dirname, "my-media-file.flac"),
    { highWaterMark: 1024 * 16});

const LanguageCode = "en-US";
const MediaEncoding = "pcm";
const MediaSampleRateHertz = "16000";
const credentials = {
    "accessKeyId": "",
    "secretAccessKey": "",
};

async function startRequest() {
    const client = new TranscribeStreamingClient({
        region: "us-west-2",
        credentials
    });

    const params = {

```

```

    LanguageCode,
    MediaEncoding,
    MediaSampleRateHertz,
    AudioStream: (async function* () {
      for await (const chunk of audio) {
        yield {AudioEvent: {AudioChunk: chunk}};
      }
    })(),
  });
const command = new StartStreamTranscriptionCommand(params);
// Send transcription request
const response = await client.send(command);
// Start to print response
try {
  for await (const event of response.TranscriptResultStream) {
    console.log(JSON.stringify(event));
  }
} catch(err) {
  console.log("error")
  console.log(err)
}
}
startRequest();

```

Python

次の例は、音声ストリーミングを書き起こす Python プログラムです。

この例を実行するには、以下の点に注意します。

- この [SDK for Python](#) を使用する必要があります。
- 指定するサンプルレートは、音声ストリームの実際のサンプルレートと一致する必要があります。

```

import asyncio
# This example uses aiofile for asynchronous file reads.
# It's not a dependency of the project but can be installed
# with `pip install aiofile`.
import aiofile

from amazon_transcribe.client import TranscribeStreamingClient
from amazon_transcribe.handlers import TranscriptResultStreamHandler

```

```
from amazon_transcribe.model import TranscriptEvent

"""
Here's an example of a custom event handler you can extend to
process the returned transcription results as needed. This
handler will simply print the text out to your interpreter.
"""

class MyEventHandler(TranscriptResultStreamHandler):
    async def handle_transcript_event(self, transcript_event: TranscriptEvent):
        # This handler can be implemented to handle transcriptions as needed.
        # Here's an example to get started.
        results = transcript_event.transcript.results
        for result in results:
            for alt in result.alternatives:
                print(alt.transcript)

async def basic_transcribe():
    # Set up our client with your chosen Region
    client = TranscribeStreamingClient(region = "us-west-2")

    # Start transcription to generate async stream
    stream = await client.start_stream_transcription(
        language_code = "en-US",
        media_sample_rate_hz = 16000,
        media_encoding = "pcm",
    )

    async def write_chunks():
        # NOTE: For pre-recorded files longer than 5 minutes, the sent audio
        # chunks should be rate limited to match the real-time bitrate of the
        # audio stream to avoid signing issues.
        async with aiofile.AIOFile('filepath/my-media-file.flac', 'rb') as afp:
            reader = aiofile.Reader(afp, chunk_size = 1024 * 16)
            async for chunk in reader:
                await stream.input_stream.send_audio_event(audio_chunk = chunk)
            await stream.input_stream.end_stream()

    # Instantiate our handler and start processing events
    handler = MyEventHandler(stream.output_stream)
    await asyncio.gather(write_chunks(), handler.handle_events())

loop = asyncio.get_event_loop()
loop.run_until_complete(basic_transcribe())
```

```
loop.close()
```

C++

[ストリーミング C++ SDK の例](#)については、コード例の章を参照してください。

AWS SDK でのこのサービスの使用

AWS Software Development Kit (SDKs)は、多くの一般的なプログラミング言語で使用できます。各 SDK には、デベロッパーが好みの言語でアプリケーションを簡単に構築できるようにする API、コード例、およびドキュメントが提供されています。

SDK ドキュメント	コード例
AWS SDK for C++	AWS SDK for C++ コード例
AWS CLI	AWS CLI コード例
AWS SDK for Go	AWS SDK for Go コード例
AWS SDK for Java	AWS SDK for Java コード例
AWS SDK for JavaScript	AWS SDK for JavaScript コード例
AWS SDK for Kotlin	AWS SDK for Kotlin コード例
AWS SDK for .NET	AWS SDK for .NET コード例
AWS SDK for PHP	AWS SDK for PHP コード例
AWS Tools for PowerShell	AWS Tools for PowerShell コード例
AWS SDK for Python (Boto3)	AWS SDK for Python (Boto3) コード例
AWS SDK for Ruby	AWS SDK for Ruby コード例
AWS SDK for Rust	AWS SDK for Rust コード例
AWS SDK for SAP ABAP	AWS SDK for SAP ABAP コード例
AWS SDK for Swift	AWS SDK for Swift コード例

このサービスに固有の例については、「[SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)」を参照してください。

可用性の例

必要なものが見つからなかった場合。このページの下側にある [Provide feedback (フィードバックを送信)] リンクから、コードの例をリクエストしてください。

HTTP または WebSocket による文字起こし

Amazon Transcribe は、バッチ (HTTP/1.1) 文字起こしとストリーミング (HTTP/2) 文字起こしの両方で HTTP をサポートします。WebSocket はストリーミング文字起こしに対応しています。

Amazon S3 バケットにあるメディアファイルを文字起こしする場合は、バッチ文字起こしを実行します。音声データのリアルタイムストリームを文字起こしする場合は、ストリーミング文字起こしを実行していることになります。

HTTP と WebSocket はどちらも、AWS 署名バージョン 4 ヘッダーを使用してリクエストを認証する必要があります。詳細については、[AWS 「API リクエストの署名」](#)を参照してください。

バッチ文字起こし

以下のヘッダーを使用して、バッチ HTTP リクエストを行うことができます。

- ホスト
- x-amz-target
- content-type
- x-amz-content-sha256
- x-amz-date
- 承認

StartTranscriptionJob リクエストの例を以下に示します。

```
POST /transcribe HTTP/1.1
host: transcribe.us-west-2.amazonaws.com
x-amz-target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartTranscriptionJob
content-type: application/x-amz-json-1.1
```

```
x-amz-content-sha256: string
x-amz-date: YYYYMMDDTHHMMSSZ
authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/YYYYMMSS/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string

{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/"
}
```

追加のオペレーションとパラメータは [API リファレンス](#) に記載されています。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、[共通パラメータ](#) セクションに記載されています。その他の署名要素は、[AWS 署名バージョン 4 リクエストの要素](#) で詳しく説明されています。

ストリーミング文字起こし

HTTP/2 と WebSocket を使ったストリーミング文字起こしは、SDK を使用するよりも複雑です。最初のストリームを設定する前に、[ストリーミング文字起こしの設定](#) セクションを確認することをおすすめします。

これらの方法について詳しくは、「[HTTP/2 ストリームの設定](#)」または「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

Note

ストリーミング文字起こしには SDK を使用することを強くおすすめします。サポートされている SDK のリストについては、「[サポートされているプログラミング言語](#)」を参照してください。

音声ストリーミングの文字起こし

Amazon Transcribe ストリーミングを使用すると、メディアコンテンツのリアルタイム文字起こしを生成できます。メディアファイルのアップロードを伴うバッチ文字起こしとは異なり、ストリーミングメディアはリアルタイムで Amazon Transcribe に配信されます。Amazon Transcribe その後、はトランスクリプトもリアルタイムで返します。

ストリーミングには、事前に録画されたメディア (映画、音楽、ポッドキャスト) とリアルタイムメディア (ライブニュース放送) が含まれます。の一般的なストリーミングのユースケース Amazon Transcribe には、スポーツイベントのライブクローズドキャプションやコールセンターの音声のリアルタイムモニタリングなどがあります。

ストリーミングコンテンツは、Amazon Transcribe が瞬時に文字起こしした一連の連続したデータパケット、つまり「チャンク」として配信されます。バッチではなくストリーミングを使用する利点には、アプリケーションでのリアルタイムの音声テキスト変換機能や、文字起こしに要する時間の短縮などがあります。ただし、この速度の向上により、場合によっては精度に制限が生じることがあります。

Amazon Transcribe では、ストリーミングに次のオプションが用意されています。

- [SDK](#) (推奨)
- [HTTP/2](#)
- [WebSocket](#)
- [AWS Management Console](#)

でストリーミングオーディオを文字起こしするには AWS Management Console、コンピュータのマイクに向かって話します。

Tip

SDK コードの例については、GitHub の「[AWS サンプルリポジトリ](#)」を参照してください。

ストリーミング文字起こしでサポートされている音声形式は以下のとおりです。

- FLAC
- Ogg コンテナ内の OPUS エンコードされた音声

- PCM (16 ビット符号付き リトルエンディアンの音声形式のみ。WAV は含まない)

可逆形式 (FLAC または PCM) が推奨されます。

Note

ストリーミング文字起こしは、すべての言語でサポートされているわけではありません。詳細については、[サポートされている言語の表](#)の「データ入力」列を参照してください。

ストリーミング文字起こしの Amazon Transcribe リージョンの可用性を確認するには、[Amazon Transcribe 「エンドポイントとクォータ」](#)を参照してください。

ベストプラクティス

ストリーミング文字起こしの効率を高めるには、以下のことを推奨します。

- 可能であれば、PCM でエンコードされた音声を使用します。
- ストリーミングは、できる限りリアルタイムに近いことを確認します。
- レイテンシーは、音声チャンクのサイズによって異なります。音声タイプ (PCM など) でチャンクサイズを指定できる場合は、各チャンクを 50 ミリ秒から 200 ミリ秒の間で設定します。音声チャンクサイズは次の式で計算できます。

```
chunk_size_in_bytes = chunk_duration_in_millisecond / 1000 * audio_sample_rate * 2
```

- チャンクのサイズを統一します。
- 音声チャネル数は正しく指定してください。
- シングルチャネルの PCM 音声では、各サンプルは 2 バイトで構成されるため、各チャンクは偶数のバイトで構成されている必要があります。
- デュアルチャネルの PCM 音声では、各サンプルは 4 バイトで構成されるため、各チャンクは 4 バイトの倍数である必要があります。
- 音声ストリームに音声が含まれていない場合は、同じ量の無音部分をエンコードして送信します。たとえば、PCM の無音は 0 バイトのストリームです。
- 音声には必ず正しいサンプリングレートを指定します。可能であれば、16,000 Hz のサンプリングレートで録音します。これにより、ネットワーク経由で送信される品質とデータ量の最適な妥協点が得られます。ほとんどのハイエンドマイクは 44,100 Hz または 48,000 Hz で録音されます。

ストリーミングと部分的な結果

ストリーミングはリアルタイムで機能するため、トランスクリプトは部分的な結果で生成されます。は、スピーカーの変更や音声の一時停止などの自然な音声セグメントに基づいて受信音声ストリームを Amazon Transcribe 分割します。文字起こしは文字起こしイベントのストリームとしてアプリケーションに返されます。セグメント全体の文字起こしが行われるまで、各レスポンスにはさらに多くの文字起こしされた音声が含まれます。

この近似値は、次のコードブロックに示されています。[AWS Management Console](#) にサインインして [リアルタイム文字起こし] を選択し、マイクに向かって話すと、このプロセスが実際に動作していることを確認できます。話している間は、文字起こし出力ペインを見ます。

この例では、各行は音声セグメントの部分的な結果です。

```
The
The Amazon.
The Amazon is
The Amazon is the law.
The Amazon is the largest
The Amazon is the largest ray
The Amazon is the largest rain for
The Amazon is the largest rainforest.
The Amazon is the largest rainforest on the
The Amazon is the largest rainforest on the planet.
```

これらの部分的な結果は、[Results](#) オブジェクト内の文字起こし出力に含まれています。このオブジェクトブロックには `IsPartial` フィールドもあります。このフィールドが `true` の場合、文字起こしセグメントはまだ完成していません。不完全なセグメントと完全なセグメントの違いは以下で確認できます。

```
"IsPartial": true (incomplete segment)
```

```
"Transcript": "The Amazon is the largest rainforest."
```

```
"EndTime": 4.545,
"IsPartial": true,
"ResultId": "12345a67-8bc9-0de1-2f34-a5b678c90d12",
"StartTime": 0.025
```

```
"IsPartial": false (complete segment)
```

```
"Transcript": "The Amazon is the largest rainforest on the planet."  
  
"EndTime": 6.025,  
"IsPartial": false,  
"ResultId": "34567e89-0fa1-2bc3-4d56-78e90123456f",  
"StartTime": 0.025
```

完全なセグメント内に含まれる各単語には、0 と 1 の間の値である信頼スコアが関連付けられています。値が大きいほど、その単語が正しく文字起こしされる可能性が高くなります。

Tip

音声セグメントの `StartTime` と `EndTime` は、文字起こし出力とビデオダイアログを同期させることができます。

低レイテンシーを必要とするアプリケーションを実行している場合は、[部分的な結果の安定化](#)を使用するとよいでしょう。

部分的な結果の安定化

Amazon Transcribe は、音声のストリーミングを開始するとすぐに文字起こし結果を返します。これらの部分的な結果は、自然な音声セグメントのレベルで最終的な結果が生成されるまで、段階的に返されます。自然な音声セグメントは、一時停止やスピーカーの変更を含む連続音声です。

Amazon Transcribe は、音声セグメントの最終文字起こし結果を生成するまで、部分的な結果を出力し続けます。音声認識では、コンテキストが増えるにつれて単語が修正されることがあるため、新しい部分的な結果が出力されるたびに、ストリーミング文字起こしはわずかに変化する可能性があります。

このプロセスでは、各音声セグメントに対して 2 つのオプションがあります。

- セグメントが完成するまで待つ
- セグメントの部分的な結果を使用する

部分的な結果の安定化により、が完全なセグメントごとに最終的な文字起こし結果 Amazon Transcribe を生成する方法が変わります。有効にすると、部分的な結果から最後の数単語だけを変更することができます。このため、文字起こしの精度に影響が出る可能性があります。ただし、文字起

こしは部分的な結果の安定化を行わない場合よりも早く返されます。このレイテンシーの短縮は、動画の字幕やライブストリームのキャプションの生成に役立ちます。

以下の例は、部分的な結果の安定化が有効になっていない場合と有効になっている場合に、同じ音声ストリームがどのように処理されるかを示しています。安定性レベルは、低、中、高に設定できることに注意してください。安定性が低いと、最高の精度を実現します。安定性が高いと文字起こしは速くなりますが、精度はやや低下します。

「文字起こし」:	「EndTime」:	「IsPartial」:

部分的な結果の安定化は有効化されていません

The	0.545	true
The	1.045	true
The Amazon.	1.545	true
The Amazon is	2.045	true
The Amazon is the law.	2.545	true
The Amazon is the	3.045	true
largest	3.545	true
The Amazon is the	4.045	true
largest ray	4.545	true
The Amazon is the	5.045	true
largest rain for	5.545	true
The Amazon is the	6.025	true
largest rainforest.	6.025	false
The Amazon is the		
largest rainforest on		
the		
The Amazon is the		
largest rainforest on		
the planet.		
The Amazon is the		
largest rainforest on		
the planet.		
The Amazon is the		
largest rainforest on		
the planet.		

部分的な結果の安定化が有効です (安定性が高い)

The	0.515	true

「文字起こし」:	「EndTime」:	「IsPartial」:
The	1.015	true
The Amazon.	1.515	true
The Amazon is	2.015	true
The Amazon is the large	2.515	true
The Amazon is the	3.015	true
largest	3.515	true
The Amazon is the	4.015	true
largest rainfall.	4.515	true
The Amazon is the	5.015	true
largest rain forest.	5.515	true
The Amazon is the	6.015	true
largest rain forest on	6.335	true
The Amazon is the	6.335	false
largest rain forest on		
the planet.		
The Amazon is the		
largest rain forest on		
the planet.		
The Amazon is the		
largest rain forest on		
the planet.		
The Amazon is the		
largest rain forest on		
the planet.		

部分結果安定化を有効にすると、はStableフィールド Amazon Transcribe を使用して項目が安定しているかどうかを示します。ここで、「item」は文字起こしされた単語または句読点を指します。Stable の値は true または false です。false (安定していない) とフラグが立てられたアイテムは、セグメントが文字起こしされるにつれて変化する可能性が高くなります。逆に、true (安定している) とフラグが付けられたアイテムは変わりません。

字幕が音声と一致するように、安定しない単語をレンダリングすることを選択できます。コンテキストが追加されるにつれて字幕が少し変わっても、音声と一致するかどうか分からないテキストを定期的に表示するよりか、こちらのほうがユーザーエクスペリエンスは向上します。

また、安定しない単語を斜体などの別の形式で表示して、これらの単語が変わる可能性があることを視聴者に伝えることもできます。また、部分的な結果を表示することで、一度に表示されるテキスト量を制限することができます。これは、動画キャプションのようにスペースに制約がある場合に重要になることがあります。

AWS Machine Learning ブログで詳しく知る

リアルタイム文字起こしによる精度の向上について詳しくは、以下をご覧ください。

- [Amazon Transcribe 部分的な結果の安定化によるストリーミング文字起こしエクスペリエンスの向上](#)
- [「あれは何だったの？」 Amazon Transcribe を使用してライブ放送の字幕の精度を高める](#)

部分的な結果の安定化の出力例

次の出力例は、不完全なセグメント ("IsPartial": true) に対する Stable のフラグを示しています。「to」と「Amazon」という単語は安定していないため、セグメントが確定される前に変更される可能性があることがわかります。

```
"Transcript": {
  "Results": [
    {
      "Alternatives": [
        {
          "Items": [
            {
              "Content": "Welcome",
              "EndTime": 2.4225,
              "Stable": true,
              "StartTime": 1.65,
              "Type": "pronunciation",
              "VocabularyFilterMatch": false
            },
            {
              "Content": "to",
              "EndTime": 2.8325,
              "Stable": false,
              "StartTime": 2.4225,
              "Type": "pronunciation",
              "VocabularyFilterMatch": false
            }
          ]
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```
    },
    {
      "Content": "Amazon",
      "EndTime": 3.635,
      "Stable": false,
      "StartTime": 2.8325,
      "Type": "pronunciation",
      "VocabularyFilterMatch": false
    },
    {
      "Content": ".",
      "EndTime": 3.635,
      "Stable": false,
      "StartTime": 3.635,
      "Type": "punctuation",
      "VocabularyFilterMatch": false
    }
  ],
  "Transcript": "Welcome to Amazon."
}
],
"EndTime": 4.165,
"IsPartial": true,
"ResultId": "12345a67-8bc9-0de1-2f34-a5b678c90d12",
"StartTime": 1.65
}
]
```

ストリーミング文字起こしの設定

このセクションでは、メインの[ストリーミング](#)セクションをさらに詳しく説明します。これは、AWS SDK ではなく HTTP/2 または WebSockets でストリームを直接セットアップするユーザー向けの情報を提供することを目的としています。このセクションの情報は、独自の SDK の構築にも使用できます。

Important

HTTP/2 や WebSocket を直接使用するのではなく、SDK を使用することを強くおすすめします。SDK は、データストリームを文字起こしするための最も簡単で信頼性の高い方法で

す。AWS SDK を使用してストリーミングを開始するには、「」を参照してください [AWS SDKs](#)。

HTTP/2 ストリームの設定

で文字起こしリクエストをストリーミングするための [HTTP/2 プロトコル](#) の主なコンポーネント Amazon Transcribe は次のとおりです。

- ヘッダーフレーム。これには、リクエストの HTTP/2 ヘッダーと、Amazon Transcribe がデータフレームに署名するためにシード署名として使用する認可ヘッダー内の署名が含まれます。
- メタデータと未加工の音声バイトを含む、[イベントストリームエンコーディング](#) の 1 つ以上のメッセージフレーム。
- 終了フレーム。空の本文を持つ [イベントストリームエンコーディング](#) の署名付きメッセージです。

Note

Amazon Transcribe は、HTTP/2 セッションごとに 1 つのストリームのみをサポートします。複数のストリーミングを使用しようとすると、文字起こしリクエストは失敗します。

1. リクエストを行う IAM ロールに次のポリシーをアタッチします。詳細については、[IAM 「ポリシーの追加」](#) を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "my-transcribe-http2-policy",
      "Effect": "Allow",
      "Action": "transcribe:StartStreamTranscription",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

2. セッションを開始するには、HTTP/2 リクエストを Amazon Transcribe に送信します。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
```



```

host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: YYYYMMDDTHHMMSSZ
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/YYYYMMDD/us-west-2/
transcribe/aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-
amz-date;x-amz-target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
transfer-encoding: chunked

```

その他のオペレーションとパラメータは [API リファレンス](#) に記載されています。すべての AWS API オペレーションに共通するパラメータは「[共通パラメータ](#)」セクションをご覧ください。

Amazon Transcribe は次のレスポンスを送信します。

```

HTTP/2.0 200
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-request-id: 8a08df7d-5998-48bf-a303-484355b4ab4e
x-amzn-transcribe-session-id: b4526fcf-5eee-4361-8192-d1cb9e9d6887
content-type: application/json

```

- 音声データを含む音声イベントを作成します。以下の表に示すヘッダを、イベントエンコードされたメッセージの音声バイトのチャンクと組み合わせます。イベントメッセージのペイロードを作成するには、raw バイト形式のバッファを使用します。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	:content-type	7	24	application/octet-stream
11	:event-type	7	10	AudioEvent
13	:message-type	7	5	イベント

このリクエスト例のバイナリデータは base64 でエンコードされています。実際のリクエストでは、データはローバイトです。

```
:content-type: "application/vnd.amazon.eventstream"
:event-type: "AudioEvent"
:message-type: "event"
Uk1GRjzxPQBxQVZFZm10IBAAAAABAAEAgD4AAAB9AAACABAAZGF0YVVTwPQAAAAAAAAAAAAAAAAAAD//wIA/
f8EAA==
```

4. 音声データを含む音声メッセージを作成します。

- a. 音声メッセージデータフレームには、現在の日付と、音声チャンクと音声ベントの署名を含むイベントエンコードのヘッダーが含まれます。

ヘッダー名の バイト長	ヘッダー名 (文 字列)	ヘッダー値の 型	値の文字列の バイト長	値
16	: チャンク署名	6	可変	生成された署名
5	: 日付	8	8	タイムスタンプ

このリクエストのバイナリデータは base64 でエンコードされています。実際のリクエストでは、データはローバイトです。

```
:date: 2019-01-29T01:56:17.291Z
:chunk-signature: signature

AAAA0gAAAIKVoRFcTTcjb250ZW50LXR5cGUHABhhcHBsaWNhdGlvbi9vY3RldC1zdHJlYW0L0mV2ZW50LXR5cGUHAAPBdWRpb0V2ZW50DTptZXNzYWdlLlXR5cGUHAAVldmVudAxDb256ZW50LVR5cGUHABphcHBsaWNhdGlvbi94LWFtei1qc29uLTEuMVJJRkY88T0AV0FWRWZtdCAQAAAAAQABAIA
+AAAAfQAAAQAQAGRhdGFU8D0AAAAA
AAAAAAAAAAAA//8CAP3/BAC7QLFf
```

- b. 「[署名バージョン 4 の署名文字列を作成する](#)」に従って、署名文字列を作成します。文字列は次の形式に従います。

```
String stringToSign =  
    "AWS4-HMAC-SHA256" +  
    "\n" +  
    DateTime +  
    "\n" +  
    Keypath +  
    "\n" +  
    Hex(priorSignature) +  
    "\n" +  
    HexHash(nonSignatureHeaders) +  
    "\n" +  
    HexHash(payload);
```

- *DateTime*: 署名が作成された日時。形式は YYYYMMDDTHHMMSSZ で、YYY = 年、MM = 月、DD = 日、HH = 時間、MM = 分、SS = 秒、「T」と「Z」は固定文字です。詳細については、「[署名バージョン 4 で日付を扱う](#)」を参照してください。
 - *Keypath*: date/region/service/aws4_request 形式の署名範囲。例えば、20220127/us-west-2/transcribe/aws4_request。
 - *Hex*: 入力を 16 進数にエンコードする関数。
 - *priorSignature*: 前回のフレームの署名。最初のデータフレームで、ヘッダーフレームの署名を使用します。
 - *HexHash*: 最初にその入力の SHA-256 ハッシュを作成し、次に *Hex* 関数を使用してハッシュをエンコードする関数。
 - *nonSignatureHeaders*: 文字列としてエンコードされた *DateTime* ヘッダー。
 - *payload*: 音声イベントデータを含むバイトバッファ。
- c. AWS シークレットアクセスキーから署名キーを取得し、それを使用して *stringToSign* に署名します *stringToSign*。保護レベルを高めるために、派生キーは日付、サービス、AWS リージョンに固有になっています。詳細については、「[AWS 署名バージョン 4 の署名を計算する](#)」を参照してください。

GetSignatureKey 関数を実装して署名キーを取得します。まだ署名キーを取得していない場合は、「[署名バージョン 4 の署名キーを取得する方法の例](#)」を参照してください。

```
String signature = HMACSHA256(derivedSigningKey, stringToSign);
```

- *HMACSHA256*: SHA-256 ハッシュ関数を使って署名を作成する関数。

- `derivedSigningKey`: 署名バージョン 4 の署名キー。
- `stringToSign`: データフレーム用に計算した文字列。

データフレームの署名を計算したら、日付、署名、および音声イベントペイロードを含むバイトバッファを構築します。文字起こし用にバイト配列を Amazon Transcribe に送信します。

5. 音声ストリームが完了したことを示すには、日付と署名のみを含む空のデータ終了フレームを送信します。データフレームを構築するのと同じ方法で、この終了フレームを構築します。

Amazon Transcribe は、アプリケーションに送信される文字起こしイベントのストリームで応答します。このレスポンスはイベントストリームでエンコードされます。また、標準の prelude と以下のヘッダーが含まれます。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	<code>:content-type</code>	7	16	<code>application/json</code>
11	<code>:event-type</code>	7	15	<code>TranscriptEvent</code>
13	<code>:message-type</code>	7	5	イベント

イベントは、ローバイトの形式で送信されます。この例では、バイトは base64 でエンコードされています。

```
AAAAUwAAAEp1RHpYBTpkYXR1CAAAAWiXUkMLEDpjaHVuay1zaWduYXR1cmUGACct6Zy+uymwEK2SrLp/
zVBI
5eGn83jdBwCaRUBJA+eaDafqjqI=
```

文字起こし結果を表示するには、イベントストリームのエンコードを使用してローバイトをデコードします。

```
:content-type: "application/vnd.amazon.eventstream"
:event-type: "TranscriptEvent"
:message-type: "event"

{
```

```

    "Transcript":
      {
        "Results":
          [
            results
          ]
      }
    }
  }

```

6. ストリームを終了するには、空の音声イベントを Amazon Transcribe に送信します。他の音声イベントとまったく同じように音声イベントを作成します (空のペイロードは除く)。イベントに署名し、その署名を `:chunk-signature` ヘッダーに含めます。以下に手順を示します。

```

:date: 2019-01-29T01:56:17.291Z
:chunk-signature: signature

```

HTTP/2 ストリーミングエラーの処理

メディアストリームの処理中にエラーが発生した場合、は例外レスポンス Amazon Transcribe を送信します。レスポンスはイベントストリームでエンコードされます。

レスポンスには、標準の prelude と以下のヘッダーが含まれます。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	:content-type	7	16	application/json
11	:event-type	7	19	BadRequestException
13	:message-type	7	9	例外

デコードされた例外レスポンスには、以下の情報が含まれます。

```

:content-type: "application/vnd.amazon.eventstream"
:event-type: "BadRequestException"
:message-type: "exception"

```

Exception message

WebSocket ストリームの設定

で文字起こしリクエストをストリーミングするための [WebSocket プロトコル](#) の主なコンポーネント Amazon Transcribe は次のとおりです。

- アップグレードリクエスト。これには、リクエストのクエリパラメータと、Amazon Transcribe がデータフレームに署名するためのシード署名として使用する署名が含まれます。
- メタデータと未加工の音声バイトを含む、[イベントストリームエンコーディング](#) の 1 つ以上のメッセージフレーム。
- 終了フレーム。空の本文を持つ [イベントストリームエンコーディング](#) の署名付きメッセージです。

Note

Amazon Transcribe は WebSocket セッションごとに 1 つのストリームのみをサポートします。複数のストリーミングを使用しようとすると、文字起こしリクエストは失敗します。

1. リクエストを行う IAM ロールに次のポリシーをアタッチします。詳細については、[IAM 「ポリシーの追加」](#) を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "my-transcribe-websocket-policy",
      "Effect": "Allow",
      "Action": "transcribe:StartStreamTranscriptionWebSocket",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

2. セッションを開始するには、以下の形式で署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
```

```

&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=access-key%2FYYYYMMDD%2Fus-west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=YYYYMMDDTHHMMSSZ
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&language-code=en-US
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000

```

Note

X-Amz-Expires の最大値は 300 (5 分) です。

その他のオペレーションとパラメータは [API リファレンス](#) に記載されています。すべての AWS API オペレーションに共通するパラメータは「[共通パラメータ](#)」セクションをご覧ください。

リクエストの URL を作成し、[署名バージョン 4 の署名](#)を作成するには、以下の手順を参照してください。例は擬似コードで示しています。

- a. 正規リクエストを作成します。正規は、リクエストからの情報を標準化された形式で含む文字列です。これにより、ガリクエスト AWS を受け取ると、URL に対して作成したのと同じ署名を計算できます。詳細については、「[署名バージョン 4 の正規リクエストを作成する](#)」を参照してください。

```

# HTTP verb
method = "GET"
# Service name
service = "transcribe"
# Region
region = "us-west-2"
# Amazon Transcribe streaming endpoint
endpoint = "wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443"
# Host
host = "transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443"
# Date and time of request
amz-date = YYYYMMDDTHHMMSSZ
# Date without time for credential scope
timestamp = YYYYMMDD

```

- b. ドメインとクエリ文字列との間の URI の一部である正規 URI を作成します。

```
canonical_uri = "/stream-transcription-websocket"
```

- c. 正規ヘッダーと署名付きヘッダーを作成します。正規ヘッダーの末尾の \n に注意してください。

- 小文字のヘッダー名とそれに続くコロン (:) を追加します。
- このヘッダーの値のカンマ区切りリストを追加します。複数の値を持つヘッダーの値はソートしません。
- 改行 (\n) を追加します。

```
canonical_headers = "host:" + host + "\n"  
signed_headers = "host"
```

- d. アルゴリズムをハッシュアルゴリズムに一致させます。SHA-256 を使用します。

```
algorithm = "AWS4-HMAC-SHA256"
```

- e. 派生キーの範囲を日付、AWS リージョン、サービスに絞るための認証情報スコープを作成します。例えば、**20220127/us-west-2**/transcribe/aws4_request。

```
credential_scope = datestamp + "/" + region + "/" + service + "/" +  
"aws4_request"
```

- f. 正規クエリ文字列を作成します。クエリ文字列値は、URI エンコードされ、名前順にソートされている必要があります。

- パラメータ名を文字コードポイントで昇順にソートします。名前が重複しているパラメータは、値でソートする必要があります。たとえば、大文字 F で始まるパラメータ名は、小文字 b で始まるパラメータ名より前に置きます。
- RFC 3986 が定義する非予約文字である A~Z、a~z、0~9、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、ピリオド (.)、およびチルド (~) を、URI がエンコードすることはありません。
- 他のすべての文字についても、%XY によるパーセントエンコードが必要です。X および Y には 16 進数文字 (0~9 および大文字の A~F) が入ります。例えば、スペース文字は %20 として (一部のエンコードスキームのように '+' を含めずに) エンコードする必要があります。あり、拡張 UTF-8 文字は %XY%ZA%BC 形式でエンコードする必要があります。

- パラメータ値の等号 (=) 文字を二重エンコードします。

```
canonical_querystring = "X-Amz-Algorithm=" + algorithm
canonical_querystring += "&X-Amz-Credential=" + URI-encode(access key + "/" +
    credential_scope)
canonical_querystring += "&X-Amz-Date=" + amz_date
canonical_querystring += "&X-Amz-Expires=300"
canonical_querystring += "&X-Amz-Security-Token=" + token
canonical_querystring += "&X-Amz-SignedHeaders=" + signed_headers
canonical_querystring += "&language-code=en-US&media-encoding=flac&sample-
    rate=16000"
```

- g. ペイロードのハッシュを作成します。GET リクエストの場合、ペイロードは空の文字列です。

```
payload_hash = HashSHA256(("").Encode("utf-8")).HexDigest()
```

- h. 以下の要素を組み合わせて正規リクエストを作成します。

```
canonical_request = method + '\n'
    + canonical_uri + '\n'
    + canonical_querystring + '\n'
    + canonical_headers + '\n'
    + signed_headers + '\n'
    + payload_hash
```

3. リクエストについてのメタ情報が含まれる署名する文字列を作成します。次のステップでリクエストの署名を計算するときに、文字列を使用してサインインします。詳細については、「[署名バージョン 4 の署名文字列を作成する](#)」を参照してください。

```
string_to_sign=algorithm + "\n"
    + amz_date + "\n"
    + credential_scope + "\n"
    + HashSHA256(canonical_request.Encode("utf-8")).HexDigest()
```

4. 署名を計算します。これを行うには、AWS シークレットアクセスキーから署名キーを取得します。保護レベルを高めるために、派生キーは日付、サービス、AWS リージョンに固有になっています。派生キーを使用して、リクエストに署名します。詳細については、「[署名バージョン 4 AWS の署名を計算する](#)」を参照してください。

GetSignatureKey 関数を実装して署名キーを取得します。まだ署名キーを取得していない場合は、「[署名バージョン 4 の署名キーを取得する方法の例](#)」を参照してください。

```
#Create the signing key
signing_key = GetSignatureKey(secret_key, timestamp, region, service)

# Sign the string_to_sign using the signing key
signature = HMAC.new(signing_key, (string_to_sign).Encode("utf-8"),
    Sha256()).HexDigest
```

関数 HMAC(key, data) は、バイナリ形式で結果を返す HMAC-SHA 256 関数を表します。

5. 署名情報をリクエストに追加し、リクエスト URL を作成する

署名を計算したら、クエリ文字列に追加します。詳細については、「[署名をリクエストに追加する](#)」を参照してください。

まず、クエリ文字列に認証情報を追加します。

```
canonical_querystring += "&X-Amz-Signature=" + signature
```

次に、リクエストの URL を作成します。

```
request_url = endpoint + canonical_uri + "?" + canonical_querystring
```

WebSocket ライブラリでリクエスト URL を使用して、Amazon Transcribe へのリクエストを行います。

6. へのリクエストには、次のヘッダーを含める Amazon Transcribe 必要があります。通常、これらのヘッダーは、WebSocket クライアントライブラリによって管理されます。

```
Host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443
Connection: Upgrade
Upgrade: websocket
Origin: URI-of-WebSocket-client
Sec-WebSocket-Version: 13
Sec-WebSocket-Key: randomly-generated-string
```

7. が WebSocket リクエスト Amazon Transcribe を受信すると、WebSocket アップグレードレスポンスで応答します。通常、WebSocket ライブラリはこのレスポンスを管理し、通信用のソケットを設定します Amazon Transcribe。

以下は、からのレスポンスです Amazon Transcribe。読みやすくするために、改行が追加されています。

```
HTTP/1.1 101 WebSocket Protocol Handshake

Connection: upgrade
Upgrade: websocket
websocket-origin: wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443
websocket-location: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-
transcription-websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-west-2%2Ftranscribe
%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
&X-Amz-SignedHeaders=host
&language-code=en-US
&session-id=String
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
x-amzn-RequestId: RequestId
Strict-Transport-Security: max-age=31536000
sec-websocket-accept: hash-of-the-Sec-WebSocket-Key-header
```

8. WebSocket ストリーミングリクエストを行います。

WebSocket 接続が確立されると、クライアントは一連の音声フレームの送信を開始できます。それぞれ [イベントストリームエンコーディング](#) を使用してエンコードされます。

各データフレームには、未加工の音声バイトのチャンクと組み合わせた 3 つのヘッダーが含まれています。以下の表はこれらのヘッダーについて説明したものです。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	:content-type	7	24	application/octet-stream
11	:event-type	7	10	AudioEvent
13	:message-type	7	5	イベント

9. データストリームを終了するには、空の音声チャンクをイベントストリームでエンコードされたメッセージで送信します。

レスポンスには、イベントストリームでエンコードされた raw バイトがペイロードに含まれています。また、標準の prelude と以下のヘッダーが含まれます。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	:content-type	7	16	application/json
11	:event-type	7	15	TranscriptEvent
13	:message-type	7	5	イベント

バイナリレスポンスをデコードすると、文字起こしの結果を含む JSON 構造になります。

WebSocket ストリーミングエラーの処理

リクエストの処理中に例外が発生した場合、はイベントストリームでエンコードされたレスポンスを含むターミナル WebSocket フレームに Amazon Transcribe 応答します。このレスポンスには以下の表で示しているヘッダーがあり、レスポンスの本文には説明のエラーメッセージが含まれます。例外レスポンスを送信した後、はクローズフレーム Amazon Transcribe を送信します。

ヘッダー名のバイト長	ヘッダー名 (文字列)	ヘッダー値の型	値の文字列のバイト長	値の文字列 (UTF-8)
13	:content-type	7	16	application/json
15	:exception-type	7	varies	varies、以下を参照してください
13	:message-type	7	9	例外

exception-type ヘッダーには、次のいずれかの値が含まれます。

- **BadRequestException**: ストリームの作成時にクライアントエラーが発生したか、データのストリーミング中にエラーが発生しました。クライアントでデータの受け入れ準備ができていないことを確認し、リクエストを再試行してください。
- **InternalFailureException**: クライアントとのハンドシェイク中に Amazon Transcribe 問題が発生しました。リクエストを再試行してください。
- **LimitExceededException**: クライアントで同時ストリームの制限を超えました。詳細については、「[Amazon Transcribe 制限](#)」を参照してください。文字起こしするストリームの数を減らしてください。
- **UnrecognizedClientException**: WebSocket アップグレードリクエストが不正なアクセスキーまたはシークレットキーで署名されました。アクセスキーを正しく作成していることを確認し、リクエストを再試行してください。

Amazon Transcribe は、一般的なサービスエラーを返すこともできます。リストについては、「[共通エラー](#)」を参照してください。

イベントストリームエンコード

Amazon Transcribe は、ストリーミング文字起こしにイベントストリームエンコードと呼ばれる形式を使用します。

イベントストリームエンコードは、クライアントとサーバーの間の双方向通信を提供します。Amazon Transcribe ストリーミングサービスに送信されるデータフレームは、この形式でエンコードされます。からのレスポンス Amazon Transcribe もこのエンコードを使用します。

各メッセージは、prelude と data の 2 つのセクションで構成されています。prelude の構成要素は以下のとおりです。

1. メッセージの合計バイト長
2. すべてのヘッダーを組み合わせたバイトの長さ

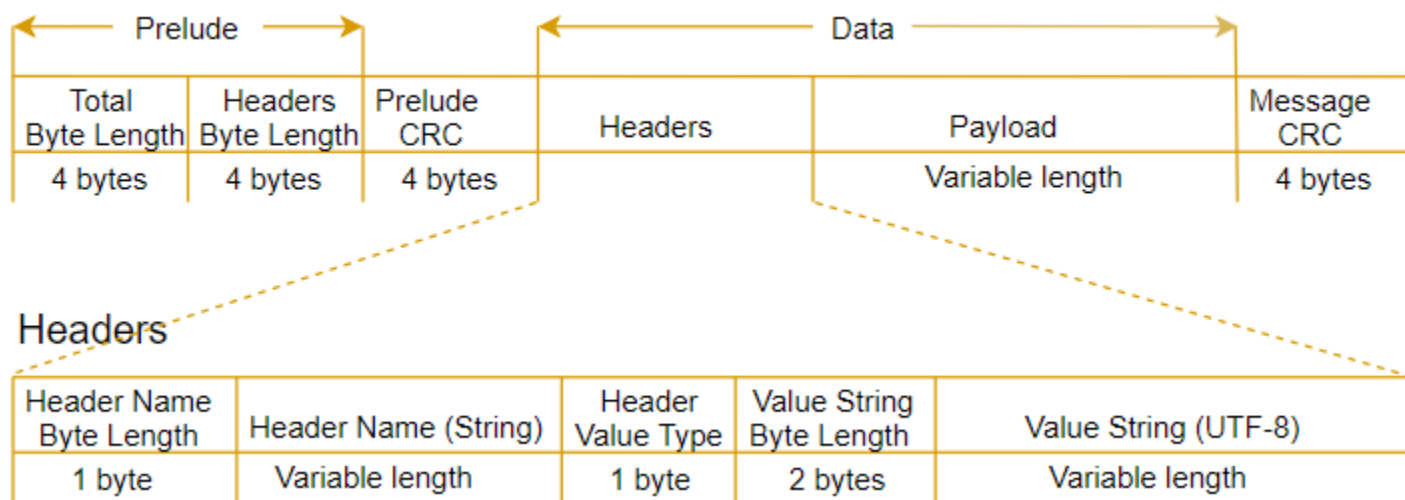
データセクションの構成要素は以下のとおりです。

1. ヘッダー
2. ペイロード

各セクションは、4 バイトのビッグエンディアン整数巡回冗長検査 (CRC) チェックサムで終わります。メッセージ CRC チェックサムは、プレリユードセクションとデータセクションの両方を対象としています。Amazon Transcribe は、CRC32 (GZIP CRC32 と呼ばれます) を使用して、両方の CRC を計算します。CRC32 の詳細については、「[GZIP ファイル形式仕様バージョン 4.3](#)」を参照してください。

合計メッセージオーバーヘッド (prelude と両方のチェックサムを含む) は 16 バイトです。

次の図は、メッセージとヘッダーを構成するコンポーネントを示します。メッセージごとに複数のヘッダーがあります。



各メッセージには、以下のコンポーネントが含まれます。

- Prelude: 2 つの 4 バイトのフィールドで構成され、合計は 8 バイトに固定されています。
 - 最初の 4 バイト: メッセージ全体のビッグエンディアン整数バイト長です (4 バイト長のフィールド自体を含む)。

- 次の 4 バイト メッセージのヘッダー部分のビッグエンディアン整数バイト長 (ヘッダー長フィールド自体を除く)。
- Prelude CRC: メッセージの prelude 部分の 4 バイト CRC チェックサム (CRC 自体を除く)。prelude にはメッセージ CRC とは別の CRC があります。これにより、Amazon Transcribe はバッファのオーバーランなどのエラーを発生させることなく、破損したバイト長情報をすぐに検出できます。
- ヘッダー: メッセージタイプ、コンテンツタイプなど、メッセージに注釈を付けるメタデータ。メッセージにはキーと値のペアである複数のヘッダーがあり、キーは UTF-8 文字列です。ヘッダーは、メッセージのヘッダー部分に任意の順序で表示することができ、各ヘッダーは一度だけ表示することができます。
- ペイロード: 書き起こされた音声コンテンツ。
- メッセージ CRC: メッセージの先頭からチェックサムの先頭までの 4 バイトの CRC チェックサム。つまり、CRC を除き、メッセージ内のすべてのものです。

ヘッダーフレームは文字起こしストリーミングの認可フレームです。Amazon Transcribe では、リクエストのデータフレーム用に認可ヘッダーのチェーンを生成するためのシードとして、認可ヘッダーの値を使用します。

各ヘッダーには以下のコンポーネントが含まれており、フレームごとに複数のヘッダーがあります。

- ヘッダー名のバイト長: ヘッダー名のバイトの長さ。
- ヘッダー名: ヘッダータイプを示すヘッダーの名前。有効な値については、次のフレームの説明を参照してください。
- ヘッダー値のタイプ: ヘッダー値を示す数値。以下の表に、ヘッダーに指定できる値と、ヘッダーが示す値を示します。
 - 0 - TRUE
 - 1 - FALSE
 - 2 - BYTE
 - 3 - SHORT
 - 4 - INTEGER
 - 5 - LONG
 - 6 - BYTE ARRAY
 - 7 - STRING
 - 8 - TIMESTAMP

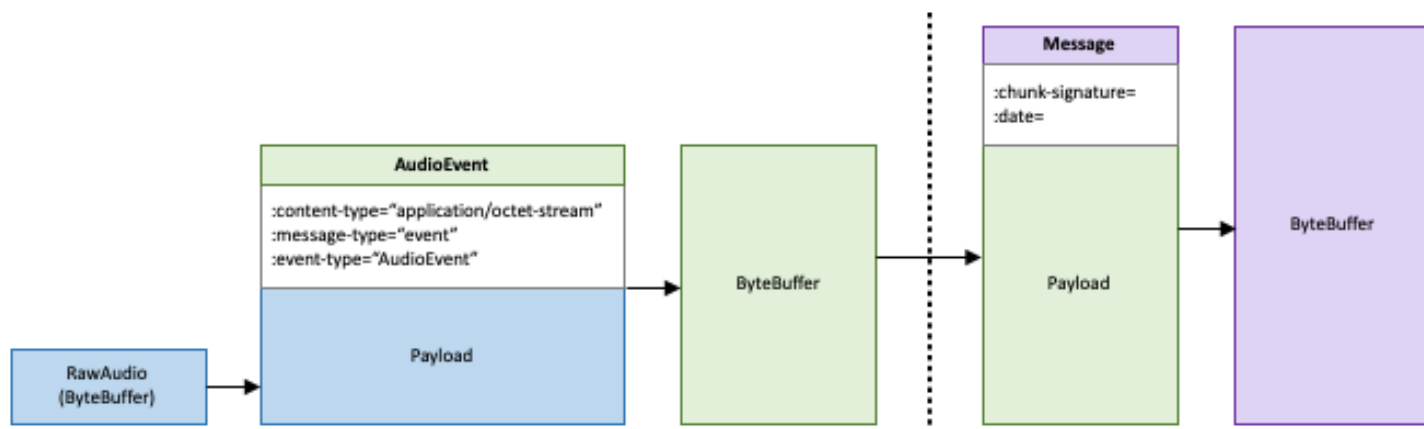
- 9 - UUID
- 値の文字列のバイト長: ヘッダー値の文字列のバイト長。
- ヘッダー値: ヘッダー文字列の値。このフィールドの有効な値は、ヘッダーのタイプによって異なります。詳細については、「[HTTP/2 ストリームの設定](#)」または「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

データフレーム

各ストリーミングリクエストには、1 つ以上のデータフレームが含まれています。データフレームを作成するには 2 つのステップがあります。

1. 未加工の音声データとメタデータを組み合わせて、リクエストのペイロードを作成します。
2. ペイロードを署名と組み合わせて、Amazon Transcribeに送信されるイベントメッセージを形成します。

この仕組みを以下に示します。



ジョブキューイング

ジョブキューイングを使用すると、同時に処理できる数よりも多くの文字起こしジョブリクエストを送信できます。ジョブキューイングを使用しない場合、同時実行可能なリクエストのクォータに達すると、1つ以上のリクエストが完了するまで待ってから、新しいリクエストを送信する必要があります。

ジョブキューイングは、文字起こしジョブリクエストと通話後分析ジョブリクエストの両方でオプションです。

ジョブキューイングを有効にすると、は制限を超えるすべてのリクエストを含むキュー Amazon Transcribe を作成します。リクエストが完了するとすぐに、新しいリクエストがキューから取り出されて処理されます。キューに入っているリクエストは FIFO (先入れ先出し) の順序で処理されます。

キューに最大 10,000 件のジョブを追加できます。この制限を超えた場合、LimitExceededConcurrentJobException エラーが発生します。最適なパフォーマンスを維持するために、はクォータの最大 90% (帯域幅比 0.9) Amazon Transcribe のみを使用してキューに入れられたジョブを処理します。これらはデフォルト値であり、リクエストに応じて増やすことができます。

Tip

Amazon Transcribe リソースのデフォルトの制限とクォータのリストは、[AWS 全般のリファレンス](#)を参照してください。これらのデフォルトの一部は、リクエストに応じて増やすことができます。

ジョブキューイングを有効にしても、同時実行リクエストのクォータを超えないようにすると、すべてのリクエストが同時に処理されます。

ジョブキューイングの有効化

AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用して、ジョブキューイングを有効にできます。例については以下を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。

2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。
3. ジョブ設定ボックスには、追加設定パネルがあります。このパネルを展開すると、「ジョブキューに追加」ボックスを選択してジョブキューイングを有効にできます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

English, US (en-US)

▼

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

▼ **Additional settings**

Job queue - optional [Info](#)

Enables you to submit jobs beyond the limit for concurrent jobs (100). You must specify access permissions to the resources that job queuing uses.

☐ **Add to job queue**

4. ジョブの詳細を指定ページに追加したいその他のフィールドに入力し、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

5. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `job-execution-settings` パラメータ、`AllowDeferredExecution` サブパラメータを使用します。`AllowDeferredExecution` をリクエストに含める場合は、`DataAccessRoleArn` も含める必要があることに注意してください。

詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [JobExecutionSettings](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--job-execution-settings  
  AllowDeferredExecution=true,DataAccessRoleArn=arn:aws:iam::111122223333:role/  
ExampleRole
```

[start-transcription-job](#) コマンド、およびキューイングを有効にするリクエストボディを使用した別の例になります。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-queueing-request.json
```

ファイル `my-first-queueing-request.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "JobExecutionSettings": {  
    "AllowDeferredExecution": true,  
  }  
}
```

```
        "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
    }
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では、を使用して AWS SDK for Python (Boto3)、[start_transcription_job](#) メソッドの `AllowDeferredExecution` 引数を使用してジョブキューイングを有効にします。 `AllowDeferredExecution` をリクエストに含める場合は、`DataAccessRoleArn` も含める必要があることに注意してください。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [JobExecutionSettings](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) AWS SDKs「」章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-queueing-request"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    JobExecutionSettings = {
        'AllowDeferredExecution': True,
        'DataAccessRoleArn': 'arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole'
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

キューに入れられたジョブの進行状況は、[GetTranscriptionJob](#) を介して、AWS Management Console または [GetTranscriptionJob](#) リクエストを送信することで表示できます。ジョブがキューに入れられると、Status は QUEUED になります。ジョブが処理を開始するとステータスは IN_PROGRESS に変わり、処理が終了すると、COMPLETED または FAILED に変わります。

リソースのタグ付け

タグは、リソースに追加して識別、整理、検索を容易にするための、カスタムなメタデータラベルです。各タグは、2つの部分 (タグキーとタグ値) で構成されます。これは、キーと値のペアと呼ばれます。

通常、タグキーはカテゴリの大枠を表し、タグ値はそのカテゴリのサブセットを表します。例えば、タグキー = Color そしてタグ値 = Blue とすると、キーと値のペアとしては Color:Blue が構成されます。タグの値を空の文字列に設定することはできますが、タグの値を null には設定できないことに注意してください。タグ値を省略すると、空の文字列を使用した場合と同じになります。

Tip

AWS Billing and Cost Management では、タグを使用して請求書を動的カテゴリに分割できます。例えば、会社内のさまざまな部門を表すタグ (Department:Sales または Department:Legal など) を追加することで、AWS が部門ごとのコスト配分を提供できるようになります。

では Amazon Transcribe、次のリソースにタグを付けることができます。

- 変換ジョブ
- 医学会話変換ジョブ
- 通話分析通話後文字起こしジョブ
- カスタム語彙
- カスタム医療語彙
- カスタム語彙フィルター
- 通話分析カテゴリ
- カスタム言語モデル

タグキーは最大 128 文字、タグ値は最大 256 文字です。どちらも大文字と小文字が区別されます。はリソースごとに最大 50 個のタグ Amazon Transcribe をサポートします。リソースごとに、各タグキーは一意である必要があり、1つの値のみを与えることができます。はシステム生成タグ用にこのプレフィックス AWS を予約aws:するため、タグは で始めることはできません。aws:* タグを追

加、変更、削除することはできません。このタグは、リソースあたりの上限タグ数のためのカウントに含まれません。

i リソースのタグ付けに固有の API オペレーション

[ListTagsForResource](#), [TagResource](#), [UntagResource](#)

タグ付け API を使用するには、Amazon リソースネーム (ARN) をリクエストに含める必要があります。ARN は `arn:partition:service:region:account-id:resource-type/resource-id` という形式です。たとえば、変換ジョブに関連付けられた ARN は `arn:aws:transcribe:us-west-2:111122223333:transcription-job/my-transcription-job-name` のようになります。

ベストプラクティスを含むタグ付けの詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

タグベースのアクセスコントロール

タグを使用して、内のアクセスを制御できます AWS アカウント。タグベースのアクセスコントロールの場合、IAM ポリシーの条件要素でタグ情報を指定します。次に、タグおよび関連付けられたタグ条件キーを使用して、以下へのアクセスを制御できます。

- リソース：Amazon Transcribe リソースに割り当てたタグに基づいて、リソースへのアクセスを制御します。
 - `aws:ResourceTag/key-name` 条件キーを使用して、リソースにアタッチする必要があるタグキーの値のペアを指定します。
- リクエスト：リクエストで渡すことができるタグを制御します。
 - `aws:RequestTag/key-name` 条件キーを使用して、IAM ユーザーまたはロールに対して追加、変更、または削除できるタグを指定します。
- 認可プロセス：認可プロセスのあらゆる部分のタグベースのアクセスを制御します。
 - `aws:TagKeys/` 条件キーを使用して、リソースまたはリクエストで、またはプリンシパルによって特定のタグキーを使用できるかどうかを制御します。この場合、キーバリューは重要ではありません。

タグベースのアクセスコントロールポリシーの例については、「[タグに基づく文字起こしジョブの表示](#)」を参照してください。

タグベースのアクセス制御の詳細については、[「タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御」](#)を参照してください。

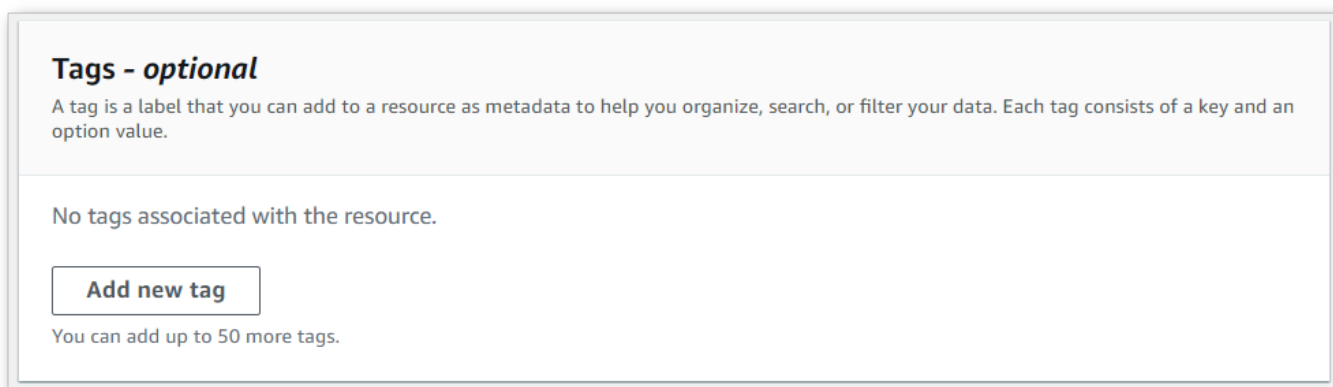
Amazon Transcribe リソースへのタグの追加

Amazon Transcribe ジョブの実行前または実行後にタグを追加できます。既存の作成 * と 開始 * の API を使用すると、文字起こしリクエストにタグを追加できます。

AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用してタグの追加、変更、または削除を行うことができます。例については、次を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。
3. ジョブの詳細を指定ページの下部までスクロールして、タグ - オプションボックスを見つけたら、[新しいタグを追加] を選択します。



4. キー フィールドと、オプションで 値 フィールドに情報を入力します。

Tags - optional

A tag is a label that you can add to a resource as metadata to help you organize, search, or filter your data. Each tag consists of a key and an option value.

Key	Value - optional	
color	blue	Remove

You can add up to 49 more tags.

5. ジョブの詳細を指定ページに追加したいその他のフィールドに入力し、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

[ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

6. 文字起こしジョブページに移動して変換ジョブに関連付けられたタグを表示できますので、変換ジョブを選択し、そのジョブの情報ページの一番下までスクロールします。タグを編集したい場合は、[タグの管理] を選択します。

Tags (2)		Manage Tags
Key	Value	
color	blue	

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと Tags パラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Tag](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--tags Key=color,Value=blue Key=shape,Value=square
```

別の例として、[変換ジョブの開始](#) コマンド、およびそのジョブにタグを追加するリクエスト本文を使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-tagging-job.json
```

ファイル `my-first-tagging-job.json` には、次のリクエストボディが入含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Tags": [  
    {  
      "Key": "color",  
      "Value": "blue"  
    },  
    {  
      "Key": "shape",  
      "Value": "square"  
    }  
  ]  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

次の例では AWS SDK for Python (Boto3)、を使用して、[start_transcription_job](#) メソッドの `Tags` 引数を使用してタグを追加します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Tag](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#) 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function  
import time  
import boto3
```

```
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Tags = [
        {
            'Key': 'color',
            'Value': 'blue'
        }
    ]
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

スピーカーをパーティション化する (ダイアライゼーション)

スピーカーダイアライゼーションを使用すると、文字起こし出力で異なるスピーカーを区別できます。Amazon Transcribe は最大 30 人の一意のスピーカーを区別し、各一意のスピーカーのテキストに一意の値 (spk_0 から) をラベル付けできます spk_9。

スピーカーパーティショニングが有効になっているリクエストには、[標準の文字起こしセクション](#) (transcriptsとitems) に加えて、speaker_labels セクションが含まれます。このセクションはスピーカーごとにグループ化されており、話者ラベルやタイムスタンプなど、各発話に関する情報が含まれています。

```
"speaker_labels": {
  "channel_label": "ch_0",
  "speakers": 2,
  "segments": [
    {
      "start_time": "4.87",
      "speaker_label": "spk_0",
      "end_time": "6.88",
      "items": [
        {
          "start_time": "4.87",
          "speaker_label": "spk_0",
          "end_time": "5.02"
        },
        ...
      ]
    },
    {
      "start_time": "8.49",
      "speaker_label": "spk_1",
      "end_time": "9.24",
      "items": [
        {
          "start_time": "8.49",
          "speaker_label": "spk_1",
          "end_time": "8.88"
        },
        ...
      ]
    },
    ...
  ]
}
```

スピーカーパーティショニングを使用した完全な文字起こしの例 (2 人の話者の場合) を見るには、「[ダイアライゼーション出力の例 \(バッチ\)](#)」を参照してください。

バッチ文字起こしで、スピーカーをパーティション化する

バッチ文字起こしでスピーカーをパーティション化する方法については、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

MyTranscriptionJob

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**
To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**
To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)
If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)
If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

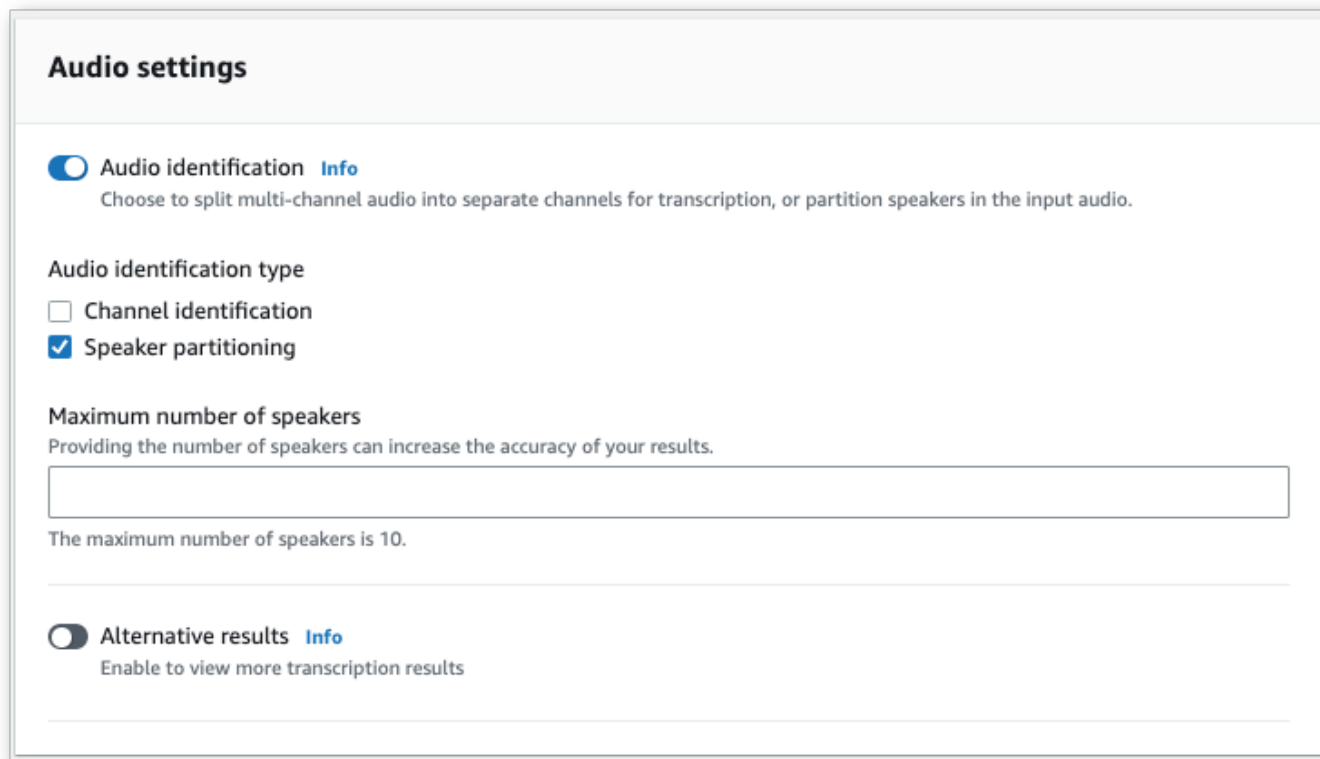
Choose the language of the input audio.

English, US (en-US) ▼

▶ **Additional settings**

3. ジョブの詳細を指定ページで追加したいフィールドに入力後、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

スピーカーパーティショニングを有効にするには、オーディオ設定でオーディオ識別を選択します。次に、スピーカーパーティショニングを選択し、スピーカーの数を指定します。



Audio settings

☒ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or partition speakers in the input audio.

Audio identification type

☐ Channel identification

☒ Speaker partitioning

Maximum number of speakers
Providing the number of speakers can increase the accuracy of your results.

The maximum number of speakers is 10.

☐ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results

4. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) を使用します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--settings ShowSpeakerLabels=true,MaxSpeakerLabels=3
```

別の例として、[start-transcription-job](#) コマンド、およびそのジョブでスピーカーパーティショニングを有効にするリクエストボディを使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-transcription-job.json
```

ファイル `my-first-transcription-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "ShowSpeakerLabels": 'TRUE',  
  "MaxSpeakerLabels": 3  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3)、を使用して [start_transcription_job](#) メソッドを使用してチャンネルを識別します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

```
from __future__ import print_function  
import time  
import boto3  
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')  
job_name = "my-first-transcription-job"  
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
transcribe.start_transcription_job(  
    TranscriptionJobName = job_name,  
    Media = {  
        'MediaFileUri': job_uri  
    },  
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',  
    OutputKey = 'my-output-files/',  
    LanguageCode = 'en-US',  
    Settings = {
```

```
        'ShowSpeakerLabels': True,
        'MaxSpeakerLabels': 3
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

ストリーミング文字起こしでスピーカーをパーティション化する

ストリーミング文字起こしでスピーカーをパーティション化するには、次の例を参照してください。

ストリーミング文字起こし

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし]を選択します。音声設定にスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。

Real-time transcription [Info](#)

See how Amazon Transcribe creates a text copy of speech in real time. Choose **Start streaming** and talk.

Transcription

[Download full transcript](#)[Start streaming](#)

Transcription output

Current language: English, US

Choose **Start streaming** to begin a real-time transcription of what you speak into your microphone

00:00 of 15:00 min audio stream

► Language settings

▼ Audio settings

☒ Speaker partitioning [Info](#)

Partition the different speakers in the stream. Speaker partitioning might vary in availability between languages.

► Content removal settings

► Customizations

3. スピーカーパーティショニングをオンに切り替えます。

► Language settings

▼ Audio settings

☒ Speaker partitioning [Info](#)

Partition the different speakers in the stream. Speaker partitioning might vary in availability between languages.

► Content removal settings

► Customizations

4. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する] を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する] を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、文字起こし出力でスピーカーをパーティショニングする HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [HTTP/2 ストリーミングの設定](#)。Amazon Transcribe に固有のパラメータとヘッダーの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-show-speaker-label: true
transfer-encoding: chunked
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、文字起こし出力でスピーカーを区切る署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [WebSocket ストリーミングの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
```

```
&language-code=en-US
&specialty=PRIMARYCARE
&type=DICTATION
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&show-speaker-label=true
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

ダイアライゼーション出力の例 (バッチ)

ダイアライゼーションを有効にしたバッチ文字起こし出力の例を次に示します。

```
{
  "jobName": "my-first-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "I've been on hold for an hour. Sorry about that."
      }
    ],
    "speaker_labels": {
      "channel_label": "ch_0",
      "speakers": 2,
      "segments": [
        {
          "start_time": "4.87",
          "speaker_label": "spk_0",
          "end_time": "6.88",
          "items": [
            {
              "start_time": "4.87",
              "speaker_label": "spk_0",
              "end_time": "5.02"
            },
            {
              "start_time": "5.02",
              "speaker_label": "spk_0",
              "end_time": "5.17"
            }
          ]
        }
      ]
    }
  }
}
```

```
        "start_time": "5.17",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "5.29"
    },
    {
        "start_time": "5.29",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "5.64"
    },
    {
        "start_time": "5.64",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "5.84"
    },
    {
        "start_time": "6.11",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "6.26"
    },
    {
        "start_time": "6.26",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "6.88"
    }
]
},
{
    "start_time": "8.49",
    "speaker_label": "spk_1",
    "end_time": "9.24",
    "items": [
        {
            "start_time": "8.49",
            "speaker_label": "spk_1",
            "end_time": "8.88"
        },
        {
            "start_time": "8.88",
            "speaker_label": "spk_1",
            "end_time": "9.05"
        },
        {
            "start_time": "9.05",
            "speaker_label": "spk_1",
```

```
        "end_time": "9.24"
      }
    ]
  },
  "items": [
    {
      "id": 0,
      "start_time": "4.87",
      "speaker_label": "spk_0",
      "end_time": "5.02",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "I've"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    {
      "id": 1,
      "start_time": "5.02",
      "speaker_label": "spk_0",
      "end_time": "5.17",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "been"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    {
      "id": 2,
      "start_time": "5.17",
      "speaker_label": "spk_0",
      "end_time": "5.29",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "on"
        }
      ]
    }
  ],
```

```
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 3,
        "start_time": "5.29",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "5.64",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "hold"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 4,
        "start_time": "5.64",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "5.84",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "for"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 5,
        "start_time": "6.11",
        "speaker_label": "spk_0",
        "end_time": "6.26",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "an"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 6,
        "start_time": "6.26",
```

```
    "speaker_label": "spk_0",
    "end_time": "6.88",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "hour"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 7,
    "speaker_label": "spk_0",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.0",
        "content": "."
      }
    ],
    "type": "punctuation"
  },
  {
    "id": 8,
    "start_time": "8.49",
    "speaker_label": "spk_1",
    "end_time": "8.88",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "Sorry"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 9,
    "start_time": "8.88",
    "speaker_label": "spk_1",
    "end_time": "9.05",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.902",
        "content": "about"
      }
    ]
  }
```

```
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 10,
    "start_time": "9.05",
    "speaker_label": "spk_1",
    "end_time": "9.24",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "that"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 11,
    "speaker_label": "spk_1",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.0",
        "content": "."
      }
    ],
    "type": "punctuation"
  }
],
"audio_segments": [
  {
    "id": 0,
    "transcript": "I've been on hold for an hour.",
    "start_time": "4.87",
    "end_time": "6.88",
    "speaker_label": "spk_0",
    "items": [
      0,
      1,
      2,
      3,
      4,
      5,
      6,
      7
    ]
  }
]
```



```
    ]
  },
  {
    "id": 1,
    "transcript": "Sorry about that.",
    "start_time": "8.49",
    "end_time": "9.24",
    "speaker_label": "spk_1",
    "items": [
      8,
      9,
      10,
      11
    ]
  }
],
"status": "COMPLETED"
}
```

マルチチャネルの音声文字起こし

音声に 2 つのチャネルがある場合は、チャネル識別を使用して、各チャネルの音声を個別に文字起こしできます。は現在、3 Amazon Transcribe つ以上のチャネルの音声をサポートしていません。

トランスクリプトでは、チャネルには `ch_0` と `ch_1` というラベルが割り当てられます。

チャネル識別が有効になっているリクエストには、[標準の文字起こしセクション](#) (transcriptsとitems)に加えて、channel_labels セクションが含まれます。このセクションには、チャネルごとにグループ化された各発話または句読点と、それに関連するチャネルラベル、タイムスタンプ、信頼スコアが含まれています。

```
"channel_labels": {
  "channels": [
    {
      "channel_label": "ch_0",
      "items": [
        {
          "channel_label": "ch_0",
          "start_time": "4.86",
          "end_time": "5.01",
          "alternatives": [
            {
              "confidence": "1.0",
              "content": "I've"
            }
          ],
          "type": "pronunciation"
        },
        ...
      ],
      "channel_label": "ch_1",
      "items": [
        {
          "channel_label": "ch_1",
          "start_time": "8.5",
          "end_time": "8.89",
          "alternatives": [
            {
              "confidence": "1.0",
              "content": "Sorry"
            }
          ]
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```
    ],  
    "type": "pronunciation"  
  },  
  ...  
  "number_of_channels": 2  
},
```

あるチャンネルにいる人が別のチャンネルにいる人と同時に話す場合、各人がお互いに話している間、各チャンネルのタイムスタンプが重複することに注意してください。

チャンネル識別を含むトランスクリプトの完全な例については、「[チャンネル識別出力の例 \(バッチ\)](#)」を参照してください。

バッチ文字起こしでのチャンネル識別の使用

バッチ文字起こしでチャンネルを識別するには、AWS Management Console、AWS CLI または AWS SDK を使用できます。例については以下を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

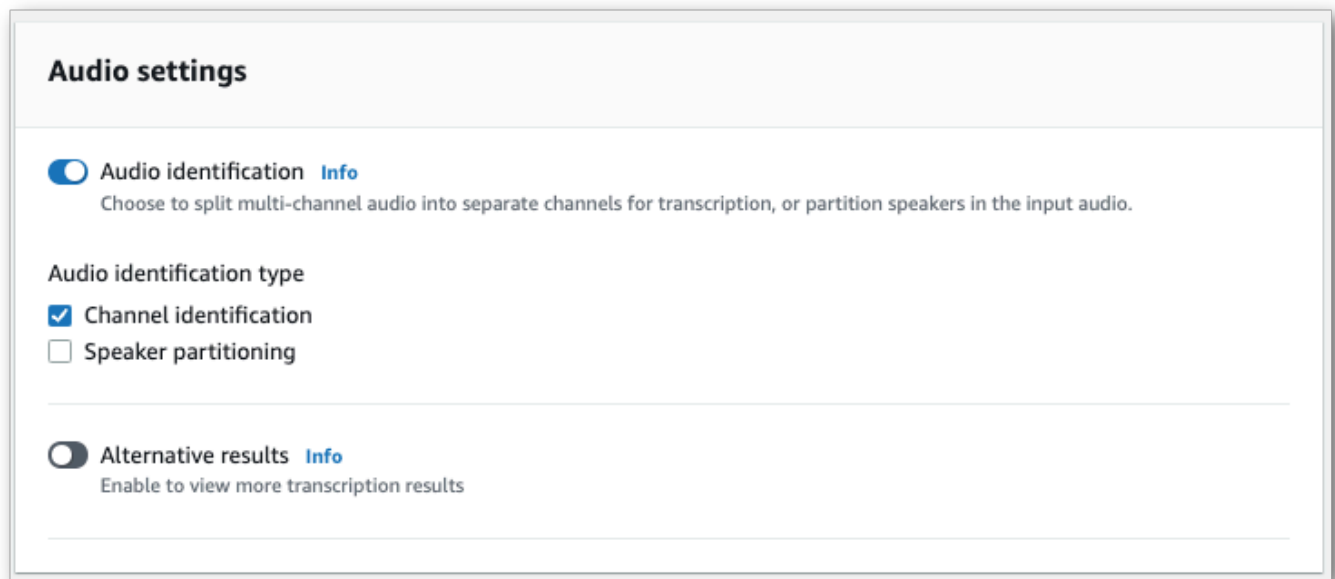
Language

Choose the language of the input audio.

► **Additional settings**

3. ジョブの詳細を指定ページで追加したいフィールドに入力後、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

音声設定パネルで、「音声識別タイプ」の見出しの下にある [チャンネル識別] を選択します。



Audio settings

☒ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or partition speakers in the input audio.

Audio identification type

☒ **Channel identification**
☐ **Speaker partitioning**

☐ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results

4. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) を使用します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--settings ChannelIdentification=true
```

別の例として、[start-transcription-job](#) コマンド、およびそのジョブとのチャンネル識別を可能にするリクエストボディを使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-transcription-job.json
```

ファイル *my-first-transcription-job.json* には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Settings": {
    "ChannelIdentification": true
  }
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3)、を使用して [start_transcription_job](#) メソッドを使用してチャンネルを識別します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Settings = {
        'ChannelIdentification': True
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
```

```
print(status)
```

ストリーミング文字起こしでのチャネル識別の使用

ストリーミング文字起こしでチャネルを識別するには、HTTP/2 または WebSocket を使用できます。例については以下を参照してください。

HTTP/2 ストリーム

この例では、文字起こしの出力でチャネルを分離する HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [HTTP/2 ストリームの設定](#)。Amazon Transcribe に固有のパラメータとヘッダーの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-channel-identification: TRUE
transfer-encoding: chunked
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、文字起こし出力のチャネルを分離するための署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [WebSocket ストリームの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
```

```
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&language-code=en-US
&specialty=PRIMARYCARE
&type=DICTATION
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&channel-identification=TRUE
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

チャネル識別出力の例 (バッチ)

チャネル識別を有効にしたバッチ文字起こし出力の例を以下に示します。

```
{
  "jobName": "my-first-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "I've been on hold for an hour. Sorry about that."
      }
    ],
    "channel_labels": {
      "channels": [
        {
          "channel_label": "ch_0",
          "items": [
            {
              "channel_label": "ch_0",
              "start_time": "4.86",
              "end_time": "5.01",
              "alternatives": [
                {
                  "confidence": "1.0",
```



```
        "content": "I've"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "channel_label": "ch_0",
    "start_time": "5.01",
    "end_time": "5.16",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "been"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "channel_label": "ch_0",
    "start_time": "5.16",
    "end_time": "5.28",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "on"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "channel_label": "ch_0",
    "start_time": "5.28",
    "end_time": "5.62",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "hold"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "channel_label": "ch_0",
    "start_time": "5.62",
```

```
        "end_time": "5.83",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "for"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "channel_label": "ch_0",
        "start_time": "6.1",
        "end_time": "6.25",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "an"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "channel_label": "ch_0",
        "start_time": "6.25",
        "end_time": "6.87",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "hour"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "channel_label": "ch_0",
        "language_code": "en-US",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.0",
                "content": "."
            }
        ],
        "type": "punctuation"
    }
}
```

```
    ]
  },
  {
    "channel_label": "ch_1",
    "items": [
      {
        "channel_label": "ch_1",
        "start_time": "8.5",
        "end_time": "8.89",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "Sorry"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "channel_label": "ch_1",
        "start_time": "8.89",
        "end_time": "9.06",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "0.9176",
            "content": "about"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "channel_label": "ch_1",
        "start_time": "9.06",
        "end_time": "9.25",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "that"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "channel_label": "ch_1",
        "alternatives": [
```

```
        {
            "confidence": "0.0",
            "content": "."
        }
    ],
    "type": "punctuation"
}

],
"number_of_channels": 2
},
"items": [
    {
        "id": 0,
        "channel_label": "ch_0",
        "start_time": "4.86",
        "end_time": "5.01",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "I've"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 1,
        "channel_label": "ch_0",
        "start_time": "5.01",
        "end_time": "5.16",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "been"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 2,
        "channel_label": "ch_0",
        "start_time": "5.16",
        "end_time": "5.28",
```

```
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "on"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    {
      "id": 3,
      "channel_label": "ch_0",
      "start_time": "5.28",
      "end_time": "5.62",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "hold"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    {
      "id": 4,
      "channel_label": "ch_0",
      "start_time": "5.62",
      "end_time": "5.83",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "for"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    {
      "id": 5,
      "channel_label": "ch_0",
      "start_time": "6.1",
      "end_time": "6.25",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "an"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 6,
    "channel_label": "ch_0",
    "start_time": "6.25",
    "end_time": "6.87",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "hour"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 7,
    "channel_label": "ch_0",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.0",
        "content": "."
      }
    ],
    "type": "punctuation"
  },
  {
    "id": 8,
    "channel_label": "ch_1",
    "start_time": "8.5",
    "end_time": "8.89",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "Sorry"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "id": 9,
    "channel_label": "ch_1",
    "start_time": "8.89",
```

```
        "end_time": "9.06",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.9176",
                "content": "about"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 10,
        "channel_label": "ch_1",
        "start_time": "9.06",
        "end_time": "9.25",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "that"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "id": 11,
        "channel_label": "ch_1",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.0",
                "content": "."
            }
        ],
        "type": "punctuation"
    }
],
"audio_segments": [
    {
        "id": 0,
        "transcript": "I've been on hold for an hour.",
        "start_time": "4.86",
        "end_time": "6.87",
        "channel_label": "ch_0",
        "items": [
            0,
            1,
```

```
        2,  
        3,  
        4,  
        5,  
        6,  
        7  
    ]  
},  
{  
    "id": 1,  
    "transcript": "Sorry about that.",  
    "start_time": "8.5",  
    "end_time": "9.25",  
    "channel_label": "ch_1",  
    "items": [  
        8,  
        9,  
        10,  
        11  
    ]  
}  
]  
},  
"status": "COMPLETED"  
}
```


メディア内の主要な言語を特定する

Amazon Transcribe では、言語コードを指定しなくても、メディアで話されている言語を自動的に識別できます。

[バッチ言語識別](#)では、メディアファイルで話されている主要な言語を識別できます。また、メディアに複数の言語が含まれている場合は、話されているすべての言語を識別できます。言語識別の精度を向上させるために、メディアに含まれていると思われる 2 つ以上の言語のリストをオプションで提供できます。

[ストリーミング言語識別](#)は、チャンネルごとに 1 つの言語を識別できます (最大 2 つのチャンネルがサポートされています)。または、ストリームに複数の言語が含まれている場合は、使用されているすべての言語を識別できます。ストリーミングリクエストには、最低 2 つの追加言語オプションをリクエスト内に含める必要があります。言語オプションを提供すると、言語をすばやく識別できます。言語をより速く識別 Amazon Transcribe でできればするほど、ストリームの最初の数秒でデータが失われる変更が少なくなります。

Important

バッチ文字起こしとストリーミング文字起こしは、異なる言語をサポートしています。詳細については、[サポートされている言語の表](#)の「データ入力」列を参照してください。現在、ベトナム語とスウェーデン語は言語識別ではサポートされていません。

言語識別によるモニタリングとイベントの詳細については、「[言語識別イベント](#)」を参照してください。

バッチ文字起こしジョブを使用した言語の識別

バッチ言語識別を使用して、メディアファイル内の 1 つまたは複数の言語を自動的に識別します。

メディアに 1 つの言語しか含まれていない場合は、[単一言語識別](#)を有効にできます。これにより、メディアファイルで使用されている主要言語が識別され、その言語のみを使用してトランスクリプトが作成されます。

メディアに複数の言語が含まれている場合、[多言語識別](#)を有効にできます。これにより、メディアファイルで使用されているすべての言語を識別し、識別された各言語を使用してトランスクリプトを

作成できます。多言語のトランスクリプトが作成されることに注意してください。トランスクリプトの翻訳など Amazon Translate、他の サービスを使用できます。

サポートされている言語と関連する言語コードの完全なリストについては、「[サポートされている言語](#)」の表を参照してください。

最良の結果を得るには、メディアファイルに少なくとも 30 秒の音声が入っていることを確認します。

AWS CLI、AWS Management Console、および AWS Python SDK の使用例については、「」を参照してください [バッチ文字起こしによる言語識別の使用](#)。

多言語音声の言語識別

多言語識別は多言語のメディアファイルを対象としており、メディア内のすべての[サポートされている言語](#)を反映したトランスクリプトを提供します。つまり、会話の途中でスピーカーが言語を変更したり、各参加者が異なる言語を話したりしても、文字起こし出力は各言語を正しく検出して文字起こしします。たとえば、メディアに米国英語 (en-US) とヒンディー語 (hi-IN) を交互に話すバイリンガルのスピーカーがいる場合、多言語識別により、米国英語を en-US とし、ヒンディー語を hi-IN として識別して文字起こしすることができます。

これは、1 つの主要言語だけ使ってトランスクリプトを作成する単一言語識別とは異なります。この場合、主要言語ではない話し言葉はすべて正しく文字起こしされません。

Note

現在、リダクションとカスタム言語モデルは多言語識別ではサポートされていません。

Note

現在、多言語識別では、en-AB、en-AU、en-GB、en-IE、en-IN、en-NZ、en-US、en-WL、en-ZA、es-ES、es-US、fr-CA、fr-FR、zh-CN、zh-TW、pt-BR、pt-PT、de-CH、de-DE、af-ZA、ar-AE、da-DK、he-IL、hi-IN、id-ID、fa-IR、it-IT、ja-JP、ko-KR、ms-MY、nl-NL、ru-RU、ta-IN、te-IN、te-IN、TH、tr-TR

多言語のトランスクリプトには、検出された言語の概要と、メディア内で各言語が話された合計時間が表示されます。例を示します。

```
"results": {
  "transcripts": [
    {
      "transcript": "welcome to Amazon transcribe. ## ## ##### ### #### ####
## #### ### #####"
    },
    ...

  "language_codes": [
    {
      "language_code": "en-US",
      "duration_in_seconds": 2.45
    },
    {
      "language_code": "hi-IN",
      "duration_in_seconds": 5.325
    },
    {
      "language_code": "ja-JP",
      "duration_in_seconds": 4.15
    }
  ]
}
```

言語識別の精度の向上

言語識別では、メディアに存在すると思われる言語のリスト含めるオプションがあります。言語オプション (LanguageOptions) を含めると Amazon Transcribe、オーディオを正しい言語に一致させるときに指定した言語のみの使用に制限されるため、言語識別が高速化され、正しい言語ダイアレクトの割り当てに関連する精度が向上します。

言語コードを含める場合は、少なくとも 2 つ含める必要があります。含められる言語コードの数に制限はありませんが、効率と精度を最適化するために、2~5 つの言語コードを使用することをおすすめします。

Note

リクエストに言語コードを含め、指定した言語コードが音声で識別される言語と一致しない場合、は指定した言語コードから最も近い言語の一致 Amazon Transcribe を選択します。

次に、その言語の文字起こしが作成されます。たとえば、メディアが米国英語 (en-US) で、Amazon Transcribe 言語コード zh-CN、fr-FR、および を指定した場合 de-DE、Amazon Transcribe はメディアをドイツ語 (de-DE) に一致させ、ドイツ語の文字起こしを生成する可能性があります。言語コードと話し言葉が一致しないと、文字起こしが不正確になる可能性があるため、言語コードを含める際には注意が必要です。

言語識別と他の Amazon Transcribe 機能の組み合わせ

バッチ言語識別は、他の Amazon Transcribe 機能と組み合わせて使用できます。言語識別を他の機能と組み合わせる場合、それらの機能でサポートされている言語に制限されます。たとえば、コンテンツの秘匿化で言語識別を使用する場合、秘匿化に使用できる言語のみであるため、米国英語 (en-US) または米国スペイン語 (es-US) に制限されます。詳細については、「[サポートされている言語および言語固有の機能](#)」を参照してください。

Important

コンテンツ秘匿化を有効にして自動言語識別を使用し、音声に米国英語 (en-US) または米国スペイン語 () 以外の言語が含まれている場合 es-US、トランスクリプトでは米国英語または米国スペイン語のコンテンツのみが秘匿化されます。他の言語は編集できず、警告やジョブの失敗のお知らせは表示されません。

カスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルター

言語識別リクエストに 1 つ以上のカスタム言語モデル、カスタム語彙、またはカスタム語彙フィルターを追加する場合は、[LanguageIdSettings](#) パラメータを含める必要があります。次に、対応するカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを使用して言語コードを指定できます。多言語識別はカスタム言語モデルをサポートしていないことに注意してください。

[LanguageIdSettings](#) を使用する際には、正しい言語の方言が確実に識別されるように、LanguageOptions を含めることをおすすめします。たとえば、en-US カスタム語彙を指定しても、メディアで話されている言語が である Amazon Transcribe と判断した場合 en-AU、カスタム語彙は文字起こしに適用されません。LanguageOptions を含め、en-US を英語の方言のみとして指定すると、カスタム語彙が文字起こしに適用されます。

リクエストの [LanguageIdSettings](#) の例については、[バッチ文字起こしによる言語識別の使用](#) セクションの AWS CLI および AWS SDK ドロップダウンパネルの「オプション 2」参照してください。

バッチ文字起こしによる言語識別の使用

バッチ文字起こしジョブで、AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用して、自動言語識別を使用できます。例については、次を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。
3. ジョブの設定パネルで、言語設定セクションを見つけ、[自動言語識別] または [自動多言語識別] を選択します。

音声ファイルに含まれる言語がわかっている場合は、(「言語を選択」ドロップダウンボックスから) 複数の言語オプションを選択できます。言語オプションを提供することで、精度を向上させることができますが、必須ではありません。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

my-first-transcription-job

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☐ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

☒ **Automatic multiple languages identification** [Info](#)

If there are multiple languages spoken in your audio files and you're not sure what these languages are, choose this option. This selection provides limited additional processing options compared to **Specific language**.

Language options for automatic language identification - *optional*

To improve accuracy, choose at least two languages spoken the most often in your audio library. Amazon Transcribe chooses from one of the languages you've specified to transcribe each audio file. Leave this field empty if you're unsure about which languages to select.

Select languages

Q |

- ☐ English, US (en-US)
- ☐ English, AU (en-AU)
- ☐ English, UK (en-GB)
- ☐ Hindi, IN (hi-IN)
- ☐ Spanish, US (es-US)

4. ジョブの詳細を指定ページに追加したいその他のフィールドに入力し、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

Configure job - *optional* [Info](#)

Audio settings

☐ **Audio identification** [Info](#)

Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.

☐ **Alternative results** [Info](#)

Enable to view more transcription results

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

☐ **PII redaction** [Info](#)

Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].

☐ **Vocabulary filtering** [Info](#)

Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

☐ **Custom vocabulary** [Info](#)

A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Cancel

Previous

Create job

5. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `IdentifyLanguage` パラメータを使用します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」および「[LanguageIdSettings](#)」を参照してください。

オプション 1: `language-id-settings` パラメータを使用しない場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含めない場合は、このオプションを使用してください。`language-options` はオプションですが、推奨されます。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--identify-language \ (or --identify-multiple-languages) \  
--language-options "en-US" "hi-IN"
```

オプション 2: `language-id-settings` パラメータを使用する場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含める場合は、このオプションを使用してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--identify-language \ (or --identify-multiple-languages) \  
--language-options "en-US" "hi-IN" \  
--language-id-settings en-US=VocabularyName=my-en-US-vocabulary,en-US=  
VocabularyFilterName=my-en-US-vocabulary-filter,en-US=LanguageModelName=my-en-US-  
language-model,hi-IN=VocabularyName=my-hi-IN-vocabulary,hi-IN=VocabularyFilterName=my-  
hi-IN-vocabulary-filter
```

[start-transcription-job](#) コマンド、および言語を識別するリクエストボディを使用した別の例になります。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file:///filepath/my-first-language-id-job.json
```

ファイル `my-first-language-id-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

オプション 1: `LanguageIdSettings` パラメータを使用しない場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含めない場合は、このオプションを使用してください。`LanguageOptions` はオプションですが、推奨されます。

```
{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "IdentifyLanguage": true, (or "IdentifyMultipleLanguages": true),
  "LanguageOptions": [
    "en-US", "hi-IN"
  ]
}
```

オプション 2: `LanguageIdSettings` パラメータを使用する場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含める場合は、このオプションを使用してください。

```
{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "IdentifyLanguage": true, (or "IdentifyMultipleLanguages": true)
  "LanguageOptions": [
    "en-US", "hi-IN"
  ],
  "LanguageIdSettings": {
    "en-US" : {
      "LanguageModelName": "my-en-US-language-model",
      "VocabularyFilterName": "my-en-US-vocabulary-filter",
      "VocabularyName": "my-en-US-vocabulary"
    },
    "hi-IN": {
      "VocabularyName": "my-hi-IN-vocabulary",
      "VocabularyFilterName": "my-hi-IN-vocabulary-filter"
    }
  }
}
```

```
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して、[start_transcription_job](#) メソッドの `IdentifyLanguage` 引数を使用してファイルの言語を識別します。詳細については、「[StartTranscriptionJob](#)」および「[LanguageIdSettings](#)」を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#) 「」の章を参照してください。

オプション 1: `LanguageIdSettings` パラメータを使用しない場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含めない場合は、このオプションを使用してください。`LanguageOptions` はオプションですが、推奨されます。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    MediaFormat = 'flac',
    IdentifyLanguage = True, (or IdentifyMultipleLanguages = True),
    LanguageOptions = [
        'en-US', 'hi-IN'
    ]
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

オプション 2: LanguageIdSettings パラメータを使用する場合。リクエストにカスタム言語モデル、カスタム語彙、カスタム語彙フィルターを含める場合は、このオプションを使用してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    MediaFormat='flac',
    IdentifyLanguage=True, (or IdentifyMultipleLanguages=True)
    LanguageOptions = [
        'en-US', 'hi-IN'
    ],
    LanguageIdSettings={
        'en-US': {
            'VocabularyName': 'my-en-US-vocabulary',
            'VocabularyFilterName': 'my-en-US-vocabulary-filter',
            'LanguageModelName': 'my-en-US-language-model'
        },
        'hi-IN': {
            'VocabularyName': 'my-hi-IN-vocabulary',
            'VocabularyFilterName': 'my-hi-IN-vocabulary-filter'
        }
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

ストリーミング文字起こしによる言語識別

ストリーミング言語識別は、メディアストリームで話されている主要言語を識別できます。では、言語を識別するために少なくとも 1 秒の音声 Amazon Transcribe が必要です。

ストリームに 1 つの言語しか含まれていない場合は、単一言語識別を有効にできます。これにより、メディアファイルで使用されている主要言語が識別され、この言語のみを使用してトランスクリプトが作成されます。

ストリームに複数の言語が含まれている場合は、多言語識別を有効にできます。これにより、ストリームで使用されているすべての言語を識別し、識別された各言語を使用してトランスクリプトを作成できます。多言語のトランスクリプトが作成されることに注意してください。トランスクリプトの翻訳など Amazon Transcribe、他の サービスを使用できます。

ストリーミング言語識別には、少なくとも 2 つの言語コードを指定する必要があります。また、ストリームごとに、1 つの言語に対して 1 つの言語方言しか選択できません。つまり、en-US と en-AU を同じ文字起こしの言語オプションとして選択することはできません。

また、指定した言語コードの一覧から優先言語を選択するオプションもあります。優先言語を追加すると、言語識別プロセスが速くなるため、短い音声クリップの場合に便利です。

Important

指定した言語コードが音声で識別される言語と一致しない場合、は指定した言語コードから最も近い言語の一致 Amazon Transcribe を選択します。次に、その言語の文字起こしが作成されます。たとえば、メディアが米国英語 (en-US) で、Amazon Transcribe 言語コード zh-CN、fr-FR、および を指定した場合 de-DE、Amazon Transcribe はメディアをドイツ語 (de-DE) に一致させ、ドイツ語の文字起こしを生成する可能性があります。言語コードと話し言葉が一致しないと、文字起こしが不正確になる可能性があるため、言語コードを含める際には注意が必要です。

メディアに 2 つのチャンネルが含まれている場合、Amazon Transcribe は各チャンネルで話されている主要言語を識別できます。この場合は、[ChannelIdentification](#) パラメータを true に設定することで各チャンネルが別々に文字起こしされます。このパラメータのデフォルトは false です。変更しない場合は、最初のチャンネルだけが文字起こしされ、1 つの言語だけが識別されます。

ストリーミング言語識別は、カスタム言語モデルやリダクションと組み合わせることはできません。言語識別を他の機能と組み合わせる場合、それらの機能でサポートされている言語、およびストリー

ミング文字起こしでサポートされている言語に制限されます。「[サポートされている言語](#)」を参照してください。

 Note

PCM と FLAC は、ストリーミング言語識別でサポートされる唯一の音声形式です。多言語識別では、PCM のみがサポートされています。

多言語音声の言語識別

多言語識別は、多言語のストリームを対象としており、ストリーム内のすべてのサポートされている言語を反映したトランスクリプトを提供します。つまり、会話の途中でスピーカーが言語を変更したり、各参加者が異なる言語を話したりしても、文字起こし出力は各言語を正しく検出して文字起こしします。

例えば、ストリームに米国英語 (en-US) とヒンディー語 (hi-IN) を交互に話すバイリンガルの話者がいる場合、多言語識別により、米国英語を en-US とし、ヒンディー語を hi-IN として識別して書き起こすことができます。これは、1 つの主要言語だけ使ってトランスクリプトを作成する単一言語識別とは異なります。この場合、主要言語ではない話し言葉はすべて正しく文字起こしされません。

 Note

現在、リダクションとカスタム言語モデルは多言語識別ではサポートされていません。

ストリーミングメディアでの言語識別を使用

バッチ文字起こしジョブで AWS Management Console、HTTP/2、または WebSocket を使用して、自動言語識別を使用できます: 例については、次を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。言語設定にスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。

Real-time transcription [Info](#)

See how Amazon Transcribe creates a text copy of speech in real time. Choose **Start streaming** and talk.

Transcription

Download full transcript

 **Start streaming**

Transcription output Current language: Automatic, Confidence: N/A

Choose **Start streaming** to begin a real-time transcription of what you speak into your microphone

00:00 of 15:00 min audio stream

- ▶ Language settings
- ▶ Audio settings
- ▶ Content removal settings
- ▶ Customizations

3. [自動言語識別] または [複数言語の自動識別] を選択します。

▼ Language settings

Language settings

You can select a specific language for your transcription or have Amazon Transcribe identify the predominant language in your media and perform the transcription in that language.

☐ **Specific language**

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option.

☒ **Automatic multiple languages identification** [Info](#)

If there are multiple languages spoken in your audio files and you're not sure what these languages are, choose this option. This selection provides limited additional processing options compared to **Specific language**.

Language options for automatic language identification

To improve language identification accuracy, select a minimum of 2 language options.

Choose language(s) ▼

Preferred language - optional

Specify one preferred language from your previous selection.

Choose language ▼

▶ **Audio settings**

▶ **Content removal settings**

▶ **Customizations**

4. 文字起こしの言語コードを 2 つ以上指定してください。1 つの言語ごとに 1 つの方言しか提供できません。例えば、en-US と fr-CA を同じ文字起こしの言語オプションとして選択することはできません。

▼ Language settings

Language settings

You can select a specific language for your transcription or have Amazon Transcribe identify the predominant language in your media and perform the transcription in that language.

☐ **Specific language**

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option.

☒ **Automatic multiple languages identification** [Info](#)

If there are multiple languages spoken in your audio files and you're not sure what these languages are, choose this option. This selection provides limited additional processing options compared to **Specific language**.

Language options for automatic language identification

To improve language identification accuracy, select a minimum of 2 language options.

Choose language(s) ▼

English, US (en-US) ✕

French, CA (fr-CA) ✕

Preferred language - *optional*

Specify one preferred language from your previous selection.

Choose language ▲

Q

None
English, US (en-US)
French, CA (fr-CA)

5. (オプション) 前の手順で選択した言語のサブセットから、トランスクリプトの優先言語を選択できます。

▼ Language settings

Language settings
You can select a specific language for your transcription or have Amazon Transcribe identify the predominant language in your media and perform the transcription in that language.

☐ Specific language
If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results.

☒ Automatic language identification [Info](#)
If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option.

Language options for automatic language identification
To improve language identification accuracy, select a minimum of 2 language options.

Choose language(s) ▼

English, US (en-US) × French, CA (fr-CA) ×

Preferred language - optional
Specify one preferred language from your previous selection.

Choose language ▲

None
English, US (en-US)
French, CA (fr-CA)

▶ Customizations

6. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する]を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する]を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、言語識別を有効にした状態で HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリーミングの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartStreamTranscription](#)。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
```

```
x-amzn-transcribe-identify-language: true
x-amzn-transcribe-language-options: en-US,de-DE
x-amzn-transcribe-preferred-language: en-US
transfer-encoding: chunked
```

この例では、多言語識別を有効にして HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリームの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartStreamTranscription](#)。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-identify-multiple-languages: true
x-amzn-transcribe-language-options: en-US,de-DE
x-amzn-transcribe-preferred-language: en-US
transfer-encoding: chunked
```

リクエストで `identify-language` または `identify-multiple-languages` を使用する場合は、`language-options` も含める必要があります。同じリクエストで `language-code` と `identify-language` 両方を使用することはできません。

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、WebSocket ストリーミングで言語識別を使用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[WebSocket ストリームの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
```

```
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&identify-language=true
&language-options=en-US,de-DE
&preferred-language=en-US
```

この例では、WebSocket ストリームで多言語識別を使用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[WebSocket ストリームの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&identify-multiple-languages=true
&language-options=en-US,de-DE
&preferred-language=en-US
```

リクエストで `identify-language` または `identify-multiple-languages` を使用する場合は、`language-options` も含める必要があります。同じリクエストで `language-code` と `identify-language` 両方を使用することはできません。

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

代替文字起こし

は、音声を Amazon Transcribe 書き起こすときに、同じトランスクリプトの異なるバージョンを作成し、各バージョンに信頼スコアを割り当てます。一般的な文字起こしでは、信頼スコアが最も高いバージョンしか得られません。

代替文字起こしを有効にすると、は信頼レベルが低い他のバージョンの文字起こし Amazon Transcribe を返します。最大 10 個の代替文字起こしを返すように選択できます。が Amazon Transcribe 識別する数よりも多くの代替手段を指定すると、実際の代替手段の数のみが返されます。

代替案はすべて同じ文字起こし出力ファイルにあり、セグメントレベルで表示されます。セグメントは、スピーカーの変更や音声の一時停止など、音声の自然な間のことです。

代替文字起こしは、バッチ文字起こしでのみ使用できます。

文字起こし出力は次のように構成されています。コード例の省略記号 (...) は、簡潔にするためにコンテンツが削除された場所を示しています。

1. 指定されたセグメントの完全な最終文字起こし。

```
"results": {
  "language_code": "en-US",
  "transcripts": [
    {
      "transcript": "The amazon is the largest rainforest on the planet."
    }
  ],
  ...
}
```

2. 前の transcript セクションの各単語の信頼スコア。

```
"items": [
  {
    "start_time": "1.15",
    "end_time": "1.35",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "1.0",
        "content": "The"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  ...
]
```

```

    },
    {
      "start_time": "1.35",
      "end_time": "2.05",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "1.0",
          "content": "amazon"
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
  ],
}

```

3. 代替の文字起こしは、文字起こし出力の `segments` 部分にあります。各セグメントの代替案は、信頼スコアの降順で並べられています。

```

"segments": [
  {
    "start_time": "1.04",
    "end_time": "5.065",
    "alternatives": [
      {
        ...
        "transcript": "The amazon is the largest rain forest on the
planet.",
        "items": [
          {
            "start_time": "1.15",
            "confidence": "1.0",
            "end_time": "1.35",
            "type": "pronunciation",
            "content": "The"
          },
          {
            ...
            {
              "start_time": "3.06",
              "confidence": "0.0037",
              "end_time": "3.38",
              "type": "pronunciation",
              "content": "rain"
            },
            {
              "start_time": "3.38",

```

```
        "confidence": "0.0037",  
        "end_time": "3.96",  
        "type": "pronunciation",  
        "content": "forest"  
    },
```

4. 文字起こし出力の最後にあるステータス。

```
"status": "COMPLETED"  
}
```

代替文字起こしのリクエスト

AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用して代替文字起こしをリクエストできます。例については、以下を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

► **Additional settings**

3. ジョブの詳細を指定ページで追加したいフィールドに入力後、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。

「代替結果」を選択し、トランスクリプトに必要な代替文字起こし結果の最大数を指定します。

Configure job - optional [Info](#)

Audio settings

☐ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.

☒ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results

Maximum alternatives
Provide the number of alternative transcription to provide in the text output.

The maximum number of alternative results is 10.

4. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `ShowAlternatives` パラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ShowAlternatives](#) を参照してください。

`ShowAlternatives=true` をリクエストに含める場合は、`MaxAlternatives` も含める必要があることに注意してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--settings ShowAlternatives=true,MaxAlternatives=4
```

別の例として、[start-transcription-job](#) コマンド、および代替文字起こしを含むリクエストボディを使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  

```



```
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-alt-transcription-job.json
```

ファイル `my-first-transcription-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Settings": {  
    "ShowAlternatives": true,  
    "MaxAlternatives": 4  
  }  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

次の例では、を使用して AWS SDK for Python (Boto3)、[start_transcription_job](#) メソッドの `ShowAlternatives` 引数を使用して代替文字起こしをリクエストします。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ShowAlternatives](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#) 「」章を参照してください。

'ShowAlternatives': True をリクエストに含める場合は、MaxAlternatives も含める必要があることに注意してください。

```
from __future__ import print_function  
import time  
import boto3  
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')  
job_name = "my-first-transcription-job"  
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
transcribe.start_transcription_job(  
    TranscriptionJobName = job_name,  
    Media = {  
        'MediaFileUri': job_uri  
    },
```

```
OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
OutputKey = 'my-output-files/',
LanguageCode = 'en-US',
Settings = {
    'ShowAlternatives':True,
    'MaxAlternatives':4
}
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

カスタム語彙およびカスタム言語モデルによる文字起こしの精度の向上

メディアにブランド名、頭字語、技術用語、専門用語などのドメイン固有または非標準用語が含まれている場合、Amazon Transcribe はこれらの用語を文字起こし出力に正しくキャプチャしない可能性があります。

文字起こしの誤りを修正し、特定のユースケースに合わせて出力をカスタマイズするには、[カスタム語彙](#)と[カスタム言語モデル](#)を作成します。

- [カスタム語彙](#) は、あらゆるコンテキストにおける特定の単語の認識と書式の両方を調整し、強化するように設計されています。これには、Amazon Transcribe に単語と、オプションで発音と表示形式を提供することが含まれます。

Amazon Transcribe がトランスクリプトで特定の用語を正しくレンダリングしていない場合は、これらの用語の表示 Amazon Transcribe 方法を に指示するカスタム語彙ファイルを作成できます。この単語固有のアプローチは、ブランド名や頭字語などの用語の修正に最適です。

- [カスタム言語モデル](#) は、用語に関連するコンテキストを把握するように設計されています。これには、大量のドメイン固有のテキストデータを Amazon Transcribe に提供することが含まれます。

Amazon Transcribe が技術用語を正しくレンダリングしていない場合、またはトランスクリプトで間違った同音符を使用している場合は、ドメイン固有の言語 Amazon Transcribe をトレーニングするカスタム言語モデルを作成できます。たとえば、カスタム言語モデルでは、「フロー」(流水)と「フロー」(直線的な流れ)のどちらを使用するかを学習できます。

このコンテキストに応じたアプローチは、ドメイン固有の音声を大量に文字起こしするのに最も適しています。カスタム言語モデルでは、カスタム語彙だけの場合よりも精度を大幅に向上させることができます。バッチ文字起こしを使用する場合は、カスタム言語モデルとカスタム語の両方をリクエストに含めることができます。

Tip

最高の文字起こしの精度を達成するには、カスタム語彙をカスタム言語モデルと組み合わせて使用します。

を使用してカスタム語彙を作成する方法の動画デモについては AWS Management Console、[「カスタム語彙の使用」](#)を参照してください。

カスタム言語モデルを作成して使用する方法に関する動画デモについては、[「カスタム言語モデル \(CLM\) の使用による文字起こし精度の向上」](#)を参照してください。

 AWS Machine Learning ブログ」で詳しく調べる

カスタム語彙

- [を使用した F1 レースのライブ文字起こし Amazon Transcribe](#)

カスタム言語モデル

- [speech-to-textへのパフォーマンスを向上させるカスタム言語モデルの構築 Amazon Transcribe](#)
- [Amazon Transcribeのカスタム言語モデルにより、講義の文字起こしの精度を向上](#)

カスタム語彙

カスタム語彙を追加して、1 つまたは複数の単語の文字起こし精度を向上させます。これらは通常、ブランド名や頭字語、固有名詞、Amazon Transcribe が正しく表示されない単語など、ドメイン固有の用語です。

カスタム語彙は、サポートされているすべての言語で使用できます。カスタム語彙で利用できるのは、その言語の[文字セット](#)にリストされている文字だけであることを注意してください。

 Important

Amazon Transcribeを使用する場合、お客様はご自身のデータの完全性について責任を負うものとします。機密情報、個人情報 (PII)、または保護対象の医療情報 (PHI) をカスタム語彙に入力しないでください。

カスタム語彙を作成する際の考慮事項

- あたり最大 100 個のカスタム語彙ファイルを持つことができます AWS アカウント
- カスタム語彙のサイズは 50 KB に制限されます。

- API を使用してカスタム語彙を作成する場合、語彙ファイルはテキスト (*.txt) 形式である必要があります。を使用する場合 AWS Management Console、語彙ファイルはテキスト (*.txt) 形式またはカンマ区切り値 (*.csv) 形式にすることができます。
- カスタム語彙内の各エントリは 256 文字を超えることはできません。
- カスタム語彙を使用するには、文字起こし AWS リージョン と同じ で作成されている必要があります。

Tip

を使用してカスタム語彙をテストできます AWS Management Console。カスタム語彙を使用する準備ができたなら、にログインし AWS Management Console、リアルタイム文字起こしを選択し、カスタマイズにスクロールし、カスタム語彙をオンにして、ドロップダウンリストからカスタム語彙を選択します。次に [ストリーミングを開始する] を選択します。カスタム語彙のいくつかの単語をマイクに向かって話し、正しくレンダリングされるかどうかを確認します。

カスタム語彙テーブルとリスト

Important

リスト形式のカスタム語彙は廃止される予定です。新しいカスタム語彙を作成する場合は、[テーブル形式](#)を使用してください。

テーブルを使用すると、カスタム語彙内の単語の入出力に対するオプションがより多くなり、より詳細に制御できます。テーブルでは、出力を微調整できるように、複数のカテゴリ (Phrase and DisplayAs) を指定する必要があります。

リストには追加のオプションがないため、入力できるのは文字起こしに表示したいエントリのみで、スペースはすべてハイフンに置き換えます。

AWS Management Console、AWS CLI、AWS SDKs はすべて同じ方法でカスタム語彙テーブルを使用します。リストはメソッドごとに異なるため、メソッド間で正常に使用するために追加のフォーマットが必要になる場合があります。

詳細については、[テーブルを使用してカスタム語彙を作成する](#)および[リストを使用してカスタム語彙を作成する](#)を参照してください。

もう少し深く掘り下げて、カスタム語彙で Amazon Augmented AI を使用方法を学ぶには、「[Amazon Transcribeによるヒューマンレビューの作成を始める](#)」を参照してください。

❶ カスタム語彙に固有の API オペレーション

[CreateVocabulary](#), [DeleteVocabulary](#), [GetVocabulary](#), [ListVocabularies](#), [UpdateVocabulary](#)

テーブルを使用してカスタム語彙を作成する

カスタム語彙を作成するには、テーブル形式を使用することをおすすめします。語彙テーブルは 4 つの (Phrase, SoundsLike, IPA, and DisplayAs) 列で構成されている必要があり、どの順序でも含めることができます。

フレーズ	SoundsLike	IPA	DisplayAs
必須。テーブルのすべての行には、この列のエントリが含まれている必要があります。	SoundsLike はカスタム語彙ではサポートされなくなりました。列は空のままにしてください。この列の値はすべて無視されます。今後、この列のサポートは削除されます。	IPA はカスタム語彙ではサポートされなくなりました。列は空のままにしてください。この列の値はすべて無視されます。今後、この列のサポートは削除されます。	オプション。この列の行は空のままかまいません。 この列にはスペースを使用できます。 文字起こし出力でのエントリの表示方法を定義します。たとえば、Phrase 列の Andorra-la-Vella は DisplayAs 列の Andorra la Vella にあります。 この列の行が空の場合、は Phrase 列の内容 Amazon Transcribe を使用して出力を決定します。
この列にはスペースを使用しないでください。			
エントリに複数の単語が含まれている場合は、各単語をハイフン (-) で区切ります。例えば、 Andorra-la-Vella 、 Los-Angel es です。			
頭字語の場合は、発音する文字をすべて			

フレーズ	SoundsLike	IPA	DisplayAs
ピリオドで区切る必要があります。末尾のピリオドも発音する必要があります。 頭字語が複数形の場合は、頭字語と「s」の間にハイフンを使用する必要があります。たとえば、「CLI」は C.L.I. (C.L.I ではない) で、「ABCs」は A.B.C.-s (A.B.C-s ではない) です。 フレーズが単語と頭字語の両方で構成されている場合は、これら 2 つの要素をハイフンでつなぐ必要があります。たとえば、「DynamoDB」は Dynamo-D.B. です。 この列には数字を含めないでください。数字はスペルアウトする必要があります。たとえば、「VX 02Q」は V.X.-zero-two-Q. です。			この列には数字 (0-9) を含めることができません。

テーブルを作成する際の注意事項

- テーブルには、4 つの列ヘッダー がすべて含まれている必要があります (Phrase, SoundsLike, IPA, and DisplayAs)。Phrase 列には、各行のエントリが含まれている必要があります。IPA および を通じて発音入力を提供する機能はサポートされ SoundsLike なくなり、列を空のままにすることができます。これらの列の値は無視されます。
- 各列は TAB またはカンマ (,) で区切る必要があります。これはカスタム語彙ファイルのすべての行に適用されます。行に空の列がある場合でも、各列に区切り記号 (TAB またはカンマ) を含める必要があります。
- スペースは IPA 列と DisplayAs 列のみ使用できます。列を区切るのにスペースを使用しないでください。
- IPA および SoundsLike は、カスタム語彙ではサポートされなくなりました。列は空のままにしてください。これらの列の値はすべて無視されます。今後、この列のサポートは削除されます。
- DisplayAs 列は記号と特殊文字 (C++ など) をサポートします。他のすべての列は、使用している言語の [文字セット](#) ページに記載されている文字をサポートします。
- Phrase 列に数字を含めたい場合は、数字をスペルアウトする必要があります。数字 (0-9) は DisplayAs 列でのみサポートされています。
- テーブルは LF 形式のプレーンテキスト (*.txt) ファイルとして保存する必要があります。CRLF など、他の形式を使用した場合、カスタム語彙は処理できません。
- 文字起こしリクエストに含める [CreateVocabulary](#) 前に、カスタム語彙ファイルを Amazon S3 バケットにアップロードし、 を使用して処理する必要があります。手順については、「[カスタム語彙テーブルを作成する](#)」を参照してください。

Note

頭字語など、1 文字ずつ個別に発音する単語は、ピリオド (A.B.C.) で区切って 1 文字で入力します。「ABC」のように複数形の頭字語を入力するには、「s」と頭字語をハイフン (A.B.C.-s) で区切ります。頭字語の入力には、大文字と小文字のどちらでも使用できます。頭字語はすべての言語には対応していません。「[サポートされている言語および言語固有の機能](#)」を参照してください。

カスタム語彙テーブル ([TAB] はタブ文字を表す) の例を以下に示します。

```
Phrase[TAB]SoundsLike[TAB]IPA[TAB]DisplayAs
Los-Angeles[TAB][TAB][TAB]Los Angeles
Eva-Maria[TAB][TAB][TAB]
```



```

A.B.C.-s[TAB][TAB][TAB]ABCs
Amazon-dot-com[TAB][TAB][TAB]Amazon.com
C.L.I.[TAB][TAB][TAB]CLI
Andorra-la-Vella[TAB][TAB][TAB]Andorra la Vella
Dynamo-D.B.[TAB][TAB][TAB]DynamoDB
V.X.-zero-two[TAB][TAB][TAB]VX02
V.X.-zero-two-Q.[TAB][TAB][TAB]VX02Q

```

見やすくするために、同じ表に列をそろえて示します。カスタム語彙テーブルの列間にスペースを入れないでください。前の例のようにテーブルの位置がずれて見えるはずです。

Phrase	[TAB]SoundsLike	[TAB]IPA	[TAB]DisplayAs
Los-Angeles	[TAB]	[TAB]	[TAB]Los Angeles
Eva-Maria	[TAB]	[TAB]	[TAB]
A.B.C.-s	[TAB]	[TAB]	[TAB]ABCs
amazon-dot-com	[TAB]	[TAB]	[TAB]amazon.com
C.L.I.	[TAB]	[TAB]	[TAB]CLI
Andorra-la-Vella	[TAB]	[TAB]	[TAB]Andorra la Vella
Dynamo-D.B.	[TAB]	[TAB]	[TAB]DynamoDB
V.X.-zero-two	[TAB]	[TAB]	[TAB]VX02
V.X.-zero-two-Q.	[TAB]	[TAB]	[TAB]VX02Q

カスタム語彙テーブルを作成する

で使用するカスタム語彙テーブルを処理するには Amazon Transcribe、次の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[カスタム語彙] を選択します。カスタム語彙のページが開き、既存の語彙の表示したり、新しい語彙を作成したりできます。
3. [語彙の作成] を選択します。

Amazon Transcribe > Custom vocabulary

Custom vocabulary [Info](#)

Use custom vocabularies to improve transcription accuracy. [Learn more](#)

▼ Overview

1. Create custom vocabulary

Create vocabulary by uploading a vocabulary file or adding phrases into the form. You can also use vocabulary templates (.csv, .txt) for file creation.

2. Apply to Real-time or batch transcription

After you create your custom vocabulary, you can apply it to a [real-time transcription](#) or a [batch transcription](#) job.

Manage vocabularies [Info](#)

[Download](#) [Update](#) [Delete](#) [Create job](#) [Test in real-time](#) [Create vocabulary](#)

[Filter by: All ▼](#) < 1 > ⚙

Name	Language	Last modified	Status
Empty resources			
No resources to display			
Create vocabulary			

「語彙の作成」ページに移動します。新しいカスタム語彙の名前を入力します。

次の 3 つの選択肢があります。

- コンピュータから txt または csv ファイルをアップロードします。

カスタム語彙を一から作成することも、テンプレートをダウンロードして始めることもできます。その後、語彙の表示と編集ペインに語彙が自動入力されます。

Create vocabulary [Info](#)

Vocabulary settings

Name

Vocabulary names can be up to 200 characters in length. Allowed characters: a-z, A-Z, 0-9, periods (.), dashes (-), and underscores (_).

Language

English, US (en-US) ▼

Create and import vocabulary [Info](#)

Vocabulary input source

☒ **File upload**
Upload a vocabulary table from your computer.

☐ **S3 location**
Import a vocabulary table from an S3 location.

☐ **Create vocabulary on console**
Manually create a vocabulary table on the console.

Download vocabulary template – Optional
Download and complete a custom vocabulary template in your preferred format.

Download template ▼

Import from file

Choose File

File format: txt, csv, maximum size 50 KB.

- b. Amazon S3 の場所から txt または csv ファイルをインポートします。

カスタム語彙を一から作成することも、テンプレートをダウンロードして始めることもできます。完成した語彙ファイルを Amazon S3 バケットにアップロードし、リクエストにその URI を指定します。その後、語彙の表示と編集ペインに語彙が自動入力されます。

Create and import vocabulary [Info](#)

Vocabulary input source

☐ File upload
Upload a vocabulary table from your computer.

☒ S3 location
Import a vocabulary table from an S3 location.

☐ Create vocabulary on console
Manually create a vocabulary table on the console.

Download vocabulary template – Optional
Download and complete a custom vocabulary template in your preferred format.

 **Download template** ▼

Import from S3
Provide a path to the S3 location where your vocabulary file is stored. To find a path, go to [Amazon S3](#).

Resource URI

[View](#) [Browse S3](#)

- c. コンソールで語彙を手動で作成します。

語彙の表示と編集ペインまでスクロールし、[10 行追加] を選択します。用語を手動で入力できるようになりました。

Create and import vocabulary [Info](#)

Vocabulary input source

☐ File upload
Upload a vocabulary table from your computer.

☐ S3 location
Import a vocabulary table from an S3 location.

☒ Create vocabulary on console
Manually create a vocabulary table on the console.

View and edit vocabulary (0)

[Reset vocabulary](#) [Delete](#) [Download latest vocabulary](#) ▼

[Show all](#) ▼ < 1 >

☐	Phrase	SoundsLike (optional)	IPA (optional)	DisplayAs (optional)
No rows added yet				

[Add 10 rows](#)

4. 語彙の表示と編集ペインで語彙を編集できます。変更するには、変更するエントリをクリックします。

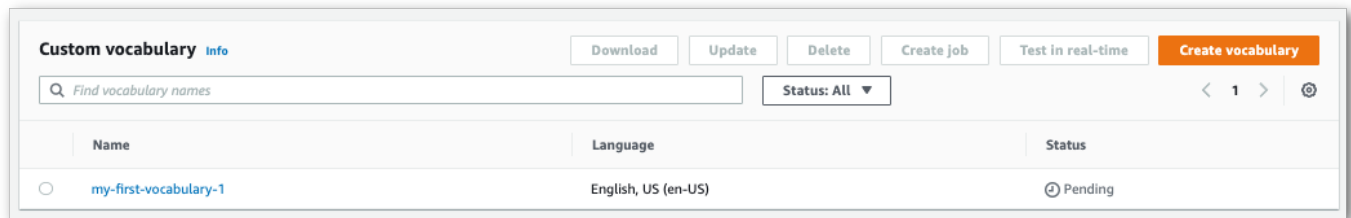
View and edit vocabulary - new (10) Info					Reset vocabulary	Delete	Download latest ▼
Filter Phrase, SoundsLike, IPA or DisplayAs					Show all ▼		< 1 >
☐	Phrase ✎ ▼	SoundsLike - optional ✎ ▼	IPA - optional ✎ ▼	DisplayAs - optional ✎ ▼			
☐	Amazon-E.-C.-two	-	-	Amazon EC2			
☐	Amazon-S.-three	-	-	Amazon S3			
☐	Amazon-elasticashe	-	-	Amazon ElastiCache			
☐	Amazon-sagemaker	-	-	Amazon SageMaker			
☐	A.-W.-S.-iam	-	-	AWS IAM			
☐	A.-W.-S.-I.-o.-T.	-	-	AWS IoT			
☐	A.-W.-S.-W.-A.-F.	-	-	AWS WAF			
☐	c.-plus-plus	-	-	C++			
☐	nice-d.-c.-v.	-	-	NICE DCV			
☐	w.-w.-w.-dot-amazon-dot-com	-	-	www.amazon.com			
					Add row		

エラーがあると詳細なエラーメッセージが表示されるので、語彙を処理する前に問題を修正できます。[語彙の作成] を選択する前にすべてのエラーを修正しないと、語彙のリクエストは失敗するので注意してください。

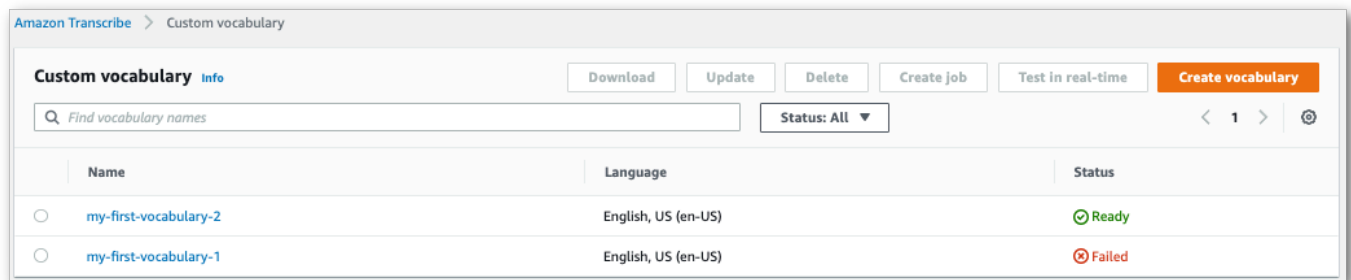
View and edit vocabulary - new (4) Info					Reset vocabulary	Delete	Download latest ▼
Filter Phrase, SoundsLike, IPA or DisplayAs					Show all ▼		< 1 >
☐	Phrase ✎ ▼	SoundsLike - optional ✎ ▼	IPA - optional ✎ ▼	DisplayAs - optional ✎ ▼			
☐	Amazon-E.-C. two ☐ ☒  Phrase contains unsupported characters (" "). Phrase contains a formatting error.	-	-	Amazon EC2			
☐	Amazon-S.-three	-	-	Amazon S3			
☐	c.-plus-plus	-	-	C++			
☐	w.-w.-w.-dot-amazon-dot-com	-	-	www.amazon.com			
					Add row		

チェックマーク (✓) を選択して変更を保存するか、「X」を選択して変更を破棄します。

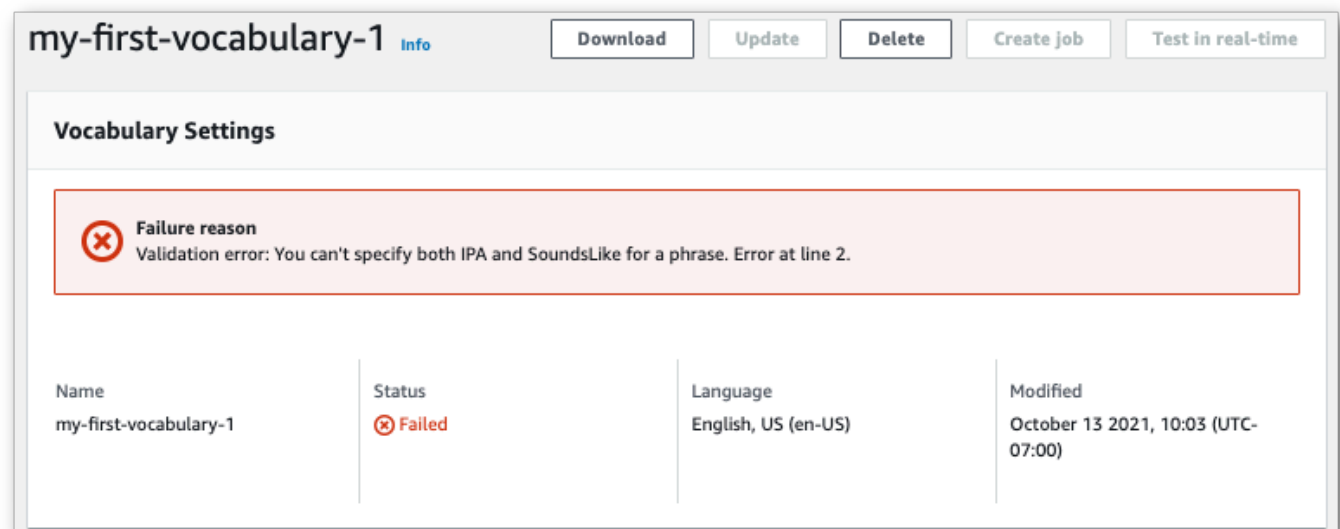
5. オプションで、カスタム語彙にタグを追加します。すべてのフィールドを入力し、語彙に問題がなければ、ページの一番下にある [語彙の作成] を選択します。カスタム語彙のページに戻ると、カスタム語彙のステータスを確認できます。ステータスが「保留中」から「準備完了」に変わったら、カスタム語彙を文字起こしに使用できます。



6. ステータスが「失敗」に変わったら、カスタム語彙の名前を選択して、その語彙の情報ページに移動します。



このページの上部には、カスタム語彙が失敗した理由に関する情報が記載された失敗の理由バナーがあります。テキストファイルのエラーを修正して、もう一度試してください。



AWS CLI

この例では、テーブル形式の語彙ファイルで[語彙の作成](#)コマンドを使用します。詳細については、「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

文字起こしジョブで既存のカスタム語彙を使用するには、[StartTranscriptionJob](#)オペレーションを呼び出すときに VocabularyName [Settings](#) フィールドに を設定するか、 からドロップダウンリストからカスタム語彙 AWS Management Console を選択します。

```
aws transcribe create-vocabulary \  
--vocabulary-name my-first-vocabulary \  
--vocabulary-file-uri s3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabularies/my-vocabulary-file.txt \  
--language-code en-US
```

ここでは、[語彙の作成](#)コマンドと、カスタム語彙を作成するリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe create-vocabulary \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-vocab-table.json
```

ファイル `my-first-vocab-table.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "VocabularyName": "my-first-vocabulary",  
  "VocabularyFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabularies/my-vocabulary-table.txt",  
  "LanguageCode": "en-US"  
}
```

VocabularyState を PENDING から READY に変更すると、カスタム語彙を文字起こしに使用できるようになります。カスタム語彙の現在のステータスを表示するには、以下を実行します。

```
aws transcribe get-vocabulary \  
--vocabulary-name my-first-vocabulary
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して [create_vocabulary メソッドを使用してテーブルからカスタム語彙](#)を作成します。詳細については、「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

文字起こしジョブで既存のカスタム語彙を使用するには、[StartTranscriptionJob](#)オペレーションを呼び出すときに VocabularyName フィールドに を設定するか、 からドロップダウンリストからカスタム語 AWS Management Console彙を選択します。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs[SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
vocab_name = "my-first-vocabulary"
response = transcribe.create_vocabulary(
    LanguageCode = 'en-US',
    VocabularyName = vocab_name,
    VocabularyFileUri = 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabularies/my-vocabulary-
table.txt'
)

while True:
    status = transcribe.get_vocabulary(VocabularyName = vocab_name)
    if status['VocabularyState'] in ['READY', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

Note

カスタム語彙ファイル用に新しい Amazon S3 バケットを作成する場合は、[CreateVocabulary](#) リクエストを行う IAM ロールにこのバケットへのアクセス許可があることを確認してください。ロールに正しいアクセス許可がない場合、リクエストは失敗します。オプションで、DataAccessRoleArn パラメータを含めることで、リクエスト内で IAM ロールを指定できます。の IAM ロールとポリシーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

リストを使用してカスタム語彙を作成する

Important

リスト形式のカスタム語彙は廃止が予定されているため、新しいカスタム語彙を作成する場合は、[テーブル形式](#)を使用することを強くおすすめします。

AWS Management Console、または AWS SDKs を使用して AWS CLI、リストからカスタム語彙を作成できます。

- AWS Management Console: カスタム語彙を含むテキストファイルを作成してアップロードする必要があります。行区切りまたはカンマ区切りのエントリを使用できます。リストは LF 形式のテキスト (*.txt) ファイルとして保存する必要があります。CRLF などの他の形式を使用した場合、カスタム語彙は Amazon Transcribe では受け入れられません。
- AWS CLI および AWS SDK: [Phrases](#) フラグを使用して、API コールにカスタム語彙をカンマで区切ったエントリとして含める必要があります。

エントリに複数の単語が含まれている場合は、各単語をハイフンでつなぐ必要があります。たとえば、「ロサンゼルス」を **Los-Angeles**、「アンドララベリャ」を **Andorra-la-Vella** とします。

以下は 2 つの有効なリスト形式の例です。メソッド固有の例については、「[カスタム語彙リストの作成](#)」を参照してください。

- カンマで区切られたエントリ:

```
Los-Angeles,CLI,Eva-Maria,ABCs,Andorra-la-Vella
```

- 行で区切られたエントリ:

```
Los-Angeles
CLI
Eva-Maria
ABCs
Andorra-la-Vella
```

⚠ Important

使用する言語でサポートされている文字のみを使用できます。詳細については、ご使用の言語の「[文字セット](#)」を参照してください。

カスタム語彙リストは、[CreateMedicalVocabulary](#) オペレーションではサポートされていません。医療用のカスタム語彙を作成する場合は、テーブル形式を使用する必要があります。手順については、「[テーブルを使用してカスタム語彙を作成する](#)」を参照してください。

カスタム語彙リストの作成

で使用するカスタム語彙リストを処理するには Amazon Transcribe、次の例を参照してください。

AWS CLI

この例では、リスト形式のカスタム語彙ファイルで[語彙の作成](#)コマンドを使用します。詳細については、「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

```
aws transcribe create-vocabulary \  
--vocabulary-name my-first-vocabulary \  
--language-code en-US \  
--phrases {CLI,Eva-Maria,ABCs}
```

ここでは、[語彙の作成](#)コマンドと、カスタム語彙を作成するリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe create-vocabulary \  
--cli-input-json file:///filepath/my-first-vocab-list.json
```

ファイル *my-first-vocab-list.json* には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "VocabularyName": "my-first-vocabulary",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Phrases": [  
    "CLI", "Eva-Maria", "ABCs"  
  ]  
}
```

VocabularyState を PENDING から READY に変更すると、カスタム語彙を文字起こしに使用できるようになります。カスタム語彙の現在のステータスを表示するには、以下を実行します。

```
aws transcribe get-vocabulary \  
--vocabulary-name my-first-vocabulary
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して、[create_vocabulary メソッドを使用してリストからカスタム語彙](#)を作成します。詳細については、「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs[SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」章を参照してください。

```
from __future__ import print_function  
import time  
import boto3  
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')  
vocab_name = "my-first-vocabulary"  
response = transcribe.create_vocabulary(  
    LanguageCode = 'en-US',  
    VocabularyName = vocab_name,  
    Phrases = [  
        'CLI', 'Eva-Maria', 'ABCs'  
    ]  
)  
  
while True:  
    status = transcribe.get_vocabulary(VocabularyName = vocab_name)  
    if status['VocabularyState'] in ['READY', 'FAILED']:  
        break  
    print("Not ready yet...")  
    time.sleep(5)  
print(status)
```

Note

カスタム語彙ファイル用に新しい Amazon S3 バケットを作成する場合は、[CreateVocabulary](#) リクエストを行う IAM ロールにこのバケットへのアクセス許可があることを確認してください。ロールに正しいアクセス許可がない場合、リクエストは

失敗します。オプションで、DataAccessRoleArnパラメータを含めることで、リクエスト内で IAM ロールを指定できます。の IAM ロールとポリシーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

カスタム語彙の使用

カスタム語彙を作成したら、それを文字起こしのリクエストに含めることができます。例については、以下のセクションを参照してください。

リクエストに含めるカスタム語彙の言語は、メディアに指定した言語コードと一致する必要があります。言語が一致しない場合、カスタム語彙は文字起こしに適用されず、警告やエラーも発生しません。

バッチ文字起こしでカスタム語彙を使用する

バッチ文字起こしでカスタム語彙を使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

► **Additional settings**

ジョブに名前を付け、入力メディアを指定します。オプションで、他のフィールドも追加し、[次へ]を選択します。

3. ジョブの設定ページの下部にあるカスタマイズパネルで、カスタム語彙をオンに切り替えます。

Configure job - optional [Info](#)

Audio settings

☐ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.

☐ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

☐ **PII redaction** [Info](#)
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].

☐ **Vocabulary filtering** [Info](#)
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

☒ **Custom vocabulary** [Info](#)
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Vocabulary selection

The vocabularies shown here are based on your language settings. You can choose up to one vocabulary per language. You can also [create a new vocabulary](#). [↗](#)

Choose a vocabulary ▼

Cancel

Previous

Create job

4. ドロップダウンメニューから [カスタム語彙] を選択します。

[ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと Settings パラメータ、VocabularyName サブパラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Settings](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--settings VocabularyName=my-first-vocabulary
```

以下は、[start-transcription-job](#) コマンド、およびそのジョブでカスタム語彙を含むリクエストボディを使用した別の例です。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-vocabulary-job.json
```

ファイル *my-first-vocabulary-job.json* には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Settings": {  
    "VocabularyName": "my-first-vocabulary"  
  }  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) を使用して、[start_transcription_job](#) メソッドの Settings 引数を使用してカスタム語彙を含めます。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Settings](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Settings = {
        'VocabularyName': 'my-first-vocabulary'
    }
)

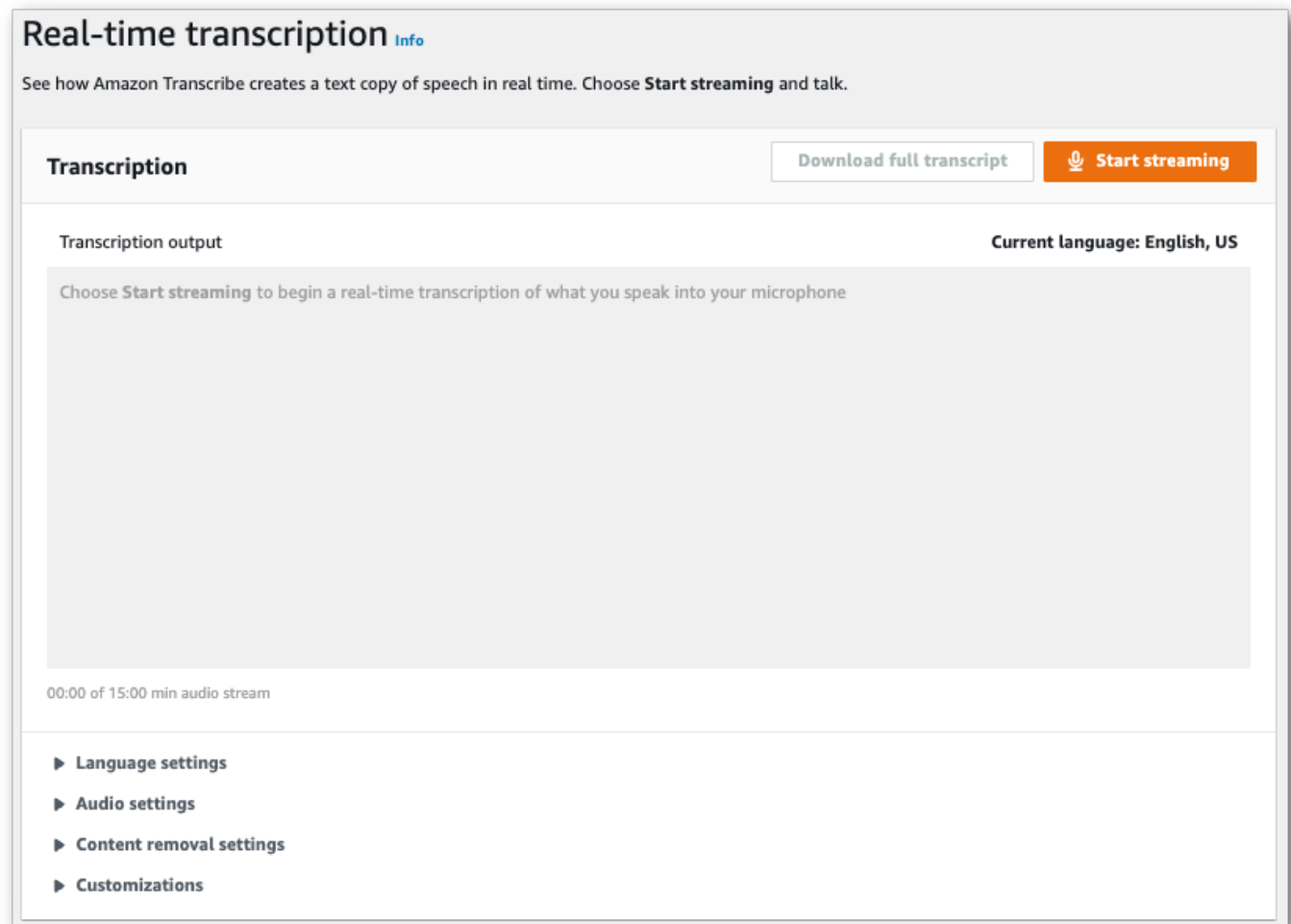
while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

ストリーミング文字起こしでのカスタム語彙の使用

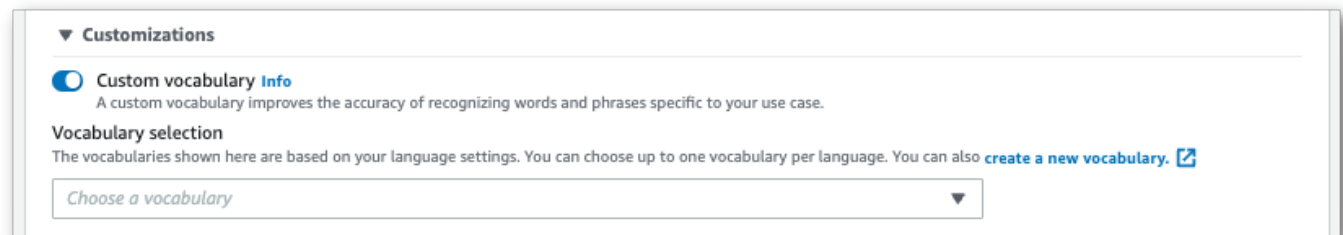
ストリーミング文字起こしでカスタム語彙を使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。カスタマイズまでスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。



3. カスタム語彙をオンにして、ドロップダウンメニューから [カスタム語彙] を選択します。



ストリームに適用するその他の設定を含めます。

4. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する] を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する] を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、カスタム語彙を含む HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリーミングの設定](#)。Amazon Transcribeに固有のパラメータとヘッダーの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-vocabulary-name: my-first-vocabulary
transfer-encoding: chunked
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、カスタム語彙を WebSocket ストリームに適用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[WebSocket ストリーミングの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
```

```
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date  
&language-code=en-US  
&media-encoding=flac  
&sample-rate=16000  
&vocabulary-name=my-first-vocabulary
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、[「共通パラメータ」](#) セクションに記載されています。

カスタム言語モデル

カスタム言語モデルは、ドメイン固有の音声に対する文字起こしの精度を向上させるために設計されています。これには、通常の日常会話で聞く内容以外のコンテンツも含まれます。たとえば、科学会議の議事録の文字起こしをする場合、標準的な文字起こしでは、発表者が使用する科学用語の多くを認識できない可能性があります。このような場合は、専門分野で使用されている特殊な用語を認識するようにカスタム言語モデルをトレーニングできます。

ヒント (発音など) を提供することで単語の認識を高めるカスタム語彙とは異なり、カスタム言語モデルは特定の単語に関連するコンテキストを学習します。これには、単語がいつどのように使われているか、ある単語が他の単語とどのような関係にあるかなどが含まれます。たとえば、気候科学の研究論文を使用してモデルをトレーニングすると、モデルは「氷の流れ」よりも「流水」という単語である可能性が高いことを学習するかもしれません。

カスタム言語モデルでサポートされる言語を確認するには、[「サポートされている言語および言語固有の機能」](#) を参照してください。リクエストにカスタム言語モデルを含めると、言語識別を有効にできないことに注意してください (言語コードを指定する必要があります)。

カスタム言語モデル固有の API オペレーション

[CreateLanguageModel](#), [DeleteLanguageModel](#), [DescribeLanguageModel](#),
[ListLanguageModels](#)

データソース

モデルのトレーニングには、さまざまなタイプのテキストデータでも使用できます。ただし、テキストコンテンツが音声コンテンツに近いほど、モデルの精度は高くなります。そのため、音声と同じコンテンツで同じ用語を使用するテキストデータを選択することが重要です。

モデルのトレーニングに最適なデータは、正確なトランスクリプトです。これはドメイン内のデータと見なされます。ドメイン内のテキストデータには、文字起こししたい音声とまったく同じ用語、使用法、コンテキストがあります。

正確なトランスクリプトがない場合は、ジャーナル記事、技術レポート、ホワイトペーパー、会議議事録、取扱説明書、ニュース記事、ウェブサイトコンテンツ、および音声と同様のコンテキストで使用する用語が含まれるテキストを使用します。これはドメイン関連のデータと見なされます。

堅牢なカスタム言語モデルを作成するには、音声で話されている用語を含む大量のテキストデータが必要になります。モデルをトレーニングするために、最大 2 GB のテキストデータを Amazon Transcribe に提供できます。これはトレーニングデータと呼ばれます。オプションで、ドメイン内のトランスクリプトがない (または少ない) 場合は、モデルをチューニングするために Amazon Transcribe 最大 200 MB のテキストデータを に提供できます。これはチューニングデータと呼ばれます。

トレーニングデータとチューニングデータ

トレーニングデータの目的は、新しい用語を認識し、これらの用語が使用されるコンテキストを学習 Amazon Transcribe するように に教えることです。堅牢なモデルを作成するには、Amazon Transcribe は大量の関連テキストデータが必要になることがあります。2 GB の上限まで、できるだけ多くのトレーニングデータを提供することを強くおすすめします。

チューニングデータの目的は、トレーニングデータから学習したコンテキストとの関連を絞り込み、最適化することです。カスタム言語モデルの作成にはチューニングデータは必要ありません。

トレーニングデータと、オプションでチューニングデータをどのように選択するかを決めるのは、お客様です。それぞれのケースは一意的で、持っているデータのタイプと量によって異なります。ドメイン内のトレーニングデータが不足している場合は、チューニングデータを使用することをおすすめします。

両方のデータタイプを選択する場合は、トレーニングデータとチューニングデータが重複しないようにします。トレーニングデータとチューニングデータは一意でなければなりません。データが重複すると、カスタム言語モデルに偏りや歪みが生じ、精度に影響する可能性があります。

一般的なガイダンスとして、可能な限り正確なドメイン内テキストをトレーニングデータとして使用することをおすすめします。一般的なシナリオを優先順位の高いものからご紹介します

- ドメイン内の正確なトランスクリプトテキストが 10,000 語以上ある場合は、それをトレーニングデータとして使用します。この場合、チューニングデータを含める必要はありません。これは、カスタム言語モデルのトレーニングに最適なシナリオです。

- 10,000 語未満の正確なドメイン内トランスクリプトテキストがあっても期待した結果が得られない場合は、テクニカルレポートなどのドメイン関連のテキストでトレーニングデータを補強することを検討します。この場合は、ドメイン内のトランスクリプトデータのごく一部 (10 ~ 25%) をチューニングデータとして使用するよう確保します。
- ドメイン内のトランスクリプトテキストがない場合は、ドメイン関連のテキストをすべてトレーニングデータとしてアップロードします。この場合、書かれたテキストよりもトランスクリプト形式のテキストの方が適しています。これは、カスタム言語モデルのトレーニングに最も効果的でないシナリオです。

モデルを作成する準備ができたなら、「[カスタム言語モデルの作成](#)」を参照してください。

カスタム言語モデルの作成

カスタム言語モデルを作成する前に、次のことを行う必要があります。

- データの準備 データはプレーンテキスト形式で保存し、特殊文字は使用できません。
- データを Amazon S3 バケットにアップロードします。トレーニングデータとチューニングデータ用に別々のフォルダーを作成することをおすすめします。
- Amazon Transcribe が Amazon S3 バケットにアクセスできることを確認します。データを使用するためのアクセス許可を持つ IAM ロールを指定する必要があります。

データの準備

すべてのデータを 1 つのファイルにコンパイルすることも、複数のファイルとして保存することもできます。チューニングデータを含める場合は、トレーニングデータとは別のファイルに保存する必要があります。

トレーニングやチューニングデータに使用するテキストファイルはいくつ使ってもかまいません。100,000 語のファイルを 1 つアップロードしても、10,000 語のファイルを 10 個アップロードするのと同じ結果になります。都合の良い方法でテキストデータを準備してください。

すべてのデータファイルが次の基準を満たしていることを確認します。

- すべての作成したいモデルと同じ言語である必要があります。例えば、米国英語 (en-US) の音声を書き起こすカスタム言語モデルを作成したい場合、すべてのテキストデータが米国英語である必要があります。
- UTF-8 エンコーディングのプレーンテキスト形式です。

- HTML タグなどの特殊文字や書式は含まれません。
- これらのデータを合計したサイズは、トレーニングデータで最大 2 GB、チューニングデータで最大 200 MB です。

これらの基準のいずれかが満たされない場合、モデルは動作しません。

データのアップロード

データをアップロードする前に、トレーニングデータ用の新しいフォルダを作成します。チューニングデータを使用する場合は、別のフォルダを作成します。

バケットの URI は以下ようになります。

- `s3://amzn-s3-demo-bucket/my-model-training-data/`
- `s3://amzn-s3-demo-bucket/my-model-tuning-data/`

トレーニングデータとチューニングデータを適切なバケットにアップロードします。

後日、これらのバケットにさらにデータを追加できます。ただし、追加した場合は、新しいデータを使用してモデルを再作成する必要があります。既存のモデルを新しいデータで更新することはできません。

データへのアクセスを許可する

カスタム言語モデルを作成するには、Amazon S3 バケットへのアクセス許可を持つ IAM ロールを指定する必要があります。トレーニングデータを配置した Amazon S3 バケットにアクセスできるロールがまだない場合は、作成する必要があります。ロールを作成した後、ロールにアクセス許可を付与するポリシーをアタッチできます。ポリシーをユーザーにアタッチしないでください。

エンドポイントポリシーの例については、「[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)」を参照してください。

新しい IAM ID を作成する方法については、[IAM 「ID \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)」](#) を参照してください。

キーポリシーの詳細については、以下を参照してください。

- [IAMでのポリシーとアクセス許可](#)

- [IAM ポリシーの作成](#)
- [AWS リソースのアクセス管理](#)

カスタム言語モデルの作成

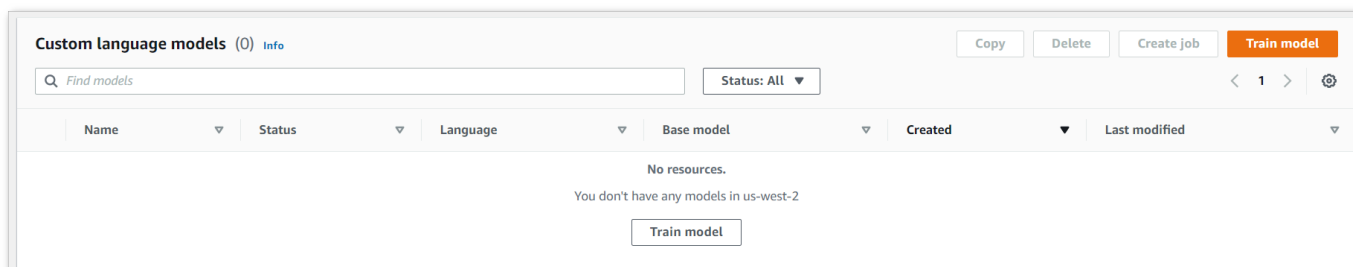
カスタム言語モデルを作成するときは、ベースモデルを選択する必要があります。2 つのベースモデルのオプションがあります。

- NarrowBand: サンプルレートが 16,000 Hz 未満の音声はこのオプションを使用します。このモデルタイプは、通常 8,000 Hz で録音された電話での会話に使用されます。
- WideBand: サンプルレートが 16,000 Hz 以上の音声はこのオプションを使用します。

カスタム言語モデルは AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDKs;以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで [カスタム言語モデル] を選択します。カスタム言語モデル のページが開き、既存のカスタム言語モデルを表示したり、新しいカスタム言語モデルをトレーニングしたりできます。
3. 新しいモデルをトレーニングするには、モデルのトレーニングを選択します。



これにより、モデルのトレーニングページに移動します。名前を追加し、言語を指定し、モデルに使用するベースモデルを選択します。次に、そのパスをトレーニングに追加し、オプションでチューニングデータも追加します。データへのアクセス許可を持つ IAM ロールを含める必要があります。

Train model [Info](#)

Model settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters: A-Z, a-z, 0-9, and _ - (hyphen).

Language

Choose the language of your model.

English, US (en-US) ▼

Base model [Info](#)

Choose the base model that you want to use to create your custom language model. Choose the model based on the sample rate of your source audio.

☒ **Narrow band**

For audio that has a sample rate less than 16 KHz. Typically, this is 8 KHz audio from telephone conversations.

☐ **Wide band**

For audio that has a sample rate of 16 KHz or greater. Typically, this is 16 KHz audio from media sources.

Training data [Info](#)

Training data location on S3

Type or paste the S3 prefix for the text files that you want to use as training data, or browse to find the files that have matching S3 prefixes.

[Browse S3](#)

The file format must be plain text in the language that you have selected for the model. The maximum file size is 2 GB.

Tuning data - optional [Info](#)

Tuning data location on S3

Type or paste the S3 prefix for the text files that you want to use as tuning data, or browse to find the files that have matching S3 prefixes.

[Browse S3](#)

The file format must be plain text in the language that you have selected for the model. The maximum file size is 200 MB.

Access permissions

IAM role [Info](#)

☒ **Use an existing IAM role**

☐ **Create an IAM role**

By choosing **Train model** you are authorizing creation of this role.

Role name

A role that grants access to the S3 input locations.

Choose a role ▼

- すべてのフィールドを完了したら、ページ下部にある [モデルのトレーニング] を選択します。

AWS CLI

この例では、[create-language-model](#) コマンドを使用します。詳細については、[CreateLanguageModel](#) および [LanguageModel](#) を参照してください。

```
aws transcribe create-language-model \  
--base-model-name NarrowBand \  
--model-name my-first-language-model \  
--input-data-config S3Uri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-training-  
data/,TuningDataS3Uri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-tuning-  
data/,DataAccessRoleArn=arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole \  
--language-code en-US
```

ここでは、[create-language-model](#) コマンドと、カスタム言語モデルを作成するリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe create-language-model \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-language-model.json
```

ファイル `my-first-language-model.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "BaseModelName": "NarrowBand",  
  "ModelName": "my-first-language-model",  
  "InputDataConfig": {  
    "S3Uri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-training-data/",  
    "TuningDataS3Uri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-tuning-data/",  
    "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"  
  },  
  "LanguageCode": "en-US"  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して `create_language_model` メソッドを使用して CLM を作成します。詳細については、[CreateLanguageModel](#) および [LanguageModel](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#) 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
model_name = 'my-first-language-model',
transcribe.create_language_model(
    LanguageCode = 'en-US',
    BaseModelName = 'NarrowBand',
    ModelName = model_name,
    InputDataConfig = {
        'S3Uri': 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-training-data/',
        'TuningDataS3Uri': 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-clm-tuning-data/',
        'DataAccessRoleArn': 'arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole'
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_language_model(ModelName = model_name)
    if status['LanguageModel']['ModelStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

カスタム言語モデルの更新

Amazon Transcribe は、カスタム言語モデルで利用できるベースモデルを継続的に更新します。これらの更新を活用するには、6～12 か月ごとに新しいカスタム言語モデルのトレーニングを行うことをおすすめします。

カスタム言語モデルが最新のベースモデルを使用しているかどうかを確認するには、AWS CLI または AWS SDK を使用して [DescribeLanguageModel](#) リクエストを実行し、レスポンスで `UpgradeAvailability` フィールドを見つけてみます。

`UpgradeAvailability` が `true` の場合、モデルはベースモデルの最新バージョンを実行していません。カスタム言語モデルで最新のベースモデルを使用するには、カスタム言語モデルを新規に作成する必要があります。カスタム言語モデルはアップグレードできません。

カスタム言語モデルの使用

カスタム言語モデルを作成したら、それを文字起こしリクエストに含めることができます。例については、以下のセクションを参照してください。

リクエストに含めるモデルの言語は、メディアに指定した言語コードと一致する必要があります。言語が一致しない場合、カスタム言語モデルは文字起こしに適用されず、警告やエラーも発生しません。

バッチ文字起こしでカスタム言語モデルを使用する

バッチ文字起こしでカスタム言語モデルを使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。
3. [ジョブ設定] パネルの [モデルタイプ] で、[カスタム言語モデル] ボックスを選択します。

The screenshot shows the 'Job settings' panel in the AWS Management Console. It includes a 'Name' field with the value 'MyTranscriptionJob' and a note about character limits. Below is the 'Model type' section with two radio buttons: 'General model' and 'Custom language model'. The 'Custom language model' option is selected. Underneath is a 'Language' dropdown menu set to 'English, US (en-US)'. At the bottom of this section is a 'Custom model selection' dropdown menu with the placeholder text 'Choose model'. A link to 'create a new one' is also visible. At the very bottom of the panel is a link to 'Additional settings'.

Job settings

Name

MyTranscriptionJob

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☐ General model
To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☒ Custom language model
To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language

Choose the language of the input audio.

English, US (en-US)

Custom model selection

Choose an existing model or [create a new one](#).

Choose model

► Additional settings

また、ドロップダウンメニューから入力言語を選択する必要があります。

Job settings

Name

MyTranscriptionJob

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☐ **General model**
To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☒ **Custom language model**
To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language

Choose the language of the input audio.

English, US (en-US) ▲

English, US (en-US)

English, AU (en-AU)

English, UK (en-GB)

Hindi, IN (hi-IN)

Spanish, US (es-US)

- カスタムモデルの選択で、ドロップダウンメニューから [既存のカスタム言語モデル] を選択するか、[新しいカスタム言語モデルを作成] を選択します。

入力データパネルに入力ファイル Amazon S3 の場所を追加します。

- [次へ] を選択すると、追加の設定オプションが表示されます。

[ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `ModelSettings` パラメータ、`VocabularyName` サブパラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ModelSettings](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \
```

```
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--model-settings LanguageModelName=my-first-language-model
```

以下は、[start-transcription-job](#) コマンド、およびそのジョブでカスタム言語モデルを含むリクエストボディを使用した別の例です。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-model-job.json
```

ファイル `my-first-model-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "ModelSettings": {  
    "LanguageModelName": "my-first-language-model"  
  }  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では、を使用して AWS SDK for Python (Boto3)、[start_transcription_job](#) メソッドの `ModelSettings` 引数を使用してカスタム言語モデルを含めます。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ModelSettings](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) [AWS SDKs](#) 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function  
import time
```

```
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    ModelSettings = {
        'LanguageModelName': 'my-first-language-model'
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

ストリーミング文字起こしでカスタム言語モデルを使用する

ストリーミング文字起こしでカスタム言語モデルを使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。カスタマイズまでスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。

Real-time transcription [Info](#)

See how Amazon Transcribe creates a text copy of speech in real time. Choose **Start streaming** and talk.

Transcription

[Download full transcript](#)[Start streaming](#)

Transcription output

Current language: English, US

Choose **Start streaming** to begin a real-time transcription of what you speak into your microphone

00:00 of 15:00 min audio stream

- ▶ Language settings
- ▶ Audio settings
- ▶ Content removal settings
- ▶ Customizations

3. [カスタム言語モデル] をオンにして、ドロップダウンメニューからモデルを選択します。

▼ Customizations

☐ Custom vocabulary [Info](#)

A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

☐ Partial results stabilization [Info](#)

Configure Amazon Transcribe to present results that don't change as it processes the transcription output from your stream.

☒ Custom language model [Info](#)

Select the model you want to use with this streaming session.

Custom model selection [Info](#)

The models shown here are based on your language settings. You can choose up to one model per language. You can also [create a new model](#). [↗](#)

Choose model ▼

ストリームに適用するその他の設定を含めます。

4. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する] を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する] を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、カスタム言語モデルで HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリームの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartStreamTranscription](#)。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-language-model-name: my-first-language-model
transfer-encoding: chunked
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、WebSocket ストリーミングでカスタム言語モデルを適用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[WebSocket ストリームの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
```



```
&language-code=en-US  
&media-encoding=flac  
&sample-rate=16000  
&language-model-name=my-first-language-model
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

カスタム語彙フィルターを使用して単語を削除、マスキング、またはフラグ付けする

カスタム語彙フィルターは、文字起こし出力で修正したい個々の単語のカスタムリストを含むテキストファイルです。

一般的な使用例としては、不快な言葉や冒涇的な用語の削除があります。ただし、カスタム語彙フィルターは完全にカスタム仕様なので、好きな単語を選択できます。たとえば、新製品の発売が間近に迫っている場合、会議の議事録に製品名をマスクすることができます。この場合、製品名は発売まで秘密にしておきながら、ステークホルダーに最新の情報を提供します。

語彙フィルタリングには mask、remove、および tag の 3 つの表示方法があります。次の例を参照して、それぞれの仕組みを確認します。

- マスク: 指定された単語を 3 つのアスタリスク (***) に置き換えます。

```
"transcript": "You can specify a list of *** or *** words, and *** *** removes them from transcripts automatically."
```

- 削除: 指定した単語を削除し、その場所には何も残しません。

```
"transcript": "You can specify a list of or words, and removes them from transcripts automatically."
```

- タグ: 指定した各単語にタグ ("vocabularyFilterMatch": true) を追加しますが、単語そのものは変更しません。タグ付けにより、トランスクリプトの置換や編集をすばやく行うことができます。

```
"transcript": "You can specify a list of profane or offensive words, and amazon transcribe removes them from transcripts automatically."
```

```
...
```

```
  "alternatives": [  
    {  
      "confidence": "1.0",  
      "content": "profane"  
    },  
  ],  
  "type": "pronunciation",  
  "vocabularyFilterMatch": true
```

文字起こしリクエストを送信するときに、カスタム語彙フィルターと適用するフィルタリング方法を指定できます。Amazon Transcribe は、指定したフィルタリング方法に従って、文字起こしに表示される単語の完全一致を変更します。

カスタム語彙フィルターは、バッチおよびストリーミング文字起こしリクエストに適用できます。カスタム語彙フィルターを作成する方法については、「[語彙フィルターを作成する](#)」を参照してください。カスタム語彙フィルターを適用する方法については、「[カスタム語彙フィルターの使用](#)」を参照してください。

Note

Amazon Transcribe は、人種的に機密性の高い用語を自動的にマスクしますが、[AWS テクニカルサポート](#)に連絡してこのデフォルトのフィルターをオプトアウトできます。

語彙フィルタリングのチュートリアルについては、「[語彙フィルターの使用](#)」を参照してください。

ボキャブラリーフィルタリングに固有の API 操作

[CreateVocabularyFilter](#), [DeleteVocabularyFilter](#), [GetVocabularyFilter](#), [ListVocabularyFilters](#), [UpdateVocabularyFilter](#)

語彙フィルターを作成する

カスタム語彙フィルターの作成には次の 2 つのオプションがあります。

1. 行で区切られた単語のリストを、UTF-8 エンコーディングのプレーンテキストファイルとして保存する。
 - このアプローチは AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDKs で使用できます。
 - を使用する場合は AWS Management Console、カスタム語彙ファイルのローカルパスまたは Amazon S3 URI を指定できます。
 - AWS CLI または AWS SDKs を使用する場合は、カスタム語彙ファイルを Amazon S3 バケットにアップロードし、リクエストに URI Amazon S3 を含める必要があります。
2. カンマ区切りの単語のリストを API リクエストに直接含めます。

- このアプローチは、[Words](#)パラメータを使用して AWS CLI または AWS SDKsで使用できます。

各方法の例については、「[カスタム語彙フィルターの作成](#)」を参照してください。

カスタム語彙フィルターを作成する際の注意事項

- 単語では、大文字と小文字が区別されません。例えば、「curse」と「CURSE」は同じとみなされます。
- 完全に一致する単語のみがフィルタリングされます。例えば、フィルターに「swear」が含まれていても、メディアに「swears」または「swearing」という単語が含まれている場合、これらはフィルタリングされません。フィルターの対象となるのは「swear」のインスタンスのみです。そのため、フィルタリングしたい単語のバリエーションをすべて含める必要があります。
- フィルターは他の単語に含まれる単語には適用されません。例えば、カスタム語彙フィルターに「marine」が含まれていても、「submarine」が含まれていない場合、トランスクリプトでは「submarine」は変更されません。
- 各エントリには 1 つの単語のみ入力できます (スペースなし)。
- カスタム語彙フィルターをテキストファイルとして保存する場合は、UTF-8 エンコーディングのプレーンテキスト形式である必要があります。
- ごとに最大 100 個のカスタム語彙フィルターを持つことができ AWS アカウント、それぞれ最大 50 KB のサイズにすることができます。
- 使用する言語でサポートされている文字のみを使用できます。詳細については、ご使用の言語の[文字セット](#)を参照してください。

カスタム語彙フィルターの作成

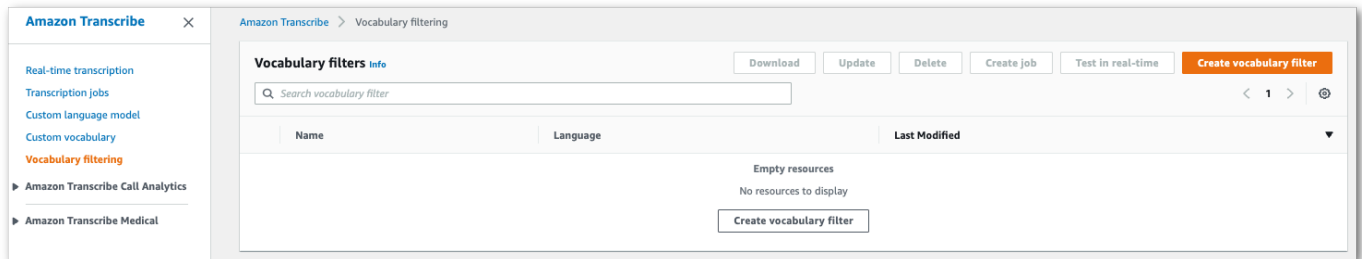
で使用するカスタム語彙フィルターを処理するには Amazon Transcribe、次の例を参照してください。

AWS Management Console

続行する前に、カスタム語彙フィルターをテキスト (*.txt) ファイルとして保存してください。オプションで、ファイルを Amazon S3 バケットにアップロードできます。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。

2. ナビゲーションペインで、[語彙フィルタリング] を選択します。語彙フィルターページが開き、既存のカスタム語彙フィルターを表示したり、新しい語彙フィルターを作成したりできます。
3. [語彙フィルターの作成] を選択します。



これにより「語彙フィルターの作成」ページに移動します。新しいカスタム語彙フィルターの名前を入力します。

[語彙入力ソース] で [ファイルアップロード] または [S3 ロケーション] オプションを選択します。次に、カスタム語彙ファイルの場所を指定します。

Create vocabulary filter [Info](#)

Vocabulary filtering settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9 and - (hyphen).

Language

English, US (en-US) ▼

Vocabulary input source [Info](#)

☐ File upload

☒ S3 location

Vocabulary filter file location on S3

Provide a path to the S3 location where your vocabulary filter file is stored. To find a path, go to [Amazon S3](#) [🔗](#)

File format: txt, maximum size 50 KB.

Tags - optional

A tag is a label you can add to a resource as metadata to help you organize, search, or filter your data. Each tag consists of a key and an optional value, in the form 'key:value'.

No tags associated with the resource.

You can add up to 50 more tags.

[Cancel](#) [Create vocabulary filter](#)

- オプションで、カスタム語彙フィルターにタグを追加します。すべてのフィールドを入力したら、ページ一番下にある [語彙フィルターの作成] を選択します。ファイルの処理中にエラーがなければ、語彙フィルターページに戻ります。

カスタム語彙フィルターを使用する準備ができました。

AWS CLI

この例では、[create-vocabulary-filter](#) コマンドを使用して、単語リストを使用可能なカスタム語彙フィルターに加工します。詳細については、「[CreateVocabularyFilter](#)」を参照してください。

オプション 1: words パラメータを使用して単語リストをリクエストに含めることができます。

```
aws transcribe create-vocabulary-filter \
```

```
--vocabulary-filter-name my-first-vocabulary-filter \  
--language-code en-US \  
--words profane,offensive,Amazon,Transcribe
```

オプション 2: 単語リストをテキストファイルとして保存して Amazon S3 バケットにアップロードし、`vocabulary-filter-file-uri` パラメータを使用してファイルの URI をリクエストに含めることができます。

```
aws transcribe create-vocabulary-filter \  
--vocabulary-filter-name my-first-vocabulary-filter \  
--language-code en-US \  
--vocabulary-filter-file-uri s3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabulary-filters/my-vocabulary-filter.txt
```

ここでは、[create-vocabulary-filter](#) コマンドと、カスタム語彙フィルターを作成するリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe create-vocabulary-filter \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-vocab-filter.json
```

ファイル `my-first-vocab-filter.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

オプション 1: `Words` パラメータを使用して単語リストをリクエストに含めることができます。

```
{  
  "VocabularyFilterName": "my-first-vocabulary-filter",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Words": [  
    "profane", "offensive", "Amazon", "Transcribe"  
  ]  
}
```

オプション 2: 単語リストをテキストファイルとして保存して Amazon S3 バケットにアップロードし、`VocabularyFilterFileUri` パラメータを使用してファイルの URI をリクエストに含めることができます。

```
{  
  "VocabularyFilterName": "my-first-vocabulary-filter",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "VocabularyFilterFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabulary-filters/my-vocabulary-filter.txt"  
}
```

```
}
```

Note

VocabularyFilterFileUri をリクエストに含めると、Words は使用できません。どちらか一方を選択する必要があります。

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、を使用して [create_vocabulary_filter メソッド](#)を使用して [カスタム語彙フィルター](#)を作成します。詳細については、「[CreateVocabularyFilter](#)」を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs[SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」章を参照してください。

オプション 1: Words パラメータを使用して単語リストをリクエストに含めることができます。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
vocab_name = "my-first-vocabulary-filter"
response = transcribe.create_vocabulary_filter(
    LanguageCode = 'en-US',
    VocabularyFilterName = vocab_name,
    Words = [
        'profane', 'offensive', 'Amazon', 'Transcribe'
    ]
)
```

オプション 2: 単語リストをテキストファイルとして保存して Amazon S3 バケットにアップロードし、VocabularyFilterFileUri パラメータを使用してファイルの URI をリクエストに含めることができます。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
vocab_name = "my-first-vocabulary-filter"
```



```
response = transcribe.create_vocabulary_filter(  
    LanguageCode = 'en-US',  
    VocabularyFilterName = vocab_name,  
    VocabularyFilterFileUri = 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabulary-filters/my-  
vocabulary-filter.txt'  
)
```

Note

VocabularyFilterFileUri をリクエストに含めると、Words は使用できません。どちらか一方を選択する必要があります。

Note

カスタム語彙フィルターファイル用に新しい Amazon S3 バケットを作成する場合は、[CreateVocabularyFilter](#) リクエストを行う IAM ロールにこのバケットへのアクセス許可があることを確認してください。ロールに正しいアクセス許可がない場合、リクエストは失敗します。オプションで、DataAccessRoleArn パラメータを含めることで、リクエスト内で IAM ロールを指定できます。の IAM ロールとポリシーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

カスタム語彙フィルターの使用

カスタム語彙フィルターを作成したら、それを文字起こしリクエストに含めることができます。例については、以下のセクションを参照してください。

リクエストに含めるカスタム語彙フィルターの言語は、メディアに指定した言語コードと一致する必要があります。言語識別を使用して複数の言語オプションを指定する場合は、指定した言語ごとに 1 つのカスタム語彙フィルターを含めることができます。カスタム語彙フィルターの言語が音声で特定された言語と一致しない場合、フィルターは文字起こしに適用されず、警告やエラーも発生しません。

バッチ文字起こしでカスタム語彙フィルターを使用する

バッチ文字起こしでカスタム語彙フィルターを使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**

To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**

To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)

If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)

If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

[▶ Additional settings](#)

ジョブに名前を付け、入力メディアを指定します。オプションで、他のフィールドも追加し、[次へ] を選択します。

3. 「ジョブの設定」ページの「コンテンツ削除」パネルで、「語彙フィルター」をオンに切り替えます。

Configure job - optional [Info](#)

Audio settings

- ☐ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.
- ☐ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

- ☐ **PII redaction** [Info](#)
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].
- ☒ **Vocabulary filtering** [Info](#)
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Filter selection

The vocabulary filters shown here are based on your language settings. You can choose up to one vocabulary filter per language. You can also [create a new vocabulary filter](#). [↗](#)

Choose a vocabulary filter ▼

Customization

- ☐ **Custom vocabulary** [Info](#)
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Cancel

Previous

Create job

- ドロップダウンメニューからカスタム語彙フィルターを選択し、フィルター方法を指定します。


Vocabulary filtering [Info](#)

Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Filter selection

The vocabulary filters shown here are based on your language settings. You can choose up to one vocabulary filter per language. You can also [create a new vocabulary filter](#).

my-vocab-filter

Vocabulary filtering method

Use a vocabulary filter to filter vocabularies from your transcript. For example, in the sentence "The quick brown fox jumps over the lazy dog," you remove the word "lazy" using the following options.

☒
Mask vocabulary

Example: The quick brown fox jumps over the *** dog.

☐
Remove vocabulary

Example: The quick brown fox jumps over the dog.

☐
Tag vocabulary

Example: The quick brown fox jumps over the *lazy* dog.

5. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと Settings パラメータ、VocabularyFilterName および VocabularyFilterMethod サブパラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Settings](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \
--region us-west-2 \
--transcription-job-name my-first-transcription-job \
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \
--output-key my-output-files/ \
--language-code en-US \
--settings VocabularyFilterName=my-first-vocabulary-filter,VocabularyFilterMethod=mask
```

以下は、[start-transcription-job](#) コマンド、およびそのジョブでカスタム語彙フィルターを含むリクエストボディを使用した別の例です。

```
aws transcribe start-transcription-job \
--region us-west-2 \
--cli-input-json file://my-first-vocabulary-filter-job.json
```

ファイル `mmy-first-vocabulary-filter-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Settings": {
    "VocabularyFilterName": "my-first-vocabulary-filter",
    "VocabularyFilterMethod": "mask"
  }
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) を使用して、[start_transcription_job](#) メソッドの `Settings` 引数を使用するカスタム語彙フィルターを含めます。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Settings](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) [AWS SDKs](#) 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Settings = {
        'VocabularyFilterName': 'my-first-vocabulary-filter',
        'VocabularyFilterMethod': 'mask'
    }
)
```

```
}  
)  
  
while True:  
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)  
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:  
        break  
    print("Not ready yet...")  
    time.sleep(5)  
print(status)
```

ストリーミング文字起こしでのカスタム語彙フィルターの使用

ストリーミング文字起こしでカスタム語彙フィルターを使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。コンテンツ削除の設定 にスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。

Real-time transcription [Info](#)

See how Amazon Transcribe creates a text copy of speech in real time. Choose **Start streaming** and talk.

Transcription

[Download full transcript](#)[Start streaming](#)

Transcription output

Current language: English, US

Choose **Start streaming** to begin a real-time transcription of what you speak into your microphone

00:00 of 15:00 min audio stream

- ▶ **Language settings**
- ▶ **Audio settings**
- ▶ **Content removal settings**
- ▶ **Customizations**

3. 語彙フィルタリングをオンに切り替えます。ドロップダウンメニューからカスタム語彙フィルターを選択し、フィルター方法を指定します。

▼ Content removal settings

☒ Vocabulary filtering [Info](#)

Vocabulary filtering removes, masks, or tags words that you specify in your vocabulary filter. Choose a vocabulary filter to see an example.

Filter selection

The vocabulary filters shown here are based on your language settings. You can choose up to one vocabulary filter per language. You can also [create a new vocabulary filter](#).



my-vocab-filter ▼

Vocabulary filtering method [Info](#)

Use a vocabulary filter to filter vocabularies from your transcript. For example, in the sentence "The quick brown fox jumps over the lazy dog," you remove the word "lazy" using the following options.

- ☒ **Mask vocabulary**
Example: The quick brown fox jumps over the *** dog.
- ☐ **Remove vocabulary**
Example: The quick brown fox jumps over the dog.
- ☐ **Tag vocabulary**
Example: The quick brown fox jumps over the lazy dog.

ストリームに適用するその他の設定を含めます。

4. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する] を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する] を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、カスタム語彙フィルターとフィルター方法を含む HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリーミングの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartStreamTranscription](#)。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-vocabulary-filter-name: my-first-vocabulary-filter
x-amzn-transcribe-vocabulary-filter-method: mask
transfer-encoding: chunked
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、カスタム語彙フィルターを WebSocket ストリームに適用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。Amazon Transcribeでの WebSocket ストリーミングの使用の詳細については、「[WebSocket ストリーミングの設定](#)」を参照してください。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
```



```
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&language-code=en-US
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&vocabulary-filter-name=my-first-vocabulary-filter
&vocabulary-filter-method=mask
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、[「共通パラメータ」](#) セクションに記載されています。

有害な音声を検出

有害音声検出は、オンラインゲームやソーシャルチャットプラットフォームなど、ピアツーピアの対話を伴うソーシャルメディアプラットフォームの管理に役立つように設計されています。有害な音声の使用は、個人、仲間グループ、コミュニティに深刻な悪影響を及ぼす可能性があります。有害な音声にフラグを立てることで、組織は会話を礼儀正しく保ち、ユーザーが自由に作成、共有、参加できる安全で包括的なオンライン環境を維持できます。

Amazon Transcribe 有害性検出は、音声とテキストの両方のキューを活用して、性的行為、ヘイトスピーチ、脅威、虐待、冒涇、侮辱、グラフィックを含む7つのカテゴリにわたって音声ベースの有害コンテンツを識別して分類します。Amazon Transcribe 有害性検出では、テキストだけでなく、トーンやピッチなどの音声キューも使用して、発話に含まれる有害な意図に的を絞ります。これは、意図を考慮せずに特定の用語のみに焦点を当てるように設計された標準のコンテンツモデレーションシステムから改善された点です。

Amazon Transcribe は有害な音声にフラグを付けて分類するため、手動で処理する必要があるデータの量を最小限に抑えることができます。これにより、コンテンツモデレーターはプラットフォーム上の会話を迅速かつ効率的に管理できます。

有害な音声の分類には以下が含まれます。

- 不敬: 無礼、下品、攻撃的な単語やフレーズ、または頭字語を含む言葉。
- ヘイトスピーチ: 人種、民族、性同一性、宗教、性的指向、能力、出身国、その他のアイデンティティグループなど、アイデンティティに基づいて個人またはグループを批判、侮辱、否定する発言。
- セクシャル: 体の一部、身体的特徴、性別への直接的または間接的な言及により、性的関心、活動、性的嗜好を示す発言。
- 侮辱: 屈辱的、嘲笑的、侮辱的、または軽蔑的な言葉を含む発言。この種の発言は、「いじめ」とも呼ばれます。
- 暴力または脅し: 個人または集団に対して苦痛や痛み、敵意を与えることを意図する脅迫的な発言。
- グラフィックスピーチ: 視覚的に説明的で詳細、不快かつ生々しい画像を使った発言。この種の言葉は、受け手の不快感を増幅させるために、意図的に冗長になることが多いのです。
- ハラスメントや虐待: 相手を侮辱したり対象化したりする発言など、受け手の心理的健康に影響を与えることを意図した発言。この種の言葉は、「ハラスメント」とも呼ばれます。

有毒性検出では、音声セグメント (自然な一時停止の間の音声) を分析し、これらのセグメントに信頼度スコアを割り当てます。信頼度スコアの値は 0~1 です。信頼スコアが大きいほど、コンテンツが関連したカテゴリ内の有害な音声である可能性が高くなります。これらの信頼度スコアを使用して、ユースケースに適した有毒性検出の閾値を設定できます。

 Note

有毒性検出は、米国英語 (en-US) のバッチ文字起こしでのみ利用できます。

JSON 形式の[出力例](#)を表示します。

有害な音声検出機能の使用

バッチ文字起こしでの有害な音声の検出機能の使用

有害な音声の検出とバッチ文字起こしを組み合わせる方法については、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**
To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**
To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)
If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)
If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

► **Additional settings**

- 「ジョブの詳細を指定」ページでは、必要に応じて PII リダクションを有効にすることもできます。記載されている他のオプションは有害性検出には対応していません。[次へ] を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。音声設定パネルで、[有害性検出] を選択します。

Audio settings

- ☐ **Audio identification** [Info](#)
Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or partition speakers in the input audio.
- ☐ **Alternative results** [Info](#)
Enable to view more transcription results
- ☒ **Toxicity detection** [Info](#)
Flag toxic speech in your transcription output

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

- ☐ **PII redaction** [Info](#)
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].
- ☐ **Vocabulary filtering** [Info](#)
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

- ☐ **Custom vocabulary** [Info](#)
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

[Cancel](#)[Previous](#)[Create job](#)

4. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。
5. 文字起こしジョブが完了すると、文字起こしジョブの詳細ページにあるダウンロードドロップダウンメニューから、トランスクリプトをダウンロードできます。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `ToxicityDetection` パラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ToxicityDetection](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--toxicity-detection ToxicityCategories=ALL
```

別の例として、[start-transcription-job](#) コマンドと、有毒性検出を含むリクエストボディを使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-toxicity-job.json
```

ファイル `my-first-toxicity-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "ToxicityDetection": [  
    {  
      "ToxicityCategories": [ "ALL" ]  
    }  
  ]  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3)、を使用して [start_transcription_job](#) メソッド [ToxicityDetection](#) の を有効にします。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ToxicityDetection](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) [AWS SDKs](#) 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    ToxicityDetection = [
        {
            'ToxicityCategories': ['ALL']
        }
    ]
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

出力例

有害な音声にはタグが付けられ、文字起こし出力で分類されます。有害な音声の各インスタンスは分類され、信頼スコア (0~1 の値) が割り当てられます。信頼値が大きいほど、コンテンツが指定されたカテゴリ内の有害な音声である可能性が高くなります。

出力例 (JSON)

以下は、分類された有害な音声とそれに関連する信頼スコアを示す JSON 形式の出力例です。

```
{
  "jobName": "my-toxicity-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [...],
    "items": [...],
    "toxicity_detection": [
      {
        "text": "What the * are you doing man? That's why I didn't want to play
with your * . man it was a no, no I'm not calming down * man. I well I spent I spent
too much * money on this game.",
        "toxicity": 0.7638,
        "categories": {
          "profanity": 0.9913,
          "hate_speech": 0.0382,
          "sexual": 0.0016,
          "insult": 0.6572,
          "violence_or_threat": 0.0024,
          "graphic": 0.0013,
          "harassment_or_abuse": 0.0249
        },
        "start_time": 8.92,
        "end_time": 21.45
      },
      Items removed for brevity
      {
        "text": "What? Who? What the * did you just say to me? What's your
address? What is your * address? I will pull up right now on your * * man. Take your *
back to , tired of this **.",
        "toxicity": 0.9816,
        "categories": {
          "profanity": 0.9865,
```



```
        "hate_speech": 0.9123,  
        "sexual": 0.0037,  
        "insult": 0.5447,  
        "violence_or_threat": 0.5078,  
        "graphic": 0.0037,  
        "harassment_or_abuse": 0.0613  
    },  
    "start_time": 43.459,  
    "end_time": 54.639  
  },  
  ]  
},  
...  
"status": "COMPLETED"  
}
```

個人を特定できる情報の編集または特定

リダクションは、トランスクリプトから個人を特定できる情報 (PII) という形で、機密性の高いコンテンツをマスキングまたは消去するために使用されます。編集 Amazon Transcribe できる PII のタイプは、バッチ文字起こしとストリーミング文字起こしによって異なります。各文字起こしの PII リストを確認するには、「[バッチジョブで PII を編集する](#)」および「[リアルタイムストリームの PII の編集または識別](#)」を参照してください。ストリーミング文字起こしでは、PII を編集せずにフラグを立てるオプションもあります。出力例については、「[PII 識別の出力例](#)」を参照してください。

リダクションが有効になっている場合、編集済みのトランスクリプトのみを生成するか、または編集済みのトランスクリプトと未編集のトランスクリプトの両方を生成するオプションがあります。編集したトランスクリプトのみを生成することを選択した場合は、会話全体の保存先がメディアだけであることに注意してください。オリジナルのメディアを削除した場合、未編集の PII の記録は残りません。このため、編集されたトランスクリプトに加えて、未編集のトランスクリプトを生成することが賢明な場合があります。

バッチ文字起こしを使用した PII リダクションの詳細については、「[バッチジョブで PII を編集する](#)」を参照してください。

ストリーミング文字起こしによる PII リダクションまたは識別の詳細については、「[リアルタイムストリームの PII の編集または識別](#)」を参照してください。

Important

リダクション機能は、機密データを識別して削除するように設計されています。ただし、機械学習の予測特性により、トランスクリプト内の機密データのすべてのインスタンスを特定して削除しない Amazon Transcribe 場合があります。編集された出力がお客様のニーズを満たすものであることを確認するために、出力内容を見直すことを強くおすすめします。リダクション機能は、1996 年に米国で制定された、医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) 等の医療プライバシー法に基づく匿名性の要件を満たすものではありません。

の秘匿化機能の動画チュートリアルについては、Amazon Transcribe [「コンテンツ秘匿化を使用して PII を識別および編集する」](#)を参照してください。

バッチジョブで PII を編集する

バッチ文字起こしジョブ中にトランスクリプトから個人を特定できる情報 (PII) を編集すると、 は、識別された PII の各インスタンスをトランスクリプトの本文[PII]の Amazon Transcribe に置き換えます。また、文字起こし出力の単語ごとの部分で、編集された PII の種類を表示することもできます。出力サンプルについては、「[編集された出力例 \(バッチ\)](#)」を参照してください。

バッチ文字起こしによるリダクションは、米国英語 (en-US) および米国スペイン語 () で利用できませんes-US。リダクションは[言語識別](#)と互換性がありません。

編集された文字起こしと編集されていない文字起こしはどちらも、同じ出力 Amazon S3 バケットに保存されます。 は、指定したバケット、またはサービスによって管理されるデフォルトの Amazon S3 バケットに Amazon Transcribe 保存します。

バッチ文字起こしで認識 Amazon Transcribe できる PII のタイプ

PII タイプ	説明
ADDRESS	実際の住所、米国、エニータウン市。メインストリート 100 番地や、ビル 123 番、スイート 12 番など。住所には、通り、ビル、場所、市区町村、州、国、郡、郵便番号、管区、近隣などを含めることができます。
ALL	この表に記載されているすべての PII のタイプを編集または特定します。
BANK_ACCOUNT_NUMBER	米国の銀行口座番号 この番号は通常 10～12 桁の長さですが、Amazon Transcribe は下 4 桁のみの銀行口座番号も認識します。
BANK_ROUTING	米国の銀行口座の支店コード この番号は通常 9 桁の長さですが、Amazon Transcribe は下 4 桁のみの支店コードも認識します。
CREDIT_DEBIT_CVV	VISA、MasterCard、Discover のクレジットカードとデビットカードに記載されている 3 桁のカード確認コード (CVV)。American Express

PII タイプ	説明
	のクレジットカードまたはデビットカードでは、4 桁の数字コードです。
CREDIT_DEBIT_EXPIRY	クレジットカードまたはデビットカードの有効期限日 この番号は通常 4 桁で、「月/年」または「MM/YY」という形式になっています。例えば、 は 01/21、01/2021、Jan 2021 などの有効期限を認識 Amazon Transcribe できます。
CREDIT_DEBIT_NUMBER	クレジットカードまたはデビットカードの番号。これらの番号の長さは 13 桁から 16 桁までさまざまですが、最後の 4 桁のみが存在する場合はクレジットカード番号またはデビットカード番号 Amazon Transcribe も認識されます。
EMAIL	efua.owusu@email.com などのメールアドレス。
NAME	個人の名前。このエンティティタイプには、Mr.、Mrs.、Miss、Dr. Amazon Transcribe does などのタイトルは含まれません。このエンティティタイプは、組織または住所の一部である名前には適用されません。例えば、 は John Doe Organization を組織として Amazon Transcribe 認識し、Jane Doe Street を住所として認識します。
PHONE	電話番号 このエンティティタイプには、ファックス番号とポケットベル番号も含まれます。
PIN	銀行口座情報へのアクセスを可能にする 4 桁の個人識別番号 (PIN)。

PII タイプ	説明
SSN	社会保障番号 (SSN) は、米国市民、永住者、および一時的な労働居住者に発行される 9 桁の番号です。は、最後の 4 桁のみが存在する場合に社会保障番号 Amazon Transcribe も認識します。

バッチ文字起こしジョブは AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用して開始できます。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、ジョブの詳細を指定 ページが開きます。
3. ジョブの詳細を指定する ページで必要な項目を入力したら、[次へ] を選択して、ジョブの設定 - オプション ページに進みます。ここには PII リダクション切り替えが付いたコンテンツ削除パネルがあります。

Configure job - *optional* [Info](#)

Audio settings

☒ **Audio identification** [Info](#)

Choose to split multi-channel audio into separate channels for transcription, or identify speakers in the input audio.

☐ **Alternative results** [Info](#)

Enable to view more transcription results

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

☒ **PII redaction** [Info](#)

Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].

4. [PII リダクション] を選択すると、編集したいすべての PII タイプを選択するオプションがあります。「未編集のトランスクリプトをジョブ出力に含める」ボックスを選択した場合は、未編集のトランスクリプトを選択することもできます。

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

☒ PII redaction [Info](#)

Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].

☐ Include unredacted transcript in job output

Returns unredacted version of the transcript in addition to the redacted version.

Select PII entity types (11 of 11 selected)

☒ Select All

☒ Financial (6 of 6 selected)

☒ BANK_ACCOUNT_NUMBER

☒ BANK_ROUTING

☒ CREDIT_DEBIT_NUMBER

☒ CREDIT_DEBIT_CVV

☒ CREDIT_DEBIT_EXPIRY

☒ PIN

☒ Personal (5 of 5 selected)

☒ NAME

☒ ADDRESS

☒ PHONE

☒ EMAIL

☒ SSN

☐ Vocabulary filtering [Info](#)

Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

5. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと `content-redaction` パラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ContentRedaction](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \
--region us-west-2 \
--transcription-job-name my-first-transcription-job \
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \
--output-key my-output-files/ \
--language-code en-US \
```

```
--content-redaction
RedactionType=PII,RedactionOutput=redacted,PiiEntityTypes=NAME,ADDRESS,BANK_ACCOUNT_NUMBER
```

以下は [start-transcription-job](#) メソッドを使用した別の例で、リクエストボディはそのジョブの PII を編集します。

```
aws transcribe start-transcription-job \
--region us-west-2 \
--cli-input-json file://filepath/my-first-redaction-job.json
```

ファイル `my-first-redaction-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "LanguageCode": "en-US",
  "ContentRedaction": {
    "RedactionOutput": "redacted",
    "RedactionType": "PII",
    "PiiEntityTypes": [
      "NAME",
      "ADDRESS",
      "BANK_ACCOUNT_NUMBER"
    ]
  }
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では、を使用して AWS SDK for Python (Boto3)、[start_transcription_job](#) メソッドの `ContentRedaction` 引数を使用してコンテンツを編集します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [ContentRedaction](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#) 「」章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
```



```
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    ContentRedaction = {
        'RedactionOutput': 'redacted',
        'RedactionType': 'PII',
        'PiiEntityTypes': [
            'NAME', 'ADDRESS', 'BANK_ACCOUNT_NUMBER'
        ]
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

Note

バッチジョブの PII リダクションは、AWS リージョンアジアパシフィック (香港)、アジアパシフィック (ムンバイ)、アジアパシフィック (ソウル)、アジアパシフィック (シンガポール)、アジアパシフィック (シドニー)、アジアパシフィック (東京)、GovCloud (米国西部)、カナダ (中部)、欧州 (フランクフルト)、欧州 (アイルランド)、欧州 (ロンドン)、欧州 (パリ)、中東 (バーレーン)、南米 (サンパウロ)、米国東部 (バージニア北部)、米国東部 (オハイオ)、米国西部 (オレゴン)、米国西部 (北カリフォルニア) のみサポートされています。

リアルタイムストリームの PII の編集または識別

ストリーミング文字起こしから個人を特定できる情報 (PII) を編集する場合、Amazon Transcribe は、お客様のトランスクリプトに特定された PII の各インスタンスを [PII] に置き換えます。

ストリーミング文字起こしに使用できる追加オプションとして、PII 識別があります。PII 識別をアクティブ化すると、はEntitiesオブジェクトの文字起こし結果で PII に Amazon Transcribe ラベルを付けます。出力サンプルについては、「[編集済みストリーミング出力の例](#)」と「[PII 識別の出力例](#)」を参照してください。

ストリーミング文字起こしによる PII のリダクションと識別は、オーストラリア (en-AU)、英国 ()、米国 (en-GB)、スペイン語の米国の方言 (en-US) の英語の方言で利用できますes-US。

ストリーミングジョブの PII 識別とリダクションは、音声セグメントの完全な文字起こし時にのみ実行されます。

ストリーミング文字起こしで認識 Amazon Transcribe できる PII のタイプ

PII タイプ	説明
ADDRESS	実際の住所、米国、エニータウン市。メインストリート 100 番地や、ビル 123 番、スイート 12 番など。住所には、通り、ビル、場所、市区町村、州、国、郡、郵便番号、管区、近隣などを含めることができます。
ALL	この表に記載されているすべての PII のタイプを編集または特定します。
BANK_ACCOUNT_NUMBER	米国の銀行口座番号 この番号は通常 10～12 桁の長さですが、Amazon Transcribe は下 4 桁のみの銀行口座番号も認識します。
BANK_ROUTING	米国の銀行口座の支店コード この番号は通常 9 桁の長さですが、Amazon Transcribe は下 4 桁のみの支店コードも認識します。
CREDIT_DEBIT_CVV	VISA、MasterCard、Discover のクレジットカードとデビットカードに記載されている 3 桁のカード確認コード (CVV)。American Express

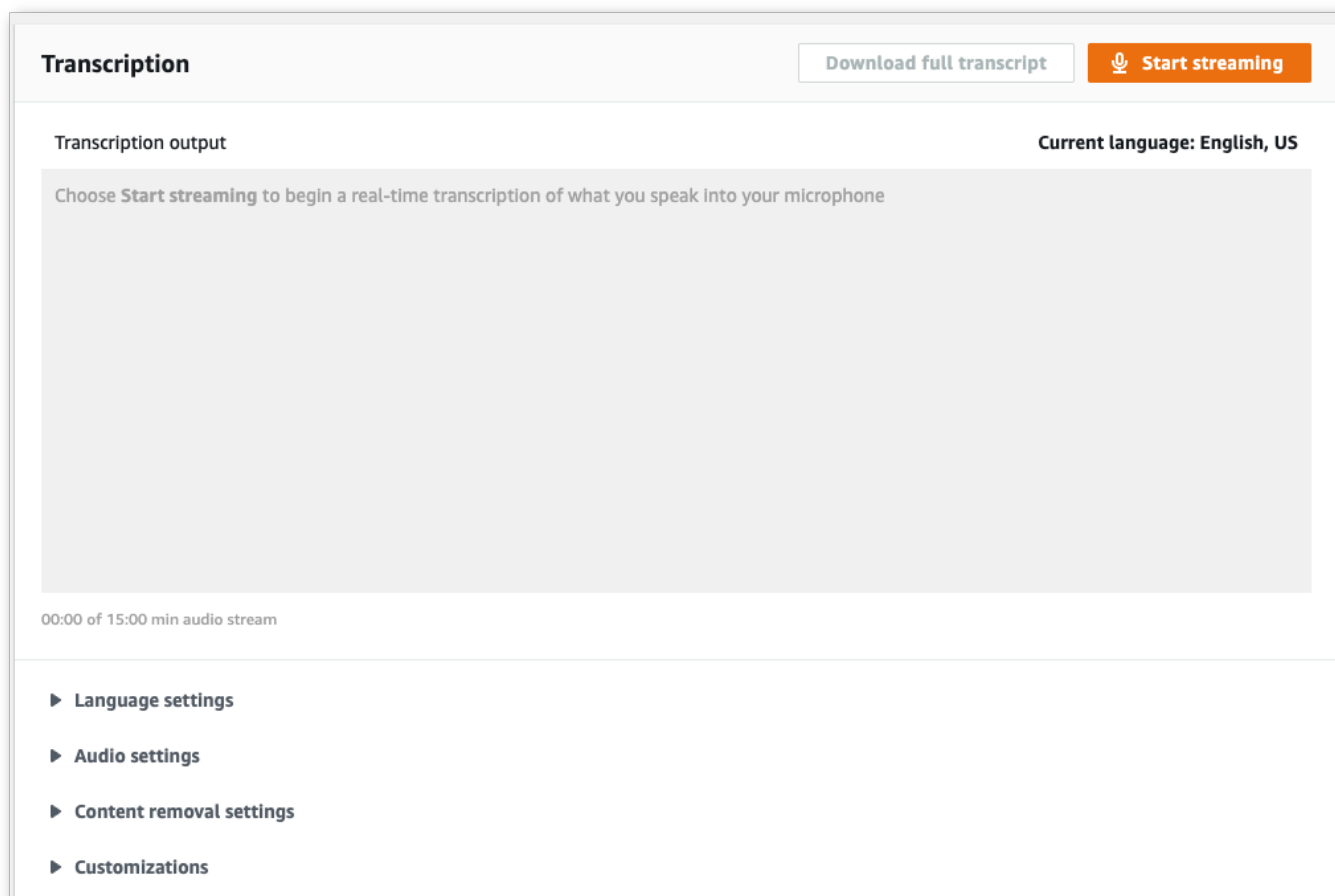
PII タイプ	説明
	のクレジットカードまたはデビットカードでは、4 桁の数字コードです。
CREDIT_DEBIT_EXPIRY	クレジットカードまたはデビットカードの有効期限日 この番号は通常 4 桁で、「月/年」または「MM/YY」という形式になっています。例えば、 は 01/21、01/2021、Jan 2021 などの有効期限を認識 Amazon Transcribe できます。
CREDIT_DEBIT_NUMBER	クレジットカードまたはデビットカードの番号。これらの番号の長さは 13 桁から 16 桁までさまざまですが、最後の 4 桁のみが存在する場合はクレジットカード番号またはデビットカード番号 Amazon Transcribe も認識されます。
EMAIL	efua.owusu@email.com などのメールアドレス。
NAME	個人の名前。このエンティティタイプには、Mr.、Mrs.、Miss、Dr. Amazon Transcribe does などのタイトルは含まれません。このエンティティタイプは、組織または住所の一部である名前には適用されません。例えば、 は John Doe Organization を組織として認識し、Jane Doe Street を住所として Amazon Transcribe 認識します。
PHONE	電話番号 このエンティティタイプには、ファックス番号とポケットベル番号も含まれます。
PIN	銀行口座情報へのアクセスを可能にする 4 桁の個人識別番号 (PIN)。

PII タイプ	説明
SSN	社会保障番号 (SSN) は、米国市民、永住者、および一時的な労働居住者に発行される 9 桁の番号です。は、最後の 4 桁のみが存在する場合に社会保障番号 Amazon Transcribe も認識します。

ストリーミング文字起こしは AWS Management Console、WebSocket、または HTTP/2 を使用して開始できます。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。コンテンツ削除の設定にスクロールして、最小化されている場合はこのフィールドを展開します。



3. 「PII の識別とリダクション」をオンに切り替えます。

▼ Content removal settings

☐ Vocabulary filtering [Info](#)
Vocabulary filtering removes, masks, or tags words that you specify in your vocabulary filter. Choose a vocabulary filter to see an example.

☒ PII Identification & redaction [Info](#)
Identify or redact one or more types of personally identifiable information (PII) in your transcript

4. 「識別のみ」または「識別とリダクション」を選択し、トランスクリプトで識別または編集したい PII エンティティタイプを選択します。

▼ Content removal settings

☐ Vocabulary filtering [Info](#)
Vocabulary filtering removes, masks, or tags words that you specify in your vocabulary filter. Choose a vocabulary filter to see an example.

☒ PII Identification & redaction [Info](#)
Identify or redact one or more types of personally identifiable information (PII) in your transcript

Select PII detection type

☒ Identification only
Label the type of PII identified but not redact it in the transcription output

☐ Identification & redaction
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123)456-7890 will be masked as [PHONE]

Select PII entity types (22 of 22 selected)

☒ Select All

☒ Financial (6 of 6 selected)		
☒ BANK_ACCOUNT_NUMBER	☒ BANK_ROUTING	☒ CREDIT_DEBIT_NUMBER
☒ CREDIT_DEBIT_CVV	☒ CREDIT_DEBIT_EXPIRY	☒ PIN
☒ Personal (8 of 8 selected)		
☒ NAME	☒ ADDRESS	☒ PHONE
☒ EMAIL	☒ SSN	☒ PASSPORT_NUMBER
☒ DRIVER_ID	☒ AGE	
☒ Digital footprint (7 of 7 selected)		
☒ URL	☒ USERNAME	☒ PASSWORD
☒ AWS_ACCESS_KEY	☒ AWS_SECRET_KEY	☒ IP_ADDRESS
☒ MAC_ADDRESS		
☒ Other (1 of 1 selected)		
☒ DATE_TIME		

► Customizations

5. これで、ストリームを書き起こす準備ができました。[ストリーミングを開始する]を選択し、話し始めます。ディクテーションを終了するには、[ストリーミングを停止する]を選択します。

WebSocket ストリーム

この例では、WebSocket ストリームで PII リダクション (または PII 識別) を使用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。で WebSocket ストリームを使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[WebSocket ストリームの設定](#)。パラメータの詳細については、「[StartStreamTranscription](#)」を参照してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/stream-transcription-
websocket?
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&language-code=en-US
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&pii-entity-types=NAME,ADDRESS
&content-redaction-type=PII (or &content-identification-type=PII)
```

同じリクエストで content-identification-type と content-redaction-type 両方を使用することはできません。

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

HTTP/2 ストリーミング

この例では、PII 識別または PII リダクションを有効にした状態で HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリームの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartStreamTranscription](#)。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
```

```
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/
aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-
target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-content-identification-type: PII (or x-amzn-transcribe-content-
redaction-type: PII)
x-amzn-transcribe-pii-entity-types: NAME,ADDRESS
transfer-encoding: chunked
```

同じリクエストで content-identification-type と content-redaction-type 両方を使用することはできません。

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

Note

ストリーミングの PII リダクションは、AWS リージョンアジアパシフィック (ソウル)、アジアパシフィック (シドニー)、アジアパシフィック (東京)、カナダ (中部)、欧州 (フランクフルト)、欧州 (アイルランド)、欧州 (ロンドン)、米国東部 (バージニア北部)、米国東部 (オハイオ)、米国西部 (オレゴン) の 2 つのリージョンでのみサポートされています。

PII リダクションと識別の出力例

次の例は、バッチジョブおよびストリーミングジョブからの編集された出力、およびストリーミングジョブからの PII 識別を示しています。

コンテンツリダクションを使用する文字起こしジョブでは、2 種類の confidence 値を生成します。自動音声認識 (ASR) 信頼度は、pronunciation の type または punctuation である項目が特定の発話であることを示します。次の文字起こしの出力では、単語 Good には 1.0 の confidence があります。この信頼値は、このトランスクリプトで発話された単語 Amazon Transcribe が「良い」であることを 100% 確信していることを示します。[PII] タグの confidence 値は、リダクションのフラグを付けた発話が確実に PII であるという信頼度を示します。次のトランスクリプト出力では、confidence の Amazon Transcribe は、トランスクリプトで編集したエンティティが PII であることを 99.99% 確信している 0.9999 を示します。

編集された出力例 (バッチ)

```
{
  "jobName": "my-first-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "isRedacted": true,
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "Good morning, everybody. My name is [PII], and today I
feel like
my Social
Security number [PII]. My credit card number is [PII] and my C V V code
is [PII].
I hope that Amazon Transcribe is doing a good job at redacting that
personal
information away. Let's check."
      }
    ],
    "items": [
      {
        "id": 0,
        "start_time": "2.86",
        "end_time": "3.35",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "Good"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      Items removed for brevity
      {
        "id": 8,
        "start_time": "5.56",
        "end_time": "6.25",
        "alternatives": [
          {
            "content": "[PII]",
            "redactions": [

```



```

        "confidence": "0.9999",
        "type": "NAME",
        "category": "PII"
      }
    ]
  },
  "type": "pronunciation"
},
Items removed for brevity
],
},
"status": "COMPLETED"
}

```

比較のための未編集のトランスクリプトは次のとおりです。

```

{
  "jobName": "job id",
  "accountId": "111122223333",
  "isRedacted": false,
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "Good morning, everybody. My name is Mike, and today I
feel like
my Social
Security number 000000000. My credit card number is 5555555555555555
and my C V V code is 000. I hope that Amazon Transcribe is doing a good
job
at redacting that personal information away. Let's check."
      }
    ],
    "items": [
      {
        "id": 0,
        "start_time": "2.86",
        "end_time": "3.35",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "Good"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}

```

```

        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    Items removed for brevity
    {
      "id": 8,
      "start_time": "5.56",
      "end_time": "6.25",
      "alternatives": [
        {
          "confidence": "0.9999",
          "content": "Mike",
        }
      ],
      "type": "pronunciation"
    },
    Items removed for brevity
  ],
},
"status": "COMPLETED"
}

```

編集済みストリーミング出力の例

```

{
  "TranscriptResultStream": {
    "TranscriptEvent": {
      "Transcript": {
        "Results": [
          {
            "Alternatives": [
              {
                "Transcript": "my name is [NAME]",
                "Items": [
                  {
                    "Content": "my",
                    "EndTime": 0.3799375,
                    "StartTime": 0.0299375,
                    "Type": "pronunciation"
                  },
                  {
                    "Content": "name",

```

```

        "EndTime": 0.5899375,
        "StartTime": 0.3899375,
        "Type": "pronunciation"
    },
    {
        "Content": "is",
        "EndTime": 0.7899375,
        "StartTime": 0.5999375,
        "Type": "pronunciation"
    },
    {
        "Content": "[NAME]",
        "EndTime": 1.0199375,
        "StartTime": 0.7999375,
        "Type": "pronunciation"
    }
],
"Entities": [
    {
        "Content": "[NAME]",
        "Category": "PII",
        "Type": "NAME",
        "StartTime" : 0.7999375,
        "EndTime" : 1.0199375,
        "Confidence": 0.9989
    }
]
}
},
"EndTime": 1.02,
"IsPartial": false,
"ResultId": "12345a67-8bc9-0de1-2f34-a5b678c90d12",
"StartTime": 0.0199375
}
]
}
}
}
}
```

PII 識別の出力例

PII 識別は、ストリーミング文字起こしジョブで利用できる追加機能です。特定された PII は、各セグメントの Entities セクションに記載されています。

```
{
  "TranscriptResultStream": {
    "TranscriptEvent": {
      "Transcript": {
        "Results": [
          {
            "Alternatives": [
              {
                "Transcript": "my name is mike",
                "Items": [
                  {
                    "Content": "my",
                    "EndTime": 0.3799375,
                    "StartTime": 0.0299375,
                    "Type": "pronunciation"
                  },
                  {
                    "Content": "name",
                    "EndTime": 0.5899375,
                    "StartTime": 0.3899375,
                    "Type": "pronunciation"
                  },
                  {
                    "Content": "is",
                    "EndTime": 0.7899375,
                    "StartTime": 0.5999375,
                    "Type": "pronunciation"
                  },
                  {
                    "Content": "mike",
                    "EndTime": 0.9199375,
                    "StartTime": 0.7999375,
                    "Type": "pronunciation"
                  }
                ]
              }
            ],
            "Entities": [
              {
```

```
        "Content": "mike",
        "Category": "PII",
        "Type": "NAME",
        "StartTime" : 0.7999375,
        "EndTime" : 1.0199375,
        "Confidence": 0.9989
      }
    ]
  },
  "EndTime": 1.02,
  "IsPartial": false,
  "ResultId": "12345a67-8bc9-0de1-2f34-a5b678c90d12",
  "StartTime": 0.0199375
}
}
```

ビデオ字幕の作成

Amazon Transcribe は、動画のサブタイトルとして使用するために WebVTT (*.vtt) および SubRip (*.srt) 出力をサポートします。バッチビデオ文字起こしジョブを設定するときに、1 つまたは両方のファイルタイプを選択できます。字幕機能を使用すると、選択した文字起こしファイルと通常の文字起こしファイル (追加情報を含む) が生成されます。字幕と文字起こしファイルは、同じ出力先に出力されます。

字幕は、テキストが話されると同時に表示され、自然な一時停止があるか、スピーカーが話しかけるまで表示され続けます。文字起こしリクエストで字幕を有効にしても、音声に会話が含まれていない場合、字幕ファイルは作成されないことに注意してください。

Important

Amazon Transcribe は、字幕出力のデフォルトの開始インデックスを使用します。これは、のより広く使用されている値とは異なります¹。の開始インデックスが必要な場合は1、[OutputStartIndex](#)パラメータを使用して、AWS Management Console または API リクエストで指定できます。

誤った開始インデックスを使用すると、他のサービスとの互換性エラーが発生する可能性があるため、字幕を作成する前に、どの開始インデックスが必要かを確認してください。どの値を使うべきかわからない場合は、1 を選択することをおすすめします。詳細については、「[Subtitles](#)」を参照してください。

字幕でサポートされる機能は次のとおりです。

- コンテンツのリダクション — 編集されたコンテンツは、字幕と通常の文字起こし出力ファイルで「PII」として反映されます。音声は変更されません。
- 語彙フィルター — 字幕ファイルは文字起こしファイルから生成されるため、標準の文字起こし出力でフィルタリングした単語も字幕でフィルタリングされます。フィルタされたコンテンツは文字起こしと字幕ファイルに空白 または *** として表示されます。音声は変更されません。
- 話者ダイアライゼーション — 特定の字幕セグメントに複数のスピーカーがある場合、ダッシュを使用して各スピーカーを区別します。これは WebVTT 形式と subRip 形式の両方に適用されます。次に例を示します。
 - — 人によって話されるテキスト 1
 - — 人によって話されるテキスト 2

字幕ファイルは、文字起こし出力と同じ Amazon S3 場所に保存されます。

字幕作成のビデオチュートリアルについては、「[Amazon Transcribe Video Snacks: コードを記述せずに動画字幕を作成する](#)」を参照してください。

字幕ファイルの生成

AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用して字幕ファイルを作成できます。次の例を参照してください。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[文字起こしジョブ] を選択後、[ジョブの作成] (右上) を選択します。これにより、「ジョブの詳細を指定」ページが開きます。字幕オプションは、出力データ パネルにあります。
3. 字幕ファイルに必要な形式を選択し、開始インデックスの値を選択します。Amazon Transcribe デフォルトは ですが0、1より広く使用されていることに注意してください。どの値を使うべきかわからない場合は、他のサービスとの互換性が向上する可能性があるため、1 を選択することをおすすめします。

Output data

Output data location type info [Info](#)

☒ Service-managed S3 bucket
The output will be removed after 90 days when the job expires.

☐ Customer specified S3 bucket
The output will not be removed from bucket even after the job expires.

Subtitle file format [Info](#)

☒ SRT (SubRip)

☐ VTT (WebVTT)

Specify the start index

0 ▼

4. ジョブの詳細を指定ページに追加したいその他のフィールドに入力し、「次へ」を選択します。これにより、ジョブの設定 - オプションページへ移動します。
5. [ジョブの作成] を選択して、文字起こしジョブを実行します。

AWS CLI

この例では、[start-transcription-job](#) コマンドと Subtitles パラメータを使用します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Subtitles](#) を参照してください。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--transcription-job-name my-first-transcription-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \  
--output-key my-output-files/ \  
--language-code en-US \  
--subtitles Formats=vtt,srt,OutputStartIndex=1
```

別の例として、[文字起こしジョブの開始](#) コマンド、およびそのジョブに字幕を追加するリクエストボディを使用します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://my-first-subtitle-job.json
```

ファイル *my-first-subtitle-job.json* には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Subtitles": {  
    "Formats": [  
      "vtt", "srt"  
    ],  
    "OutputStartIndex": 1  
  }  
}
```


AWS SDK for Python (Boto3)

この例では、を使用して AWS SDK for Python (Boto3)、[start_transcription_job](#) メソッドの Subtitles 引数を使用して字幕を追加します。詳細については、[StartTranscriptionJob](#) および [Subtitles](#) を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) AWS SDKs 「」 章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_transcription_job(
    TranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Subtitles = {
        'Formats': [
            'vtt', 'srt'
        ],
        'OutputStartIndex': 1
    }
)

while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(TranscriptionJobName = job_name)
    if status['TranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

コール分析によるコールセンターの音声の分析

Amazon Transcribe コール分析を使用して、顧客とエージェントのやり取りに関するインサイトを取得します。コール分析はコールセンターの音声専用で設計されており、各通話や各参加者に関する貴重なデータを自動的に提供します。また、通話中の特定の時点のデータに的を絞ることもできます。たとえば、通話の最初の数秒と通話の最後の 4 分の 1 の時間におけるお客様の感情を比較して、エージェントがポジティブなエクスペリエンスを提供したかどうかを確認できます。その他の使用例を[次のセクション](#)に示します。

コール分析は、通話後の文字起こしとリアルタイム文字起こしに使用できます。Amazon S3 バケットにあるファイルを文字起こしする場合は、通話後文字起こしを実行します。音声ストリームを文字起こしする場合は、リアルタイム文字起こしを実行していることになります。この 2 つの文字起こしの方法では、コール分析のインサイトや機能が異なります。各メソッドの詳細については、「[通話後分析](#)」と「[リアルタイムコール分析](#)」を参照してください。

リアルタイムコール分析の文字起こしを使うと、リクエストに[通話後分析](#)を含めることもできます。通話後分析のトランスクリプトは、リクエストで指定した Amazon S3 バケットに保存されます。詳細については、「[通話後分析とリアルタイム文字起こし](#)」を参照してください。

📘 コール分析特有の API オペレーション

通話後:

[CreateCallAnalyticsCategory](#)、[DeleteCallAnalyticsCategory](#)、[DeleteCallAnalyticsCategory](#)

リアルタイム:

[StartCallAnalyticsStreamTranscription](#)、[StartCallAnalyticsStreamTranscriptionWebSocket](#)

一般的なユースケース

通話後文字起こし:

- 問題の頻度を経時的にモニタリング: [通話の分類](#)を使用して、トランスクリプト内で繰り返し使われるキーワードを特定します。
- カスタマーサービスエクスペリエンスに関するインサイトの取得: [コールの特性](#) (非通話時間、通話時間、中断、声の大きさ、通話速度) と感情分析を使用して、通話中にお客様の問題が適切に解決されているかどうかを判断します。

- 規制遵守または企業ポリシーの遵守を確保: 会社固有の挨拶や免責事項に [キーワードやフレーズ](#) を設定して、エージェントが規制要件を満たしていることを確認します。
- お客様の個人情報の取り扱いの改善: お客様のプライバシーを保護するために、文字起こしの出力や音声ファイルには [PII リダクション](#) を使用します。
- スタッフトレーニングの改善: 基準 (感情、非通話時間、中断、通話速度) を使用して、お客様とのポジティブまたはネガティブなやり取りの例として使用できるトランスクリプトにフラグを付けます。
- ポジティブなカスタマーエクスペリエンスを生み出すスタッフの効果を測定: [感情分析](#) を使用して、通話が進むにつれてエージェントがネガティブなカスタマー感情をポジティブな感情に変えることができるかどうかを測定します。
- データ整理の改善: [カスタムカテゴリ](#) (キーワードやフレーズ、感情、通話時間、中断など) に基づいて通話にラベルを付けて並べ替えます。
- 生成 AI を使用して通話の重要な側面を要約: [通話の生成要約](#) を使用して、トランスクリプトの簡潔な要約を取得します。これには、通話で話し合った問題、アクション項目、結果などの主要素が含まれます。

リアルタイム文字起こし

- エスカレーションをリアルタイムで軽減: お客様が「マネージャーと話したい」と言った場合など、重要なフレーズに [リアルタイムアラート](#) を設定して、通話のエスカレートし始めたときにフラグを付けます。リアルタイムのカテゴリーマッチを使用して、リアルタイムアラートを作成できます。
- お客様の個人情報の取り扱いの改善: お客様のプライバシーを保護するために、文字起こしの出力に [PII 識別](#) または [PII リダクション](#) を使用します。
- カスタムキーワードとフレーズの識別: [カスタムカテゴリ](#) を使用して、通話中の特定のキーワードにフラグを付けます。
- 問題を自動的に特定: 自動 [問題検出](#) を使用すると、通話中に特定されたすべての問題を簡潔にまとめることができます。
- ポジティブなカスタマーエクスペリエンスを生み出すスタッフの効果を測定: [感情分析](#) を使用して、通話が進むにつれてエージェントがネガティブなカスタマー感情をポジティブな感情に変えることができるかどうかを測定します。
- エージェントアシストの設定: 選択したインサイトを使用して、お客様からの通話を解決するための積極的な支援をエージェントに提供します。詳細については、「[Amazon 言語 AI サービスによるコンタクトセンターのライブコール分析とエージェントアシスト](#)」を参照してください。

Call Analytics で利用可能な機能と、Amazon Transcribe および Amazon Transcribe Medical の機能を比較するには、[機能表](#)を参照してください。

開始するには、「[通話後分析の文字起こしを開始する](#)」と「[リアルタイムコール分析の文字起こしを開始する](#)」を参照してください。コール分析出力は、標準の文字起こしジョブの出力に似ていますが、追加の分析データが含まれています。サンプル出力を表示するには、「[通話後分析出力](#)」と「[リアルタイムコール分析出力](#)」とを参照してください。

考慮事項と追加情報

コール分析を使用する前に、次の点に注意してください。

- コール分析は、2 チャンネルの音声のみをサポートします。エージェントは 1 つのチャンネルに、お客様は 2 つ目のチャンネルに存在します。
- [ジョブキューイング](#) は通話後分析ジョブに対して常に有効になっているため、同時に実行できるコール分析ジョブは 100 に制限されます。クォータの引き上げをリクエストするには、[AWS Service Quotas](#) を使用してください。
- 通話後分析ジョブの入力ファイルは、500 MB を超えてはならず、4 時間未満である必要があります。ファイルサイズ制限は、特定の圧縮された非 WAV オーディオファイル形式では小さい場合があります。ことに注意してください。
- カテゴリを使用する場合は、コール分析の文字起こしを開始する前に、必要なカテゴリをすべて作成する必要があります。新しいカテゴリは、既存の文字起こしには適用できません。新しいカテゴリの作成方法については、「[通話後の文字起こしカテゴリの作成](#)」と「[リアルタイム文字起こしのカテゴリの作成](#)」を参照してください。
- 一部のコール分析クォータは Amazon Transcribe および Amazon Transcribe Medical とは異なります。詳細については、[AWS 「全般のリファレンス」](#)を参照してください。

AWS Machine Learning ブログで詳しく知る

コール分析オプションの詳細については、次の情報を参照してください。

- [Amazon 言語 AI サービスによるコンタクトセンターの通話後分析](#)
- [Amazon 言語 AI サービスによるコンタクトセンターのライブコール分析とエージェントアシスト](#)

コール分析の出力と機能のサンプルを表示するには、「[GitHub のデモ](#)」を参照してください。また、トランスクリプトを読みやすい形式に変換するための [JSON to Word document](#) アプリケーションも提供しています。

利用可能なリージョンとクォータ

コール分析は、以下でサポートされています AWS リージョン。

リージョン	文字起こしタイプ
ap-northeast-1 (東京)	post-call, real-time
ap-northeast-2 (ソウル)	post-call, real-time
ap-south-1 (ムンバイ)	post-call
ap-southeast-1 (シンガポール)	post-call
ap-southeast-2 (シドニー)	post-call, real-time
ca-central-1 (カナダ、中部)	post-call, real-time
eu-central-1 (フランクフルト)	post-call, real-time
eu-west-2 (ロンドン)	post-call, real-time
us-east-1 (バージニア北部)	post-call, real-time
us-west-2 (オレゴン)	post-call, real-time

[Amazon Transcribe](#)、[Amazon Transcribe Medical](#)、およびコール分析ではリージョンのサポートが異なることに注意してください。

サポートされている各リージョンのエンドポイントを取得するには、「AWS 全般のリファレンス」の「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

文字起こしに関連するクォータのリストについては、「AWS 全般のリファレンス」の「[Service Quotas](#)」を参照してください。一部のクォータは、リクエストに応じて変更することができます。調整可能列に「はい」と表示されている場合は、増加をリクエストできます。そのためには、表示されたリンクを選択します。

通話後分析

コール分析では、カスタマーサービスの傾向をモニタリングするのに役立つ通話後分析を提供します。

通話後文字起こしでは、次のような情報を得ることができます。

- 通話時間、非通話時間、話者の声の大きさ、中断、通話速度、問題、結果、アクション項目などの[通話の特性](#)
- 通話全体の簡潔な要約を作成する[通話の生成要約](#)
- 特定のキーワードや条件に絞り込むルールを使用した[カスタムの分類](#)
- テキストトランスクリプトと音声ファイルの[PII リダクション](#)
- 通話中のさまざまな場面における各発信者の[スピーカーの感情](#)

通話後のインサイト

このセクションでは、通話後分析の文字起こしで得られるインサイトについて詳しく説明します。

コールの特性

コールの特性機能は、次の基準で、エージェントとカスタマーの対話の品質を測定します。

- 中断: 一方の参加者がもう一方の参加者の発言を途中で中断したかどうかと、そのタイミングを測定します。頻繁な中断は無礼または怒りと関連している可能性があり、一方または両方の参加者の否定的な感情と関連していることもあります。
- ラウドネス: 各参加者が話している音量を測定します。このメトリクスを使用して、発信者またはエージェントが大声で話している、または怒鳴っているかどうかを確認します。多くの場合、怒っていることを示します。このメトリクスは、0 から 100 の範囲で正規化された値 (特定のセグメントにおける音声の1秒あたりの音声レベル) として表され、値が大きいほど音声が大きいことを示します。
- 非通話時間: 音声が含まれていない時間を測定します。このメトリクスを使用して、エージェントが顧客を過度に長い時間保留しているなど、長い無音時間があるかどうかを確認します。
- 通話速度: 両方の参加者が話している速度を測定します。1 人の参加者が話すのが速すぎると理解度に影響が出ることがあります。このメトリクスは 1 分あたりの単語数で測定されます。
- 通話時間: 通話中に各参加者が通話した時間 (ミリ秒単位) を測定します。このメトリクスを使って、1 人の参加者が通話を独占しているかどうか、または会話のバランスがとれているかどうかを識別します。

- 問題、結果、アクション項目: 通話トランスクリプトから問題、結果、アクション項目を特定します。

以下は[出力例](#)です。

通話の生成要約

生成呼び出しの概要は、呼び出し全体の簡潔な概要を作成し、呼び出しの理由、問題を解決するために実行されたステップ、次のステップなどの主要なコンポーネントをキャプチャします。

通話の生成要約を使用して、以下のことができます。

- 通話中や通話後に手動でメモを取る必要を減らします。
- エージェントは、通話後の作業よりも、待機中の発信者との会話により多くの時間を費やすことができるため、エージェントの効率が向上します。
- 通話の要約はトランスクリプト全体よりもはるかに短時間でレビューできるため、スーパーバイザーによるレビューが効率化されます。

通話の生成要約を通話後の分析ジョブで使用するには、「[通話の生成要約の有効化](#)」を参照してください。出力例については、「[通話の生成要約の出力例](#)」を参照してください。通話の生成要約には別途料金がかかります ([料金ページ](#)を参照してください)。

Note

通話の生成要約は現在、us-east-1 と us-west-2 で利用可能です。この機能は、オーストラリア (en-AU)、英国 (en-GB)、インド (en-IN)、アイルランド (en-IE)、スコットランド (en-AB)、米国 (en-US)、ウェールズ (en-WL) の英語方言でサポートされています。

カスタムの分類

通話の分類を使用して、通話内のキーワード、フレーズ、感情、またはアクションにフラグを付けます。分類のオプションは、中断の多いネガティブな感情通話などのエスカレーションをトリガーしたり、通話を企業の部署などの特別なカテゴリに整理するのに役立ちます。

カテゴリに追加できる条件には以下が含まれます。

- 非通話時間: カスタマーとエージェントのどちらも通話していない時間。

- 中断: カスタマーまたはエージェントによって相手が中断された場合。
- カスタマーまたはエージェントの感情: 指定された期間におけるカスタマーまたはエージェントがどのように感じているか。指定された期間の会話の 50% 以上が (2 人のスピーカー間でback-and-forthに) 指定されたセンチメントと一致する場合、はセンチメントの一致 Amazon Transcribe を考慮します。
- キーワードまたはフレーズ: 正確なフレーズに基づいて文字起こしの一部と一致させます。例えば、「マネージャーと話したい」というフレーズにフィルターを設定すると、Amazon Transcribe は正確なフレーズをフィルターします。

また、前の基準とは逆の条件にフラグを立てることもできます(通話時間、中断なし、感情がない、特定のフレーズがない)。

以下は[出力例](#)です。

カテゴリの詳細、または新しいカテゴリの作成方法については、「[通話後の文字起こしカテゴリの作成](#)」を参照してください。

機密データのリダクション

機密データのリダクションでは、テキストトランスクリプトおよび音声ファイル内の個人を特定できる情報 (PII) が置き換えられます。編集されたトランスクリプトは、元のテキストを [PII] に置き換え、音声ファイルを編集すると、話された個人情報が無音に置き換えられます。このパラメータは、お客様の情報を保護するのに役立ちます。

Note

通話後の PII 秘匿化は、米国英語 (en-US) および米国スペイン語 () でサポートされていますes-US。

この機能を使用して編集された PII のリストの表示、または Amazon Transcribeでのリダクションの詳細については、「[個人を特定できる情報の編集または特定](#)」を参照してください。

以下は[出力例](#)です。

感情分析

感情分析では、コール全体を通してカスタマーとエージェントがどのように感じているかを推定します。このメトリクスは、定量値 (5 から -5 の範囲) と定性値 (positive、neutral、mixed または

negative) の両方で表されます。定量値は四半期およびコールごとに提供され、定性値はターンごとに提供されます

このメトリクスは、コールが終了するまでに、エージェントが怒っているカスタマーを喜ばすことができるかどうかを識別するのに役立ちます。

感情分析は初期状態で機能するため、モデルトレーニングやカスタムカテゴリなどのカスタマイズには対応していません。

以下は[出力例](#)です。

通話後の文字起こしカテゴリの作成

通話後分析ではカスタムカテゴリの作成がサポートされているため、特定のビジネスニーズに合わせてトランスクリプト分析を調整できます。

さまざまなシナリオをカバーするカテゴリをいくつでも作成できます。作成するカテゴリごとに、1 から 20 のルールを作成する必要があります。各ルールは、中断、キーワード、非通話時間、感情という 4 つの基準のいずれかに基づいています。[CreateCallAnalyticsCategory](#) オペレーションでこれらの基準を使用する詳細については、「[通話後分析カテゴリのルールの条件](#) セクション」を参照してください。

メディア内のコンテンツが、指定したカテゴリのすべてのルールに一致する場合、Amazon Transcribe は出力にそのカテゴリのラベル付けを行います。JSON 出力のカテゴリマッチの例については、「[通話の分類出力](#)」を参照してください。

カスタムカテゴリを使用してできるその他の例を紹介します。

- ネガティブなカスタマー感情で終わった通話など、特定の特徴を持つ通話を分離します。
- 特定のキーワードセットにフラグを付けて追跡することで、お客様の問題の傾向を特定します。
- エージェントが通話の最初の数秒間に特定のフレーズを話す (または省略する) などのコンプライアンスをモニタリングします。
- エージェントによる中断やお客様からのネガティブな感情が多い通話にフラグを立てることで、カスタマーエクスペリエンスに関するインサイトを得られます。
- 複数のカテゴリを比較して相関関係を測定します。たとえば、ウェルカムフレーズを使用するエージェントがお客様のポジティブな感情と相関関係があるかどうかの分析などです。

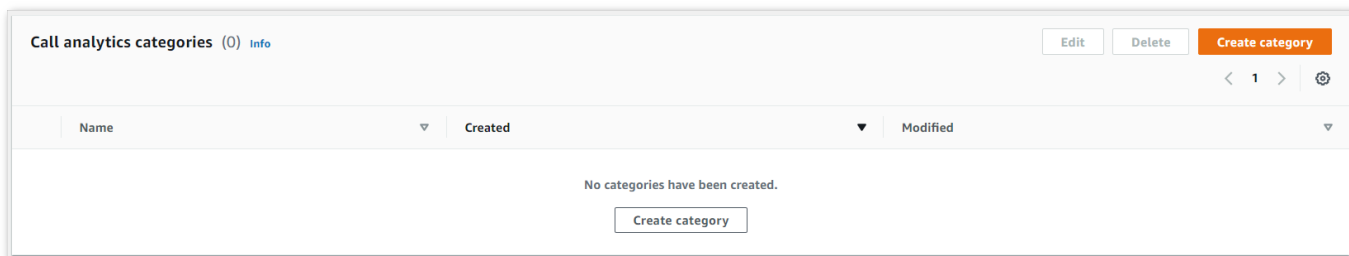
通話後カテゴリとリアルタイムカテゴリ

新しいカテゴリを作成する場合、通話後分析カテゴリ (POST_CALL) として作成するか、リアルタイム通話分析カテゴリ (REAL_TIME) として作成するかを指定できます。オプションを指定しない場合、カテゴリはデフォルトで通話後カテゴリとして作成されます。通話後分析カテゴリマッチは、通話後分析の文字起こしが完了すると、出力に表示されます。

通話後分析用の新しいカテゴリを作成するには、AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用できます。例については以下を参照してください。

AWS Management Console

1. ナビゲーションペインで、Amazon Transcribe 分析の呼び出し Amazon Transcribe を選択します。
2. [コール分析カテゴリ] を選択すると、[コール分析カテゴリ] ページに移動します。[カテゴリの作成] を選択します。



3. [カテゴリの作成ページ] が表示されます。カテゴリの名前を入力し、カテゴリタイプのドロップダウンメニューで [バッチコール分析] を選択します。

4. テンプレートを選択してカテゴリを作成することも、一から作成することもできます。

テンプレートを使用する場合: [テンプレートを使用する (推奨)] を選択し、必要なテンプレートを選択してから [カテゴリの作成] を選択します。

Category settings

Category name

MyCategory

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, ., _ , and - (hyphen).

Category type [Info](#)

Batch call analytics

Category creation method [Info](#)

☒ **Use a template (recommended)**
Use a template to edit predefined rules.

☐ **Create from scratch**
If you know the rules that you want to define, choose this option.

Template type [Info](#)
Choose the template for the category that most closely matches the one you want to create.

Choose a template

- Non-talk time exceeds 5 minutes for the whole call
- Customer sentiment is negative for the last 5 minutes of the call
- Agent spoke over the customer more than 15 seconds for the entire call

5. カスタムカテゴリを作成する場合: [最初から作成] を選択します。

Create category [Info](#)

Category settings

Category name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, ., _ , and - (hyphen).

Category creation method [Info](#)

☐ Use a template (recommended)
Use a template to edit predefined rules.

☒ Create from scratch
If you know the rules that you want to define, choose this option.

Rules

All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1 Delete rule

Rule type [Info](#)
Choose the rule that you want to define.

Add rule

You can add up to 19 more rules.

6. ドロップダウンメニューを使用して、カテゴリにルールを追加します。1 つのカテゴリには最大 20 ルールまで追加できます。

Rules

All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1

When no word has been spoken for more than 5 minute(s) during the entire call.

Delete rule

Rule type [Info](#)

Choose the rule that you want to define.

Non-talk time ▲

Non-talk time
Trigger the rule when nothing has been said for more than the time that you specify.

Interruption time
Trigger the rule when the speaker has been interrupted for more than the time that you specify.

Transcript content match
Trigger the rule when the speaker says the words or phrases that you specify.

Transcript sentiment match
Trigger the rule when the sentiment of the speaker matches the sentiment that you specify.

Add rule

You can add up to 19 more rules.

7. これは、2つのルールがあるカテゴリの例です。1つは、通話中に15秒以上お客様の話を中断したエージェントと、もう1つは通話の最後の2分間にお客様またはエージェントが感じたネガティブな感情です。

Rules

All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1

When the duration of the interruption was more than 15 second(s) during the entire call when the speaker was agent.

Rule type [Info](#)
Choose the rule that you want to define.

Interruption time ▼

Logic [Info](#)
Define the conditions that must be met.

When the duration of the interruption was more than 15 second(s) ▼

during the entire call ▼

when the speaker was agent ▼

AND

▼ Rule 2

When the sentiment is negative during the last 2 minute(s) when the speaker was either.

Rule type [Info](#)
Choose the rule that you want to define.

Transcript sentiment match ▼

Logic [Info](#)
Define the conditions that must be met.

When the sentiment is negative ▼

during the last ▼ 2 minute(s) ▼

when the speaker was either ▼

Add rule

You can add up to 18 more rules.

8. カテゴリにルールを追加し終えたら、[カテゴリの作成] を選択します。

AWS CLI

この例では、[create-call-analytics-category](#) コマンドを使用します。詳細については、「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」、「[CategoryProperties](#)」、および「[Rule](#)」を参照してください。

以下の例では、ルールを含むカテゴリを作成します。

- カスタマーは最初の 60 秒間で中断されました。これらの中断時間は少なくとも 10 秒続きました。
- 通話の 10% から 80% の間では少なくとも 20 秒の無音が続きました。
- エージェントは、通話中のある時点でネガティブな感情を抱いていました。
- 通話の最初の 10 秒の間に、「ようこそ」や「こんにちは」という単語は使われていません。

この例は、[create-call-analytics-category](#) コマンドと、カテゴリに複数のルールを追加するリクエストボディを使用しました。

```
aws transcribe create-call-analytics-category \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-analytics-category.json
```

ファイル `my-first-analytics-category.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "CategoryName": "my-new-category",  
  "InputType": "POST_CALL",  
  "Rules": [  
    {  
      "InterruptionFilter": {  
        "AbsoluteTimeRange": {  
          "First": 60000  
        },  
        "Negate": false,  
        "ParticipantRole": "CUSTOMER",  
        "Threshold": 10000  
      }  
    },  
    {  
      "NonTalkTimeFilter": {  
        "Negate": false,  
        "RelativeTimeRange": {  
          "EndPercentage": 80,  
          "StartPercentage": 10  
        },  
        "Threshold": 20000  
      }  
    },  
    {  
      "SentimentFilter": {  
        "ParticipantRole": "AGENT",
```

```

        "Sentiments": [
            "NEGATIVE"
        ]
    },
    {
        "TranscriptFilter": {
            "Negate": true,
            "AbsoluteTimeRange": {
                "First": 10000
            },
            "Targets": [
                "welcome",
                "hello"
            ],
            "TranscriptFilterType": "EXACT"
        }
    }
]
}

```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して、[create_call_analytics_category](#) メソッドの 引数CategoryNameと Rules引数を使用してカテゴリを作成します。詳細については[CreateCallAnalyticsCategory](#)、[CategoryProperties](#)、および[Rule](#)を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs[SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」の章を参照してください。

以下の例では、ルールを含むカテゴリを作成します。

- カスタマーは最初の 60 秒間で中断されました。これらの中断時間は少なくとも 10 秒続きました。
- 通話の 10% から 80% の間では少なくとも20 秒の無音が続きました。
- エージェントは、通話中のある時点でネガティブな感情を抱いていました。
- 通話の最初の 10 秒の間に、「ようこそ」や「こんにちは」という単語は使われていません。

```
from __future__ import print_function
```



```
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
category_name = "my-new-category"
transcribe.create_call_analytics_category(
    CategoryName = category_name,
    InputType = POST_CALL,
    Rules = [
        {
            'InterruptionFilter': {
                'AbsoluteTimeRange': {
                    'First': 60000
                },
                'Negate': False,
                'ParticipantRole': 'CUSTOMER',
                'Threshold': 10000
            }
        },
        {
            'NonTalkTimeFilter': {
                'Negate': False,
                'RelativeTimeRange': {
                    'EndPercentage': 80,
                    'StartPercentage': 10
                },
                'Threshold': 20000
            }
        },
        {
            'SentimentFilter': {
                'ParticipantRole': 'AGENT',
                'Sentiments': [
                    'NEGATIVE'
                ]
            }
        },
        {
            'TranscriptFilter': {
                'Negate': True,
                'AbsoluteTimeRange': {
                    'First': 10000
                },
                'Targets': [
                    'welcome',
                ]
            }
        }
    ]
)
```

```

        'hello'
    ],
    'TranscriptFilterType': 'EXACT'
}
}
]

)

result = transcribe.get_call_analytics_category(CategoryName = category_name)
print(result)

```

通話後分析カテゴリのルールの条件

このセクションでは、[CreateCallAnalyticsCategory](#) API オペレーションを使用して作成できるカスタム POST_CALL ルールのタイプについて説明します。

中断マッチ

中断 ([InterruptionFilter](#) データタイプ) を使用するルールは、以下と一致するように設計されています。

- エージェントがお客様を中断させるインスタンス
- お客様がエージェントを中断させるインスタンス
- いずれかの参加者が他の参加者を中断させる
- 中断がないこと

[InterruptionFilter](#) で使用できるパラメータの例を以下に示します。

```

"InterruptionFilter": {
  "AbsoluteTimeRange": {
    Specify the time frame, in milliseconds, when the match should occur
  },
  "RelativeTimeRange": {
    Specify the time frame, in percentage, when the match should occur
  },
  "Negate": Specify if you want to match the presence or absence of interruptions,
  "ParticipantRole": Specify if you want to match speech from the agent, the
    customer, or both,
  "Threshold": Specify a threshold for the amount of time, in seconds, interruptions
    occurred during the call
}

```

```
},
```

これらのパラメータとそれぞれに関連する有効な値の詳細については、
「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」および「[InterruptionFilter](#)」を参照してください。

キーワードマッチ

キーワード ([TranscriptFilter](#) データタイプ) を使用するルールは、以下と一致するように設計されています。

- エージェント、お客様、あるいはその両方が話すカスタム単語またはフレーズ
- エージェント、お客様、あるいはその両方が口にしないカスタム単語またはフレーズ
- 特定の期間に出現するカスタム単語またはフレーズ

[TranscriptFilter](#) で使用できるパラメータの例を以下に示します。

```
"TranscriptFilter": {
  "AbsoluteTimeRange": {
    Specify the time frame, in milliseconds, when the match should occur
  },
  "RelativeTimeRange": {
    Specify the time frame, in percentage, when the match should occur
  },
  "Negate": Specify if you want to match the presence or absence of your custom keywords,
  "ParticipantRole": Specify if you want to match speech from the agent, the customer, or both,
  "Targets": [ The custom words and phrases you want to match ],
  "TranscriptFilterType": Use this parameter to specify an exact match for the specified targets
}
```

これらのパラメータとそれぞれに関連する有効な値の詳細については、
「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」および「[TranscriptFilter](#)」を参照してください。

非通話時間マッチ

非通話時間 ([NonTalkTimeFilter](#) データタイプ) を使用するルールは、以下と一致するように設計されています。

- 通話中、指定された時間帯に無音状態が続いていること

- 通話中、指定された時間帯に発話状態が続いていること

[NonTalkTimeFilter](#) で使用できるパラメータの例を以下に示します。

```
"NonTalkTimeFilter": {
  "AbsoluteTimeRange": {
    Specify the time frame, in milliseconds, when the match should occur
  },
  "RelativeTimeRange": {
    Specify the time frame, in percentage, when the match should occur
  },
  "Negate": Specify if you want to match the presence or absence of speech,
  "Threshold": Specify a threshold for the amount of time, in seconds, silence (or speech) occurred during the call
},
```

これらのパラメータとそれぞれに関連する有効な値の詳細については、

「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」および「[NonTalkTimeFilter](#)」を参照してください。

感情マッチ

感情 ([SentimentFilter](#) データタイプ) を使用するルールは、以下と一致するように設計されています。

- 通話中の特定の時点で、お客様、エージェント、あるいはその両方が表現したポジティブな感情の有無
- 通話中の特定の時点で、お客様、エージェント、あるいはその両方が表明したネガティブな感情の有無
- 通話中の特定の時点で、お客様、エージェント、あるいはその両方が表明した中立的な感情の有無
- 通話中の特定の時点で、お客様、エージェント、あるいはその両方が表明したさまざまな感情の有無

[SentimentFilter](#) で使用できるパラメータの例を以下に示します。

```
"SentimentFilter": {
  "AbsoluteTimeRange": {
    Specify the time frame, in milliseconds, when the match should occur
  },
```

```
"RelativeTimeRange": {  
    Specify the time frame, in percentage, when the match should occur  
},  
"Negate": Specify if you want to match the presence or absence of your chosen sentiment,  
"ParticipantRole": Specify if you want to match speech from the agent, the customer, or both,  
"Sentiments": [ The sentiments you want to match ]  
},
```

これらのパラメータとそれぞれに関連する有効な値の詳細については、「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」および「[SentimentFilter](#)」を参照してください。

通話後分析の文字起こしを開始する

通話後分析文字起こしを開始する前に、音声で一致 Amazon Transcribe させるすべての[カテゴリ](#)を作成する必要があります。

Note

コール分析トランスクリプトを新しいカテゴリと遡及的に一致させることはできません。コール分析文字起こしを開始する前に作成したカテゴリのみ、その文字起こし出力に適用することができます。

1 つ以上のカテゴリを作成し、音声が少なくとも 1 つのカテゴリですべてのルールに一致する場合、Amazon Transcribe は一致するカテゴリで出力にフラグ付けを行います。カテゴリを使用しないことを選択した場合、または音声カテゴリで指定したルールに一致しない場合、トランスクリプトにフラグ付けは行われません。

通話後分析文字起こしを開始するには、AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用できます。例については以下を参照してください。

AWS Management Console

通話後分析ジョブをスタートするには、次の手順を実行します。カテゴリで定義されたすべての特性に一致する通話は、該当するカテゴリでラベル付けされます。

1. ナビゲーションペインの「分析 Amazon Transcribe の呼び出し」で、「分析ジョブの呼び出し」を選択します。

2. [ジョブの作成] を選択します。

Configure job - optional Info

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

- ☐ **PII redaction** Info
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].
- ☐ **Vocabulary filtering** Info
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

- ☐ **Custom vocabulary** Info
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Summarization

- ☐ **Generative call summarization** Info
Generative call summarization provides a summary of the transcript, including important components of the conversation.

Categories

Create categories to classify calls. For example, you can create a category for all cancellation requests. When you run an analytics job, Amazon Transcribe applies that category to all calls that request cancellation.

Call analytics categories (1) Info

< 1 >

	Name	Type	Created	Modified
☐	CatchNegativeSentiment	POST_CALL	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)

If the above categories aren't relevant to your use case, you can create a new category. [Create a new category.](#)

3. [ジョブ詳細の指定] ページで、入力データの場所など、コール分析ジョブに関する情報を提供します。

Specify job details [Info](#)

Job settings

Name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, . (period), _ (underscore), and - (hyphen).

Model type [Info](#)

Choose the type of model to use for the transcription job.

☒ **General model**
To use a model that is not specialized for a particular use case, choose this option. Configuration options vary between languages.

☐ **Custom language model**
To use a model that you trained for your specific use case, choose this option. This model has fewer configuration options than the general model.

Language settings

You can transcribe your audio file in a language that you specify or have Amazon Transcribe identify and transcribe it in the predominant language.

☒ **Specific language** [Info](#)
If you know the language spoken in your source audio, choose this option to get the most accurate results. The options available for additional processing vary between languages.

☐ **Automatic language identification** [Info](#)
If you don't know the language spoken in your audio files, choose this option. You have access to fewer options for additional processing than if you choose **Specific language**.

Language

Choose the language of the input audio.

Input data [Info](#)

Input file location on S3

Choose an input audio or video file in Amazon S3.

[Browse S3](#)

Valid file formats: MP3, MP4, WAV, FLAC, AMR, OGG, and WebM.

Agent audio channel identification [Info](#)

Choose the channel that has the speech from the agent. The other channel is used for the customer's speech.

出力データの目的 Amazon S3 の場所と使用する IAM ロールを指定します。

Output data

Output data location type info [Info](#)

☒ Service-managed S3 bucket
The output will be removed after 90 days when the job expires.

☐ Customer specified S3 bucket
The output will not be removed from bucket even after the job expires.

Access permissions

IAM role [Info](#)

☐ Use an existing IAM role

☒ Create an IAM role
By choosing **Create job** you are authorizing creation of this role.

Permissions to access
Your role has access to these resources. The KMS key permission is used only if your input bucket is encrypted

☐ Input S3 bucket and KMS decrypt permission to input bucket

☒ Any S3 bucket and any KMS keys

Role name
Roles are prefixed with "AmazonTranscribeServiceRoleFullAccess-". Your newly created role has full access to the S3 bucket and KMS key for your account.

The name can be up to 64 characters long

▼ Role permissions details

Your new role has these permissions to give Amazon Transcribe access to the resources that you've specified.

Service	Access level	Resource
S3	List, Read, Write	All resources
Key Management Service	GenerateDataKey, Decrypt	All resources

Cancel Next

4. [次へ] を選択します。
5. ジョブの設定で、コール分析ジョブに含めたいオプション機能をオンにします。以前にカテゴリを作成した場合、そのカテゴリはカテゴリパネルに表示され、コール分析ジョブに自動的に適用されます。

Configure job - optional Info

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

- ☐ **PII redaction** Info
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].
- ☐ **Vocabulary filtering** Info
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

- ☐ **Custom vocabulary** Info
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Summarization

- ☐ **Generative call summarization** Info
Generative call summarization provides a summary of the transcript, including important components of the conversation.

Categories

Create categories to classify calls. For example, you can create a category for all cancellation requests. When you run an analytics job, Amazon Transcribe applies that category to all calls that request cancellation.

Call analytics categories (1) Info

< 1 >

	Name ▾	Type ▾	Created ▾	Modified ▾
☐	CatchNegativeSentiment	POST_CALL	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)

If the above categories aren't relevant to your use case, you can create a new category. [Create a new category.](#)

6. [ジョブの作成] を選択します。

AWS CLI

この例では、[start-call-analytics-job](#) のコマンドと `channel-definitions` パラメータを使用します。詳細については、「[StartCallAnalyticsJob](#)」および「[ChannelDefinition](#)」を参照してください。

```
aws transcribe start-call-analytics-job \  
--region us-west-2 \  
--call-analytics-job-name my-first-call-analytics-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-location s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/ \  
--data-access-role-arn arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole \  
--channel-definitions ChannelId=0,ParticipantRole=AGENT \  
ChannelId=1,ParticipantRole=CUSTOMER
```

次に、[start-call-analytics-job](#) コマンドと、そのジョブのコール分析を有効にするリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe start-call-analytics-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-call-analytics-job.json
```

ファイル `my-call-analytics-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "CallAnalyticsJobName": "my-first-call-analytics-job",  
  "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputLocation": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/",  
  "ChannelDefinitions": [  
    {  
      "ChannelId": 0,  
      "ParticipantRole": "AGENT"  
    },  
    {  
      "ChannelId": 1,  
      "ParticipantRole": "CUSTOMER"  
    }  
  ]  
}
```

```
    }
  ]
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、を使用して [start_call_analytics_job](#) メソッドを使用してコール分析ジョブを開始します。詳細については、「[StartCallAnalyticsJob](#)」および「[ChannelDefinition](#)」を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例](#) AWS SDKs 「」の章を参照してください。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-call-analytics-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
output_location = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/"
data_access_role = "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
transcribe.start_call_analytics_job(
    CallAnalyticsJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    DataAccessRoleArn = data_access_role,
    OutputLocation = output_location,
    ChannelDefinitions = [
        {
            'ChannelId': 0,
            'ParticipantRole': 'AGENT'
        },
        {
            'ChannelId': 1,
            'ParticipantRole': 'CUSTOMER'
        }
    ]
)

while True:
    status = transcribe.get_call_analytics_job(CallAnalyticsJobName = job_name)
    if status['CallAnalyticsJob']['CallAnalyticsJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
```

```
break
print("Not ready yet...")
time.sleep(5)
print(status)
```

通話後分析出力

通話後分析トランスクリプトは、セグメントごとにターンバイターン形式で表示されます。これらには、通話の分類、コールの特性 (ラウドネススコア、中断、非通話時間、通話速度)、コールサマリー (問題、結果、アクションアイテム)、リダクション、感情が含まれます。さらに、会話の特徴の概要はトランスクリプトの最後に記載されています。

精度を高め、業界固有の用語など、ユースケースに合わせてトランスクリプトをさらにカスタマイズするには、コール分析リクエストに[カスタム語彙](#)または[カスタム言語モデル](#)を使用します。冒涔的な言葉など、文字起こし結果に表示したくない言葉をマスキング、削除、またはタグ付けするには、[語彙フィルタリング](#)を追加します。メディアファイルに渡す言語コードがわからない場合は、[バッチ言語識別](#)を有効にして、メディアファイルの言語を自動的に識別できます。

以下のセクションでは、インサイトレベルでの JSON 出力の例を示します。コンパイルされた出力については、「[コンパイル済み通話後分析出力](#)」を参照してください。

通話の分類

カテゴリマッチは、次のように文字起こし出力で表示されます。この例は、40040 ミリ秒のタイムスタンプから 42460 ミリ秒のタイムスタンプまでの音声で「ポジティブ解決」カテゴリと一致していることを示しています。この場合、カスタムの「ポジティブ解決」カテゴリでは、音声の最後の数秒間はポジティブな感情が必要でした。

```
"Categories": {
  "MatchedDetails": {
    "positive-resolution": {
      "PointsOfInterest": [
        {
          "BeginOffsetMillis": 40040,
          "EndOffsetMillis": 42460
        }
      ]
    }
  },
  "MatchedCategories": [
    "positive-resolution"
```

```
]
},
```

コールの特性

文字起こし出力では、コールの特性は次のように表示されます。ラウドネススコアは会話のターンごとに表示され、他のすべての特性はトランスクリプトの最後に表示されます。

```
"LoudnessScores": [
  87.54,
  88.74,
  90.16,
  86.36,
  85.56,
  85.52,
  81.79,
  87.74,
  89.82
],

...

"ConversationCharacteristics": {
  "NonTalkTime": {
    "Instances": [],
    "TotalTimeMillis": 0
  },
  "Interruptions": {
    "TotalCount": 2,
    "TotalTimeMillis": 10700,
    "InterruptionsByInterrupter": {
      "AGENT": [
        {
          "BeginOffsetMillis": 26040,
          "DurationMillis": 5510,
          "EndOffsetMillis": 31550
        }
      ],
      "CUSTOMER": [
        {
          "BeginOffsetMillis": 770,
          "DurationMillis": 5190,
          "EndOffsetMillis": 5960
        }
      ]
    }
  }
}
```

```

    }
  ]
}
},
"TotalConversationDurationMillis": 42460,

...

"TalkSpeed": {
  "DetailsByParticipant": {
    "AGENT": {
      "AverageWordsPerMinute": 150
    },
    "CUSTOMER": {
      "AverageWordsPerMinute": 167
    }
  }
},
"TalkTime": {
  "DetailsByParticipant": {
    "AGENT": {
      "TotalTimeMillis": 32750
    },
    "CUSTOMER": {
      "TotalTimeMillis": 18010
    }
  },
  "TotalTimeMillis": 50760
}
},

```

問題、アクション項目、次のステップ

- 次の例では、問題は文字 7 から始まり、文字 51 で終わるものとして識別されます。これは、「レシピのサブスクリプションをキャンセルしたい」というテキストのこのセクションを指しています。

```

"Content": "Well, I would like to cancel my recipe subscription.",

"IssuesDetected": [
  {
    "CharacterOffsets": {
      "Begin": 7,

```



```

        "End": 51
    }
}
],

```

- 次の例では、結果は文字 12 で始まり、文字 78 で終わると識別されます。これは、「アカウントにすべての変更を加えたので、この割引が適用されました」というテキストのこのセクションを指します。

```

"Content": "Wonderful. I made all changes to your account and now this discount is applied, please check.",

"OutcomesDetected": [
    {
        "CharacterOffsets": {
            "Begin": 12,
            "End": 78
        }
    }
],

```

- 次の例では、アクションアイテムは文字 0 で始まり、文字 103 で終わるように識別されます。これは、「本日、すべての詳細を記載したメールをお送りします。フォローアップのため、来週折り返しお電話させていただきます。」というテキストのこのセクションを指します。

```

"Content": "I will send an email with all the details to you today, and I will call you back next week to follow up. Have a wonderful evening.",

"ActionItemsDetected": [
    {
        "CharacterOffsets": {
            "Begin": 0,
            "End": 103
        }
    }
],

```

通話の生成要約

通話の生成要約は、トランスクリプション出力に次のように表示されます。

```

"ContactSummary": {
  "AutoGenerated": {
    "OverallSummary": {
      "Content": "A customer wanted to check to see if we had a bag allowance. We
told them that we didn't have it, but we could add the bag from Canada to Calgary and
then do the one coming back as well."
    }
  }
}

```

次の場合、分析ジョブはサマリー生成なしで完了します。

- 会話コンテンツが不十分: 会話には、エージェントと顧客の両方からのターンが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。会話コンテンツが不十分な場合、サービスはエラーコード `INSUFFICIENT_CONVERSATION_CONTENT` を返します。
- 安全ガードレール: 会話は、適切な概要が生成されるように、所定の安全ガードレールを満たす必要があります。これらのガードレールが満たされない場合、サービスはエラーコード `FAILED_SafeTY_GUIDELINES` を返します。

エラーコードは、出力 `AnalyticsJobDetails` の内の `Skipped` セクションにあります。また、[GetCallAnalyticsJob](#) API レスポンスの `CallAnalyticsJobDetails` にエラーの理由が表示される場合もあります。

サンプルエラー出力

```

{
  "JobStatus": "COMPLETED",
  "AnalyticsJobDetails": {
    "Skipped": [
      {
        "Feature": "GENERATIVE_SUMMARIZATION",
        "ReasonCode": "INSUFFICIENT_CONVERSATION_CONTENT",
        "Message": "The conversation needs to have at least one turn from both
the participants to generate summary"
      }
    ]
  },
  "LanguageCode": "en-US",
  "AccountId": "*****",
  "JobName": "Test2-copy",
  ...
}

```

```
}
```

感情分析

感情分析は、トランスクリプション出力に次のように表示されます。

- 定性的なターンバイターン感情値

```
"Content": "That's very sad to hear. Can I offer you a 50% discount to have you stay with us?",
```

```
...
```

```
"BeginOffsetMillis": 12180,
"EndOffsetMillis": 16960,
"Sentiment": "NEGATIVE",
"ParticipantRole": "AGENT"
```

```
...
```

```
"Content": "That is a very generous offer. And I accept.",
```

```
...
```

```
"BeginOffsetMillis": 17140,
"EndOffsetMillis": 19860,
"Sentiment": "POSITIVE",
"ParticipantRole": "CUSTOMER"
```

- コール全体の定量的感情値

```
"Sentiment": {
  "OverallSentiment": {
    "AGENT": 2.5,
    "CUSTOMER": 2.1
  },
```

- 参加者一人当たりおよびコール四半期ごとの定量的感情値

```
"SentimentByPeriod": {
  "QUARTER": {
    "AGENT": [
      {
```

```
        "Score": 0.0,  
        "BeginOffsetMillis": 0,  
        "EndOffsetMillis": 9862  
    },  
    {  
        "Score": -5.0,  
        "BeginOffsetMillis": 9862,  
        "EndOffsetMillis": 19725  
    },  
    {  
        "Score": 5.0,  
        "BeginOffsetMillis": 19725,  
        "EndOffsetMillis": 29587  
    },  
    {  
        "Score": 5.0,  
        "BeginOffsetMillis": 29587,  
        "EndOffsetMillis": 39450  
    }  
],  
"CUSTOMER": [  
    {  
        "Score": -2.5,  
        "BeginOffsetMillis": 0,  
        "EndOffsetMillis": 10615  
    },  
    {  
        "Score": 5.0,  
        "BeginOffsetMillis": 10615,  
        "EndOffsetMillis": 21230  
    },  
    {  
        "Score": 2.5,  
        "BeginOffsetMillis": 21230,  
        "EndOffsetMillis": 31845  
    },  
    {  
        "Score": 5.0,  
        "BeginOffsetMillis": 31845,  
        "EndOffsetMillis": 42460  
    }  
]  
}
```

```
}
```

PII のマスキング

PII のマスキングは、トランスクリプション出力に次のように表示されます。

```
"Content": "[PII], my name is [PII], how can I help?",  
"Redaction": [{  
  "Confidence": "0.9998",  
  "Type": "NAME",  
  "Category": "PII"  
}]
```

詳細については、「[バッチジョブの PII のマスキング](#)」を参照してください。

言語識別

言語識別機能が有効になっている場合、言語識別はトランスクリプション出力に次のように表示されます。

```
"LanguageIdentification": [{  
  "Code": "en-US",  
  "Score": "0.8299"  
}, {  
  "Code": "en-NZ",  
  "Score": "0.0728"  
}, {  
  "Code": "zh-TW",  
  "Score": "0.0695"  
}, {  
  "Code": "th-TH",  
  "Score": "0.0156"  
}, {  
  "Code": "en-ZA",  
  "Score": "0.0121"  
}]
```

上記の出力例では、言語識別によって言語コードが信頼度スコアと共に表示されます。スコアが最も高い結果が、トランスクリプションの言語コードとして選択されます。モードの詳細については、「[メディアの主要言語の特定](#)」を参照してください。

コンパイル済み通話後分析出力

簡潔にするために、次の文字起こし出力では一部の内容が省略記号に置き換えられています。

このサンプルには、オプションの機能 - 生成呼び出しの概要が含まれています。

```
{
  "JobStatus": "COMPLETED",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Transcript": [
    {
      "LoudnessScores": [
        78.63,
        78.37,
        77.98,
        74.18
      ],
      "Content": "[PII], my name is [PII], how can I help?",
      ...

      "Content": "Well, I would like to cancel my recipe subscription.",
      "IssuesDetected": [
        {
          "CharacterOffsets": {
            "Begin": 7,
            "End": 51
          }
        }
      ],
      ...

      "Content": "That's very sad to hear. Can I offer you a 50% discount to have you stay with us?",
      "Items": [
        ...
      ],
      "Id": "649afe93-1e59-4ae9-a3ba-a0a613868f5d",
      "BeginOffsetMillis": 12180,
      "EndOffsetMillis": 16960,
      "Sentiment": "NEGATIVE",
      "ParticipantRole": "AGENT"
    },
  ],
}
```

```

    {
      "LoudnessScores": [
        80.22,
        79.48,
        82.81
      ],
      "Content": "That is a very generous offer. And I accept.",
      "Items": [
        ...
      ],
      "Id": "f9266cba-34df-4ca8-9cea-4f62a52a7981",
      "BeginOffsetMillis": 17140,
      "EndOffsetMillis": 19860,
      "Sentiment": "POSITIVE",
      "ParticipantRole": "CUSTOMER"
    },
    {
      ...

      "Content": "Wonderful. I made all changes to your account and now this
discount is applied, please check.",
      "OutcomesDetected": [
        {
          "CharacterOffsets": {
            "Begin": 12,
            "End": 78
          }
        }
      ],
      ...

      "Content": "I will send an email with all the details to you today, and I
will call you back next week to follow up. Have a wonderful evening.",
      "Items": [
        ...
      ],
      "Id": "78cd0923-cafd-44a5-a66e-09515796572f",
      "BeginOffsetMillis": 31800,
      "EndOffsetMillis": 39450,
      "Sentiment": "POSITIVE",
      "ParticipantRole": "AGENT"
    },

```

```

    {
      "LoudnessScores": [
        78.54,
        68.76,
        67.76
      ],
      "Content": "Thank you very much, sir. Goodbye.",
      "Items": [
        ...
      ],
      "Id": "5c5e6be0-8349-4767-8447-986f995af7c3",
      "BeginOffsetMillis": 40040,
      "EndOffsetMillis": 42460,
      "Sentiment": "POSITIVE",
      "ParticipantRole": "CUSTOMER"
    }
  ],
  ...

  "Categories": {
    "MatchedDetails": {
      "positive-resolution": {
        "PointsOfInterest": [
          {
            "BeginOffsetMillis": 40040,
            "EndOffsetMillis": 42460
          }
        ]
      }
    },
    "MatchedCategories": [
      "positive-resolution"
    ]
  },
  ...

  "ConversationCharacteristics": {
    "NonTalkTime": {
      "Instances": [],
      "TotalTimeMillis": 0
    },
    "Interruptions": {

```



```
"TotalCount": 2,
"TotalTimeMillis": 10700,
"InterruptionsByInterrupter": {
  "AGENT": [
    {
      "BeginOffsetMillis": 26040,
      "DurationMillis": 5510,
      "EndOffsetMillis": 31550
    }
  ],
  "CUSTOMER": [
    {
      "BeginOffsetMillis": 770,
      "DurationMillis": 5190,
      "EndOffsetMillis": 5960
    }
  ]
},
"TotalConversationDurationMillis": 42460,
"Sentiment": {
  "OverallSentiment": {
    "AGENT": 2.5,
    "CUSTOMER": 2.1
  },
  "SentimentByPeriod": {
    "QUARTER": {
      "AGENT": [
        {
          "Score": 0.0,
          "BeginOffsetMillis": 0,
          "EndOffsetMillis": 9862
        },
        {
          "Score": -5.0,
          "BeginOffsetMillis": 9862,
          "EndOffsetMillis": 19725
        },
        {
          "Score": 5.0,
          "BeginOffsetMillis": 19725,
          "EndOffsetMillis": 29587
        }
      ]
    }
  }
}
```

```

        "Score": 5.0,
        "BeginOffsetMillis": 29587,
        "EndOffsetMillis": 39450
    },
    ],
    "CUSTOMER": [
        {
            "Score": -2.5,
            "BeginOffsetMillis": 0,
            "EndOffsetMillis": 10615
        },
        {
            "Score": 5.0,
            "BeginOffsetMillis": 10615,
            "EndOffsetMillis": 21230
        },
        {
            "Score": 2.5,
            "BeginOffsetMillis": 21230,
            "EndOffsetMillis": 31845
        },
        {
            "Score": 5.0,
            "BeginOffsetMillis": 31845,
            "EndOffsetMillis": 42460
        }
    ]
}

},
"TalkSpeed": {
    "DetailsByParticipant": {
        "AGENT": {
            "AverageWordsPerMinute": 150
        },
        "CUSTOMER": {
            "AverageWordsPerMinute": 167
        }
    }
},
"TalkTime": {
    "DetailsByParticipant": {
        "AGENT": {
            "TotalTimeMillis": 32750

```

```

        },
        "CUSTOMER": {
            "TotalTimeMillis": 18010
        }
    },
    "TotalTimeMillis": 50760
},
"ContactSummary": { // Optional feature - Generative call summarization
    "AutoGenerated": {
        "OverallSummary": {
            "Content": "The customer initially wanted to cancel but the agent
convinced them to stay by offering a 50% discount, which the customer accepted after
reconsidering cancelling given the significant savings. The agent ensured the discount
was applied and said they would follow up to ensure the customer remained happy with
the revised subscription."
        }
    }
},
"AnalyticsJobDetails": {
    "Skipped": []
},
...
}

```

通話の生成要約の有効化

Note

Amazon Bedrock を利用：AWS [自動不正検出](#)を実装します。生成 AI によるコンタクト後の要約は Amazon Bedrock 上に構築されているため、ユーザーは Amazon Bedrock に実装されている制御を最大限に活用して、人工知能 (AI) の安全性、セキュリティ、責任ある使用を適用できます。

通話の生成要約を通話後の分析ジョブで使用するには、以下の例を参照してください。

AWS Management Console

[要約] パネルで、[通話の生成要約] を有効にすると、概要が出力に表示されます。

Configure job - optional [Info](#)

Content removal

Content removal conceals information in the resulting transcript from your source audio file. Amazon Transcribe changes items in the transcript and does not modify the source audio.

- ☒ **PII redaction** [Info](#)
Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output. For example, (123) 456-7890 will be masked as [PHONE].
- ☐ **Vocabulary filtering** [Info](#)
Vocabulary filtering can remove, mask or tag specified words in the final transcript.

Customization

- ☐ **Custom vocabulary** [Info](#)
A custom vocabulary improves the accuracy of recognizing words and phrases specific to your use case.

Summarization

- ☐ **Generative call summarization** [Info](#)
Generative call summarization provides a summary of the transcript, including important components of the conversation.

Categories

Create categories to classify calls. For example, you can create a category for all cancellation requests. When you run an analytics job, Amazon Transcribe applies that category to all calls that request cancellation.

Call analytics categories (1) [Info](#)

< 1 > 

	Name ▾	Type ▾	Created ▾	Modified ▾
☐	CatchNegativeSentiment	POST_CALL	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)	February 17 2023, 10:43 (UTC-08:00)

AWS CLI

この例では、[start-call-analytics-job](#) コマンドと Settings パラメータを Summarization のサブパラメータで使用しています。詳細については、「[StartCallAnalyticsJob](#)」を参照してください。

```
aws transcribe start-call-analytics-job \  
--region us-west-2 \  
--call-analytics-job-name my-first-call-analytics-job \  
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \  
--output-location s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/ \  
--data-access-role-arn arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole \  
--channel-definitions ChannelId=0,ParticipantRole=AGENT  
ChannelId=1,ParticipantRole=CUSTOMER  
--settings '{"Summarization":{"GenerateAbstractiveSummary":true}}'
```

次に、[start-call-analytics-job](#) コマンドと、ジョブの要約を有効にするリクエストボディを使用した別の例を示します。

```
aws transcribe start-call-analytics-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-call-analytics-job.json
```

ファイル `my-call-analytics-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "CallAnalyticsJobName": "my-first-call-analytics-job",  
  "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputLocation": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/",  
  "ChannelDefinitions": [  
    {  
      "ChannelId": 0,  
      "ParticipantRole": "AGENT"  
    }  
  ]  
}
```

```

    },
    {
        "ChannelId": 1,
        "ParticipantRole": "CUSTOMER"
    }
],
"Settings": {
    "Summarization": {
        "GenerateAbstractiveSummary": true
    }
}
}
}

```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) を使用して、[start_call_analytics_job](#) メソッドを使用して要約を有効にしたコール分析を開始します。詳細については、「[StartCallAnalyticsJob](#)」を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」の章を参照してください。

```

from __future__ import print_function
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-call-analytics-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
output_location = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/"
data_access_role = "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
transcribe.start_call_analytics_job(
    CallAnalyticsJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    DataAccessRoleArn = data_access_role,
    OutputLocation = output_location,
    ChannelDefinitions = [
        {
            'ChannelId': 0,
            'ParticipantRole': 'AGENT'
        }
    ]
)

```

```
    },
    {
        'ChannelId': 1,
        'ParticipantRole': 'CUSTOMER'
    }
],
Settings = {
    "Summarization":
        {
            "GenerateAbstractiveSummary": true
        }
}
)

while True:
    status = transcribe.get_call_analytics_job(CallAnalyticsJobName = job_name)
    if status['CallAnalyticsJob']['CallAnalyticsJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
    print(status)
```

リアルタイムコール分析

リアルタイムコール分析では、問題への対処や問題の発生時のエスカレーションの緩和に役立つリアルタイムのインサイトが得られます。

リアルタイムコール分析では、次のようなインサイトが得られます。

- ルールを使用して特定のキーワードやフレーズにフラグを付ける [カテゴリイベント](#); カテゴリイベントを使用して [リアルタイムアラート](#) を作成する
- [問題検出](#) では、各音声セグメント内で話されている問題を特定する
- テキストトランスクリプト内の [PII \(機密データ\) の識別](#)
- テキストトランスクリプト内の [PII \(機密データ\) リダクション](#)
- 各音声セグメントの [感情分析](#)

リアルタイムコール分析に加えて、Amazon Transcribe はメディアストリームで [通話後分析](#) を実行することもできます。 [PostCallAnalyticsSettings](#) パラメータを使用して、通話後分析をリアルタイムコール分析リクエストに含めることができます。

リアルタイムインサイト

このセクションでは、リアルタイムコール分析の文字起こしで得られるインサイトについて詳しく説明します。

イベントカテゴリ

カテゴリイベントを使用すると、正確なキーワードまたはフレーズに基づいて文字起こしを一致させることができます。たとえば、「マネージャーと話したい」というフレーズにフィルターを設定すると、その正確なフレーズが Amazon Transcribe フィルターされます。

以下は[出力例](#)です。

リアルタイムコール分析カテゴリの作成について詳しくは、「[リアルタイム文字起こしのカテゴリの作成](#)」を参照してください。

Tip

カテゴリイベントでは、リアルタイムアラートを設定できます。詳細については、「[カテゴリマッチに関するリアルタイムアラートの作成](#)」を参照してください。

問題検出

問題検出では、各音声セグメント内で検出された問題の簡潔な概要が表示されます。問題検出機能を使うと、以下のことができます。

- 通話中や通話後に手動でメモを取る手間を減らします。
- エージェントの効率を向上させて、お客様への対応を迅速に行えるようにします。

Note

問題検出は、オーストラリア (en-AU)、英国 (en-GB)、米国 (en-US) の英語の方言でサポートされています。

問題検出機能はあらゆる業界や業種に対応し、コンテキストに基づいています。これは初期状態で機能するため、モデルトレーニングやカスタムカテゴリなどのカスタマイズには対応していません。

リアルタイムコール分析による問題検出は、完全な音声セグメントごとに実行されます。

以下は[出力例](#)です。

PII (機密データ) の識別

機密データ識別は、テキストトランスクリプト内の個人を特定できる情報 (PII) をラベル付けします。このパラメータは、お客様の情報を保護するのに役立ちます。

Note

リアルタイムの PII 識別は、オーストラリア (en-AU)、英国 ()、米国 (en-GB)、スペイン語 (en-US) の英語の方言でサポートされています es-US。

リアルタイムコール分析による PII 識別は、完全な音声セグメントごとに実行されます。

この機能を使用して識別される PII のリストを表示したり、を使用した PII 識別の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [個人を特定できる情報の編集または特定](#)。

以下は[出力例](#)です。

PII (機密データ) リダクション

機密データのリダクションでは、テキストトランスクリプトの個人を特定できる情報 (PII) が PII のタイプ (例: [NAME]) に置き換えられます。このパラメータは、お客様の情報を保護するのに役立ちます。

Note

リアルタイムの PII 秘匿化は、オーストラリア (en-AU)、英国 () en-GB、米国 ()、スペイン語 (en-US) の各英語の方言でサポートされています es-US。

リアルタイムコール分析による PII リダクションは、完全な音声セグメントごとに実行されます。

この機能を使用して編集された PII のリストの表示、または Amazon Transcribeでのリダクションの詳細については、「[個人を特定できる情報の編集または特定](#)」を参照してください。

以下は[出力例](#)です。

感情分析

感情分析では、コール全体を通してカスタマーとエージェントがどのように感じているかを推定します。このメトリックは音声セグメントごとに提供され、定性値 (positive、neutral、mixed、または negative) で表されます。

このパラメータを使用すると、各通話参加者の全体的な感情と、各音声セグメントの各参加者の感情を定性的に評価できます。このメトリクスは、コールが終了するまでに、エージェントが怒っているカスタマーを喜ばすことができるかどうかを識別するのに役立ちます。

リアルタイムコール分析による感情分析は、完全な音声セグメントごとに実行されます。

感情分析は初期状態で機能するため、モデルトレーニングやカスタムカテゴリなどのカスタマイズには対応していません。

以下は[出力例](#)です。

リアルタイム文字起こしのカテゴリの作成

リアルタイムコール分析はカスタムカテゴリの作成をサポートしており、これを使用して特定のビジネスニーズに合わせてトランスクリプト分析を調整できます。

さまざまなシナリオをカバーするカテゴリをいくつでも作成できます。作成するカテゴリごとに、1 から 20 のルールを作成する必要があります。リアルタイムコール分析の文字起こしでは、[TranscriptFilter](#) (キーワードマッチ) を使用するルールのみがサポートされます。[CreateCallAnalyticsCategory](#) オペレーションでルールを使用する詳細については、「[リアルタイムコール分析カテゴリのルールの条件](#) セクション」を参照してください。

メディア内のコンテンツが、指定したカテゴリのすべてのルールに一致する場合、Amazon Transcribe は出力にそのカテゴリのラベル付けを行います。JSON 出力形式のカテゴリマッチの例については、「[カテゴリイベント出力](#)」を参照してください。

カスタムカテゴリを使用してできるその他の例を紹介します。

- 特定のキーワードセットにフラグを付けて追跡することで、早急な対応が必要な問題を特定できます。
- エージェントが特定のフレーズを話す (または省略) など、コンプライアンスをモニタリングする
- 特定の単語やフレーズにリアルタイムでフラグを付け、カテゴリマッチを設定して即時アラートを設定できます。たとえば、「マネージャーと話す」と言うお客様についてのリアルタイムコール分

析カテゴリを作成した場合、このリアルタイムのカテゴリマッチに対して、勤務中のマネージャーに通知する [イベントアラート](#) を設定できます。

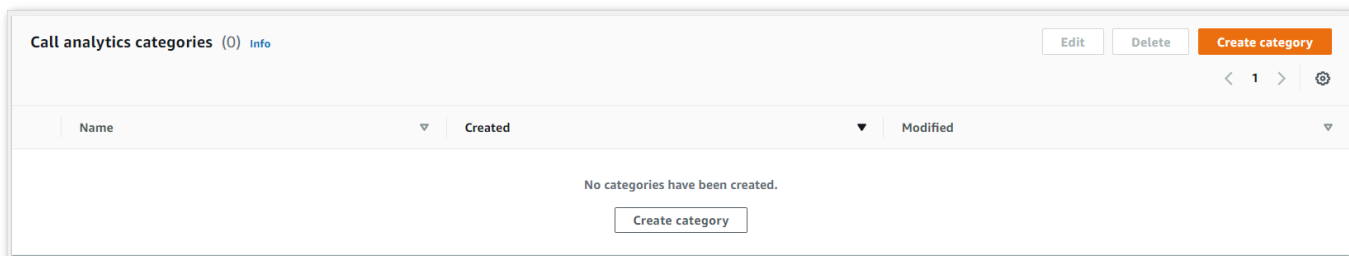
通話後カテゴリとリアルタイムカテゴリ

新しいカテゴリを作成する場合、通話後カテゴリ (POST_CALL) として作成するか、リアルタイムカテゴリ (REAL_TIME) として作成するかを指定できます。オプションを指定しない場合、カテゴリはデフォルトで通話後カテゴリとして作成されます。リアルタイムのカテゴリマッチは、リアルタイムのアラートを作成するために使用することができます。詳細については、「[カテゴリマッチに関するリアルタイムアラートの作成](#)」を参照してください。

リアルタイムコール分析の新しいカテゴリを作成するには、AWS Management Console、AWS CLI、または AWS SDK を使用できます。例については以下を参照してください。

AWS Management Console

1. ナビゲーションペインで、Amazon Transcribe 分析の呼び出し Amazon Transcribe を選択します。
2. [コール分析カテゴリ] を選択すると、[コール分析カテゴリ] ページに移動します。「カテゴリの作成」ボタンを選択します。



3. [カテゴリの作成ページ] が表示されます。カテゴリの名前を入力し、カテゴリタイプのドロップダウンメニューで [リアルタイムコール分析] を選択します。

Category settings

Category name

MyCategory

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, ., _ , and - (hyphen).

Category type [Info](#)

Choose category type ▲

Batch call analytics

Real time call analytics

☒ Use a template (recommended)
Use a template to edit predefined rules.

☐ Create from scratch
If you know the rules that you want to define, choose this option.

Template type [Info](#)

Choose the template for the category that most closely matches the one you want to create.

Choose a template ▼

4. テンプレートを選択してカテゴリを作成することも、一から作成することもできます。

テンプレートを使用する場合: [テンプレートを使用する (推奨)] を選択し、必要なテンプレートを選択してから [カテゴリの作成] を選択します。

Category settings

Category name

MyCategory

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, ., _ , and - (hyphen).

Category type [Info](#)

Real time call analytics ▼

Category creation method [Info](#)

☒ Use a template (recommended)
Use a template to edit predefined rules.

☐ Create from scratch
If you know the rules that you want to define, choose this option.

Template type [Info](#)

Choose the template for the category that most closely matches the one you want to create.

Choose a template ▲

Customer content is negative and mentioned manager

5. カスタムカテゴリを作成する場合: [最初から作成] を選択します。

Create category [Info](#)

Category settings

Category name

The name can be up to 200 characters long. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, -, ., and _ (hyphen).

Category creation method [Info](#)

☐ Use a template (recommended)
Use a template to edit predefined rules.

☒ Create from scratch
If you know the rules that you want to define, choose this option.

Rules

All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1

Rule type [Info](#)

Choose the rule that you want to define.

Choose a rule type ▼

Add rule

You can add up to 19 more rules.

Delete rule

- ドロップダウンメニューを使用して、カテゴリにルールを追加します。1つのカテゴリには最大20ルールまで追加できます。リアルタイムコール分析文字起こしでは、トランスクリプトの内容が一致するルールのみを含めることができます。一致した場合はリアルタイムでフラグが付けられます。

Rules
All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1 Delete rule

Rule type [Info](#)
Choose the rule that you want to define.

Choose a rule type ▲

Transcript content match
Trigger the rule when the speaker says the words or phrases that you specify.

Add rule

You can add up to 19 more rules.

7. ルールが1つあるカテゴリの例を次に示します。お客様が通話中どの時点でも「マネージャーと話す」と言っている場合です。

Rules
All the rule conditions must be met for a transcription job to be classified in this category.

▼ Rule 1 Delete rule

When any of the words were **mentioned** during the **entire call** when the speaker was **customer**.

Rule type [Info](#)
Choose the rule that you want to define.

Transcript content match ▼

Logic [Info](#)
Define the conditions that must be met.

When any of the words were **mentioned** ▼

during the **entire call** ▼

when the speaker was **customer** ▼

Words or phrases [Info](#)
Enter the words or phrases that you want to look for in the transcript. You can enter up to 100 words or phrases.

speak to a manager Add a new word or phrase

The word or phrase can be up to 2,000 characters.

Add rule

You can add up to 19 more rules.

8. カテゴリにルールを追加し終えたら、[カテゴリの作成] を選択します。

AWS CLI

この例では、[create-call-analytics-category](#) コマンドを使用します。詳細については、「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」、「[CategoryProperties](#)」、および「[Rule](#)」を参照してください。

以下の例では、ルールを含むカテゴリを作成します。

- お客様は、通話のどの時点でも「マネージャーと話す」というフレーズを口にしました。

この例は、[create-call-analytics-category](#) コマンドと、カテゴリにルールを追加するリクエストボディを使用しました。

```
aws transcribe create-call-analytics-category \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-analytics-category.json
```

ファイル `my-first-analytics-category.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```
{  
  "CategoryName": "my-new-real-time-category",  
  "InputType": "REAL_TIME",  
  "Rules": [  
    {  
      "TranscriptFilter": {  
        "Negate": false,  
        "Targets": [  
          "speak to the manager"  
        ],  
        "TranscriptFilterType": "EXACT"  
      }  
    }  
  ]  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

この例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して、[create_call_analytics_category](#) メソッドの 引数 `CategoryName` と `Rules` 引数を使用してカテゴリを作成します。詳細については[CreateCallAnalyticsCategory](#)、[CategoryProperties](#)、および[Rule](#)を参照してください。

機能固有の例、シナリオ例、クロスサービス例など、AWS SDKs [SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs](#)「」の章を参照してください。

以下の例では、ルールを含むカテゴリを作成します。

- お客様は、通話のどの時点でも「マネージャーと話す」というフレーズを口にしました。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
category_name = "my-new-real-time-category"
transcribe.create_call_analytics_category(
    CategoryName = category_name,
    InputType = "REAL_TIME",
    Rules = [
        {
            'TranscriptFilter': {
                'Negate': False,
                'Targets': [
                    'speak to the manager'
                ],
            },
            'TranscriptFilterType': 'EXACT'
        }
    ]
)

result = transcribe.get_call_analytics_category(CategoryName = category_name)
print(result)
```

リアルタイムコール分析カテゴリのルールの条件

このセクションでは、[CreateCallAnalyticsCategory](#) API オペレーションを使用して作成できるカスタム REAL_TIME ルールのタイプについて説明します。

問題検出は自動的に行われるため、問題にフラグを付けるためのルールやカテゴリを作成する必要はありません。

リアルタイムコール分析の文字起こしでは、キーワードマッチのみがサポートされます。中断、無音、感情を含むカテゴリを作成したい場合は、「[通話後分析カテゴリのルールの条件](#)」を参照してください。

キーワードマッチ

キーワード ([TranscriptFilter](#) データタイプ) を使用するルールは、以下と一致するように設計されています。

- エージェント、お客様、あるいはその両方が話すカスタム単語またはフレーズ
- エージェント、お客様、あるいはその両方が口にしないカスタム単語またはフレーズ
- 特定の期間に出現するカスタム単語またはフレーズ

[TranscriptFilter](#) で使用できるパラメータの例を以下に示します。

```
"TranscriptFilter": {
  "AbsoluteTimeRange": {
    Specify the time frame, in milliseconds, when the match should occur
  },
  "RelativeTimeRange": {
    Specify the time frame, in percentage, when the match should occur
  },
  "Negate": Specify if you want to match the presence or absence of your custom keywords,
  "ParticipantRole": Specify if you want to match speech from the agent, the customer, or both,
  "Targets": [ The custom words and phrases you want to match ],
  "TranscriptFilterType": Use this parameter to specify an exact match for the specified targets
}
```

これらのパラメータとそれぞれに関連する有効な値の詳細については、

「[CreateCallAnalyticsCategory](#)」および「[TranscriptFilter](#)」を参照してください。

通話後分析とリアルタイム文字起こし

通話後分析は、リアルタイムコール分析文字起こしで利用できるオプション機能です。通話後分析では、標準の[リアルタイム分析インサイト](#)に加えて、次の情報も得られます。

- アクションアイテム: 通話中に特定されたアクションアイテムをすべて一覧表示
- 中断: 一方の参加者がもう一方の参加者の発言を途中で中断したかどうかと、そのタイミングを測定
- 問題: 通話中に特定された問題が表示される

- ラウドネス: 各参加者が話している音量を測定
- 非通話時間: 音声が含まれていない時間を測定
- 結果: 通話中に特定された結果または解決策を提供
- 通話速度: 両方の参加者が話している速度を測定
- 通話時間: 通話中に各参加者が通話した時間 (ミリ秒単位) を測定

有効にすると、オーディオストリームからの通話後分析は、[オーディオファイルからの通話後分析と同様のトランスクリプトを生成](#)し、で指定された Amazon S3 バケットに保存します OutputLocation。さらに、通話後分析はオーディオストリームを記録し、同じ Amazon S3 バケットにオーディオファイル (WAV 形式) として保存します。秘匿化を有効にすると、秘匿化されたトランスクリプトと秘匿化されたオーディオファイルも指定された Amazon S3 バケットに保存されます。音声ストリームで通話後分析を有効にすると、以下に説明するように 2~4 つのファイルが作成されます。

- リダクションが有効になっていない場合、出力ファイルは次のようになります。
 1. 未編集のトランスクリプト
 2. 未編集の音声ファイル
- 未編集オプション (redacted) なしでリダクションを有効にすると、出力ファイルは次のようになります。
 1. 編集済みトランスクリプト
 2. 編集済み音声ファイル
- 未編集オプション (redacted_and_unredacted) ありでリダクションを有効にすると、出力ファイルは次のようになります。
 1. 編集済みトランスクリプト
 2. 編集済み音声ファイル
 3. 未編集のトランスクリプト
 4. 未編集の音声ファイル

リクエストで通話後分析 ([PostCallAnalyticsSettings](#)) を有効にしている、FLAC または OPUS-OGG メディアを使用している場合、トランスクリプトに loudnessScore は表示されず、ストリームの音声録音も作成されないことに注意してください。Transcribe は、90 分を超える長時間実行されるオーディオストリームの通話後分析を提供できない場合があります。

音声ストリームの通話後分析で得られるインサイトについて詳しくは、「[通話後分析インサイト](#)」セクションを参照してください。

 Tip

リアルタイムコール分析リクエストで通話後分析を有効にすると、すべての POST_CALL および REAL-TIME カテゴリが通話後分析の文字起こしに適用されます。

通話後分析を有効にする

通話後分析を有効にするには、リアルタイムコール分析リクエストに [PostCallAnalyticsSettings](#) パラメータを含める必要があります。PostCallAnalyticsSettings を有効にする場合は、次のパラメータを含める必要があります。

- OutputLocation: 通話後のトランスクリプトを保存する Amazon S3 バケット。
- DataAccessRoleArn: 指定した Amazon S3 バケットへアクセスする権限を持つ Amazon S3 ロールの Amazon リソースネーム (ARN)。[リアルタイム分析の信頼ポリシー](#)も使用する必要があることに注意してください。

トランスクリプトの編集版が必要な場合は、リクエストに ContentRedactionOutput または ContentRedactionType を含めることができます。これらのパラメータの詳細については、「API リファレンス」の「[StartCallAnalyticsStreamTranscription](#)」を参照してください。

通話後分析を有効にした状態でリアルタイムコール分析文字起こしを開始するには、AWS Management Console (デモのみ)、HTTP/2、またはWebSocketを使用できます。例については「[リアルタイムコール分析の文字起こしを開始する](#)」を参照してください。

 Important

現在、AWS Management Console のみが、オーディオの例がプリロードされたリアルタイムコール分析のデモを提供しています。独自の音声を使用する場合は、API (HTTP/2、WebSocket、または SDK) を使用する必要があります。

通話後分析の出力例

通話後のトランスクリプトは、セグメントごとにターンバイターン形式で表示されます。これらには、コールの特性、感情、コールサマリー、問題検出、および (オプションで) PII リダクションが含まれます。通話後カテゴリのいずれかが音声コンテンツと一致する場合、そのカテゴリも出力に含まれます。

精度を高め、業界固有の用語など、ユースケースに合わせてトランスクリプトをさらにカスタマイズするには、コール分析リクエストに[カスタム語彙](#)または[カスタム言語モデル](#)を使用します。冒涔的な言葉など、文字起こし結果に表示したくない言葉をマスキング、削除、またはタグ付けするには、[語彙フィルタリング](#)を追加します。

以下に、通話後分析の出力例を示します。

```
{
  "JobStatus": "COMPLETED",
  "LanguageCode": "en-US",
  "AccountId": "1234567890",
  "Channel": "VOICE",
  "Participants": [{
    "ParticipantRole": "AGENT"
  },
  {
    "ParticipantRole": "CUSTOMER"
  }],
  "SessionId": "12a3b45c-de6f-78g9-0123-45h6ab78c901",
  "ContentMetadata": {
    "Output": "Raw"
  }
  "Transcript": [{
    "LoudnessScores": [
      78.63,
      78.37,
      77.98,
      74.18
    ],
    "Content": "[PII], my name is [PII], how can I help?",
    ...

    "Content": "Well, I would like to cancel my recipe subscription.",
    "IssuesDetected": [{
      "CharacterOffsets": {
```

```

        "Begin": 7,
        "End": 51
    }
}],

...

    "Content": "That's very sad to hear. Can I offer you a 50% discount to have you
stay with us?",
    "Id": "649afe93-1e59-4ae9-a3ba-a0a613868f5d",
    "BeginOffsetMillis": 12180,
    "EndOffsetMillis": 16960,
    "Sentiment": "NEGATIVE",
    "ParticipantRole": "AGENT"
},
{
    "LoudnessScores": [
        80.22,
        79.48,
        82.81
    ],
    "Content": "That is a very generous offer. And I accept.",
    "Id": "f9266cba-34df-4ca8-9cea-4f62a52a7981",
    "BeginOffsetMillis": 17140,
    "EndOffsetMillis": 19860,
    "Sentiment": "POSITIVE",
    "ParticipantRole": "CUSTOMER"
},

...

    "Content": "Wonderful. I made all changes to your account and now this discount
is applied, please check.",
    "OutcomesDetected": [{
    "CharacterOffsets": {
        "Begin": 12,
        "End": 78
    }
}],

...

    "Content": "I will send an email with all the details to you today, and I will
call you back next week to follow up. Have a wonderful evening.",
    "Id": "78cd0923-cafd-44a5-a66e-09515796572f",

```

```
    "BeginOffsetMillis": 31800,
    "EndOffsetMillis": 39450,
    "Sentiment": "POSITIVE",
    "ParticipantRole": "AGENT"
  },
  {
    "LoudnessScores": [
      78.54,
      68.76,
      67.76
    ],
    "Content": "Thank you very much, sir. Goodbye.",
    "Id": "5c5e6be0-8349-4767-8447-986f995af7c3",
    "BeginOffsetMillis": 40040,
    "EndOffsetMillis": 42460,
    "Sentiment": "POSITIVE",
    "ParticipantRole": "CUSTOMER"
  }
],
...

"Categories": {
  "MatchedDetails": {
    "positive-resolution": {
      "PointsOfInterest": [{
        "BeginOffsetMillis": 40040,
        "EndOffsetMillis": 42460
      }]
    }
  },
  "MatchedCategories": [
    "positive-resolution"
  ]
},
...

"ConversationCharacteristics": {
  "NonTalkTime": {
    "Instances": [],
    "TotalTimeMillis": 0
  },
  "Interruptions": {
```

```
"TotalCount": 2,
"TotalTimeMillis": 10700,
"InterruptionsByInterrupter": {
  "AGENT": [{
    "BeginOffsetMillis": 26040,
    "DurationMillis": 5510,
    "EndOffsetMillis": 31550
  }],
  "CUSTOMER": [{
    "BeginOffsetMillis": 770,
    "DurationMillis": 5190,
    "EndOffsetMillis": 5960
  }]
},
"TotalConversationDurationMillis": 42460,
"Sentiment": {
  "OverallSentiment": {
    "AGENT": 2.5,
    "CUSTOMER": 2.1
  },
  "SentimentByPeriod": {
    "QUARTER": {
      "AGENT": [{
        "Score": 0.0,
        "BeginOffsetMillis": 0,
        "EndOffsetMillis": 9862
      }],
      {
        "Score": -5.0,
        "BeginOffsetMillis": 9862,
        "EndOffsetMillis": 19725
      },
      {
        "Score": 5.0,
        "BeginOffsetMillis": 19725,
        "EndOffsetMillis": 29587
      },
      {
        "Score": 5.0,
        "BeginOffsetMillis": 29587,
        "EndOffsetMillis": 39450
      }
    ],
  },
}
```

```
        "CUSTOMER": [{
            "Score": -2.5,
            "BeginOffsetMillis": 0,
            "EndOffsetMillis": 10615
        },
        {
            "Score": 5.0,
            "BeginOffsetMillis": 10615,
            "EndOffsetMillis": 21230
        },
        {
            "Score": 2.5,
            "BeginOffsetMillis": 21230,
            "EndOffsetMillis": 31845
        },
        {
            "Score": 5.0,
            "BeginOffsetMillis": 31845,
            "EndOffsetMillis": 42460
        }
    ]
}
},
"TalkSpeed": {
    "DetailsByParticipant": {
        "AGENT": {
            "AverageWordsPerMinute": 150
        },
        "CUSTOMER": {
            "AverageWordsPerMinute": 167
        }
    }
},
"TalkTime": {
    "DetailsByParticipant": {
        "AGENT": {
            "TotalTimeMillis": 32750
        },
        "CUSTOMER": {
            "TotalTimeMillis": 18010
        }
    }
},
"TotalTimeMillis": 50760
```



```
    }  
    },  
    ...  
}
```

リアルタイムコール分析の文字起こしを開始する

リアルタイムコール分析文字起こしを開始する前に、通話で一致 Amazon Transcribe させるすべての[カテゴリ](#)を作成する必要があります。

Note

コール分析トランスクリプトを新しいカテゴリと遡及的に一致させることはできません。コール分析文字起こしを開始する前に作成したカテゴリのみ、その文字起こし出力に適用することができます。

1 つ以上のカテゴリを作成し、音声少なくとも 1 つのカテゴリですべてのルールに一致する場合、Amazon Transcribe は一致するカテゴリで出力にフラグ付けを行います。カテゴリを使用しないことを選択した場合、または音声カテゴリで指定したルールに一致しない場合、トランスクリプトにフラグ付けは行われません。

通話後分析をリアルタイムコール分析文字起こしに含めるには、OutputLocation パラメータを使用してリクエストに Amazon S3 バケットを指定する必要があります。また、指定したバケットへの書き込み権限を持つ DataAccessRoleArn も含める必要があります。リアルタイムコール分析ストリーミングセッションが完了すると、別のトランスクリプトが作成され、指定されたバケットに保存されます。

リアルタイムコール分析では、リアルタイムカテゴリアラートを作成するオプションもあります。手順については、「[カテゴリマッチに関するリアルタイムアラートの作成](#)」を参照してください。

リアルタイムコール分析文字起こしを開始するには、AWS Management Console、HTTP/2、または WebSocket を使用できます。例については以下を参照してください。

⚠ Important

現在、AWS Management Console のみが、オーディオの例がプリロードされたリアルタイムコール分析のデモを提供しています。独自の音声を使用する場合は、API (HTTP/2、WebSocket、または SDK) を使用する必要があります。

AWS Management Console

コール分析リクエストをスタートするには、次の手順を実行します。カテゴリで定義されたすべての特性に一致する通話は、該当するカテゴリでラベル付けされます。

i Note

AWS Management Consoleではデモのみが提供されています。カスタムリアルタイム分析文字起こしを開始するには、[API](#) を使用する必要があります。

1. ナビゲーションペインの「分析の Amazon Transcribe 呼び出し」で、「リアルタイム呼び出しの分析」を選択します。

Amazon Transcribe > Real-time Analytics

Real-time Analytics info

Transcribe Real-time Call Analytics combines powerful speech-to-text and natural language processing (NLP) models that are trained specifically to understand customer service and sales calls. With Transcribe Call Analytics, developers can get a redacted and unredacted transcript, and insights such as customer and agent sentiment, detected issues, and supervisor alerts during the live call.

How it works

This demo experience has been configured to use preloaded audio examples of customer-agent interactions. Before starting the demo, you can optionally create categories in the Category Management page and update content redaction settings under the advance settings



Step 1: Specify input audio

Input audio file

Insurance complaints (en-US) ▼

00:00/00:00



Step 2: Review call categories - optional

Categorize your calls based on custom keywords or phrases.

[View categories](#)



Step 3: Configure output - optional

Apply content redaction settings to your calls.

[Configure advanced settings](#)

Post-call Analytics

Post-call analytics enabled with real-time analytics provides consolidated transcript and audio backup, with the associated analytics, along with further insights such as call summaries and conversation characteristics like non-talk time, interruptions, loudness, and talk speed, after the end of the call in the provided Amazon S3 bucket.

☐ Post-call Analytics

[Start streaming](#)

2. ステップ 1: 入力音声の指定では、ドロップダウンメニューから [デモテストファイル] を選択します。

**Step 1: Specify input audio**

Input audio file

Insurance complaints (en-US)	▲
Insurance complaints (en-US)	✓
Hospitality complaints (en-US)	

3. ステップ 2: 通話カテゴリの確認では、以前に作成したリアルタイムコール分析カテゴリを確認するオプションがあります。リアルタイムコール分析カテゴリはすべて、文字起こしに適用されます。

[カテゴリを表示] を選択すると、新しいペインが開き、既存のリアルタイムコール分析カテゴリが表示され、新しいカテゴリを作成するためのリンクが表示されます。

❗ Retry this demo after [creating your own custom categories](#).

Call analytics categories (4) [Info](#)

0 matches < 1 > ⚙️

Type: Real time call analytics X Clear filters

Name ▼	Type ▼	Created ▼	Modified ▼
No matches We can't find a match. Clear filter			

4. ステップ 3: 入力と出力を設定するでは、追加の設定を適用するオプションがあります。

[詳細設定の構成] を選択すると、コンテンツリダクション設定を指定できる新しいペインが開きます。

Use the following options to identify or redact content from your transcript. Other settings such as Custom Vocabulary, Custom Language Models, Partial results stabilization, Vocabulary Filtering are available through the API, SDK, CLI

▼ Content removal

☒ PII Identification & redaction [Info](#)

Identify or redact one or more types of personally identifiable information (PII) in your transcript

Select PII detection type

☒ Identification only

Label the type of PII identified but not redact it in the transcription output

☐ Identification & redaction

Label the type of PII and also mask the content with the PII entity type in the transcription output.
For example, (123)456-7890 will be masked as [PHONE]

Select PII entity types (11 of 11 selected)

☒ Select All

☒ Financial (6 of 6 selected)

☒ BANK_ACCOUNT_NUMBER

☒ BANK_ROUTING

☒ CREDIT_DEBIT_NUMBER

☒ CREDIT_DEBIT_CVV

☒ CREDIT_DEBIT_EXPIRY

☒ PIN

☒ Personal (5 of 5 selected)

☒ NAME

☒ ADDRESS

☒ PHONE

☒ EMAIL

☒ SSN

The updates that you make here will only be applied when you start stream again.

Cancel

Save

すべての選択を終えたら、[保存] を選択してメインページに戻ります。

- 追加の分析を適用するには、「通話後分析」をオンに切り替えます。これにより、中断、ラウドネス、非通話時間、通話速度、通話時間、問題、アクションアイテム、結果など、通話後分析文字起こしと同じ分析が得られます。通話後分析出力は、リアルタイムコール分析トランスクリプトとは別のファイルに保存されます。

Post-call Analytics

Post-call analytics enabled with real-time analytics provides consolidated transcript and audio backup, with the associated analytics, along with further insights such as call summaries and conversation characteristics like non-talk time, interruptions, loudness, and talk speed, after the end of the call in the provided Amazon S3 bucket.

☐ Post-call Analytics

通話後分析を適用する場合は、Amazon S3 出力ファイルの送信先と IAM ロールを指定する必要があります。オプションで出力を暗号化することもできます。

Post-call Analytics
Post-call analytics enabled with real-time analytics provides consolidated transcript and audio backup, with the associated analytics, along with further insights such as call summaries and conversation characteristics like non-talk time, interruptions, loudness, and talk speed, after the end of the call in the provided Amazon S3 bucket.

☒ Post-call Analytics

Output file destination on S3 [Info](#)
Choose the location to store the output of the post-call analytics. If you input a location in an Amazon S3 bucket that doesn't yet exist, it will be created for you.

Resource URI

[View](#) [Browse S3](#)

Format: s3://bucket, s3://bucket/prefix/, or s3://bucket/prefix/object.

☐ Encryption [Info](#)

IAM role [Info](#)

[Create an IAM role](#) that grants access to the output bucket and KMS key (if specified) with the trust policy shown below
▶ Trust Policy

[Start streaming](#)

6. [ストリーミングの開始] を選択します。

HTTP/2 ストリーム

この例では、コール分析を有効にした状態で HTTP/2 リクエストを作成します。での HTTP/2 ストリーミングの使用の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[HTTP/2 ストリーミングの設定](#)。固有のパラメータとヘッダーの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください[StartCallAnalyticsStreamTranscription](#)。

この例には[通話後分析](#)が含まれています。通話後分析が必要ない場合は、リクエストから `PostCallAnalyticsSettings` セクションを削除してます。

次の例に示す構成イベントは、ストリームの最初のイベントとして渡す必要があることに注意してください。

```
POST /stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
X-Amz-Target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartCallAnalyticsStreamTranscription
Content-Type: application/vnd.amazon.eventstream
X-Amz-Content-Sha256: string
X-Amz-Date: 20220208T235959Z
Authorization: AWS4-HMAC-SHA256 Credential=access-key/20220208/us-west-2/transcribe/aws4_request, SignedHeaders=content-type;host;x-amz-content-sha256;x-amz-date;x-amz-target;x-amz-security-token, Signature=string
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
transfer-encoding: chunked
```

```
{
  "AudioStream": {
    "AudioEvent": {
      "AudioChunk": blob
    },
    "ConfigurationEvent": {
      "ChannelDefinitions": [
        {
          "ChannelId": 0,
          "ParticipantRole": "AGENT"
        },
        {
          "ChannelId": 1,
          "ParticipantRole": "CUSTOMER"
        }
      ],
      "PostCallAnalyticsSettings": {
        "OutputLocation": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/",
        "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
      }
    }
  }
}
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

WebSocket ストリーム

この例では、WebSocket ストリームでコール分析を使用する署名付き URL を作成します。読みやすくするために、改行が追加されています。Amazon Transcribeでの WebSocket ストリームの使用の詳細については、「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。パラメータの詳細については、「[StartCallAnalyticsStreamTranscription](#)」を参照してください。

この例には[通話後分析](#)が含まれています。通話後分析が必要ない場合は、リクエストから PostCallAnalyticsSettings セクションを削除してます。

次の例に示す構成イベントは、ストリームの最初のイベントとして渡す必要があることに注意してください。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/call-analytics-stream-transcription-websocket?
```

```

&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=string
&X-Amz-SignedHeaders=content-type%3Bhost%3Bx-amz-date
&language-code=en-US
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000

{
  "AudioStream": {
    "AudioEvent": {
      "AudioChunk": blob
    },
    "ConfigurationEvent": {
      "ChannelDefinitions": [
        {
          "ChannelId": 0,
          "ParticipantRole": "AGENT"
        },
        {
          "ChannelId": 1,
          "ParticipantRole": "CUSTOMER"
        }
      ],
      "PostCallAnalyticsSettings": {
        "OutputLocation": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/",
        "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
      }
    }
  }
}

```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、[「共通パラメータ」](#) セクションに記載されています。

i Tip

上記の HTTP/2 と WebSocket の例には、通話後分析が含まれています。通話後分析が不要な場合は、リクエストから `PostCallAnalyticsSettings` セクションを削除します。

`PostCallAnalyticsSettings` を有効にする場合は、最初のイベントとして構成イベントを送信する必要があります。構成イベントには、前述の例で示したように、`ChannelDefinitions` および `PostStreamAnalyticsSettings` の設定が含まれます。

バイナリデータはバイナリメッセージとして `content-type application/octet-stream` で渡され、構成イベントはテキストメッセージとして `content-type application/json` で渡されます。

詳細については、「[ストリーミング文字起こしの設定](#)」を参照してください。

カテゴリマッチに関するリアルタイムアラートの作成

リアルタイムアラートを設定するには、まず `REAL_TIME` フラグが付いている

[TranscriptFilterType](#) カテゴリを作成する必要があります。このフラグを使用すると、リアルタイムコール分析文字起こしにカテゴリを適用できます。

新しいカテゴリを作成する手順については、「[リアルタイム文字起こしのカテゴリの作成](#)」を参照してください。

リアルタイムコール分析文字起こしを開始すると、`REAL_TIME` フラグの付いたすべてのカテゴリが文字起こし出力にセグメントレベルで自動的に適用されます。`TranscriptFilterType` マッチがあると、その内容はトランスクリプトの `CategoryEvent` セクションに表示されます。その後、このパラメータとそのサブパラメータ、`MatchedCategories` および `MatchedDetails` を使用して、カスタムリアルタイムアラートを設定できます。

`CategoryEvent` マッチのリアルタイムコール分析文字起こしの出力例を次に示します。

```
"CategoryEvent": {
  "MatchedCategories": [ "shipping-complaint" ],
  "MatchedDetails": {
    "my package never arrived" : {
      "TimestampRanges": [
        {
```



```

        "BeginOffsetMillis": 19010,
        "EndOffsetMillis": 22690
    }
}
},

```

前述の例は、「荷物が届きません」という音声と完全に一致するテキストを表しています。これは「配送に関する苦情」カテゴリ内のルールを表しています。

リアルタイムアラートには、一覧表示されているパラメータを任意に組み合わせて含めるように設定できます。たとえば、一致したフレーズのみ (MatchedDetails) またはカテゴリ名 (MatchedCategories) のみを含むようにアラートを設定できます。または、すべてのパラメータを含むようにアラートを設定することもできます。

リアルタイムアラートをどのように設定するかは、組織のインターフェースと希望するアラートタイプによって異なります。たとえば、ポップアップ通知、電子メール、テキスト、またはシステムが受け付けることができるその他のアラートを送信するように CategoryEvent マッチを設定できます。

リアルタイムコール分析出力

リアルタイムコール分析のトランスクリプトは、セグメントごとにターンバイターン形式で表示されます。これらには、カテゴリイベント、問題検出、感情、PII の識別とリダクションが含まれます。カテゴリイベントでは、リアルタイムアラートを設定できます。詳細については、「[カテゴリマッチに関するリアルタイムアラートの作成](#)」を参照してください。

精度を高め、業界固有の用語など、ユースケースに合わせてトランスクリプトをさらにカスタマイズするには、コール分析リクエストに[カスタム語彙](#)または[カスタム言語モデル](#)を使用します。冒涇的な言葉など、文字起こし結果に表示したくない言葉をマスキング、削除、またはタグ付けするには、[語彙フィルタリング](#)を追加します。

以下のセクションでは、リアルタイムコール分析文字起こしの JSON 出力の例を示します。

イベントカテゴリ

カテゴリの一致は、次のように文字起こし出力で表示されます。この例は、19010 ミリ秒のタイムスタンプから 22690 ミリ秒のタイムスタンプまでの音声「ネットワークに関する苦情」カテゴリ

と一致していることを示しています。この場合、カスタムの「ネットワークに関する苦情」カテゴリでは、お客様が「ネットワークの問題」(単語が完全に一致) と言う必要がありました。

```
"CategoryEvent": {
  "MatchedCategories": [
    "network-complaint"
  ],
  "MatchedDetails": {
    "network issues" : {
      "TimestampRanges": [
        {
          "BeginOffsetMillis": 9299375,
          "EndOffsetMillis": 7899375
        }
      ]
    }
  }
},
```

問題検出

文字起こし出力では、問題検出マッチは次のように表示されます。この例では、文字 26 から文字 62 までのテキストが問題を説明してます。

```
"UtteranceEvent": {
  ...
  "Transcript": "Wang Xiulan I'm tired of the network issues my phone is having.",
  ...
  "IssuesDetected": [
    {
      "CharacterOffsets": {
        "BeginOffsetChar": 26,
        "EndOffsetChar": 62
      }
    }
  ]
},
```

感情

文字起こし出力では、感情分析は次のように表示されます。

```
"UtteranceEvent": {
  ...
  "Sentiment": "NEGATIVE",
  "Items": [{
    ...
```

PII 識別

文字起こし出力では、PII 識別は次のように表示されます。

```
"Entities": [
  {
    "Content": "Wang Xiulan",
    "Category": "PII",
    "Type": "NAME",
    "BeginOffsetMillis": 799375,
    "EndOffsetMillis": 199375,
    "Confidence": 0.9989
  }
],
```

PII リダクション

文字起こし出力では、PII リダクションは次のように表示されます。

```
"Content": "[NAME]. Hi, [NAME]. I'm [NAME] Happy to be helping you today.",
"Redaction": {
  "RedactedTimestamps": [
    {
      "BeginOffsetMillis": 32670,
      "EndOffsetMillis": 33343
    },
    {
      "BeginOffsetMillis": 33518,
      "EndOffsetMillis": 33858
    },
    {
      "BeginOffsetMillis": 34068,
      "EndOffsetMillis": 34488
    }
  ]
},
```

コンパイル済みのリアルタイムコール分析出力

簡潔にするために、次の文字起こし出力では一部の内容が省略記号に置き換えられています。

```
{
  "CallAnalyticsTranscriptResultStream": {
    "BadRequestException": {},
    "ConflictException": {},
    "InternalFailureException": {},
    "LimitExceededException": {},
    "ServiceUnavailableException": {},
    "UtteranceEvent": {
      "UtteranceId": "58c27f92-7277-11ec-90d6-0242ac120003",
      "ParticipantRole": "CUSTOMER",
      "IsPartial": false,
      "Transcript": "Wang Xiulan I'm tired of the network issues my phone is
having.",
      "BeginOffsetMillis": 19010,
      "EndOffsetMillis": 22690,
      "Sentiment": "NEGATIVE",
      "Items": [{
        "Content": "Wang",
        "BeginOffsetMillis": 379937,
        "EndOffsetMillis": 299375,
        "Type": "pronunciation",
        "Confidence": 0.9961,
        "VocabularyFilterMatch": false
      },
      {
        "Content": "Xiulan",
        "EndOffsetMillis": 5899375,
        "BeginOffsetMillis": 3899375,
        "Type": "pronunciation",
        "Confidence": 0.9961,
        "VocabularyFilterMatch": false
      },
      ...
      {
        "Content": "network",
        "EndOffsetMillis": 199375,
        "BeginOffsetMillis": 9299375,
        "Type": "pronunciation",
        "Confidence": 0.9961,
        "VocabularyFilterMatch": false
      }
    ]
  }
}
```

```

    },
    {
      "Content": "issues",
      "EndOffsetMillis": 7899375,
      "BeginOffsetMillis": 5999375,
      "Type": "pronunciation",
      "Confidence": 0.9961,
      "VocabularyFilterMatch": false
    },
    {
      "Content": "my",
      "EndOffsetMillis": 9199375,
      "BeginOffsetMillis": 7999375,
      "Type": "pronunciation",
      "Confidence": 0.9961,
      "VocabularyFilterMatch": false
    },
    {
      "Content": "phone",
      "EndOffsetMillis": 199375,
      "BeginOffsetMillis": 9299375,
      "Type": "pronunciation",
      "Confidence": 0.9961,
      "VocabularyFilterMatch": false
    },
    ...
  ],
  "Entities": [{
    "Content": "Wang Xiulan",
    "Category": "PII",
    "Type": "NAME",
    "BeginOffsetMillis": 7999375,
    "EndOffsetMillis": 199375,
    "Confidence": 0.9989
  }],
  "IssuesDetected": [{
    "CharacterOffsets": {
      "BeginOffsetChar": 26,
      "EndOffsetChar": 62
    }
  }
  ]
},
"CategoryEvent": {
  "MatchedCategories": [

```

```
        "network-complaint"
    ],
    "MatchedDetails": {
        "network issues" : {
            "TimestampRanges": [
                {
                    "BeginOffsetMillis": 9299375,
                    "EndOffsetMillis": 7899375
                }
            ]
        }
    }
}
```

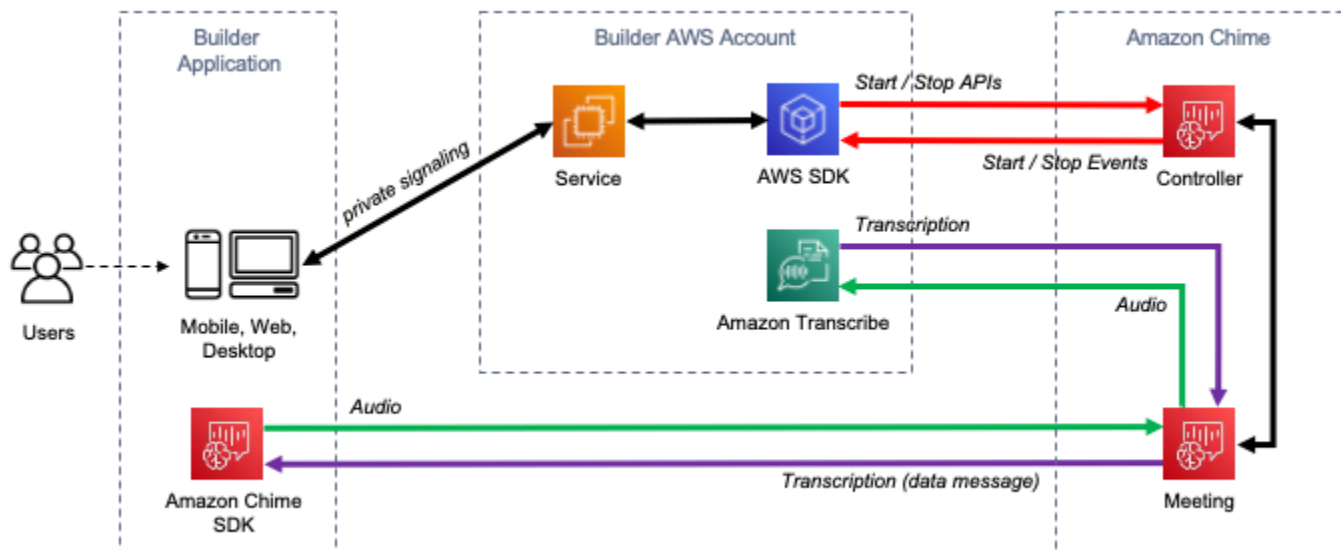
リアルタイムでの Amazon Chime 通話の文字起こし

Amazon Transcribe は Amazon Chime SDK と統合されているため、Amazon Chime 呼び出しのリアルタイム文字起こしが容易になります。

SDK API を使用して文字起こし Amazon Transcribe しを Amazon Chime リクエストすると、はへの音声のストリーミング Amazon Chime を開始し、呼び出しの期間中もそのストリーミングを継続します。

Amazon Chime SDK は「アクティブトーカー」アルゴリズムを使用して上位 2 人のアクティブトーカーを選択し、1 つのストリームを介して 2 つの別々のチャネル Amazon Transcribe としてに音声を送信します。会議参加者は、Amazon Chime SDK データメッセージを介してユーザー属性の文字起こしを受け取ります。配信例は [Amazon Chime SDK デベロッパーガイド](#) で確認できます。

文字 Amazon Chime 起こしのデータフローを次の図に示します。



リアルタイム Amazon Chime 文字起こしの設定方法の詳細については、[SDK デベロッパーガイドの Amazon Chime 「SDK ライブ文字起こしの使用」](#) を参照してください。Amazon Chime API オペレーションについては、「[Amazon Chime SDK API リファレンス](#)」を参照してください。

📘 「Machine AWS Machine Learning ブログ」で詳しく調べる

リアルタイム文字起こしによる精度の向上について詳しくは、以下をご覧ください。

- [Amazon Chime SDK ミーティングで、Amazon Transcribe および を使用したライブ文字起こしがサポートされるようになりました Amazon Transcribe Medical](#)
- [遠隔医療ソリューションのAmazon Chime SDK](#)

SDK を使用した Amazon Transcribe のコード例 AWS SDKs

次のコード例は、AWS Software Development Kit (SDK) で Amazon Transcribe を使用方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

「シナリオ」は、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

コードの例

- [SDK を使用した Amazon Transcribe の基本的な例 AWS SDKs](#)
 - [SDK を使用した Amazon Transcribe のアクション AWS SDKs](#)
 - [AWS SDK または CLI CreateVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteMedicalTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI GetTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI GetVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListMedicalTranscriptionJobsで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListTranscriptionJobsで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListVocabulariesで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI StartMedicalTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI StartTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI UpdateVocabularyで を使用する](#)
- [SDK を使用した Amazon Transcribe のシナリオ AWS SDKs](#)
 - [Amazon Transcribe ストリーミングアプリケーションを構築する](#)
 - [AWS SDK を使用してテキストを音声に変換し、テキストに戻す](#)

- [AWS SDK を使用して Amazon Transcribe カスタム語彙を作成および絞り込む](#)
- [AWS SDK を使用して Amazon Transcribe で音声を書き起こし、ジョブデータを取得する](#)

SDK を使用した Amazon Transcribe の基本的な例 AWS SDKs

次のコード例は、SDKs で AWS Amazon Transcribe の基本を使用する方法を示しています。

例

- [SDK を使用した Amazon Transcribe のアクション AWS SDKs](#)
 - [AWS SDK または CLI CreateVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteMedicalTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI DeleteVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI GetTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI GetVocabularyで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListMedicalTranscriptionJobsで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListTranscriptionJobsで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI ListVocabulariesで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI StartMedicalTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI StartTranscriptionJobで を使用する](#)
 - [AWS SDK または CLI UpdateVocabularyで を使用する](#)

SDK を使用した Amazon Transcribe のアクション AWS SDKs

次のコード例は、AWS SDKs を使用して個々の Amazon Transcribe アクションを実行する方法を示しています。それぞれの例には、GitHub へのリンクがあり、そこにはコードの設定と実行に関する説明が記載されています。

これらの抜粋は、Amazon Transcribe API を呼び出し、コンテキスト内で実行する必要がある大規模なプログラムからのコード抜粋です。アクションは [SDK を使用した Amazon Transcribe のシナリオ AWS SDKs](#) のコンテキスト内で確認できます。

以下の例には、最も一般的に使用されるアクションのみ含まれています。詳細な一覧については、「[Amazon Transcribe API リファレンス](#)」を参照してください。

例

- [AWS SDK または CLI CreateVocabulary で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI DeleteMedicalTranscriptionJob で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI DeleteTranscriptionJob で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI DeleteVocabulary で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI GetTranscriptionJob で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI GetVocabulary で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI ListMedicalTranscriptionJobs で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI ListTranscriptionJobs で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI ListVocabularies で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI StartMedicalTranscriptionJob で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI StartTranscriptionJob で 使用する](#)
- [AWS SDK または CLI UpdateVocabulary で 使用する](#)

AWS SDK または CLI **CreateVocabulary** で 使用する

以下のコード例は、CreateVocabulary の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Create a custom vocabulary using a list of phrases. Custom vocabularies
/// improve transcription accuracy for one or more specific words.
/// </summary>
/// <param name="languageCode">The language code of the vocabulary.</param>
/// <param name="phrases">Phrases to use in the vocabulary.</param>
/// <param name="vocabularyName">Name for the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> CreateCustomVocabulary(LanguageCode
languageCode,
    List<string> phrases, string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.CreateVocabularyAsync(
        new CreateVocabularyRequest
        {
            LanguageCode = languageCode,
            Phrases = phrases,
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}

```

- API の詳細については、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)の「CreateVocabulary」を参照してください。

CLI

AWS CLI

カスタム語彙を作成するには

次の create-vocabulary 例は、カスタム語彙を作成します。カスタム語彙を作成するには、より正確に書き起こすべき用語のすべてを含むテキストファイルを作成しておく必要があります。vocabulary-file-uri として、そのテキストファイルの Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) URI を指定します。language-code として、カスタム語彙の言語に対応する言語コードを指定します。vocabulary-name として、カスタムボキャブラリーに付ける名前を指定します。

```

aws transcribe create-vocabulary \
    --language-code language-code \

```

```
--vocabulary-name cli-vocab-example \  
--vocabulary-file-uri s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/the-text-  
file-for-the-custom-vocabulary.txt
```

出力:

```
{  
  "VocabularyName": "cli-vocab-example",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "VocabularyState": "PENDING"  
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def create_vocabulary(  
    vocabulary_name, language_code, transcribe_client, phrases=None,  
    table_uri=None  
):  
    """  
    Creates a custom vocabulary that can be used to improve the accuracy of  
    transcription jobs. This function returns as soon as the vocabulary  
    processing  
    is started. Call get_vocabulary to get the current status of the vocabulary.  
    The vocabulary is ready to use when its status is 'READY'.  
  
    :param vocabulary_name: The name of the custom vocabulary.
```

```

:param language_code: The language code of the vocabulary.
                       For example, en-US or nl-NL.
:param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
:param phrases: A list of comma-separated phrases to include in the
vocabulary.
:param table_uri: A table of phrases and pronunciation hints to include in
the
                   vocabulary.
:return: Information about the newly created vocabulary.
"""
try:
    vocab_args = {"VocabularyName": vocabulary_name, "LanguageCode":
language_code}
    if phrases is not None:
        vocab_args["Phrases"] = phrases
    elif table_uri is not None:
        vocab_args["VocabularyFileUri"] = table_uri
    response = transcribe_client.create_vocabulary(**vocab_args)
    logger.info("Created custom vocabulary %s.", response["VocabularyName"])
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't create custom vocabulary %s.",
vocabulary_name)
    raise
else:
    return response

```

- API の詳細については、AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンスの「[CreateVocabulary](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **DeleteMedicalTranscriptionJob**で を使用する

以下のコード例は、DeleteMedicalTranscriptionJob の使用方法を示しています。

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a medical transcription job. Also deletes the transcript
associated with the job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">Name of the medical transcription job to delete.</
param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteMedicalTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await
        _amazonTranscribeService.DeleteMedicalTranscriptionJobAsync(
            new DeleteMedicalTranscriptionJobRequest()
            {
                MedicalTranscriptionJobName = jobName
            });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

医療文字起こしジョブを削除するには

次の delete-medical-transcription-job の例は、医療文字起こしジョブを削除します。

```
aws transcribe delete-medical-transcription-job \  
  --medical-transcription-job-name medical-transcription-job-name
```

このコマンドでは何も出力されません。

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[DeleteMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[DeleteMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";  
// Set the AWS Region.  
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"  
// Create an Amazon Transcribe service client object.  
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });  
export { transcribeClient };
```

医療分野の文字起こしジョブを削除します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js  
import { DeleteMedicalTranscriptionJobCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";  
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";
```



```
// Set the parameters
export const params = {
  MedicalTranscriptionJobName: "MEDICAL_JOB_NAME", // For example,
  'medical_transcription_demo'
};

export const run = async () => {
  try {
    const data = await transcribeClient.send(
      new DeleteMedicalTranscriptionJobCommand(params),
    );
    console.log("Success - deleted");
    return data; // For unit tests.
  } catch (err) {
    console.log("Error", err);
  }
};
run();
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for JavaScript API リファレンス」の「[DeleteMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **DeleteTranscriptionJob**で 使用する

以下のコード例は、DeleteTranscriptionJob の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a transcription job. Also deletes the transcript associated with
the job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">Name of the transcription job to delete.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await
        _amazonTranscribeService.DeleteTranscriptionJobAsync(
            new DeleteTranscriptionJobRequest()
            {
                TranscriptionJobName = jobName
            });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

文字起こしジョブの 1 つを削除するには

次の delete-transcription-job 例では、トランスクリプションジョブの 1 つを削除します。

```
aws transcribe delete-transcription-job \  
  --transcription-job-name your-transcription-job
```

このコマンドでは何も出力されません。

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

- API の詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

文字起こしジョブを削除します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js  
import { DeleteTranscriptionJobCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";  
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";  
  
// Set the parameters  
export const params = {  
  TranscriptionJobName: "JOB_NAME", // Required. For example, 'transcription_demo'  
};  
  
export const run = async () => {  
  try {  
    const data = await transcribeClient.send(  
      new DeleteTranscriptionJobCommand(params),  
    );  
    console.log("Success - deleted");  
    return data; // For unit tests.  
  } catch (err) {  
    console.log("Error", err);  
  }  
}
```

```
}  
};  
run();
```

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";  
// Set the AWS Region.  
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"  
// Create an Amazon Transcribe service client object.  
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });  
export { transcribeClient };
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、AWS SDK for JavaScript API リファレンスの「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def delete_job(job_name, transcribe_client):  
    """  
    Deletes a transcription job. This also deletes the transcript associated with  
    the job.  
  
    :param job_name: The name of the job to delete.  
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.  
    """  
    try:  
        transcribe_client.delete_transcription_job(TranscriptionJobName=job_name)
```

```
logger.info("Deleted job %s.", job_name)
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't delete job %s.", job_name)
    raise
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **DeleteVocabulary**で を使用する

以下のコード例は、DeleteVocabulary の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an existing custom vocabulary.
/// </summary>
/// <param name="vocabularyName">Name of the vocabulary to delete.</param>
```

```
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteCustomVocabulary(string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.DeleteVocabularyAsync(
        new DeleteVocabularyRequest
        {
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteVocabulary](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

カスタム語彙を削除するには

次の delete-vocabulary の例は、カスタム語彙を削除します。

```
aws transcribe delete-vocabulary \
    --vocabulary-name vocabulary-name
```

このコマンドでは何も出力されません。

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[DeleteVocabulary](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def delete_vocabulary(vocabulary_name, transcribe_client):
    """
    Deletes a custom vocabulary.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to delete.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    """
    try:
        transcribe_client.delete_vocabulary(VocabularyName=vocabulary_name)
        logger.info("Deleted vocabulary %s.", vocabulary_name)
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't delete vocabulary %s.", vocabulary_name)
        raise
```

- API の詳細については、AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンスの「[DeleteVocabulary](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **GetTranscriptionJob**で を使用する

以下のコード例は、GetTranscriptionJob の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)
- [音声の文字起こしとジョブデータを取得する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get details about a transcription job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the transcription job.</param>
/// <returns>A TranscriptionJob instance with information on the requested
job.</returns>
public async Task<TranscriptionJob> GetTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.GetTranscriptionJobAsync(
        new GetTranscriptionJobRequest()
        {
            TranscriptionJobName = jobName
        });
    return response.TranscriptionJob;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetTranscriptionJob](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

特定の文字起こしジョブに関する情報を取得するには

次の `get-transcription-job` 例では、特定の文字起こしジョブに関する情報を取得します。文字起こし結果にアクセスするには、`TranscriptFileUri` パラメータを使用します。`MediaFileUri` パラメータを使用して、このジョブで書き起こした音声ファイルを確認します。`Settings` オブジェクトを使用して、文字起こしジョブで有効にしたオプション機能を確認できます。

```
aws transcribe get-transcription-job \  
  --transcription-job-name your-transcription-job
```

出力:

```
{  
  "TranscriptionJob": {  
    "TranscriptionJobName": "your-transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",  
    "LanguageCode": "language-code",  
    "MediaSampleRateHertz": 48000,  
    "MediaFormat": "mp4",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.file-extension"  
    },  
    "Transcript": {  
      "TranscriptFileUri": "https://Amazon-S3-file-location-of-transcription-output"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-18T22:27:23.970000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-18T22:27:23.948000+00:00",  
    "CompletionTime": "2020-09-18T22:28:21.197000+00:00",  
    "Settings": {  
      "ChannelIdentification": false,  
      "ShowAlternatives": false  
    },  
    "IdentifyLanguage": true,  
    "IdentifiedLanguageScore": 0.8672199249267578  
  }  
}
```

詳細については、Amazon Transcribe [デベロッパーガイド](#) の「[開始方法 \(AWS コマンドラインインターフェイス\)](#)」を参照してください。

- API の詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[GetTranscriptionJob](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def get_job(job_name, transcribe_client):  
    """  
    Gets details about a transcription job.  
  
    :param job_name: The name of the job to retrieve.  
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.  
    :return: The retrieved transcription job.  
    """  
    try:  
        response = transcribe_client.get_transcription_job(  
            TranscriptionJobName=job_name  
        )  
        job = response["TranscriptionJob"]  
        logger.info("Got job %s.", job["TranscriptionJobName"])  
    except ClientError:  
        logger.exception("Couldn't get job %s.", job_name)  
        raise  
    else:  
        return job
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[GetTranscriptionJob](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **GetVocabulary**で を使用する

以下のコード例は、GetVocabulary の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about a custom vocabulary.
/// </summary>
/// <param name="vocabularyName">Name of the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> GetCustomVocabulary(string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.GetVocabularyAsync(
        new GetVocabularyRequest()
        {
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetVocabulary](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

カスタム語彙に関する情報を取得するには

次の get-vocabulary 例では、以前に作成したカスタム語彙に関する情報を取得します。

```
aws transcribe get-vocabulary \  
  --vocabulary-name cli-vocab-1
```

出力:

```
{  
  "VocabularyName": "cli-vocab-1",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "VocabularyState": "READY",  
  "LastModifiedTime": "2020-09-19T23:22:32.836000+00:00",  
  "DownloadUri": "https://link-to-download-the-text-file-used-to-create-your-custom-vocabulary"  
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[GetVocabulary](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def get_vocabulary(vocabulary_name, transcribe_client):
    """
    Gets information about a custom vocabulary.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to retrieve.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: Information about the vocabulary.
    """
    try:
        response =
transcribe_client.get_vocabulary(VocabularyName=vocabulary_name)
        logger.info("Got vocabulary %s.", response["VocabularyName"])
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't get vocabulary %s.", vocabulary_name)
        raise
    else:
        return response
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[GetVocabulary](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **ListMedicalTranscriptionJobs**で を使用する

以下のコード例は、ListMedicalTranscriptionJobs の使用方法を示しています。

.NET

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List medical transcription jobs, optionally with a name filter.
/// </summary>
/// <param name="jobNameContains">Optional name filter for the medical
transcription jobs.</param>
/// <returns>A list of summaries about medical transcription jobs.</returns>
public async Task<List<MedicalTranscriptionJobSummary>>
ListMedicalTranscriptionJobs(
    string? jobNameContains = null)
{
    var response = await
_amazonTranscribeService.ListMedicalTranscriptionJobsAsync(
    new ListMedicalTranscriptionJobsRequest()
    {
        JobNameContains = jobNameContains
    });
    return response.MedicalTranscriptionJobSummaries;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListMedicalTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

医療文字起こしジョブを一覧表示するには

次の `list-medical-transcription-jobs` 例では、AWS アカウントとリージョンに関連付けられた医療文字起こしジョブを一覧表示します。特定の文字起こしジョブに関する詳細情報を取得するには、文字起こし出力の `MedicalTranscriptionJobName` パラメータの値をコピーし、その値を `get-medical-transcription-job` コマンドの `MedicalTranscriptionJobName` オプションに指定します。さらに他の文字起こしジョブを表示するには、`NextToken` パラメータの値をコピーし、再度 `list-medical-transcription-jobs` コマンドを実行して、その値を `--next-token` オプションに指定します。

aws transcribe list-medical-transcription-jobs

出力:

```
{
  "NextToken": "3/PblzkiGhzjER3KHuQt2fmbPLF7cDYafjFMEoGn440N/
gsuUSTIkGyanvRE6WMXfd/ZTEc2EZj+P9eii/
z102FDYli6RLI0WoRX4RwMisVrh9G0Kie0Y8ikBCdtqLZB10Wa9McC+eb0l
+LaDtZPC4u6ttoHLRL1EfzqstHXSgapXg3tEBtm9piIaPB6M0M5BB6t86+qtmocTR/
qrteHZBBudhTfbCwhsxaqujHiiUvFdm3BQbKKWIW06yV9b+4f38oD2lVIan
+vfUs3gBYA15VTDmXXzQPBQ0HPjtwmFI+IWX15nSUjWuN3TUylHgPWzDaYT8qBtu0Z+3UG4V6b
+K2CC0XszXg5rBq9hYgNzy4XoFh/6s5DoSnzq49Q9xHgHdT2yBADFmvFK7myZBsJ75+2vQZ0SVpWUPy3WT/32zFAc
+mFYfUjtTZ8n/jq7aQEjQ42A
+X/7K6Jg0cdVPtEg8P1Dr5kgYYG3q30mYXX37U3FZuJmnTI63VtIXsNn0U5eGoY0btpk00Nq9UkzgSJxqj84ZD5n
+S0EGy9ZUYBJRRcGeYUM3Q4DbSJfUwSAqcFdLIWZdp8qIREMQIBWy7BLwSdyqsQo2vRrd53hm5aWM7SVf6pPq6X/
IXR5+1eU00D8/coaTT4ES2DerbV6RkV4o0VT1d0SdVX/
MmtkNG8nYj8PqU07w7988quh1ZP6D80veJS1q73tUUR9MjnGernW2tAnvnLNhdefBcD
+sZvFYq3iBMFY7wTy1P1G6NqW9GrYDYox3tTPWlD7phpbVSyKrh/
PdYrps5UxnsGoA1b7L/FfAXDfUoGrGUB4N3JsPYXX9D++g+6gV1qBBs/
Wff934aKqfD6UTggm/zV3GA0WiBpfvAZRvEb924i6yGHYMC7y5401ZAwSBupmI
+FFd13CaP04kN1vJlth6aM5vUPXg4BpyUhtbRhWD/KxCvf9K0tLJGyL1A==",
  "MedicalTranscriptionJobSummaries": [
    {
      "MedicalTranscriptionJobName": "vocabulary-dictation-medical-
transcription-job",
      "CreationTime": "2020-09-21T21:17:27.016000+00:00",
      "StartTime": "2020-09-21T21:17:27.045000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-09-21T21:17:59.561000+00:00",
      "LanguageCode": "en-US",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "CUSTOMER_BUCKET",
      "Specialty": "PRIMARYCARE",
      "Type": "DICTATION"
    },
    {
      "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-dictation-medical-
transcription-job",
      "CreationTime": "2020-09-21T21:01:14.569000+00:00",
      "StartTime": "2020-09-21T21:01:14.592000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-09-21T21:01:43.606000+00:00",
      "LanguageCode": "en-US",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "CUSTOMER_BUCKET",

```

```

        "Specialty": "PRIMARYCARE",
        "Type": "DICTATION"
    },
    {
        "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-conversation-medical-
transcription-job",
        "CreationTime": "2020-09-21T19:09:18.171000+00:00",
        "StartTime": "2020-09-21T19:09:18.199000+00:00",
        "CompletionTime": "2020-09-21T19:10:22.516000+00:00",
        "LanguageCode": "en-US",
        "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
        "OutputLocationType": "CUSTOMER_BUCKET",
        "Specialty": "PRIMARYCARE",
        "Type": "CONVERSATION"
    },
    {
        "MedicalTranscriptionJobName": "speaker-id-conversation-medical-
transcription-job",
        "CreationTime": "2020-09-21T18:43:37.157000+00:00",
        "StartTime": "2020-09-21T18:43:37.265000+00:00",
        "CompletionTime": "2020-09-21T18:44:21.192000+00:00",
        "LanguageCode": "en-US",
        "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
        "OutputLocationType": "CUSTOMER_BUCKET",
        "Specialty": "PRIMARYCARE",
        "Type": "CONVERSATION"
    },
    {
        "MedicalTranscriptionJobName": "multichannel-conversation-medical-
transcription-job",
        "CreationTime": "2020-09-20T23:46:44.053000+00:00",
        "StartTime": "2020-09-20T23:46:44.081000+00:00",
        "CompletionTime": "2020-09-20T23:47:35.851000+00:00",
        "LanguageCode": "en-US",
        "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
        "OutputLocationType": "CUSTOMER_BUCKET",
        "Specialty": "PRIMARYCARE",
        "Type": "CONVERSATION"
    }
}
]
}

```


詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の <https://docs.aws.amazon.com/transcribe/latest/dg/batch-med-transcription.html> を参照してください。

- API の詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[ListMedicalTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";
// Set the AWS Region.
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"
// Create an Amazon Transcribe service client object.
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });
export { transcribeClient };
```

医療分野の文字起こしジョブを一覧表示します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js
import { StartMedicalTranscriptionJobCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";

// Set the parameters
export const params = {
  MedicalTranscriptionJobName: "MEDICAL_JOB_NAME", // Required
  OutputBucketName: "OUTPUT_BUCKET_NAME", // Required
  Specialty: "PRIMARYCARE", // Required. Possible values are 'PRIMARYCARE'
  Type: "JOB_TYPE", // Required. Possible values are 'CONVERSATION' and
  'DICTATION'
  LanguageCode: "LANGUAGE_CODE", // For example, 'en-US'
```

```
MediaFormat: "SOURCE_FILE_FORMAT", // For example, 'wav'
Media: {
  MediaFileUri: "SOURCE_FILE_LOCATION",
  // The S3 object location of the input media file. The URI must be in the
  same region
  // as the API endpoint that you are calling. For example,
  // "https://transcribe-demo.s3-REGION.amazonaws.com/hello_world.wav"
},
};

export const run = async () => {
  try {
    const data = await transcribeClient.send(
      new StartMedicalTranscriptionJobCommand(params),
    );
    console.log("Success - put", data);
    return data; // For unit tests.
  } catch (err) {
    console.log("Error", err);
  }
};

run();
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for JavaScript API リファレンス」の「[ListMedicalTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください [AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **ListTranscriptionJobs**で を使用する

以下のコード例は、ListTranscriptionJobs の使用方法を示しています。

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List transcription jobs, optionally with a name filter.
/// </summary>
/// <param name="jobNameContains">Optional name filter for the transcription
jobs.</param>
/// <returns>A list of transcription job summaries.</returns>
public async Task<List<TranscriptionJobSummary>>
ListTranscriptionJobs(string? jobNameContains = null)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.ListTranscriptionJobsAsync(
        new ListTranscriptionJobsRequest()
        {
            JobNameContains = jobNameContains
        });
    return response.TranscriptionJobSummaries;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

文字起こしジョブを一覧表示するには

次の `list-transcription-jobs` 例では、AWS アカウントとリージョンに関連付けられた文字起こしジョブを一覧表示します。

aws transcribe list-transcription-jobs

出力:

```
{
  "NextToken": "NextToken",
  "TranscriptionJobSummaries": [
    {
      "TranscriptionJobName": "speak-id-job-1",
      "CreationTime": "2020-08-17T21:06:15.391000+00:00",
      "StartTime": "2020-08-17T21:06:15.416000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-08-17T21:07:05.098000+00:00",
      "LanguageCode": "language-code",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"
    },
    {
      "TranscriptionJobName": "job-1",
      "CreationTime": "2020-08-17T20:50:24.207000+00:00",
      "StartTime": "2020-08-17T20:50:24.230000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-08-17T20:52:18.737000+00:00",
      "LanguageCode": "language-code",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"
    },
    {
      "TranscriptionJobName": "sdk-test-job-4",
      "CreationTime": "2020-08-17T20:32:27.917000+00:00",
      "StartTime": "2020-08-17T20:32:27.956000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-08-17T20:33:15.126000+00:00",
      "LanguageCode": "language-code",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"
    },
    {
      "TranscriptionJobName": "Diarization-speak-id",
      "CreationTime": "2020-08-10T22:10:09.066000+00:00",
      "StartTime": "2020-08-10T22:10:09.116000+00:00",
      "CompletionTime": "2020-08-10T22:26:48.172000+00:00",
      "LanguageCode": "language-code",
      "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
      "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"
    }
  ],
}
```

```
{
  "TranscriptionJobName": "your-transcription-job-name",
  "CreationTime": "2020-07-29T17:45:09.791000+00:00",
  "StartTime": "2020-07-29T17:45:09.826000+00:00",
  "CompletionTime": "2020-07-29T17:46:20.831000+00:00",
  "LanguageCode": "language-code",
  "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED",
  "OutputLocationType": "SERVICE_BUCKET"
}
```

詳細については、Amazon Transcribe [デベロッパーガイド](#)の「[開始方法 \(AWS コマンドラインインターフェイス\)](#)」を参照してください。

- APIの詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

Java

SDK for Java 2.x

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
public class ListTranscriptionJobs {
    public static void main(String[] args) {
        TranscribeClient transcribeClient = TranscribeClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)
            .build();

        listTranscriptionJobs(transcribeClient);
    }

    public static void listTranscriptionJobs(TranscribeClient
transcribeClient) {
        ListTranscriptionJobsRequest listJobsRequest =
ListTranscriptionJobsRequest.builder()
```

```
        .build());

transcribeClient.listTranscriptionJobsPaginator(listJobsRequest).stream()
    .flatMap(response ->
response.transcriptionJobSummaries().stream())
    .forEach(jobSummary -> {
        System.out.println("Job Name: " +
jobSummary.transcriptionJobName());
        System.out.println("Job Status: " +
jobSummary.transcriptionJobStatus());
        System.out.println("Output Location: " +
jobSummary.outputLocationType());
        // Add more information as needed

        // Retrieve additional details for the job if necessary
        GetTranscriptionJobResponse jobDetails =
transcribeClient.getTranscriptionJob(
            GetTranscriptionJobRequest.builder()

.transcriptionJobName(jobSummary.transcriptionJobName())
                .build());

        // Display additional details
        System.out.println("Language Code: " +
jobDetails.transcriptionJob().languageCode());
        System.out.println("Media Format: " +
jobDetails.transcriptionJob().mediaFormat());
        // Add more details as needed

        System.out.println("-----");
    });
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for Java 2.x API リファレンスの「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

文字起こしジョブを一覧表示します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js

import { ListTranscriptionJobsCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";

// Set the parameters
export const params = {
  JobNameContains: "KEYWORD", // Not required. Returns only transcription
  // job names containing this string
};

export const run = async () => {
  try {
    const data = await transcribeClient.send(
      new ListTranscriptionJobsCommand(params),
    );
    console.log("Success", data.TranscriptionJobSummaries);
    return data; // For unit tests.
  } catch (err) {
    console.log("Error", err);
  }
};

run();
```

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";
// Set the AWS Region.
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"
```

```
// Create an Amazon Transcribe service client object.
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });
export { transcribeClient };
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、AWS SDK for JavaScript API リファレンスの「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def list_jobs(job_filter, transcribe_client):
    """
    Lists summaries of the transcription jobs for the current AWS account.

    :param job_filter: The list of returned jobs must contain this string in
    their
                        names.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: The list of retrieved transcription job summaries.
    """
    try:
        response =
transcribe_client.list_transcription_jobs(JobNameContains=job_filter)
        jobs = response["TranscriptionJobSummaries"]
        next_token = response.get("NextToken")
        while next_token is not None:
            response = transcribe_client.list_transcription_jobs(
                JobNameContains=job_filter, NextToken=next_token
            )
            jobs += response["TranscriptionJobSummaries"]
            next_token = response.get("NextToken")
        logger.info("Got %s jobs with filter %s.", len(jobs), job_filter)
```



```
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't get jobs with filter %s.", job_filter)
    raise
else:
    return jobs
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **ListVocabularies**で を使用する

以下のコード例は、ListVocabularies の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List custom vocabularies for the current account. Optionally specify a
name
```

```
/// filter and a specific state to filter the vocabularies list.
/// </summary>
/// <param name="nameContains">Optional string the vocabulary name must
contain.</param>
/// <param name="stateEquals">Optional state of the vocabulary.</param>
/// <returns>List of information about the vocabularies.</returns>
public async Task<List<VocabularyInfo>> ListCustomVocabularies(string?
nameContains = null,
    VocabularyState? stateEquals = null)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.ListVocabulariesAsync(
        new ListVocabulariesRequest()
        {
            NameContains = nameContains,
            StateEquals = stateEquals
        });
    return response.Vocabularies;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListVocabularies](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

カスタム語彙を一覧表示するには

次の `list-vocabularies` 例では、AWS アカウントとリージョンに関連付けられたカスタム語彙を一覧表示します。

```
aws transcribe list-vocabularies
```

出力:

```
{
  "NextToken": "NextToken",
  "Vocabularies": [
    {
```

```
    "VocabularyName": "ards-test-1",
    "LanguageCode": "language-code",
    "LastModifiedTime": "2020-04-27T22:00:27.330000+00:00",
    "VocabularyState": "READY"
  },
  {
    "VocabularyName": "sample-test",
    "LanguageCode": "language-code",
    "LastModifiedTime": "2020-04-24T23:04:11.044000+00:00",
    "VocabularyState": "READY"
  },
  {
    "VocabularyName": "CRLF-to-LF-test-3-1",
    "LanguageCode": "language-code",
    "LastModifiedTime": "2020-04-24T22:12:22.277000+00:00",
    "VocabularyState": "READY"
  },
  {
    "VocabularyName": "CRLF-to-LF-test-2",
    "LanguageCode": "language-code",
    "LastModifiedTime": "2020-04-24T21:53:50.455000+00:00",
    "VocabularyState": "READY"
  },
  {
    "VocabularyName": "CRLF-to-LF-1-1",
    "LanguageCode": "language-code",
    "LastModifiedTime": "2020-04-24T21:39:33.356000+00:00",
    "VocabularyState": "READY"
  }
]
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[ListVocabularies](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def list_vocabularies(vocabulary_filter, transcribe_client):
    """
    Lists the custom vocabularies created for this AWS account.

    :param vocabulary_filter: The returned vocabularies must contain this string
    in
                               their names.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: The list of retrieved vocabularies.
    """
    try:
        response =
transcribe_client.list_vocabularies(NameContains=vocabulary_filter)
        vocabs = response["Vocabularies"]
        next_token = response.get("NextToken")
        while next_token is not None:
            response = transcribe_client.list_vocabularies(
                NameContains=vocabulary_filter, NextToken=next_token
            )
            vocabs += response["Vocabularies"]
            next_token = response.get("NextToken")
        logger.info(
            "Got %s vocabularies with filter %s.", len(vocabs), vocabulary_filter
        )
    except ClientError:
        logger.exception(
            "Couldn't list vocabularies with filter %s.", vocabulary_filter
        )
        raise
    else:
        return vocabs
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[ListVocabularies](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **StartMedicalTranscriptionJob** で使用する

以下のコード例は、StartMedicalTranscriptionJob の使用方法を示しています。

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start a medical transcription job for a media file. This method returns
/// as soon as the job is started.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the medical transcription job.</
param>
/// <param name="mediaFileUri">The URI of the media file, typically an Amazon
S3 location.</param>
/// <param name="mediaFormat">The format of the media file.</param>
/// <param name="outputBucketName">Location for the output, typically an
Amazon S3 location.</param>
/// <param name="transcriptionType">Conversation or dictation transcription
type.</param>
/// <returns>A MedicalTransactionJob instance with information on the new
job.</returns>
```

```
public async Task<MedicalTranscriptionJob> StartMedicalTranscriptionJob(
    string jobName, string mediaFileUri,
    MediaFormat mediaFormat, string outputBucketName,
    Amazon.TranscribeService.Type transcriptionType)
{
    var response = await
    _amazonTranscribeService.StartMedicalTranscriptionJobAsync(
        new StartMedicalTranscriptionJobRequest()
        {
            MedicalTranscriptionJobName = jobName,
            Media = new Media()
            {
                MediaFileUri = mediaFileUri
            },
            MediaFormat = mediaFormat,
            LanguageCode =
                LanguageCode
                    .EnUS, // The value must be en-US for medical
transcriptions.
            OutputBucketName = outputBucketName,
            OutputKey =
                jobName, // The value is a key used to fetch the output of
the transcription.
            Specialty = Specialty.PRIMARYCARE, // The value PRIMARYCARE must
be set.
            Type = transcriptionType
        });
    return response.MedicalTranscriptionJob;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

例 1: オーディオファイルとして保存されている医療ディクテーションを文字起こしするには

次の `start-medical-transcription-job` の例は、オーディオファイルの文字起こしを行います。トランスクリプション出力の場所を `OutputBucketName` パラメータで指定します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \  
  --cli-input-json file://myfile.json
```

`myfile.json` の内容:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "simple-dictation-medical-transcription-job",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "DICTATION",  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJob": {  
    "MedicalTranscriptionJobName": "simple-dictation-medical-transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "language-code",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-20T00:35:22.256000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-20T00:35:22.218000+00:00",  
    "Specialty": "PRIMARYCARE",  
    "Type": "DICTATION"  
  }  
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[バッチトランスクリプションの概要](#)」を参照してください。

例 2: オーディオファイルとして保存されている臨床医と患者の対話を文字起こしするには

次の `start-medical-transcription-job` 例では、臨床医と患者の対話を含むオーディオファイルの文字起こしを行います。文字起こしの出力の場所を `OutputBucketName` パラメータで指定します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \  
  --cli-input-json file://mysecondfile.json
```

`mysecondfile.json` の内容:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "simple-dictation-medical-transcription-job",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "CONVERSATION",  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJob": {  
    "MedicalTranscriptionJobName": "simple-conversation-medical-transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "language-code",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-20T23:19:49.965000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-20T23:19:49.941000+00:00",  
    "Specialty": "PRIMARYCARE",  
    "Type": "CONVERSATION"  
  }  
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[バッチトランスクリプションの概要](#)」を参照してください。

例 3: 臨床医と患者の対話のマルチチャネルオーディオファイルを書き起こすには

次の `start-medical-transcription-job` 例では、オーディオファイルの各チャネルの音声の文字起こしを行い、チャネル別の文字起こし結果を組み合わせ、単一の文字起こし出力にまとめます。文字起こしの出力の場所を `OutputBucketName` パラメータで指定します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \  
  --cli-input-json file://mythirdfile.json
```

`mythirdfile.json` の内容:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "multichannel-conversation-medical-  
transcription-job",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "CONVERSATION",  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
  },  
  "Settings": {  
    "ChannelIdentification": true  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJob": {  
    "MedicalTranscriptionJobName": "multichannel-conversation-medical-  
transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "language-code",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-20T23:46:44.081000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-20T23:46:44.053000+00:00",  
    "Settings": {  
      "ChannelIdentification": true  
    },  
    "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  }  
}
```

```
    "Type": "CONVERSATION"
  }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[チャンネル識別](#)」を参照してください。

例 4: 臨床医と患者の対話のオーディオファイルを文字起こしして、文字起こし出力の話者を特定するには

次の `start-medical-transcription-job` の例は、オーディオファイルを書き起こしして、文字起こし出力の各話者の発話にラベルを付けます。文字起こしの出力の場所を `OutputBucketName` パラメータで指定します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \
  --cli-input-json file://myfourthfile.json
```

`myfourthfile.json` の内容:

```
{
  "MedicalTranscriptionJobName": "speaker-id-conversation-medical-
transcription-job",
  "LanguageCode": "language-code",
  "Specialty": "PRIMARYCARE",
  "Type": "CONVERSATION",
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
  },
  "Settings": {
    "ShowSpeakerLabels": true,
    "MaxSpeakerLabels": 2
  }
}
```

出力:

```
{
  "MedicalTranscriptionJob": {
    "MedicalTranscriptionJobName": "speaker-id-conversation-medical-
transcription-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
```

```

    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-21T18:43:37.265000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-21T18:43:37.157000+00:00",
    "Settings": {
        "ShowSpeakerLabels": true,
        "MaxSpeakerLabels": 2
    },
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "CONVERSATION"
}
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[話者の識別](#)」を参照してください。

例 5: オーディオファイルとして保存されている医療会話を、最大 2 つの代替文字起こし結果に文字起こしするには

次の `start-medical-transcription-job` の例は、単一のオーディオファイルから最大 2 つの代替文字起こし結果を作成します。文字起こし結果ごとに信頼度レベルが関連付けられます。デフォルトでは、Amazon Transcribe は、信頼度レベルが最も高い文字起こし結果を返します。Amazon Transcribe で他の信頼度レベルがより低いトランスクリプションを返すようにも指定できます。文字起こしの出力の場所を `OutputBucketName` パラメータで指定します。

```

aws transcribe start-medical-transcription-job \
  --cli-input-json file://myfifthfile.json

```

`myfifthfile.json` の内容:

```

{
    "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-conversation-medical-transcription-job",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "CONVERSATION",
    "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
    "Media": {

```

```

    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
  },
  "Settings": {
    "ShowAlternatives": true,
    "MaxAlternatives": 2
  }
}

```

出力:

```

{
  "MedicalTranscriptionJob": {
    "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-conversation-medical-
transcription-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-21T19:09:18.199000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-21T19:09:18.171000+00:00",
    "Settings": {
      "ShowAlternatives": true,
      "MaxAlternatives": 2
    },
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "CONVERSATION"
  }
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[代替文字起こし](#)」を参照してください。

例 6: 医療ディクテーションのオーディオファイルを、最大 2 つの代替文字起こし結果に文字起こしするには

次の start-medical-transcription-job の例は、オーディオファイルを文字起こしして、語彙フィルターを使用して不要な単語をマスクします。トランスクリプション出力の場所を OutputBucketName パラメータで指定します。

```

aws transcribe start-medical-transcription-job \
  --cli-input-json file://mysixthfile.json

```

mysixthfile.json の内容:

```
{
  "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-conversation-medical-
transcription-job",
  "LanguageCode": "language-code",
  "Specialty": "PRIMARYCARE",
  "Type": "DICTATION",
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
  },
  "Settings": {
    "ShowAlternatives": true,
    "MaxAlternatives": 2
  }
}
```

出力:

```
{
  "MedicalTranscriptionJob": {
    "MedicalTranscriptionJobName": "alternatives-dictation-medical-
transcription-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-21T21:01:14.592000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-21T21:01:14.569000+00:00",
    "Settings": {
      "ShowAlternatives": true,
      "MaxAlternatives": 2
    },
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "DICTATION"
  }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[代替文字起こし](#)」を参照してください。

例 7: カスタムボ語彙を使用して、医療ディクテーションのオーディオファイルをより正確に書き起こすには

次の start-medical-transcription-job の例は、オーディオファイルを文字起こしして、以前に作成した医療カスタム語彙を使用して文字起こし結果の精度を高めます。文字起こしの出力の場所を OutputBucketName パラメータで指定します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
  --cli-input-json file://myseventhfile.json
```

mysixthfile.json の内容:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "vocabulary-dictation-medical-transcription-  
job",  
  "LanguageCode": "language-code",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "DICTATION",  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
  },  
  "Settings": {  
    "VocabularyName": "cli-medical-vocab-1"  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "MedicalTranscriptionJob": {  
    "MedicalTranscriptionJobName": "vocabulary-dictation-medical-  
transcription-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "language-code",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-21T21:17:27.045000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-21T21:17:27.016000+00:00",  
    "Settings": {  

```

```
        "VocabularyName": "cli-medical-vocab-1"
    },
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "DICTATION"
}
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[医療カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[StartMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";
// Set the AWS Region.
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"
// Create an Amazon Transcribe service client object.
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });
export { transcribeClient };
```

医療分野の文字起こしジョブを開始します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js
import { StartMedicalTranscriptionJobCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";

// Set the parameters
```

```
export const params = {
  MedicalTranscriptionJobName: "MEDICAL_JOB_NAME", // Required
  OutputBucketName: "OUTPUT_BUCKET_NAME", // Required
  Specialty: "PRIMARYCARE", // Required. Possible values are 'PRIMARYCARE'
  Type: "JOB_TYPE", // Required. Possible values are 'CONVERSATION' and
  'DICTATION'
  LanguageCode: "LANGUAGE_CODE", // For example, 'en-US'
  MediaFormat: "SOURCE_FILE_FORMAT", // For example, 'wav'
  Media: {
    MediaFileUri: "SOURCE_FILE_LOCATION",
    // The S3 object location of the input media file. The URI must be in the
    same region
    // as the API endpoint that you are calling. For example,
    // "https://transcribe-demo.s3-REGION.amazonaws.com/hello_world.wav"
  },
};

export const run = async () => {
  try {
    const data = await transcribeClient.send(
      new StartMedicalTranscriptionJobCommand(params),
    );
    console.log("Success - put", data);
    return data; // For unit tests.
  } catch (err) {
    console.log("Error", err);
  }
};

run();
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for JavaScript API リファレンス」の「[StartMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **StartTranscriptionJob**で を使用する

以下のコード例は、StartTranscriptionJob の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)
- [音声の文字起こしとジョブデータを取得する](#)

.NET

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start a transcription job for a media file. This method returns
/// as soon as the job is started.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the transcription job.</param>
/// <param name="mediaFileUri">The URI of the media file, typically an Amazon
S3 location.</param>
/// <param name="mediaFormat">The format of the media file.</param>
/// <param name="languageCode">The language code of the media file, such as
en-US.</param>
/// <param name="vocabularyName">Optional name of a custom vocabulary.</
param>
/// <returns>A TranscriptionJob instance with information on the new job.</
returns>
public async Task<TranscriptionJob> StartTranscriptionJob(string jobName,
string mediaFileUri,
MediaFormat mediaFormat, LanguageCode languageCode, string?
vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.StartTranscriptionJobAsync(
        new StartTranscriptionJobRequest()
        {
            TranscriptionJobName = jobName,
            Media = new Media()
```

```
        {
            MediaFileUri = mediaFileUri
        },
        MediaFormat = mediaFormat,
        LanguageCode = languageCode,
        Settings = vocabularyName != null ? new Settings()
        {
            VocabularyName = vocabularyName
        } : null
    ));
    return response.TranscriptionJob;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

例 1: オーディオファイルを文字起こしするには

次の start-transcription-job の例は、音声ファイルの文字起こしを行います。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
  --cli-input-json file://myfile.json
```

myfile.json の内容:

```
{  
  "TranscriptionJobName": "cli-simple-transcription-job",  
  "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"  
  }  
}
```

詳細については、Amazon Transcribe [デベロッパーガイド](#) の「[開始方法 \(AWS コマンドラインインターフェイス\)](#)」を参照してください。

例 2: マルチチャネルのオーディオファイルを文字起こしするには

次の `start-transcription-job` の例は、マルチチャネルのオーディオファイルの文字起こしを行います。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
  --cli-input-json file://mysecondfile.json
```

`mysecondfile.json` の内容:

```
{  
  "TranscriptionJobName": "cli-channelid-job",  
  "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"  
  },  
  "Settings": {  
    "ChannelIdentification": true  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "TranscriptionJob": {  
    "TranscriptionJobName": "cli-channelid-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-17T16:07:56.817000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-17T16:07:56.784000+00:00",  
    "Settings": {  
      "ChannelIdentification": true  
    }  
  }  
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[マルチチャネル音声の書き起こし](#)」を参照してください。

例 3: オーディオファイルを文字起こしして、複数の異なる話者を識別するには

次の start-transcription-job 例では、オーディオファイルを書き起こし、文字起こし出力の話者を識別します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
  --cli-input-json file://mythirdfile.json
```

mythirdfile.json の内容:

```
{  
  "TranscriptionJobName": "cli-speakerid-job",  
  "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"  
  },  
  "Settings": {  
    "ShowSpeakerLabels": true,  
    "MaxSpeakerLabels": 2  
  }  
}
```

出力:

```
{  
  "TranscriptionJob": {  
    "TranscriptionJobName": "cli-speakerid-job",  
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",  
    "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",  
    "Media": {  
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"  
    },  
    "StartTime": "2020-09-17T16:22:59.696000+00:00",  
    "CreationTime": "2020-09-17T16:22:59.676000+00:00",  
    "Settings": {  
      "ShowSpeakerLabels": true,  
      "MaxSpeakerLabels": 2  
    }  
  }  
}
```

```
    }
  }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[話者の識別](#)」を参照してください。

例 4: オーディオファイルを文字起こしして、文字起こし出力内の不要な単語をすべてマスクするには

次の start-transcription-job 例では、オーディオファイルを書き起こし、以前に作成した語彙フィルターを使用して不要な単語をマスクします。

```
aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://myfourthfile.json
```

myfourthfile.json の内容:

```
{
  "TranscriptionJobName": "cli-filter-mask-job",
  "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"
  },
  "Settings": {
    "VocabularyFilterName": "your-vocabulary-filter",
    "VocabularyFilterMethod": "mask"
  }
}
```

出力:

```
{
  "TranscriptionJob": {
    "TranscriptionJobName": "cli-filter-mask-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://Amazon-S3-Prefix/your-media-file.file-extension"
    }
  }
}
```

```
    },
    "StartTime": "2020-09-18T16:36:18.568000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-18T16:36:18.547000+00:00",
    "Settings": {
        "VocabularyFilterName": "your-vocabulary-filter",
        "VocabularyFilterMethod": "mask"
    }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[トランスクリプションのフィルタリング](#)」を参照してください。

例 5: オーディオファイルを文字起こしし、文字起こし出力から不要な単語を削除するには

次の start-transcription-job 例では、オーディオファイルを書き起こし、以前に作成した語彙フィルターを使用して不要な単語をマスクします。

```
aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://myfifthfile.json
```

myfifthfile.json の内容:

```
{
  "TranscriptionJobName": "cli-filter-remove-job",
  "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"
  },
  "Settings": {
    "VocabularyFilterName": "your-vocabulary-filter",
    "VocabularyFilterMethod": "remove"
  }
}
```

出力:

```
{
  "TranscriptionJob": {
    "TranscriptionJobName": "cli-filter-remove-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
```

```

    "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-
media-file-name.file-extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-18T16:36:18.568000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-18T16:36:18.547000+00:00",
    "Settings": {
        "VocabularyFilterName": "your-vocabulary-filter",
        "VocabularyFilterMethod": "remove"
    }
}
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[トランスクリプションのフィルタリング](#)」を参照してください。

例 6: カスタム語彙を使用して、オーディオファイルをより正確に文字起こしするには

次の start-transcription-job 例では、オーディオファイルを書き起こし、以前に作成した語彙フィルターを使用して不要な単語をマスクします。

```

aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://mysixthfile.json

```

mysixthfile.json の内容:

```

{
    "TranscriptionJobName": "cli-vocab-job",
    "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-
file-name.file-extension"
    },
    "Settings": {
        "VocabularyName": "your-vocabulary"
    }
}

```

出力:

```

{

```

```

    "TranscriptionJob": {
      "TranscriptionJobName": "cli-vocab-job",
      "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
      "LanguageCode": "the-language-of-your-transcription-job",
      "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"
      },
      "StartTime": "2020-09-18T16:36:18.568000+00:00",
      "CreationTime": "2020-09-18T16:36:18.547000+00:00",
      "Settings": {
        "VocabularyName": "your-vocabulary"
      }
    }
  }
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[トランスクリプションのフィルタリング](#)」を参照してください。

例 7: オーディオファイルの言語を識別して文字起こしするには

次の start-transcription-job 例では、オーディオファイルを書き起こし、以前に作成した語彙フィルターを使用して不要な単語をマスクします。

```

aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://myseventhfile.json

```

myseventhfile.json の内容:

```

{
  "TranscriptionJobName": "cli-identify-language-transcription-job",
  "IdentifyLanguage": true,
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-media-file-name.file-extension"
  }
}

```

出力:

```

{
  "TranscriptionJob": {

```



```

    "TranscriptionJobName": "cli-identify-language-transcription-job",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-prefix/your-
media-file-name.file-extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-18T22:27:23.970000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-18T22:27:23.948000+00:00",
    "IdentifyLanguage": true
}
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[言語の特定](#)」を参照してください。

例 8: 個人を特定できる情報をマスクしてオーディオファイルを文字起こしするには

次の start-transcription-job の例は、オーディオファイルを文字起こしして、文字起こし出力内の個人を特定できる情報をマスクします。

```

aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://myeighthfile.json

```

myeighthfile.json の内容:

```

{
    "TranscriptionJobName": "cli-redaction-job",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://Amazon-S3-Prefix/your-media-file.file-extension"
    },
    "ContentRedaction": {
        "RedactionOutput": "redacted",
        "RedactionType": "PII"
    }
}

```

出力:

```

{
    "TranscriptionJob": {
        "TranscriptionJobName": "cli-redaction-job",

```

```

    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
        "MediaFileUri": "s3://Amazon-S3-Prefix/your-media-file.file-
extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-25T23:49:13.195000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-25T23:49:13.176000+00:00",
    "ContentRedaction": {
        "RedactionType": "PII",
        "RedactionOutput": "redacted"
    }
}

```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[コンテンツの自動マスキング](#)」を参照してください。

例 9: 個人を特定できる情報 (PII) をマスクしたトランスクリプトとマスクしていないトランスクリプトを生成するには

次の start-transcription-job の例は、オーディオファイルの 2 つの文字起こしを生成します。1 つでは個人を特定できる情報をマスクし、別の 1 つではマスクしません。

```

aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://myninthfile.json

```

myninthfile.json の内容:

```

{
  "TranscriptionJobName": "cli-redaction-job-with-unredacted-transcript",
  "LanguageCode": "language-code",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://Amazon-S3-Prefix/your-media-file.file-extension"
  },
  "ContentRedaction": {
    "RedactionOutput": "redacted_and_unredacted",
    "RedactionType": "PII"
  }
}

```

出力:

```
{
  "TranscriptionJob": {
    "TranscriptionJobName": "cli-redaction-job-with-unredacted-transcript",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://Amazon-S3-Prefix/your-media-file.file-extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-25T23:59:47.677000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-25T23:59:47.653000+00:00",
    "ContentRedaction": {
      "RedactionType": "PII",
      "RedactionOutput": "redacted_and_unredacted"
    }
  }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[自動コンテンツリダクション](#)」を参照してください。

例 10: 以前に作成したカスタム言語モデルを使用してオーディオファイルを文字起こしするには

次の start-transcription-job の例は、以前に作成したカスタム言語モデルを使用してオーディオファイルを文字起こしします。

```
aws transcribe start-transcription-job \
  --cli-input-json file://mytenthfile.json
```

mytenthfile.json の内容:

```
{
  "TranscriptionJobName": "cli-clm-2-job-1",
  "LanguageCode": "language-code",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.file-extension"
  },
  "ModelSettings": {
    "LanguageModelName": "cli-clm-2"
  }
}
```

```
}
```

出力:

```
{
  "TranscriptionJob": {
    "TranscriptionJobName": "cli-clm-2-job-1",
    "TranscriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
    "LanguageCode": "language-code",
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/your-audio-file.file-
extension"
    },
    "StartTime": "2020-09-28T17:56:01.835000+00:00",
    "CreationTime": "2020-09-28T17:56:01.801000+00:00",
    "ModelSettings": {
      "LanguageModelName": "cli-clm-2"
    }
  }
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe 開発者ガイド」の「[カスタム言語モデルを使用したドメイン固有のトランスクリプション精度の向上](#)」を参照してください。

- API の詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

文字起こしジョブを開始します。

```
// Import the required AWS SDK clients and commands for Node.js
import { StartTranscriptionJobCommand } from "@aws-sdk/client-transcribe";
```

```
import { transcribeClient } from "../libs/transcribeClient.js";

// Set the parameters
export const params = {
  TranscriptionJobName: "JOB_NAME",
  LanguageCode: "LANGUAGE_CODE", // For example, 'en-US'
  MediaFormat: "SOURCE_FILE_FORMAT", // For example, 'wav'
  Media: {
    MediaFileUri: "SOURCE_LOCATION",
    // For example, "https://transcribe-demo.s3-REGION.amazonaws.com/hello_world.wav"
  },
  OutputBucketName: "OUTPUT_BUCKET_NAME",
};

export const run = async () => {
  try {
    const data = await transcribeClient.send(
      new StartTranscriptionJobCommand(params),
    );
    console.log("Success - put", data);
    return data; // For unit tests.
  } catch (err) {
    console.log("Error", err);
  }
};

run();
```

クライアントを作成します。

```
import { TranscribeClient } from "@aws-sdk/client-transcribe";
// Set the AWS Region.
const REGION = "REGION"; //e.g. "us-east-1"
// Create an Amazon Transcribe service client object.
const transcribeClient = new TranscribeClient({ region: REGION });
export { transcribeClient };
```

- 詳細については、「[AWS SDK for JavaScript デベロッパーガイド](#)」を参照してください。
- API の詳細については、「AWS SDK for JavaScript API リファレンス」の「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def start_job(
    job_name,
    media_uri,
    media_format,
    language_code,
    transcribe_client,
    vocabulary_name=None,
):
    """
    Starts a transcription job. This function returns as soon as the job is
    started.
    To get the current status of the job, call get_transcription_job. The job is
    successfully completed when the job status is 'COMPLETED'.

    :param job_name: The name of the transcription job. This must be unique for
                     your AWS account.
    :param media_uri: The URI where the audio file is stored. This is typically
                     in an Amazon S3 bucket.
    :param media_format: The format of the audio file. For example, mp3 or wav.
    :param language_code: The language code of the audio file.
                        For example, en-US or ja-JP
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :param vocabulary_name: The name of a custom vocabulary to use when
    transcribing
                           the audio file.
    :return: Data about the job.
    """
    try:
        job_args = {
            "TranscriptionJobName": job_name,
            "Media": {"MediaFileUri": media_uri},
            "MediaFormat": media_format,
```

```
        "LanguageCode": language_code,
    }
    if vocabulary_name is not None:
        job_args["Settings"] = {"VocabularyName": vocabulary_name}
    response = transcribe_client.start_transcription_job(**job_args)
    job = response["TranscriptionJob"]
    logger.info("Started transcription job %s.", job_name)
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't start transcription job %s.", job_name)
    raise
else:
    return job
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK または CLI **UpdateVocabulary**で を使用する

以下のコード例は、UpdateVocabulary の使用方法を示しています。

アクション例は、より大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。次のコード例で、このアクションのコンテキストを確認できます。

- [カスタム語彙を作成し改良する](#)

.NET

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update a custom vocabulary with new values. Update overwrites all
existing information.
/// </summary>
/// <param name="languageCode">The language code of the vocabulary.</param>
/// <param name="phrases">Phrases to use in the vocabulary.</param>
/// <param name="vocabularyName">Name for the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> UpdateCustomVocabulary(LanguageCode
languageCode,
    List<string> phrases, string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.UpdateVocabularyAsync(
        new UpdateVocabularyRequest()
        {
            LanguageCode = languageCode,
            Phrases = phrases,
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[UpdateVocabulary](#)」を参照してください。

CLI

AWS CLI

カスタム語彙を新しい用語で更新するには

次の `update-vocabulary` の例は、カスタム語彙の作成に使用した用語を、指定した新しい用語で上書きします。前提条件: カスタム語彙の用語を置き換えるには、新しい用語を含むファイルが必要です。

```
aws transcribe update-vocabulary \
    --vocabulary-file-uri s3://amzn-s3-demo-bucket/Amazon-S3-Prefix/custom-  
vocabulary.txt \
    --vocabulary-name custom-vocabulary \
```



```
--language-code language-code
```

出力:

```
{
  "VocabularyName": "custom-vocabulary",
  "LanguageCode": "language",
  "VocabularyState": "PENDING"
}
```

詳細については、「Amazon Transcribe デベロッパーガイド」の「[カスタムボキャブラリー](#)」を参照してください。

- API の詳細については、AWS CLI コマンドリファレンスの「[UpdateVocabulary](#)」を参照してください。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
def update_vocabulary(
    vocabulary_name, language_code, transcribe_client, phrases=None,
    table_uri=None
):
    """
    Updates an existing custom vocabulary. The entire vocabulary is replaced with
    the contents of the update.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to update.
    :param language_code: The language code of the vocabulary.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :param phrases: A list of comma-separated phrases to include in the
    vocabulary.
    :param table_uri: A table of phrases and pronunciation hints to include in
    the
```

```
        vocabulary.  
  
        """  
        try:  
            vocab_args = {"VocabularyName": vocabulary_name, "LanguageCode":  
language_code}  
            if phrases is not None:  
                vocab_args["Phrases"] = phrases  
            elif table_uri is not None:  
                vocab_args["VocabularyFileUri"] = table_uri  
            response = transcribe_client.update_vocabulary(**vocab_args)  
            logger.info("Updated custom vocabulary %s.", response["VocabularyName"])  
        except ClientError:  
            logger.exception("Couldn't update custom vocabulary %s.",  
vocabulary_name)  
            raise
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の「[UpdateVocabulary](#)」を参照してください。

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

SDK を使用した Amazon Transcribe のシナリオ AWS SDKs

次のコード例は、AWS SDKs を使用して Amazon Transcribe で一般的なシナリオを実装する方法を示しています。これらのシナリオでは、Amazon Transcribe 内で複数の関数を呼び出すか、他の関数と組み合わせて特定のタスクを実行する方法を示します AWS のサービス。各シナリオには、完全なソースコードへのリンクが含まれており、そこからコードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

シナリオは、サービスアクションをコンテキストで理解するのに役立つ中級レベルの経験を対象としています。

例

- [Amazon Transcribe ストリーミングアプリケーションを構築する](#)
- [AWS SDK を使用してテキストを音声に変換し、テキストに戻す](#)

- [AWS SDK を使用して Amazon Transcribe カスタム語彙を作成および絞り込む](#)
- [AWS SDK を使用して Amazon Transcribe で音声を書き起こし、ジョブデータを取得する](#)

Amazon Transcribe ストリーミングアプリケーションを構築する

次のコード例は、ライブ音声をリアルタイムで記録、転写、翻訳し、結果を E メールで送信するアプリケーションを構築する方法を示しています。

JavaScript

SDK for JavaScript (v3)

Amazon Transcribe を使用して、ライブ音声をリアルタイムで記録、転写、翻訳し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して結果を E メールで送信するアプリケーションを構築する方法について説明します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Amazon SES
- Amazon Transcribe
- Amazon Translate

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK を使用してテキストを音声に変換し、テキストに戻す

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- Amazon Polly を使用して、プレーンテキスト (UTF-8) 入力ファイルを音声ファイルに合成します。
- Amazon S3 バケットに音声ファイルをアップロードします。
- Amazon Transcribe を使用して、音声ファイルをテキストに変換します。

- テキストを表示します。

Rust

SDK for Rust

Amazon Polly を使用して、プレーンテキスト (UTF-8) 入力ファイルを音声ファイルに合成し、音声ファイルを Amazon S3 バケットにアップロードし、Amazon Transcribe を使用して音声ファイルをテキストに変換し、テキストを表示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Polly
- Amazon S3
- Amazon Transcribe

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK を使用して Amazon Transcribe カスタム語彙を作成および絞り込む

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- Amazon S3 に音声ファイルをアップロードします。
- Amazon Transcribe ジョブを実行してファイルを文字起こしし、結果を取得します。
- カスタム語彙を作成して改良し、文字起こしの精度を向上させます。
- カスタム語彙を使ってジョブを実行し、結果を取得します。

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ルイス キャロルによる「ジャバウォッキー」の朗読を収録した音声ファイルを文字起こしします。まず、Amazon Transcribe アクションをラップする関数を作成します。

```
def start_job(
    job_name,
    media_uri,
    media_format,
    language_code,
    transcribe_client,
    vocabulary_name=None,
):
    """
    Starts a transcription job. This function returns as soon as the job is
    started.
    To get the current status of the job, call get_transcription_job. The job is
    successfully completed when the job status is 'COMPLETED'.

    :param job_name: The name of the transcription job. This must be unique for
                     your AWS account.
    :param media_uri: The URI where the audio file is stored. This is typically
                     in an Amazon S3 bucket.
    :param media_format: The format of the audio file. For example, mp3 or wav.
    :param language_code: The language code of the audio file.
                        For example, en-US or ja-JP
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :param vocabulary_name: The name of a custom vocabulary to use when
    transcribing
                           the audio file.
    :return: Data about the job.
    """
    try:
        job_args = {
```

```
        "TranscriptionJobName": job_name,
        "Media": {"MediaFileUri": media_uri},
        "MediaFormat": media_format,
        "LanguageCode": language_code,
    }
    if vocabulary_name is not None:
        job_args["Settings"] = {"VocabularyName": vocabulary_name}
    response = transcribe_client.start_transcription_job(**job_args)
    job = response["TranscriptionJob"]
    logger.info("Started transcription job %s.", job_name)
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't start transcription job %s.", job_name)
    raise
else:
    return job

def get_job(job_name, transcribe_client):
    """
    Gets details about a transcription job.

    :param job_name: The name of the job to retrieve.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: The retrieved transcription job.
    """
    try:
        response = transcribe_client.get_transcription_job(
            TranscriptionJobName=job_name
        )
        job = response["TranscriptionJob"]
        logger.info("Got job %s.", job["TranscriptionJobName"])
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't get job %s.", job_name)
        raise
    else:
        return job

def delete_job(job_name, transcribe_client):
    """
    Deletes a transcription job. This also deletes the transcript associated with
    the job.
```

```

:param job_name: The name of the job to delete.
:param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
"""
try:
    transcribe_client.delete_transcription_job(TranscriptionJobName=job_name)
    logger.info("Deleted job %s.", job_name)
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't delete job %s.", job_name)
    raise

def create_vocabulary(
    vocabulary_name, language_code, transcribe_client, phrases=None,
    table_uri=None
):
    """
    Creates a custom vocabulary that can be used to improve the accuracy of
    transcription jobs. This function returns as soon as the vocabulary
    processing
    is started. Call get_vocabulary to get the current status of the vocabulary.
    The vocabulary is ready to use when its status is 'READY'.

    :param vocabulary_name: The name of the custom vocabulary.
    :param language_code: The language code of the vocabulary.
                        For example, en-US or nl-NL.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :param phrases: A list of comma-separated phrases to include in the
    vocabulary.
    :param table_uri: A table of phrases and pronunciation hints to include in
    the
                        vocabulary.
    :return: Information about the newly created vocabulary.
    """
    try:
        vocab_args = {"VocabularyName": vocabulary_name, "LanguageCode":
language_code}
        if phrases is not None:
            vocab_args["Phrases"] = phrases
        elif table_uri is not None:
            vocab_args["VocabularyFileUri"] = table_uri
        response = transcribe_client.create_vocabulary(**vocab_args)
        logger.info("Created custom vocabulary %s.", response["VocabularyName"])

```

```
except ClientError:
    logger.exception("Couldn't create custom vocabulary %s.",
vocabulary_name)
    raise
else:
    return response

def get_vocabulary(vocabulary_name, transcribe_client):
    """
    Gets information about a custom vocabulary.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to retrieve.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: Information about the vocabulary.
    """
    try:
        response =
transcribe_client.get_vocabulary(VocabularyName=vocabulary_name)
        logger.info("Got vocabulary %s.", response["VocabularyName"])
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't get vocabulary %s.", vocabulary_name)
        raise
    else:
        return response

def update_vocabulary(
    vocabulary_name, language_code, transcribe_client, phrases=None,
    table_uri=None
):
    """
    Updates an existing custom vocabulary. The entire vocabulary is replaced with
    the contents of the update.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to update.
    :param language_code: The language code of the vocabulary.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :param phrases: A list of comma-separated phrases to include in the
vocabulary.
    :param table_uri: A table of phrases and pronunciation hints to include in
the
```



```

        vocabulary.

    """
    try:
        vocab_args = {"VocabularyName": vocabulary_name, "LanguageCode":
language_code}
        if phrases is not None:
            vocab_args["Phrases"] = phrases
        elif table_uri is not None:
            vocab_args["VocabularyFileUri"] = table_uri
        response = transcribe_client.update_vocabulary(**vocab_args)
        logger.info("Updated custom vocabulary %s.", response["VocabularyName"])
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't update custom vocabulary %s.",
vocabulary_name)
        raise

def list_vocabularies(vocabulary_filter, transcribe_client):
    """
    Lists the custom vocabularies created for this AWS account.

    :param vocabulary_filter: The returned vocabularies must contain this string
in
                             their names.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    :return: The list of retrieved vocabularies.
    """
    try:
        response =
transcribe_client.list_vocabularies(NameContains=vocabulary_filter)
        vocabs = response["Vocabularies"]
        next_token = response.get("NextToken")
        while next_token is not None:
            response = transcribe_client.list_vocabularies(
                NameContains=vocabulary_filter, NextToken=next_token
            )
            vocabs += response["Vocabularies"]
            next_token = response.get("NextToken")
        logger.info(
            "Got %s vocabularies with filter %s.", len(vocabs), vocabulary_filter
        )
    except ClientError:
        logger.exception(

```

```

        "Couldn't list vocabularies with filter %s.", vocabulary_filter
    )
    raise
else:
    return vocabs

def delete_vocabulary(vocabulary_name, transcribe_client):
    """
    Deletes a custom vocabulary.

    :param vocabulary_name: The name of the vocabulary to delete.
    :param transcribe_client: The Boto3 Transcribe client.
    """
    try:
        transcribe_client.delete_vocabulary(VocabularyName=vocabulary_name)
        logger.info("Deleted vocabulary %s.", vocabulary_name)
    except ClientError:
        logger.exception("Couldn't delete vocabulary %s.", vocabulary_name)
        raise

```

ラッパー関数を呼び出して、カスタム語彙なしで音声を文字起こししてから、カスタム語彙の異なるバージョンで文字起こしを行うと、よりよい結果が取得できます。

```

def usage_demo():
    """Shows how to use the Amazon Transcribe service."""
    logging.basicConfig(level=logging.INFO, format="%(levelname)s: %(message)s")

    s3_resource = boto3.resource("s3")
    transcribe_client = boto3.client("transcribe")

    print("-" * 88)
    print("Welcome to the Amazon Transcribe demo!")
    print("-" * 88)

    bucket_name = f"jabber-bucket-{time.time_ns()}"
    print(f"Creating bucket {bucket_name}.")
    bucket = s3_resource.create_bucket(
        Bucket=bucket_name,

```

```
CreateBucketConfiguration={
    "LocationConstraint": transcribe_client.meta.region_name
},
)
media_file_name = ".media/Jabberwocky.mp3"
media_object_key = "Jabberwocky.mp3"
print(f"Uploading media file {media_file_name}.")
bucket.upload_file(media_file_name, media_object_key)
media_uri = f"s3://{bucket.name}/{media_object_key}"

job_name_simple = f"Jabber-{time.time_ns()}"
print(f"Starting transcription job {job_name_simple}.")
start_job(
    job_name_simple,
    f"s3://{bucket.name}/{media_object_key}",
    "mp3",
    "en-US",
    transcribe_client,
)
transcribe_waiter = TranscribeCompleteWaiter(transcribe_client)
transcribe_waiter.wait(job_name_simple)
job_simple = get_job(job_name_simple, transcribe_client)
transcript_simple = requests.get(
    job_simple["Transcript"]["TranscriptFileUri"]
).json()
print(f"Transcript for job {transcript_simple['jobName']}:")
print(transcript_simple["results"]["transcripts"][0]["transcript"])

print("-" * 88)
print(
    "Creating a custom vocabulary that lists the nonsense words to try to "
    "improve the transcription."
)
vocabulary_name = f"Jabber-vocabulary-{time.time_ns()}"
create_vocabulary(
    vocabulary_name,
    "en-US",
    transcribe_client,
    phrases=[
        "brillig",
        "slithy",
        "borogoves",
        "mome",
        "raths",
```

```

        "Jub-Jub",
        "frumious",
        "manxome",
        "Tumtum",
        "uffish",
        "whiffling",
        "tulgey",
        "thou",
        "frabjous",
        "callooh",
        "callay",
        "chortled",
    ],
)
vocabulary_ready_waiter = VocabularyReadyWaiter(transcribe_client)
vocabulary_ready_waiter.wait(vocabulary_name)

job_name_vocabulary_list = f"Jabber-vocabulary-list-{time.time_ns()}"
print(f"Starting transcription job {job_name_vocabulary_list}.")
start_job(
    job_name_vocabulary_list,
    media_uri,
    "mp3",
    "en-US",
    transcribe_client,
    vocabulary_name,
)
transcribe_waiter.wait(job_name_vocabulary_list)
job_vocabulary_list = get_job(job_name_vocabulary_list, transcribe_client)
transcript_vocabulary_list = requests.get(
    job_vocabulary_list["Transcript"]["TranscriptFileUri"]
).json()
print(f"Transcript for job {transcript_vocabulary_list['jobName']}:")
print(transcript_vocabulary_list["results"]["transcripts"][0]["transcript"])

print("-" * 88)
print(
    "Updating the custom vocabulary with table data that provides additional
"
    "pronunciation hints."
)
table_vocab_file = "jabber-vocabulary-table.txt"
bucket.upload_file(table_vocab_file, table_vocab_file)
update_vocabulary(

```

```

        vocabulary_name,
        "en-US",
        transcribe_client,
        table_uri=f"s3://{bucket.name}/{table_vocab_file}",
    )
    vocabulary_ready_waiter.wait(vocabulary_name)

    job_name_vocab_table = f"Jabber-vocab-table-{time.time_ns()}"
    print(f"Starting transcription job {job_name_vocab_table}.")
    start_job(
        job_name_vocab_table,
        media_uri,
        "mp3",
        "en-US",
        transcribe_client,
        vocabulary_name=vocabulary_name,
    )
    transcribe_waiter.wait(job_name_vocab_table)
    job_vocab_table = get_job(job_name_vocab_table, transcribe_client)
    transcript_vocab_table = requests.get(
        job_vocab_table["Transcript"]["TranscriptFileUri"]
    ).json()
    print(f"Transcript for job {transcript_vocab_table['jobName']}:")
    print(transcript_vocab_table["results"]["transcripts"][0]["transcript"])

    print("-" * 88)
    print("Getting data for jobs and vocabularies.")
    jabber_jobs = list_jobs("Jabber", transcribe_client)
    print(f"Found {len(jabber_jobs)} jobs:")
    for job_sum in jabber_jobs:
        job = get_job(job_sum["TranscriptionJobName"], transcribe_client)
        print(
            f"\t{job['TranscriptionJobName']}, {job['Media']['MediaFileUri']}, "
            f"{job['Settings'].get('VocabularyName')}"
        )

    jabber_vocabs = list_vocabularies("Jabber", transcribe_client)
    print(f"Found {len(jabber_vocabs)} vocabularies:")
    for vocab_sum in jabber_vocabs:
        vocab = get_vocabulary(vocab_sum["VocabularyName"], transcribe_client)
        vocab_content = requests.get(vocab["DownloadUri"]).text
        print(f"\t{vocab['VocabularyName']} contents:")
        print(vocab_content)

```

```
print("-" * 88)
print("Deleting demo jobs.")
for job_name in [job_name_simple, job_name_vocabulary_list,
job_name_vocab_table]:
    delete_job(job_name, transcribe_client)
print("Deleting demo vocabulary.")
delete_vocabulary(vocabulary_name, transcribe_client)
print("Deleting demo bucket.")
bucket.objects.delete()
bucket.delete()
print("Thanks for watching!")
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateVocabulary](#)
 - [DeleteTranscriptionJob](#)
 - [DeleteVocabulary](#)
 - [GetTranscriptionJob](#)
 - [GetVocabulary](#)
 - [ListVocabularies](#)
 - [StartTranscriptionJob](#)
 - [UpdateVocabulary](#)

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

AWS SDK を使用して Amazon Transcribe で音声を書き起こし、ジョブデータを取得する

次のコード例は、以下を実行する方法を示しています。

- Amazon Transcribe で文字起こしジョブを開始します。
- ジョブが完了するまで待ちます。

- トランスクリプトが保存されている URI を取得します。

詳細については、「[Amazon Transcribe の開始方法](#)」を参照してください。

Java

SDK for Java 2.x

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

PCM ファイルを書き起こします。

```
/**
 * To run this AWS code example, ensure that you have set up your development
 * environment, including your AWS credentials.
 *
 * For information, see this documentation topic:
 *
 * https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-java/latest/developer-guide/get-
 * started.html
 */

public class TranscribeStreamingDemoFile {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[]) throws ExecutionException,
        InterruptedException {

        final String USAGE = "\n" +
            "Usage:\n" +
            "    <file> \n\n" +
            "Where:\n" +
            "    file - the location of a PCM file to transcribe. In this
            example, ensure the PCM file is 16 hertz (Hz). \n";

        if (args.length != 1) {
            System.out.println(USAGE);
        }
    }
}
```

```
        System.exit(1);
    }

    String file = args[0];
    client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
        .region(REGION)
        .build();

    CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
    new AudioStreamPublisher(getStreamFromFile(file)),
    getResponseHandler());

    result.get();
    client.close();
}

private static InputStream getStreamFromFile(String file) {
    try {
        File inputFile = new File(file);
        InputStream audioStream = new FileInputStream(inputFile);
        return audioStream;

    } catch (FileNotFoundException e) {
        throw new RuntimeException(e);
    }
}

private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
    return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
        .languageCode(LanguageCode.EN_US)
        .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
        .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
        .build();
}

private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
    return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
        .onResponse(r -> {
            System.out.println("Received Initial response");
        })
        .onError(e -> {
            System.out.println(e.getMessage());
        })
    }
}
```



```

        StringWriter sw = new StringWriter();
        e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
        System.out.println("Error Occurred: " + sw.toString());
    })
    .onComplete(() -> {
        System.out.println("=== All records stream successfully
===");
    })
    .subscriber(event -> {
        List<Result> results = ((TranscriptEvent)
event).transcript().results();
        if (results.size() > 0) {
            if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {

                System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
            }
        }
    })
    .build();
}

private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
    private final InputStream inputStream;
    private static Subscription currentSubscription;

    private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
        this.inputStream = inputStream;
    }

    @Override
    public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

        if (this.currentSubscription == null) {
            this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        } else {
            this.currentSubscription.cancel();
            this.currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        }
        s.onSubscribe(currentSubscription);
    }
}

public static class SubscriptionImpl implements Subscription {

```

```
private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024 * 1;
private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
private final InputStream inputStream;
private ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
private AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream
inputStream) {
    this.subscriber = s;
    this.inputStream = inputStream;
}

@Override
public void request(long n) {
    if (n <= 0) {
        subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
    }

    demand.getAndAdd(n);

    executor.submit(() -> {
        try {
            do {
                ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                    AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                    subscriber.onNext(audioEvent);
                } else {
                    subscriber.onComplete();
                    break;
                }
            } while (demand.decrementAndGet() > 0);
        } catch (Exception e) {
            subscriber.onError(e);
        }
    });
}

@Override
public void cancel() {
    executor.shutdown();
}
```

```
private ByteBuffer getNextEvent() {
    ByteBuffer audioBuffer = null;
    byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

    int len = 0;
    try {
        len = inputStream.read(audioBytes);

        if (len <= 0) {
            audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
        } else {
            audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
        }
    } catch (IOException e) {
        throw new UncheckedIOException(e);
    }

    return audioBuffer;
}

private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
    return AudioEvent.builder()
        .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
        .build();
}
}
```

コンピュータのマイクからのストリーミングオーディオを文字起こしします。

```
public class TranscribeStreamingDemoApp {
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String[] args)
        throws URISyntaxException, ExecutionException, InterruptedException,
        LineUnavailableException {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()
            .credentialsProvider(getCredentials())
            .region(REGION)
```

```
        .build();

        CompletableFuture<Void> result =
client.startStreamTranscription(getRequest(16_000),
                                new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic()),
                                getResponseHandler());

        result.get();
        client.close();
    }

    private static InputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException
    {

        // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
        int sampleRate = 16000;
        AudioFormat format = new AudioFormat(sampleRate, 16, 1, true, false);
        DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

        if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
            System.out.println("Line not supported");
            System.exit(0);
        }

        TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);
        line.open(format);
        line.start();

        InputStream audioStream = new AudioInputStream(line);
        return audioStream;
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartStreamTranscriptionRequest getRequest(Integer
mediaSampleRateHertz) {
        return StartStreamTranscriptionRequest.builder()
            .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
            .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM)
            .mediaSampleRateHertz(mediaSampleRateHertz)
            .build();
    }
}
```

```

private static StartStreamTranscriptionResponseHandler getResponseHandler() {
    return StartStreamTranscriptionResponseHandler.builder()
        .onResponse(r -> {
            System.out.println("Received Initial response");
        })
        .onError(e -> {
            System.out.println(e.getMessage());
            StringWriter sw = new StringWriter();
            e.printStackTrace(new PrintWriter(sw));
            System.out.println("Error Occurred: " + sw);
        })
        .onComplete(() -> {
            System.out.println("=== All records stream successfully
===");
        })
        .subscriber(event -> {
            List<Result> results = ((TranscriptEvent)
event).transcript().results();
            if (results.size() > 0) {
                if (!
results.get(0).alternatives().get(0).transcript().isEmpty()) {
                    System.out.println(results.get(0).alternatives().get(0).transcript());
                }
            }
        })
        .build();
}

private static class AudioStreamPublisher implements Publisher<AudioStream> {
    private static Subscription currentSubscription;
    private final InputStream inputStream;

    private AudioStreamPublisher(InputStream inputStream) {
        this.inputStream = inputStream;
    }

    @Override
    public void subscribe(Subscriber<? super AudioStream> s) {

        if (currentSubscription == null) {
            currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        }
    }
}

```

```
        } else {
            currentSubscription.cancel();
            currentSubscription = new SubscriptionImpl(s, inputStream);
        }
        s.onSubscribe(currentSubscription);
    }
}

public static class SubscriptionImpl implements Subscription {
    private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 1024;
    private final Subscriber<? super AudioStream> subscriber;
    private final InputStream inputStream;
    private final ExecutorService executor = Executors.newFixedThreadPool(1);
    private final AtomicLong demand = new AtomicLong(0);

    SubscriptionImpl(Subscriber<? super AudioStream> s, InputStream
inputStream) {
        this.subscriber = s;
        this.inputStream = inputStream;
    }

    @Override
    public void request(long n) {
        if (n <= 0) {
            subscriber.onError(new IllegalArgumentException("Demand must be
positive"));
        }

        demand.getAndAdd(n);

        executor.submit(() -> {
            try {
                do {
                    ByteBuffer audioBuffer = getNextEvent();
                    if (audioBuffer.remaining() > 0) {
                        AudioEvent audioEvent =
audioEventFromBuffer(audioBuffer);
                        subscriber.onNext(audioEvent);
                    } else {
                        subscriber.onComplete();
                        break;
                    }
                } while (demand.decrementAndGet() > 0);
            } catch (Exception e) {
```

```
        subscriber.onError(e);
    }
    });
}

@Override
public void cancel() {
    executor.shutdown();
}

private ByteBuffer getNextEvent() {
    ByteBuffer audioBuffer = null;
    byte[] audioBytes = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];

    int len = 0;
    try {
        len = inputStream.read(audioBytes);

        if (len <= 0) {
            audioBuffer = ByteBuffer.allocate(0);
        } else {
            audioBuffer = ByteBuffer.wrap(audioBytes, 0, len);
        }
    } catch (IOException e) {
        throw new UncheckedIOException(e);
    }

    return audioBuffer;
}

private AudioEvent audioEventFromBuffer(ByteBuffer bb) {
    return AudioEvent.builder()
        .audioChunk(SdkBytes.fromByteBuffer(bb))
        .build();
}
}
```

- API の詳細については、『AWS SDK for Java 2.x API リファレンス』の以下のトピックを参照してください。
 - [GetTranscriptionJob](#)

- [StartTranscriptionJob](#)

Python

SDK for Python (Boto3)

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
import time
import boto3

def transcribe_file(job_name, file_uri, transcribe_client):
    transcribe_client.start_transcription_job(
        TranscriptionJobName=job_name,
        Media={"MediaFileUri": file_uri},
        MediaFormat="wav",
        LanguageCode="en-US",
    )

    max_tries = 60
    while max_tries > 0:
        max_tries -= 1
        job =
transcribe_client.get_transcription_job(TranscriptionJobName=job_name)
        job_status = job["TranscriptionJob"]["TranscriptionJobStatus"]
        if job_status in ["COMPLETED", "FAILED"]:
            print(f"Job {job_name} is {job_status}.")
            if job_status == "COMPLETED":
                print(
                    f"Download the transcript from\n"
                    f"\t{job['TranscriptionJob']['Transcript']
['TranscriptFileUri']}."
                )
                break
            else:
                print(f"Waiting for {job_name}. Current status is {job_status}.")
```



```
time.sleep(10)

def main():
    transcribe_client = boto3.client("transcribe")
    file_uri = "s3://test-transcribe/answer2.wav"
    transcribe_file("Example-job", file_uri, transcribe_client)

if __name__ == "__main__":
    main()
```

- API の詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3) API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [GetTranscriptionJob](#)
 - [StartTranscriptionJob](#)

AWS SDK 開発者ガイドとコード例の完全なリストについては、「」を参照してください[AWS SDK でのこのサービスの使用](#)。このトピックには、使用開始方法に関する情報と、以前の SDK バージョンの詳細も含まれています。

のセキュリティ Amazon Transcribe

でのクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。AWS のお客様は、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャからメリットを得られます。

セキュリティは、AWS とお客様の間で共有される責任です。[責任共有モデル](#)では、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ: AWS は、で AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。は、安全に使用できるサービス AWS も提供します。[AWS コンプライアンスプログラム](#)コンプライアンスプログラムの一環として、サードパーティーの監査者は定期的にセキュリティの有効性をテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については Amazon Transcribe、「[コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム](#)」を参照してください。
- クラウド内のセキュリティ: お客様の責任は、使用する AWS のサービスに応じて判断されます。また、お客様は、データの機密性、お客様の会社の要件、および適用される法律および規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、Amazon Transcribeを使用する際に責任共有モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます。以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成する Amazon Transcribe 用に を設定する方法について説明します。また、他の AWS サービスを使用して Amazon Transcribe リソースをモニタリングおよび保護する方法についても説明します。

トピック

- [の Identity and Access Management Amazon Transcribe](#)
- [でのデータ保護 Amazon Transcribe](#)
- [モニタリング Amazon Transcribe](#)
- [のコンプライアンス検証 Amazon Transcribe](#)
- [の耐障害性 Amazon Transcribe](#)
- [のインフラストラクチャセキュリティ Amazon Transcribe](#)
- [Amazon Transcribeの脆弱性分析と管理](#)
- [のセキュリティのベストプラクティス Amazon Transcribe](#)

の Identity and Access Management Amazon Transcribe

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に Amazon Transcribe リソースの使用を承認する (アクセス許可を付与する) かを制御します。IAM は、追加料金なしで AWS のサービス 使用できる です。

トピック

- [対象者](#)
- [アイデンティティを使用した認証](#)
- [ポリシーを使用したアクセスの管理](#)
- [と IAM の Amazon Transcribe 連携方法](#)
- [サービス間の混乱した代理の防止](#)
- [Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)
- [Amazon Transcribe ID とアクセスのトラブルシューティング](#)

対象者

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用 방법은、作業内容によって異なります Amazon Transcribe。

サービスユーザー – Amazon Transcribe サービスを使用してジョブを実行する場合、管理者から必要な認証情報とアクセス許可が与えられます。さらに多くの Amazon Transcribe 機能を使用して作業を行う場合は、追加のアクセス許可が必要になることがあります。アクセスの管理方法を理解すると、管理者から適切な権限をリクエストするのに役に立ちます。Amazon Transcribe機能にアクセスできない場合は、「[Amazon Transcribe ID とアクセスのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

サービス管理者 – 社内の Amazon Transcribe リソースを担当している場合は、通常、へのフルアクセスがあります Amazon Transcribe。サービスユーザーがどの Amazon Transcribe 機能やリソースにアクセスするかを決めるのは管理者の仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してください。会社で IAM を で使用する方法の詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [と IAM の Amazon Transcribe 連携方法](#)。

IAM 管理者 - 管理者は、Amazon Transcribeへのアクセスを管理するポリシーの書き込み方法の詳細について確認する場合があります。IAM で使用できる Amazon Transcribe アイデンティティベース

のポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。として、IAM ユーザーとして AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けて認証 (サインイン AWS) される必要があります。

ID ソースを介して提供された認証情報を使用して、フェデレーティッド ID AWS として にサインインできます。AWS IAM Identity Center (IAM Identity Center) ユーザー、会社のシングルサインオン認証、Google または Facebook 認証情報は、フェデレーティッド ID の例です。フェデレーティッド ID としてサインインする場合、IAM ロールを使用して、前もって管理者により ID フェデレーションが設定されています。フェデレーションを使用して にアクセスすると、間接的 AWS にロールを引き受けることになります。

ユーザーのタイプに応じて、AWS Management Console または AWS アクセスポータルにサインインできます。へのサインインの詳細については AWS、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「[にサインインする方法 AWS アカウント](#)」を参照してください。

AWS プログラムで にアクセスする場合、は Software Development Kit (SDK) とコマンドラインインターフェイス (CLI) AWS を提供し、認証情報を使用してリクエストに暗号で署名します。AWS ツールを使用しない場合は、リクエストに自分で署名する必要があります。リクエストに自分で署名する推奨方法の使用については、「IAM ユーザーガイド」の「[API リクエストに対するAWS Signature Version 4](#)」を参照してください。

使用する認証方法を問わず、追加セキュリティ情報の提供をリクエストされる場合もあります。例えば、では、アカウントのセキュリティを強化するために多要素認証 (MFA) を使用する AWS ことをお勧めします。詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[多要素認証](#)」および「IAM ユーザーガイド」の「[IAM のAWS 多要素認証](#)」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての およびリソースへの AWS のサービス 完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストに

については、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

フェデレーティッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、管理者アクセスを必要とするユーザーを含む人間のユーザーが、一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするために ID プロバイダーとのフェデレーションを使用することを要求します。

フェデレーティッド ID は、エンタープライズユーザーディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、AWS Directory Service、アイデンティティセンターディレクトリのユーザー、または ID ソースを通じて提供された認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするすべてのユーザーです。フェデレーティッド ID が にアクセスすると AWS アカウント、ロールを引き受け、ロールは一時的な認証情報を提供します。

アクセスを一元管理する場合は、AWS IAM Identity Centerを使用することをお勧めします。IAM Identity Center でユーザーとグループを作成することも、独自の ID ソース内のユーザーとグループのセットに接続して同期し、すべての AWS アカウント とアプリケーションで使用することもできます。IAM Identity Center の詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[What is IAM Identity Center?](#)」(IAM Identity Center とは) を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

[IAM ユーザー](#)は、1 人のユーザーまたはアプリケーションに対して特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内のアイデンティティです。可能であれば、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を保有する IAM ユーザーを作成する代わりに、一時的な認証情報を使用することをお勧めします。ただし、IAM ユーザーでの長期的な認証情報が必要な特定のユースケースがある場合は、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[長期的な認証情報を必要とするユースケースのためにアクセスキーを定期的にローテーションする](#)」を参照してください。

[IAM グループ](#)は、IAM ユーザーの集団を指定するアイデンティティです。グループとしてサインインすることはできません。グループを使用して、複数のユーザーに対して一度に権限を指定できます。多数のユーザーグループがある場合、グループを使用することで権限の管理が容易になります。例えば、IAMAdmins という名前のグループを設定して、そのグループに IAM リソースを管理する許可を与えることができます。

ユーザーは、ロールとは異なります。ユーザーは 1 人の人または 1 つのアプリケーションに一意に関連付けられますが、ロールはそれを必要とする任意の人が引き受けるようになっています。ユー

ザーには永続的な長期の認証情報がありますが、ロールでは一時認証情報が提供されます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ユーザーに関するユースケース](#)」を参照してください。

IAM ロール

[IAM ロール](#)は、特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内のアイデンティティです。これは IAM ユーザーに似ていますが、特定のユーザーには関連付けられていません。で IAM ロールを一時的に引き受けるには AWS Management Console、[ユーザーから IAM ロールに切り替えることができます \(コンソール\)](#)。ロールを引き受けるには、または AWS API オペレーションを AWS CLI 呼び出すか、カスタム URL を使用します。ロールを使用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ロールを引き受けるための各種方法](#)」を参照してください。

IAM ロールと一時的な認証情報は、次の状況で役立ちます:

- フェデレーションユーザーアクセス - フェデレーティッド ID に許可を割り当てるには、ロールを作成してそのロールの許可を定義します。フェデレーティッド ID が認証されると、その ID はロールに関連付けられ、ロールで定義されている許可が付与されます。フェデレーションのロールについては、「IAM ユーザーガイド」の「[サードパーティー ID プロバイダー \(フェデレーション\) 用のロールを作成する](#)」を参照してください。IAM Identity Center を使用する場合は、許可セットを設定します。アイデンティティが認証後にアクセスできるものを制御するため、IAM Identity Center は、権限セットを IAM のロールに関連付けます。アクセス許可セットの詳細については、「AWS IAM Identity Center User Guide」の「[Permission sets](#)」を参照してください。
- 一時的な IAM ユーザー権限 - IAM ユーザーまたはロールは、特定のタスクに対して複数の異なる権限を一時的に IAM ロールで引き受けることができます。
- クロスアカウントアクセス - IAM ロールを使用して、自分のアカウントのリソースにアクセスすることを、別のアカウントの人物 (信頼済みプリンシパル) に許可できます。クロスアカウントアクセス権を付与する主な方法は、ロールを使用することです。ただし、一部の では AWS のサービス、(ロールをプロキシとして使用する代わりに) リソースに直接ポリシーをアタッチできます。クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス](#)」を参照してください。
- クロスサービスアクセス - 一部の では、他の の機能 AWS のサービス を使用します AWS のサービス。例えば、あるサービスで呼び出しを行うと、通常そのサービスによって Amazon EC2 でアプリケーションが実行されたり、Amazon S3 にオブジェクトが保存されたりします。サービスでは、呼び出し元プリンシパルの許可、サービスロール、またはサービスリンクロールを使用してこれを行う場合があります。

- 転送アクセスセッション (FAS) – IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、 を呼び出すプリンシパルのアクセス許可と AWS のサービス、ダウストリームサービス AWS のサービスへのリクエストのリクエストをリクエストする を組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス またはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「[転送アクセスセッション](#)」を参照してください。
- サービスロール - サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける [IAM ロール](#)です。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する](#)」を参照してください。
- サービスにリンクされたロール – サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント、 サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。
- Amazon EC2 で実行されているアプリケーション – IAM ロールを使用して、EC2 インスタンスで実行され、AWS CLI または AWS API リクエストを実行しているアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2 インスタンス内でのアクセスキーの保存に推奨されます。EC2 インスタンスに AWS ロールを割り当て、そのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされたインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルにはロールが含まれ、EC2 インスタンスで実行されるプログラムは一時的な認証情報を取得できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションに IAM ロールを使用して許可を付与する](#)」を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御するには AWS、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは のオブジェクト AWS であり、アイデンティティまたはリソースに関連付けられると、そのアクセス許可を定義します。 は、プリンシパル (ユーザー、ルートユーザー、またはロールセッション) がリクエストを行うときに、これらのポリシー AWS を評価します。ポリシーでの権限により、リクエストが許可されるか拒否されるかが決まります。ほとんどのポリシーは JSON ドキュ

メント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの構造と内容の詳細については、IAM ユーザーガイドの [JSON ポリシー概要](#)を参照してください。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

デフォルトでは、ユーザーやロールに権限はありません。IAM 管理者は、リソースに必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き受けることができます。

IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクションの許可を定義します。例えば、iam:GetRole アクションを許可するポリシーがあるとします。そのポリシーを持つユーザーは、AWS Management Console、AWS CLIまたは AWS API からロール情報を取得できます。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#)」を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、さらにインラインポリシーまたはマネージドポリシーに分類できます。インラインポリシーは、単一のユーザー、グループ、またはロールに直接埋め込まれています。管理ポリシーは、内の複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンポリシーです AWS アカウント。管理ポリシーには、AWS 管理ポリシーとカスタマー管理ポリシーが含まれます。マネージドポリシーまたはインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。プ

リンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、またはを含めることができます AWS のサービス。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、AWS WAF、および Amazon VPC は、ACLs。ACL の詳細については、「Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド」の「[アクセスコントロールリスト \(ACL\) の概要](#)」を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、一般的ではない追加のポリシータイプをサポートしています。これらのポリシータイプでは、より一般的なポリシータイプで付与された最大の権限を設定できます。

- **アクセス許可の境界** - アクセス許可の境界は、アイデンティティベースポリシーによって IAM エンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に付与できる権限の上限を設定する高度な機能です。エンティティにアクセス許可の境界を設定できます。結果として得られる権限は、エンティティのアイデンティティベースポリシーとそのアクセス許可の境界の共通部分になります。Principal フィールドでユーザーまたはロールを指定するリソースベースのポリシーでは、アクセス許可の境界は制限されません。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。アクセス許可の境界の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM エンティティのアクセス許可の境界](#)」を参照してください。
- **サービスコントロールポリシー (SCPs)** – SCPs は、の組織または組織単位 (OU) の最大アクセス許可を指定する JSON ポリシーです AWS Organizations。AWS Organizations は、ビジネスが所有する複数の AWS アカウント をグループ化して一元管理するためのサービスです。組織内のすべての機能を有効にすると、サービスコントロールポリシー (SCP) を一部またはすべてのアカウントに適用できます。SCP は、各 を含むメンバーアカウントのエンティティのアクセス許可を制限します AWS アカウントのルートユーザー。Organizations と SCP の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[サービスコントロールポリシー \(SCP\)](#)」を参照してください。
- **リソースコントロールポリシー (RCP)** – RCP は、所有する各リソースにアタッチされた IAM ポリシーを更新することなく、アカウント内のリソースに利用可能な最大数のアクセス許可を設定する

ために使用できる JSON ポリシーです。RCP は、メンバーアカウントのリソースのアクセス許可を制限し、組織に属しているかどうかにかかわらず AWS アカウントのルートユーザー、を含む ID の有効なアクセス許可に影響を与える可能性があります。RCP をサポートする のリストを含む Organizations と RCP の詳細については、AWS Organizations RCPs [「リソースコントロールポリシー \(RCPs\)」](#) を参照してください。AWS のサービス

- セッションポリシー - セッションポリシーは、ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセッションをプログラムで作成する際にパラメータとして渡す高度なポリシーです。結果としてセッションの権限は、ユーザーまたはロールのアイデンティティベースポリシーとセッションポリシーの共通部分になります。また、リソースベースのポリシーから権限が派生する場合もあります。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の [「セッションポリシー」](#) を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成される権限を理解するのがさらに難しくなります。複数のポリシータイプが関係する場合に [ガリクエストを許可するかどう](#)か AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の [「ポリシー評価ロジック」](#) を参照してください。

と IAM の Amazon Transcribe 連携方法

IAM を使用して へのアクセスを管理する前に Amazon Transcribe、 で使用できる IAM 機能について学びます Amazon Transcribe。

IAM で使用できる の機能 Amazon Transcribe

IAM 機能	Amazon Transcribe サポート
アイデンティティベースポリシー	はい
リソースベースのポリシー	いいえ
ポリシーアクション	はい
ポリシーリソース	はい
ポリシー条件キー (サービス固有)	はい
ACL	いいえ

IAM 機能	Amazon Transcribe サポート
ABAC (ポリシー内のタグ)	部分的
一時的な認証情報	はい
プリンシパル権限	はい
サービスロール	はい
サービスリンクロール	いいえ

Amazon Transcribe および他の AWS のサービスがほとんどの IAM 機能と連携する方法の概要を把握するには、IAM 「ユーザーガイド」の[AWS 「と連携する のサービス IAM」](#)を参照してください。

Amazon Transcribeのアイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーのサポート: あり

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。ID ベースのポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#)」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。プリンシパルは、それが添付されているユーザーまたはロールに適用されるため、アイデンティティベースのポリシーでは指定できません。JSON ポリシーで使用できるすべての要素について学ぶには、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス](#)」を参照してください。

のアイデンティティベースのポリシーの例 Amazon Transcribe

Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

Amazon Transcribe内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート: なし

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、または [含めることができます](#) AWS のサービス。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、アカウント全体、または別のアカウントの IAM エンティティをリソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。リソースベースのポリシーにクロスアカウントのプリンシパルを追加しても、信頼関係は半分しか確立されない点に注意してください。プリンシパルとリソースが異なる場合 AWS アカウント、信頼されたアカウントの IAM 管理者は、リソースにアクセスするためのアクセス許可をプリンシパルエンティティ (ユーザーまたはロール) に付与する必要もあります。IAM 管理者は、アイデンティティベースのポリシーをエンティティにアタッチすることで権限を付与します。ただし、リソースベースのポリシーで、同じアカウントのプリンシパルへのアクセス権が付与されている場合は、アイデンティティベースのポリシーをさらに付与する必要はありません。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#)」を参照してください。

Amazon Transcribeのポリシーアクション

ポリシーアクションのサポート:あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの Action 要素にはポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。ポリシーアクションの名前は通常、関連する AWS API オペレーションと同じです。一致する API オペレーションのない許可のみのアクションなど、いくつかの例外があります。また、ポリシーに複数のアクションが必要なオペレーションもあります。これらの追加アクションは依存アクションと呼ばれます。

このアクションは関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するポリシーで使用されます。

Amazon Transcribe アクションのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の「[で定義されるアクション Amazon Transcribe](#)」を参照してください。

のポリシーアクションは、アクションの前に `transcribe` プレフィックス `Amazon Transcribe` を使用します。単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [  
    "transcribe:action1",  
    "transcribe:action2"  
]
```

ワイルドカード (*) を使用して複数アクションを指定できます。例えば、`List` という単語で始まるすべてのアクションを指定するには次のアクションを含めます。

```
"Action": "transcribe:List*"
```

Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください [Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

Amazon Transcribeのポリシーリソース

ポリシーリソースのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルが、どのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素はアクションが適用されるオブジェクトを指定します。ステートメントには Resource または NotResource 要素を含める必要があります。ベストプラクティスとして、[Amazon リソースネーム \(ARN\)](#) を使用してリソースを指定します。これは、リソースレベルの許可と呼ばれる特定のリソースタイプをサポートするアクションに対して実行できます。

オペレーションのリスト化など、リソースレベルの権限をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

Amazon Transcribe リソースタイプとその ARNs 「[で定義されるリソース Amazon Transcribe](#)」を参照してください。どのアクションで各リソースの ARN を指定できるかについては、「[Amazon Transcribeで定義されるアクション](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

のポリシー条件キー Amazon Transcribe

サービス固有のポリシー条件キーのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルが、どのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素 (または Condition ブロック) を使用すると、ステートメントが有効な条件を指定できます。Condition 要素はオプションです。イコールや未満などの [条件演算子](#) を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。

1 つのステートメントに複数の Condition 要素を指定する場合、または 1 つの Condition 要素に複数のキーを指定する場合、AWS では AND 論理演算子を使用してそれらを評価します。1 つの条件キーに複数の値を指定すると、は論理ORオペレーションを使用して条件 AWS を評価します。ステートメントの権限が付与される前にすべての条件が満たされる必要があります。

条件を指定する際にプレースホルダー変数も使用できます。例えば IAM ユーザーに、IAM ユーザー名がタグ付けされている場合のみリソースにアクセスできる権限を付与することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーの要素: 変数およびタグ](#)」を参照してください。

AWS は、グローバル条件キーとサービス固有の条件キーをサポートしています。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」の[AWS 「グローバル条件コンテキストキー」](#)を参照してください。

Amazon Transcribe 条件キーのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の「[の条件キー Amazon Transcribe](#)」を参照してください。条件キーを使用できるアクションとリソースについては、「[で定義されるアクション Amazon Transcribe](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例](#)。

ACLs Amazon Transcribe

ACL のサポート: なし

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

での ABAC Amazon Transcribe

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート: 一部

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、属性に基づいてアクセス許可を定義する認可戦略です。では AWS、これらの属性はタグと呼ばれます。タグは、IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) および多くの AWS リソースにアタッチできます。エンティティとリソースのタグ付けは、ABAC の最初の手順です。その後、プリンシパルのタグがアクセスしようとしているリソースのタグと一致した場合にオペレーションを許可するように ABAC ポリシーをします。

ABAC は、急成長する環境やポリシー管理が煩雑になる状況で役立ちます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの [条件要素](#) でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値はありです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ABAC 認可でアクセス許可を定義する](#)」を参照してください。ABAC をセットアップする手順を説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「[属性ベースのアクセスコントロール \(ABAC\) を使用する](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe リソースのタグ付けの詳細については、「」を参照してください [リソースのタグ付け](#)。タグベースのアクセス制御の詳細については、「[タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)」を参照してください。

Amazon Transcribeでの一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート: あり

一部の AWS のサービスは、一時的な認証情報を使用してサインインすると機能しません。一時的な認証情報 AWS のサービスを使用する機能などの詳細については、[AWS のサービス「IAM ユーザーガイド」の「IAM と連携する」](#)を参照してください。

ユーザー名とパスワード以外の AWS Management Console 方法でサインインする場合、一時的な認証情報を使用します。例えば、会社のシングルサインオン (SSO) リンク AWS を使用してアクセスすると、そのプロセスによって一時的な認証情報が自動的に作成されます。また、ユーザーとしてコンソールにサインインしてからロールを切り替える場合も、一時的な認証情報が自動的に作成されます。ロールの切り替えに関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ユーザーから IAM ロールに切り替える \(コンソール\)](#)」を参照してください。

一時的な認証情報は、AWS CLI または AWS API を使用して手動で作成できます。その後、これらの一時的な認証情報を使用してアクセスすることができます AWS。AWS では、長期的なアクセスキーを使用する代わりに、一時的な認証情報を動的に生成することをお勧めします。詳細については、[IAM の一時的セキュリティ認証情報](#)を参照してください。

Amazon Transcribeのクロスサービスプリンシパル権限

転送アクセスセッション (FAS) のサポート: あり

IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、呼び出すプリンシパルのアクセス許可と AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービス へのリクエストのリクエストリクエストを組み合わせ使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス またはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「[転送アクセスセッション](#)」を参照してください。

のサービスロール Amazon Transcribe

サービスロールのサポート: あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける [IAM ロール](#)です。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する](#)」を参照してください。

Warning

サービスロールのアクセス許可を変更すると、Amazon Transcribe 機能が破損する可能性があります。が指示する場合以外 Amazon Transcribe は、サービスロールを編集しないでください。

Amazon Transcribeのサービスにリンクされたロール

サービスにリンクされたロールのサポート: なし

サービスにリンクされたロールは、にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント、 サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

Amazon Transcribe は、サービスにリンクされたロールをサポートしていません。

他の のサービスのサービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、[AWS 「と連携する のサービス IAM」](#) を参照してください。表の「サービスリンクロール」列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] リンクを選択します。

サービス間の混乱した代理の防止

混乱した代理とは、別のエンティティから強制的にアクションを実行させられるエンティティ (サービスやアカウント) のことです。この種のなりすましは、クロスアカウントおよびクロスサービスで発生するおそれがあります。

混乱した代理を防ぐために、 は、 内のリソースへのアクセスが許可されているサービスプリンシパルを使用して、すべてのサービスのデータを保護するのに役立つツール AWS を提供します AWS アカウント。このセクションでは、 固有のサービス間の混乱した代理の防止に焦点を当てています Amazon Transcribeが、このトピックの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の [「混乱した代理の問題」](#) セクションを参照してください。

リソースにアクセス Amazon Transcribe するために が IAM に付与するアクセス許可を制限するには、リソースポリシー [aws:SourceAccount](#) で グローバル条件コンテキストキー [aws:SourceArn](#) および を使用することをお勧めします。

これらのグローバル条件コンテキストキーの両方を使用し、 aws:SourceArn 値に AWS アカウント ID が含まれている場合、同じポリシーステートメントで使用する場合は、 aws:SourceAccount の値と AWS アカウント のは同じ AWS アカウント ID aws:SourceArnを使用する必要があります。

クロスサービスのアクセスにリソースを 1 つだけ関連付けたい場合は、aws:SourceArn を使用します。その 内のリソースを AWS アカウント クロスサービスアクセスに関連付ける場合は、 を使用しますaws:SourceAccount。

Note

混乱した代理問題から保護するための最も効果的な方法は、リソースの完全な ARN を指定しながら、aws:SourceArn グローバル条件コンテキストキーを使用することです。ARN 全体が不明または複数のリソースを指定する場合、ARN の未知部分にワイルドカード (*) が付いた aws:SourceArn グローバルコンテキスト条件キーを使用します。例えば、arn:aws:transcribe::123456789012:* と指定します。

混乱した代理問題を防ぐ方法を示すロールの継承ポリシーの例については、「[混乱した代理の防止ポリシー](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe アイデンティティベースのポリシーの例

デフォルトでは、ユーザーおよびロールには、Amazon Transcribe リソースを作成または変更する権限はありません。また、AWS Command Line Interface (AWS CLI) AWS Management Console、または AWS API を使用してタスクを実行することはできません。IAM 管理者は、リソースに必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き継ぐことができます。

これらサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して、IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーを作成する \(コンソール\)](#)」を参照してください。

各リソースタイプの ARN の形式など、Amazon Transcribe で定義されるアクションとリソースタイプの詳細については、「サービス認可リファレンス」の[Amazon Transcribe のアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。ARNs

トピック

- [ポリシーに関するベストプラクティス](#)
- [の使用 AWS Management Console](#)
- [IAM ロールに必要なアクセス許可](#)
- [Amazon S3 暗号化キーに必要なアクセス許可](#)
- [自分の権限の表示をユーザーに許可する](#)
- [AWS KMS 暗号化コンテキストポリシー](#)
- [混乱した代理の防止ポリシー](#)

- [タグに基づく文字起こしジョブの表示](#)

ポリシーに関するベストプラクティス

ID ベースのポリシーは、ユーザーのアカウントで誰かが Amazon Transcribe リソースを作成、アクセス、または削除できるかどうかを決定します。これらのアクションを実行すると、AWS アカウントに料金が発生する可能性があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する – ユーザーとワークロードにアクセス許可を付与するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するAWS 管理ポリシーを使用します。これらはで使えます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義して、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」または「[ジョブ機能のAWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。
- 最小特権を適用する – IAM ポリシーで許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのポリシーとアクセス許可](#)」を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションがなどの特定の を通じて使用される場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます AWS CloudFormation。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM JSON ポリシー要素:条件](#)」を参照してください。
- IAM Access Analyzer を使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM Access Analyzer は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM Access Analyzer でポリシーを検証する](#)」を参照してください。
- 多要素認証 (MFA) を要求する – IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、セキュリティを強化するために MFA を有効にします。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細

については、「IAM ユーザーガイド」の「[MFA を使用した安全な API アクセス](#)」を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのセキュリティのベストプラクティス](#) を参照してください。

の使用 AWS Management Console

Amazon Transcribe コンソールにアクセスするには、許可の最小限のセットが必要です。これらのアクセス許可により、内の Amazon Transcribe リソースの詳細を一覧表示および表示できます AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

エンティティ (ユーザーとロール) が 使用できるようにするには [AWS Management Console](#)、次のいずれかの管理 AWS ポリシーをアタッチします。

- `AmazonTranscribeFullAccess`: すべての Amazon Transcribe リソースを作成、読み取り、更新、削除、および実行するフルアクセスを許可します。また、バケット名に `transcribe` を含む Amazon S3 バケットへのアクセスも許可します。
- `AmazonTranscribeReadOnlyAccess`: 文字起こしジョブとカスタム語彙が表示できるように、Amazon Transcribe リソースへの読み取り専用アクセスを許可します。

Note

管理ポリシーは、IAM AWS Management Console にサインインしてポリシー名で検索することで確認できます。「`transcribe(文字起こし)`」を検索すると、上記の両方のポリシー (`AmazonTranscribeReadOnly` と `AmazonTranscribeFullAccess`) が返されます。

独自のカスタム IAM ポリシーを作成して、Amazon Transcribe API アクションのアクセス許可を許可することもできます。これらのカスタムポリシーは、それらのアクセス許可が必要なエンティティにアタッチできます。

IAM ロールに必要なアクセス許可

呼び出す IAM ロールを作成する場合は Amazon Transcribe、Amazon S3 バケットへのアクセス許可が必要です。該当する場合は、KMS key を使用してバケットの内容を暗号化する必要もあります。ポリシーの例については、以下のセクションを参照してください。

信頼ポリシー

文字起こしリクエストに使用する IAM エンティティには、そのロール Amazon Transcribe を引き受けることができる信頼ポリシーが必要です。次の Amazon Transcribe 信頼ポリシーを使用します。通話後分析を有効にした状態でリアルタイムコール分析リクエストを行う場合は、「リアルタイムコール分析の信頼ポリシー」を使用する必要があることに注意してください。

の信頼ポリシー Amazon Transcribe

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": [
          "transcribe.amazonaws.com"
        ]
      },
      "Action": [
        "sts:AssumeRole"
      ],
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceAccount": "111122223333"
        },
        "StringLike": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:transcribe:us-west-2:111122223333:*"
        }
      }
    }
  ]
}
```

リアルタイムコール分析の信頼ポリシー

```
{
```

```

"Version": "2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": [
        "transcribe.streaming.amazonaws.com"
      ]
    },
    "Action": [
      "sts:AssumeRole"
    ],
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "aws:SourceAccount": "111122223333"
      },
      "StringLike": {
        "aws:SourceArn": "arn:aws:transcribe:us-west-2:111122223333:*"
      }
    }
  }
]
}

```

Amazon S3 入力バケットポリシー

次のポリシーは、指定された入力バケットからファイルにアクセスするアクセス許可を IAM ロールに付与します。

```

{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": {
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "s3:GetObject",
      "s3:ListBucket"
    ],
    "Resource": [
      "arn:aws:s3:::DOC-EXAMPLE-INPUT-BUCKET",
      "arn:aws:s3:::DOC-EXAMPLE-INPUT-BUCKET/*"
    ]
  }
}

```

Amazon S3 出力バケットポリシー

次のポリシーは、指定された出力バケットにファイルを書き込むアクセス許可を IAM ロールに付与します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": {
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "s3:PutObject"
    ],
    "Resource": [
      "arn:aws:s3:::DOC-EXAMPLE-OUTPUT-BUCKET/*"
    ]
  }
}
```

Amazon S3 暗号化キーに必要なアクセス許可

を使用して Amazon S3 バケットを KMS key 暗号化する場合は、KMS key ポリシーに以下を含めます。これにより、バケットの内容 Amazon Transcribe にアクセスできます。へのアクセスを許可する方法の詳細については KMS keys、[「デベロッパーガイド」の「AWS アカウント へのアクセスを外部に許可する KMS key」](#)を参照してください。AWS KMS

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
      },
      "Action": [
        "kms:Decrypt"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:111122223333:key/KMS-Example-KeyId"
    }
  ]
}
```

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ViewOwnUserInfo",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetUserPolicy",
        "iam:ListGroupsForUser",
        "iam:ListAttachedUserPolicies",
        "iam:ListUserPolicies",
        "iam:GetUser"
      ],
      "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
    },
    {
      "Sid": "NavigateInConsole",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetGroupPolicy",
        "iam:GetPolicyVersion",
        "iam:GetPolicy",
        "iam:ListAttachedGroupPolicies",
        "iam:ListGroupPolicies",
        "iam:ListPolicyVersions",
        "iam:ListPolicies",
        "iam:ListUsers"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```


AWS KMS 暗号化コンテキストポリシー

次のポリシーは、この特定の に対して AWS KMS Decrypt および Encrypt オペレーションを使用するアクセスExampleRole許可を IAM ロールに付与します KMS key。このポリシーは、少なくとも 1 つの暗号化コンテキストペア (この場合は「color:indigoBlue」) を持つリクエストに対してのみ機能します。AWS KMS 暗号化コンテキストの詳細については、「」を参照してください[AWS KMS 暗号化コンテキスト](#)。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole"
      },
      "Action": [
        "kms:Decrypt",
        "kms:DescribeKey",
        "kms:Encrypt",
        "kms:GenerateDataKey*",
        "kms:ReEncrypt*"
      ],
      "Resource": "*",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "kms:EncryptionContext:color": "indigoBlue"
        }
      }
    }
  ]
}
```

混乱した代理の防止ポリシー

混乱した代理問題 Amazon Transcribe を防ぐために aws:SourceArnと aws:SourceAccountを で使用する方法を示すロールの継承ポリシーの例を次に示します。混乱した代理の防止に関する詳細については、「[サービス間の混乱した代理の防止](#)」を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
```

```
{
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "transcribe.amazonaws.com"
  },
  "Action": [
    "sts:AssumeRole",
  ],
  "Condition": {
    "StringEquals": {
      "aws:SourceAccount": "111122223333"
    },
    "StringLike": {
      "aws:SourceArn": "arn:aws:transcribe:us-west-2:111122223333:*"
    }
  }
}
```

タグに基づく文字起こしジョブの表示

アイデンティティベースのポリシーの条件を使用して、タグに基づいて Amazon Transcribe リソースへのアクセスをコントロールできます。この例では、文字起こしジョブを表示できるポリシーを作成する方法を示します。ただし、アクセス許可は、文字起こしジョブタグ Owner にそのユーザーのユーザー名の値がある場合のみ、付与されます。このポリシーでは、AWS Management Consoleを使用してこのアクションを実行するために必要なアクセス許可も付与します。

このポリシーは、アカウントの IAM エンティティにアタッチできます。test-role という名前のロールが文字起こしジョブを表示しようとする場合、その文字起こしジョブには Owner=test-role または owner=test-role というタグを付ける必要があります(条件キー名では大文字と小文字は区別されません)。そうしないと、アクセスが拒否されます。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[IAM JSON ポリシー要素: 条件](#)」を参照してください。

でのタグ付けの詳細については Amazon Transcribe、「」を参照してください [リソースのタグ付け](#)。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
```

```
        "Sid": "ListTranscriptionJobsInConsole",
        "Effect": "Allow",
        "Action": "transcribe:ListTranscriptionJobs",
        "Resource": "*"
    },
    {
        "Sid": "ViewTranscriptionJobsIfOwner",
        "Effect": "Allow",
        "Action": "transcribe:GetTranscriptionJobs",
        "Resource": "arn:aws:transcribe:*:*:transcription-job/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {"aws:ResourceTag/Owner": "${aws:username}"}
        }
    }
]
```

Amazon Transcribe ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報を使用して、と AWS Identity and Access Management (IAM) の使用時に発生する可能性がある一般的な問題を診断 Amazon Transcribe して修正しますIAM。

トピック

- [Amazon Transcribeでアクションを実行する権限がない](#)
- [iam:PassRole を実行する権限がありません](#)
- [自分の 以外のユーザーに Amazon Transcribe リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい](#)

Amazon Transcribeでアクションを実行する権限がない

あるアクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合、そのアクションを実行できるようにポリシーを更新する必要があります。

次のエラー例は、mateojackson IAM ユーザーがコンソールを使用して、ある *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしたことを想定して、その際に必要なtranscribe:*GetWidget* アクセス許可を持っていない場合に発生するものです。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
transcribe:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、`transcribe:GetWidget` アクションを使用して `my-example-widget` リソースへのアクセスを許可するように、`mateojackson` ユーザーのポリシーを更新する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

iam:PassRole を実行する権限がありません

`iam:PassRole` アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して Amazon Transcribe にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービスでは、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

以下の例のエラーは、`marymajor` という IAM ユーザーがコンソールを使用して Amazon Transcribe でアクションを実行しようする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。メアリーには、ロールをサービスに渡す許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに `iam:PassRole` アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

自分の 以外のユーザーに Amazon Transcribe リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- がこれらの機能 Amazon Transcribe をサポートしているかどうかを確認するには、「」を参照してくださいと [IAM の Amazon Transcribe 連携方法](#)。

- 所有 AWS アカウント する のリソースへのアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの「[所有 AWS アカウント する別の の IAM ユーザーへのアクセス](#)を提供する」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、「IAM ユーザーガイド」の「[サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する](#)」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[外部で認証されたユーザー \(ID フェデレーション\) へのアクセスの許可](#)」を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス](#)」を参照してください。

でのデータ保護 Amazon Transcribe

責任 AWS [共有モデル](#)、でのデータ保護に適用されます Amazon Transcribe。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「AWS のサービス」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、[データプライバシーに関するよくある質問](#)を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された [AWS 責任共有モデルおよび GDPR](#) のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント、AWS IAM Identity Center または AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします：

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の[CloudTrail 証跡の使用](#)」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。

- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「[連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-3](#)」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール Amazon Transcribe、API、または SDK を使用して AWS CLI または他の AWS のサービスを使用する場合も同様です。AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーへ URL を供給する場合は、そのサーバーへのリクエストを検証するために、認証情報を URL に含めないことを強くおすすめします。

ネットワーク間トラフィックのプライバシー

の Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) エンドポイント Amazon Transcribe は、への接続のみを許可する VPC 内の論理エンティティです Amazon Transcribe。Amazon VPC はリクエストを にルーティング Amazon Transcribe し、レスポンスを VPC にルーティングします。詳細については、「[AWS PrivateLink の概念](#)」を参照してください。で Amazon VPC Amazon Transcribe エンドポイントを使用する方法については、「」を参照してください [Amazon Transcribe およびインターフェイス VPC エンドポイント \(AWS PrivateLink\)](#)。

データ暗号化

データ暗号化とは、転送中と保管中のデータをすることです。転送中に標準の Transport Layer Security (TLS) とともに、Amazon S3 マネージドキーまたは保管 KMS keys 中の を使用してデータを保護できます。

保管中の暗号化

Amazon Transcribe は、Amazon S3 バケットに配置されたトランスクリプトのサーバー側の暗号化にデフォルト Amazon S3 キー (SSE-S3) を使用します。

[StartTranscriptionJob](#) オペレーションを使用すると、独自の を指定 KMS key して、文字起こしジョブからの出力を暗号化できます。

Amazon Transcribe は、デフォルトキーで暗号化された Amazon EBS ボリュームを使用します。

転送中の暗号化

Amazon Transcribe は、TLS 1.2 と AWS 証明書を使用して、転送中のデータを暗号化します。ストリーミング文字起こしも対象になります。

キー管理

Amazon Transcribe は と連携して KMS keys 、データの暗号化を強化します。を使用すると Amazon S3、文字起こしジョブの作成時に入力メディアを暗号化できます。との統合 AWS KMS により、[StartTranscriptionJob](#) リクエストからの出力を暗号化できます。

を指定しない場合 KMS key、文字起こしジョブの出力はデフォルト Amazon S3 キー (SSE-S3) で暗号化されます。

詳細については AWS KMS、「[AWS Key Management Service デベロッパーガイド](#)」を参照してください。

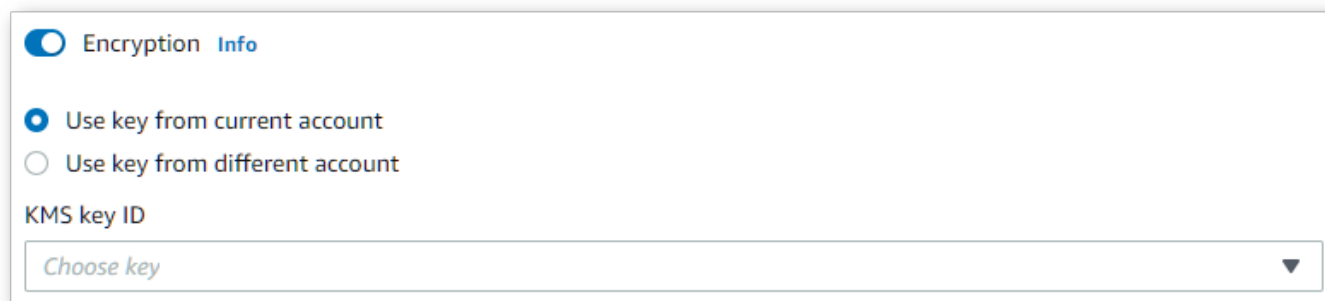
を使用したキー管理 AWS Management Console

文字起こしジョブの出力を暗号化するには、リクエスト AWS アカウント を行う KMS key に を使用するか、別の KMS key から を使用するかを選択できます AWS アカウント。

を指定しない場合 KMS key、文字起こしジョブの出力はデフォルト Amazon S3 キー (SSE-S3) で暗号化されます。

出力の暗号化を有効にする

1. [出力データ] で、[暗号化] を選択します。



2. KMS key が現在使用している AWS アカウント からか、別の からかを選択します AWS アカウント。現在の からキーを使用する場合は AWS アカウント、KMS key ID からキーを選択します。別の のキーを使用している場合は AWS アカウント、キーの ARN を入力する必要があります

す。別のキーを使用するには AWS アカウント、呼び出し元の `kms:Encrypt` アクセス許可が必要です KMS key。詳細については、「[キーポリシーの作成](#)」を参照してください。

API を使用したキーの管理

API で出力暗号化を使用するに

は、[StartCallAnalyticsJob](#)、[StartMedicalTranscriptionJob](#)または[StartTranscriptionJob](#)オペレーションの `OutputEncryptionKMSKeyId` パラメータ KMS key を使用して を指定する必要があります。

現在の AWS アカウントにあるキーを使用する場合は、次の 4 つの方法のいずれか KMS key で を指定できます。

1. KMS key ID 自体を使用します。例えば、`1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab` と指定します。
2. KMS key ID にエイリアスを使用します。例えば、`alias/ExampleAlias` と指定します。
3. KMS key ID に Amazon リソースネーム (ARN) を使用します。例えば、`arn:aws:kms:region:account-ID:key/1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab` と指定します。
4. エイリアスの ARN KMS key を使用します。例えば、`arn:aws:kms:region:account-ID:alias/ExampleAlias` と指定します。

現在のとは異なる AWS アカウントにあるキーを使用する場合は AWS アカウント、次の 2 つの方法のいずれか KMS key で を指定できます。

1. KMS key ID に ARN を使用します。例えば、`arn:aws:kms:region:account-ID:key/1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab` と指定します。
2. エイリアスの ARN KMS key を使用します。例えば、`arn:aws:kms:region:account-ID:alias/ExampleAlias` と指定します。

リクエストを行うエンティティには、指定した KMS key を使用するためのアクセス許可が必要です。

AWS KMS 暗号化コンテキスト

AWS KMS 暗号化コンテキストは、プレーンテキストの非シークレットキーと値のペアのマップです。このマップは、暗号化コンテキストペアと呼ばれる追加の認証済みデータを表します。これによ

り、データにセキュリティレイヤーが追加されます。では、お客様が指定した Amazon S3 バケットへの文字起こし出力を暗号化するために対称暗号化キー Amazon Transcribe が必要です。[詳細については、「AWS KMSの非対称キー」を参照してください。](#)

暗号化コンテキストペアを作成するときは、機密情報を含めないでください。暗号化コンテキストはシークレットではありません。CloudTrail ログ内のプレーンテキストで表示されます (暗号化オペレーションを識別して分類するために使用できます)。

暗号化コンテキストのキーと値には、アンダースコア (`_`)、ダッシュ (`-`)、スラッシュ (`/`、`\`)、コロン (`:`) などの特殊文字を含めることができます。

 Tip

暗号化コンテキストペアの値を暗号化されるデータに関連付けると便利です。必須ではありませんが、ファイル名、ヘッダー値、暗号化されていないデータベースフィールドなど、暗号化されたコンテンツに関連する機密性のないメタデータを使用することをお勧めします。

API による出力暗号化を使用するには、`KMSEncryptionContext` パラメータを [StartTranscriptionJob](#) オペレーションに設定します。出力暗号化オペレーションに暗号化コンテキストを提供するために、`OutputEncryptionKMSKeyId` パラメータは対称 KMS key ID を参照する必要があります。

IAM ポリシーで [AWS KMS 条件キー](#) を使用して、暗号化オペレーションのリクエストで使用された暗号化コンテキスト KMS key に基づいて、対称暗号化へのアクセスを制御できます。<https://docs.aws.amazon.com/kms/latest/developerguide/concepts.html#cryptographic-operations> 暗号化コンテキストポリシーの例については、「[AWS KMS 暗号化コンテキストポリシー](#)」を参照してください。

暗号化コンテキストの使用は任意ですが、推奨されています。詳細については、「[暗号化コンテキスト](#)」を参照してください。

サービス改善のためのデータ使用をオプトアウトする

デフォルトでは、は処理した音声入力 Amazon Transcribe を保存して使用し、サービスを開発してエクスペリエンスを継続的に改善します。オプトアウト AWS Organizations ポリシー Amazon Transcribe を使用して、コンテンツの開発と改善に使用されないようにできます。オプトアウトの方法の詳細については、「[AI サービスのオプトアウトポリシー](#)」を参照してください。

モニタリング Amazon Transcribe

モニタリングは、およびその他の Amazon Transcribe AWS ソリューションの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。AWS には、監視 Amazon Transcribe、問題の報告、必要に応じて自動アクションを実行するための以下のモニタリングツールが用意されています。

- Amazon CloudWatch は、リソースとで実行するアプリケーションを AWS リアルタイムでモニタリングします AWS。メトリクスを収集および追跡し、カスタマイズされたダッシュボードを作成し、指定されたメトリックが指定したしきい値に達したときに通知またはアクションを実行するアラームを設定できます。たとえば、で Amazon EC2 インスタンスの CPU 使用率やその他のメトリクス CloudWatch を追跡し、必要に応じて新しいインスタンスを自動的に起動できます。
- Amazon CloudWatch Logs は、Amazon EC2 インスタンスやその他のソースからログファイルをモニタリング、保存 CloudTrail、およびアクセスできます。CloudWatch Logs は、ログファイル内の情報をモニタリングし、特定のしきい値に達したときに通知できます。高い耐久性を備えたストレージにログデータをアーカイブすることもできます。
- AWS CloudTrail は、によって、またはに代わって行われた API コールおよび関連イベントをキャプチャ AWS アカウントし、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。が呼び出したユーザーとアカウント AWS、呼び出し元のソース IP アドレス、呼び出しの発生日時を特定できます。

詳細については、「[Amazon CloudWatch ユーザーガイド](#)」を参照してください。

Amazon EventBridge は、イベントを使用してアプリケーションコンポーネントを接続するサーバーレスサービスであり、スケーラブルなイベント駆動型アプリケーションを簡単に構築できます。は、独自のアプリケーション、Software as a Service (SaaS) アプリケーション、および AWS のサービスからリアルタイムデータのストリーム EventBridge を提供し、そのデータをなどのターゲットにルーティングします Lambda。サービスで発生したイベントをモニタリングし、イベント駆動型アーキテクチャを構築できます。詳細については、「[Amazon EventBridge ユーザーガイド](#)」を参照してください。

トピック

- [Amazon Transcribe によるモニタリング Amazon CloudWatch](#)
- [によるモニタリング Amazon Transcribe AWS CloudTrail](#)
- [Amazon EventBridge で使用する Amazon Transcribe](#)

Amazon Transcribe によるモニタリング Amazon CloudWatch

raw データを収集し CloudWatch、読み取り可能なほぼリアルタイムのメトリクスに処理する Amazon Transcribe を使用して、をモニタリングできます。これらの統計は 15 か月間保持されるため、履歴情報にアクセスし、ウェブアプリケーションまたはサービスの動作をよりの確に把握できます。また、特定のしきい値を監視するアラームを設定し、これらのしきい値に達したときに通知を送信したりアクションを実行したりできます。詳細については[CloudWatch ユーザーガイド](#)を参照してください。

での Amazon CloudWatch メトリクスとディメンションの使用 Amazon Transcribe

Amazon Transcribe は、パフォーマンスのモニタリングに役立つデータである CloudWatch メトリクスとディメンションをサポートしています。サポートされているメトリクスカテゴリには、文字起こしジョブに関連するトラフィック、エラー、データ転送、レイテンシーなどがあります。サポートされているメトリクスは、AWS/Transcribe 名前空間 CloudWatch の を介して配置されます。

Note

CloudWatch モニタリングメトリクスは無料で、CloudWatch サービスクォータにはカウントされません。

CloudWatch メトリクスの詳細については、[Amazon CloudWatch 「メトリクスの使用」](#)を参照してください。

によるモニタリング Amazon TranscribeAWS CloudTrail

Amazon Transcribe は AWS CloudTrail、AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーまたはロール、または AWS のサービス Amazon Transcribe によって実行されたアクションを記録するサービスであると統合されています。は、のすべての API コール CloudTrail をキャプチャします Amazon Transcribe。これには、からの呼び出し AWS Management Console と、イベントとしての Amazon Transcribe APIsへのコード呼び出しが含まれます。証跡を作成することで、の CloudTrail イベントを含むイベントの Amazon Transcribeバケットへの Amazon S3 継続的な配信を有効にすることができます。証跡を作成しない場合でも、イベント履歴の CloudTrail AWS Management Console で最新のイベントを表示することはできます。によって収集された情報を使用して CloudTrail、に対して行われた各リクエスト Amazon Transcribe、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト者、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

詳細については CloudTrail、[AWS CloudTrail ユーザーガイド](#)を参照してください。

Amazon Transcribe and CloudTrail

CloudTrail アカウントを作成する AWS アカウント と、 は 有効になります。アクティビティが発生すると Amazon Transcribe、そのアクティビティは CloudTrail イベント履歴の他の AWS のサービス イベントとともに CloudTrail イベントに記録されます。で最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます AWS アカウント。詳細については、「[CloudTrail イベント履歴でのイベントの表示](#)」を参照してください。

のイベントなど AWS アカウント、 のイベントの継続的な記録を取得するには Amazon Transcribe、証跡を作成します。証跡は、 が指定された Amazon S3 bucket にイベント CloudTrail をログファイルとして配信できるようにする設定です。CloudTrail ログファイルには 1 つ以上のログエントリが含まれます。イベント は、任意の送信元からの単一の要求を表します。これには、リクエストされたアクション、アクションの日時、リクエストパラメータなどに関する情報が含まれます。CloudTrail ログファイルはパブリック API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

デフォルトでは、 で証跡を作成すると AWS Management Console、証跡はすべての に適用されます AWS リージョン。証跡は、 AWS パーティション AWS リージョン 内のすべての からのイベントをログに記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、他の を設定 AWS のサービスとして、CloudTrail ログで収集されたイベントデータをさらに分析して対応できます。詳細については、以下を参照してください。

- [証跡を作成するための概要](#)
- [CloudTrail サポートされているサービスと統合](#)
- [Amazon SNS の通知の設定 CloudTrail](#)
- 「[複数のリージョンから CloudTrail ログファイルを受け取る](#)」と「[複数のアカウントから CloudTrail ログファイルを受け取る](#)」

CloudTrail は、[API リファレンス](#)に記載されているすべての Amazon Transcribe アクションを記録します。たとえば、[CreateVocabulary](#)、[GetTranscriptionJob](#)、および [StartTranscriptionJob](#) オペレーションでは、CloudTrail ログファイルにエントリが生成されます。CloudTrail が Amazon Transcribe API オペレーションをログに記録すると、CloudTrail ログエントリは Amazon S3 URI 値などのリクエストパラメータとレスポンスパラメータの機密情報に空の文字列を使用します。

各イベントまたはログエントリには、リクエストの生成者に関する情報が含まれます。この情報は以下のことを確認するのに役立ちます:

- リクエストがルート認証情報または IAM ユーザー認証情報のどちらで行われたか
- リクエストが、IAM ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセキュリティ認証情報によって行われたか
- リクエストが別の によって行われたかどうか AWS のサービス

詳細については、「[CloudTrail userIdentity 要素](#)」を参照してください。

複数の AWS リージョン と複数の の Amazon Transcribe ログファイルを 1 つの Amazon S3 バケット AWS アカウント に集約することもできます。詳細については、「[複数のリージョンからの CloudTrail ログファイルの受信](#)」および「[複数のアカウントからの CloudTrail ログファイルの受信](#)」を参照してください。

例: Amazon Transcribe ログファイルエントリ

証跡は、指定された Amazon S3 bucket へのログファイルとしてイベントを配信できるようにする設定です。CloudTrail ログファイルには 1 つ以上のログエントリが含まれます。イベント は、任意の送信元からの単一の要求を表します。これには、リクエストされたアクションに関する情報がアクションの日時として含まれ、リクエスト parameters. CloudTrail log ファイルはパブリック API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

[StartTranscriptionJob](#) および [GetTranscriptionJob](#) API オペレーションを呼び出すと、以下のエントリが作成されます。

 Note

CloudTrail が Amazon Transcribe API オペレーションをログに記録すると、CloudTrail ログエントリは Amazon S3 URI 値などのリクエストパラメータとレスポンスパラメータの機密情報に空の文字列を使用します。

```
{
  "Records": [
    {
      "eventVersion": "1.05",
      "userIdentity": {
        "type": "IAMUser",
        "principalId": "111122223333",
        "arn": "arn:aws:iam:us-west-2:111122223333:user/my-user-name",
        "accountId": "111122223333",
```

```

        "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
        "userName": "my-user-name"
    },
    "eventTime": "2022-03-07T15:03:45Z",
    "eventSource": "transcribe.amazonaws.com",
    "eventName": "StartTranscriptionJob",
    "awsRegion": "us-west-2",
    "sourceIPAddress": "127.0.0.1",
    "userAgent": "[]",
    "requestParameters": {
        "mediaFormat": "flac",
        "languageCode": "en-US",
        "transcriptionJobName": "my-first-transcription-job",
        "media": {
            "mediaFileUri": ""
        }
    },
    "responseElements": {
        "transcriptionJob": {
            "transcriptionJobStatus": "IN_PROGRESS",
            "mediaFormat": "flac",
            "creationTime": "2022-03-07T15:03:44.229000-08:00",
            "transcriptionJobName": "my-first-transcription-job",
            "languageCode": "en-US",
            "media": {
                "mediaFileUri": ""
            }
        }
    },
    "requestID": "47B8E8D397DCE7A6",
    "eventID": "cdc4b7ed-e171-4cef-975a-ad829d4123e8",
    "eventType": "AwsApiCall",
    "recipientAccountId": "111122223333"
},
{
    "eventVersion": "1.05",
    "userIdentity": {
        "type": "IAMUser",
        "principalId": "111122223333",
        "arn": "arn:aws:iam:us-west-2:111122223333:user/my-user-name",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
        "userName": "my-user-name"
    },

```

```

    "eventTime": "2022-03-07T15:07:11Z",
    "eventSource": "transcribe.amazonaws.com",
    "eventName": "GetTranscriptionJob",
    "awsRegion": "us-west-2",
    "sourceIPAddress": "127.0.0.1",
    "userAgent": "[]",
    "requestParameters": {
      "transcriptionJobName": "my-first-transcription-job"
    },
    "responseElements": {
      "transcriptionJob": {
        "settings": {

        },
        "transcriptionJobStatus": "COMPLETED",
        "mediaFormat": "flac",
        "creationTime": "2022-03-07T15:03:44.229000-08:00",
        "transcriptionJobName": "my-first-transcription-job",
        "languageCode": "en-US",
        "media": {
          "mediaFileUri": ""
        },
        "transcript": {
          "transcriptFileUri": ""
        }
      }
    },
    "requestID": "BD8798EACDD16751",
    "eventID": "607b9532-1423-41c7-b048-ec2641693c47",
    "eventType": "AwsApiCall",
    "recipientAccountId": "111122223333"
  }
]
}

```

Amazon EventBridge で使用する Amazon Transcribe

を使用すると Amazon EventBridge、他の でイベントを開始することで、ジョブの状態の変化に対応できます Amazon Transcribe AWS のサービス。文字起こしジョブの状態が変わると、 はイベント EventBridge をイベントストリームに自動的に送信します。イベントストリーム内でモニタリングするイベントと、それらのイベントが発生したときに EventBridge によって実行されるアクションを定義するルールを作成します。例えば、イベントを別のサービス (ターゲット) にルーティングし、そ

これからアクションが実行されるようにできます。例えば、文字起こしジョブが正常に完了したときにイベントを AWS Lambda 関数にルーティングするようにルールを設定できます。[EventBridge ルール](#)を定義するには、以下のセクションを参照してください。

イベントの通知は、E メール、[チャットアプリケーションの Amazon Q Developer](#) チャット通知、[AWS Console Mobile Application](#) プッシュ通知など、複数のチャネルを通じて受信できます。「[コンソール通知センター](#)」で通知を確認することもできます。通知を設定する場合は、AWS User Notifications supports 集約を使用できます[AWS User Notifications](#)。これにより、特定のイベント中に受け取る通知の数を減らすことができます。

EventBridge ルールの定義

EventBridge ルールを定義するには、を使用します[AWS Management Console](#)。ルールを定義するときは、サービス名として Amazon Transcribe を使用します。EventBridge ルールの作成方法の例については、[Amazon EventBridge 「ルール」](#)を参照してください。

を使用する前に EventBridge、次の定義に注意してください。

- イベント - イベントは、文字起こしジョブのいずれかの状態の変化を示します。例えば、ジョブの TranscriptionJobStatus が IN_PROGRESS から COMPLETED に変わります。
- ターゲット - ターゲットは、イベントを処理する別の AWS のサービスです。たとえば、AWS Lambda または Amazon Simple Notification Service () ですAmazon SNS。ターゲットは、JSON 形式のイベントを受け取ります。
- ルール - ルールは、監視 EventBridge する受信イベントを照合し、処理のためにターゲットにルーティングします。ルールによってイベントが複数のターゲットにルーティングされた場合、すべてのターゲットではそのイベントが並行して処理されます。ルールでは、ターゲットに送信される JSON をカスタマイズできます。

Amazon EventBridge イベントはベストエフォートベースで出力されます。でのイベントの作成と管理の詳細については EventBridge、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の[Amazon EventBridge 「イベント」](#)を参照してください。

以下は、文字起こしジョブのステータスが COMPLETEDまたは に変わったときに開始 Amazon Transcribe される の EventBridge ルールの例ですFAILED。

```
{
  "source": [
    "aws.transcribe"
  ],
```



```
{
  "detail-type": [
    "Transcribe Job State Change"
  ],
  "detail": {
    "TranscriptionJobStatus": [
      "COMPLETED",
      "FAILED"
    ]
  }
}
```

ルールには以下のフィールドがあります。

- `source` - イベントのソース。の場合 Amazon Transcribe、これは常に `aws.transcribe`。
- `detail-type` - イベントの詳細の識別子。Amazon Transcribeの場合、これは常に `Transcribe Job State Change` です。
- `detail` - 文字起こしジョブの新しいステータス。この例のルールでは、ジョブのステータスが `COMPLETED` または `FAILED` に変わったときにイベントが開始されます。

Amazon Transcribe イベント

Amazon EventBridge はいくつかの Amazon Transcribe イベントを記録します。

- [文字起こしジョブイベント](#)
- [言語識別イベント](#)
- [コール分析イベント](#)
- [コール分析通話後のイベント](#)
- [語彙イベント](#)

これらのイベントにはすべて、以下の共有フィールドが含まれます。

- `version`: イベントデータのバージョン。この値は常に `0` です。
- `id`: イベント EventBridge に対して によって生成された一意の識別子。
- `detail-type`: イベントの詳細の識別子。例えば、`Transcribe Job State Change` と指定します。
- `source`: イベントのソース。そのため、Amazon Transcribe これは常に `aws.transcribe`。

- **account**: API コールを生成したアカウントの AWS アカウント ID。
- **time**: イベントが配信された日時。
- **region**: リクエストが行われた AWS リージョン。
- **resources**: API コールによって使用されたリソース。の場合 Amazon Transcribe、このフィールドは常に空です。
- **detail**: イベントに関するその他の詳細
 - **FailureReason**: このフィールドは、状態またはステータスが FAILED に変化した場合に表示され、FAILED の状態またはステータスになった理由が説明されます。
 - 各イベントタイプには、detail の下に表示される追加の固有のフィールドがあります。これらの固有のフィールドは、各イベント例の後に続く以下のセクションで定義されています。

文字起こしジョブイベント

ジョブの状態が から COMPLETEDまたは IN_PROGRESSに変わるとFAILED、 はイベント Amazon Transcribe を生成します。ターゲットの状態を変更してイベントを開始させたジョブを特定するには、イベントの **TranscriptionJobName** フィールドを使用します。Amazon Transcribe イベントには、次の情報が含まれます。文字起こしジョブのステータスが FAILED の場合、detail の下に **FailureReason** フィールドが追加されます。

このイベントは [StartTranscriptionJob](#) API オペレーションにのみ適用されることに注意してください。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Transcribe Job State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
  "resources": [],
  "detail": {
    "TranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
    "TranscriptionJobStatus": "COMPLETED" (or "FAILED")
  }
}
```

- **TranscriptionJobName**: 文字起こしジョブに選択した固有の名前。

- `TranscriptionJobStatus` : 文字起こしのジョブのステータス。これは、`COMPLETED` または `FAILED` です。

言語識別イベント

[自動言語識別](#)を有効にすると、Amazon Transcribe は、言語識別の状態が `COMPLETED` または `FAILED` の場合にイベントを生成します。ターゲットの状態を変更してイベントを開始させたジョブを特定するには、イベントの `JobName` フィールドを使用します。Amazon Transcribe イベントには、以下の情報が含まれています。言語識別ステータスが `FAILED` の場合、`detail` の下に `FailureReason` フィールドが追加されます。

このイベントは、[LanguageIdSettings](#) パラメータが含まれている場合の [StartTranscriptionJob](#) API オペレーションにのみ適用されることに注意してください。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Language Identification State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
  "resources": [],
  "detail": {
    "JobType": "TranscriptionJob",
    "JobName": "my-first-lang-id-job",
    "LanguageIdentificationStatus": "COMPLETED" (or "FAILED")
  }
}
```

- `JobType`: 文字起こしジョブの場合、この値は `TranscriptionJob` でなければなりません。
- `JobName`: 文字起こしジョブの固有の名前。
- `LanguageIdentificationStatus`: 文字起こしジョブにおける言語識別のステータス。これは、`COMPLETED` または `FAILED` です。

コール分析イベント

[コール分析](#)ジョブの状態が `IN_PROGRESS` から `COMPLETED` または `FAILED` に変化すると、Amazon Transcribe はイベントを生成します。ターゲットで状態を変更してイベントを開始させ

たコール分析ジョブを特定するには、イベントの `JobName` フィールドを使用します。Amazon Transcribe イベントには、以下の情報が含まれています。コール分析ジョブのステータスが `FAILED` の場合、`detail` の下に `FailureReason` フィールドが追加されます。

このイベントは [StartCallAnalyticsJob](#) API オペレーションにのみ適用されることに注意してください。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Call Analytics Job State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
  "resources": [],
  "detail": {
    "JobName": "my-first-analytics-job",
    "JobStatus": "COMPLETED" (or "FAILED"),
    "AnalyticsJobDetails": { // only when you enable optional features such as
      Generative Call Summarization
      "Skipped": []
    }
  }
}
```

- `JobName`: コール分析文字起こしジョブの固有の名前。
- `JobStatus`: コール分析文字起こしジョブのステータス。COMPLETED または FAILED のいずれかとなります。
- `AnalyticsJobDetails`: スキップされた分析機能に関する情報を含む、コール分析文字起こしジョブの詳細。

コール分析通話後のイベント

[通話後分析](#) 文字起こしが `IN_PROGRESS` から `COMPLETED` または `FAILED` の状態に変化すると、Amazon Transcribe はイベントを生成します。ターゲットで状態を変更してイベントを開始させたコール分析通話後ジョブを特定するには、イベントの `StreamingSessionId` フィールドを使用します。

このイベントは、[PostCallAnalyticsSettings](#) パラメータが含まれている場合の [StartCallAnalyticsStreamTranscription](#) API オペレーションにのみ適用されることに注意してください。

COMPLETED イベントには、以下の情報が含まれています。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Call Analytics Post Call Job State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
  "resources": [],
  "detail": {
    "StreamingSessionId": "session-id",
    "PostCallStatus": "COMPLETED",
    "Transcript": {
      "RedactedTranscriptFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/my-redacted-file.JSON",
      "TranscriptFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/my-file.JSON"
    },
    "Media": {
      "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/my-redacted-file.WAV",
      "RedactedMediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/my-redacted-file.WAV"
    }
  }
}
```

FAILED イベントには、以下の情報が含まれています。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Call Analytics Post Call Job State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
```

```

    "resources": [],
    "detail": {
      "StreamingSessionId": "session-id",
      "PostCallStatus": "FAILED"
    }
  }
}

```

- StreamingSessionId: リアルタイムコール分析文字起こしリクエストに割り当てられる識別番号。
- PostCallStatus: 通話後コール分析文字起こしジョブのステータス。COMPLETED または FAILED のいずれかとなります。
- Transcript: 編集済みおよび未編集のトランスクリプトの URI。
- Media: 編集済みおよび未編集の音声ファイルの URI。

AWS HealthScribe ストリーム後分析イベント

[ClinicalNoteGenerationResult](#) が から IN_PROGRESSに変更されるなど、a AWS HealthScribe ストリーム後分析オペレーションの状態が変わるとCOMPLETED、AWS HealthScribe は次の情報を含むイベントを生成します。

```

{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "MedicalScribe Post Stream Analytics Update",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [],
  "detail": {
    "SessionId": <SessionID>,
    "UpdateType": "ClinicalNoteGenerationResult",
    "ClinicalNoteGenerationResult": {
      "ClinicalNoteOutputLocation": s3://amzn-s3-demo-bucket/clinical-note-output-files/clinical-notes.JSON,
      "TranscriptOutputLocation": s3://amzn-s3-demo-bucket/my-output-files/my-file.JSON,
      "Status": <IN_PROGRESS | COMPLETED | FAILED>,
      "FailureReason": <failure_reason>
    }
  }
}

```

```
}
}
```

- **UpdateType**: イベントを生成したストリーム後分析オペレーションのタイプ。結果オブジェクトの内容は、 によって異なりますUpdateType。
- **SessionId**: AWS HealthScribe ストリームの識別番号。この ID を使用して、元のストリーミングセッションを識別し、イベントを生成したストリーム後分析を検索します。
- **Status**: ストリーム後分析オペレーションのステータス。これは、IN_PROGRESS、COMPLETED、または FAILED です。
- **ClinicalNoteOutputLocation**: の出力 Amazon S3 バケットの URIClinicalNoteGenerationResult。
- **TranscriptOutputLocation**: トランスクリプトの URI。

語彙イベント

[カスタム語彙の状態](#)が から READYまたは PENDINGに変わるとFAILED、 はイベント Amazon Transcribe を生成します。ターゲットの状態を変更してイベントを開始させたカスタム語彙を特定するには、イベントの VocabularyName フィールドを使用します。Amazon Transcribe イベントには、次の情報が含まれます。カスタム語彙の状態が FAILED の場合、detail の下に FailureReason フィールドが追加されます。

Note

このイベントは [CreateVocabulary](#) API オペレーションにのみ適用されます。

```
{
  "version": "0",
  "id": "event ID",
  "detail-type": "Vocabulary State Change",
  "source": "aws.transcribe",
  "account": "111122223333",
  "time": "timestamp",
  "region": "us-west-2",
  "resources": [],
  "detail": {
    "VocabularyName": "unique-vocabulary-name",
    "VocabularyState": "READY" (or "FAILED")
  }
}
```

```
}  
}
```

- VocabularyName: カスタム語彙の固有の名前です。
- VocabularyState: カスタム語彙の処理状態。これは、READY または FAILED です。

のコンプライアンス検証 Amazon Transcribe

AWS のサービス が特定のコンプライアンスプログラムの範囲内にあるかどうかを確認するには、コンプライアンス [AWS のサービス プログラムによる範囲内コンプライアンス](#) を参照し、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、[AWS 「Compliance Programs Assurance」](#) を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、[「Downloading AWS Artifact reports」](#) を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービス は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。では、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供しています。

- [セキュリティのコンプライアンスとガバナンス](#) – これらのソリューション実装ガイドでは、アーキテクチャ上の考慮事項について説明し、セキュリティとコンプライアンスの機能をデプロイする手順を示します。
- [HIPAA 対応サービスのリファレンス](#) – HIPAA 対応サービスの一覧が提供されています。すべてが HIPAA 対応 AWS のサービス であるわけではありません。
- [AWS コンプライアンスリソース](#) – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- [AWS カスタマーコンプライアンスガイド](#) – コンプライアンスの観点から責任共有モデルを理解します。このガイドは、複数のフレームワーク (米国国立標準技術研究所 (NIST)、Payment Card Industry Security Standards Council (PCI)、国際標準化機構 (ISO) を含む) にわたってガイダンスを保護し、セキュリティコントロールに AWS のサービス マッピングするためのベストプラクティスをまとめたものです。
- [「デベロッパーガイド」の「ルールによるリソースの評価」](#) – この AWS Config サービスは、リソース設定が社内プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。AWS Config

- [AWS Security Hub](#) – これにより AWS のサービス、セキュリティ状態を包括的に把握できます。AWS Security Hub では、セキュリティコントロールを使用して AWS リソースを評価し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスに対するコンプライアンスをチェックします。サポートされているサービスとコントロールの一覧については、[Security Hub のコントロールリファレンス](#)を参照してください。
- [Amazon GuardDuty](#) – 環境をモニタリングして AWS アカウント不審なアクティビティや悪意のあるアクティビティがないか調べることで、ワークロード、コンテナ、データに対する潜在的な脅威 AWS のサービスを検出します。GuardDuty を使用すると、特定のコンプライアンスフレームワークで義務付けられている侵入検知要件を満たすことで、PCI DSS などのさまざまなコンプライアンス要件に対応できます。
- [AWS Audit Manager](#) – これにより AWS のサービス、AWS 使用状況を継続的に監査し、リスクの管理方法と規制や業界標準への準拠を簡素化できます。

の耐障害性 Amazon Transcribe

AWS グローバルインフラストラクチャは、AWS リージョン およびアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。は、低レイテンシー、高スループット、および高度に冗長なネットワークで接続された、物理的に分離および分離された複数のアベイラビリティーゾーン AWS リージョンを提供します。アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェイルオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性が高く、フォールトトレラントで、スケーラブルです。

AWS リージョン およびアベイラビリティーゾーンの詳細については、[AWS 「グローバルインフラストラクチャ」](#)を参照してください。

のインフラストラクチャセキュリティ Amazon Transcribe

マネージドサービスである Amazon Transcribe は、AWS グローバルネットワークセキュリティで保護されています。AWS セキュリティサービスとがインフラストラクチャ AWS を保護する方法については、[AWS 「クラウドセキュリティ」](#)を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して AWS 環境を設計するには、「セキュリティの柱 AWS Well-Architected フレームワーク」の「[インフラストラクチャの保護](#)」を参照してください。

が AWS 公開した API コールを使用して、ネットワーク Amazon Transcribe 経由で にアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、[AWS Security Token Service](#) (AWS STS) を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

Amazon Transcribe の脆弱性分析と管理

設定と IT コントロールは、AWS とお客様の間で責任を共有します。詳細については、AWS [「責任共有モデル」](#) を参照してください。

Amazon Transcribe およびインターフェイス VPC エンドポイント (AWS PrivateLink)

インターフェイス VPC エンドポイントを作成 Amazon Transcribe することで、VPC と の間にプライベート接続を確立できます。インターフェイスエンドポイントは、インターネットゲートウェイ [AWS PrivateLink](#)、NAT デバイス、VPN 接続、AWS Direct Connect 接続のいずれも必要とせずに Amazon Transcribe APIs にプライベートにアクセスできるテクノロジーである を利用しています。VPC 内のインスタンスは、パブリック IP アドレスがなくても Amazon Transcribe APIs と通信できます。VPC と 間のトラフィック Amazon Transcribe は、Amazon ネットワークを離れません。

各インターフェイスエンドポイントは、サブネット内の 1 つ、または複数の [Elastic Network Interface](#) によって表されます。

詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイス VPC エンドポイント \(AWS PrivateLink\)](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe VPC エンドポイントに関する考慮事項

のインターフェイス VPC エンドポイントを設定する前に Amazon Transcribe、Amazon VPC 「ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントのプロパティと制限](#)」を確認してください。

Amazon Transcribe は、VPC からのすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

Amazon Transcribeのインターフェイス VPC エンドポイントの作成

AWS Management Console または を使用して、Amazon Transcribe サービスの VPC Amazon VPC エンドポイントを作成できます AWS CLI。詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントの作成](#)」を参照してください。

でバッチ文字起こしを行う場合は Amazon Transcribe、次のサービス名を使用して VPC エンドポイントを作成します。

- `com.amazonaws.us-west-2.transcribe`

で文字起こしをストリーミングするには Amazon Transcribe、次のサービス名を使用して VPC エンドポイントを作成します。

- `com.amazonaws.us-west-2.transcribestreaming`

エンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、 のデフォルトの DNS 名 Amazon Transcribe を使用して AWS リージョン、 に API リクエストを行うことができます。たとえば、です `transcribestreaming.us-east-2.amazonaws.com`。

詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントを介したサービスへアクセスする](#)」を参照してください。

の VPC エンドポイントポリシーの作成 Amazon Transcribe

ストリーミングサービスまたはバッチ文字起こしサービスへのアクセスを制御するエンドポイントポリシーを VPC エンドポイントにアタッチできます Amazon Transcribe。このポリシーでは、以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル。
- 実行可能なアクション。
- アクションを実行できるリソース。

詳細については、Amazon VPC ユーザーガイドの「[VPC エンドポイントによるサービスのアクセスコントロール](#)」を参照してください。

例: Amazon Transcribe バッチ文字起こしアクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、Amazon Transcribeでバッチ文字起こしを行うためのエンドポイントポリシーの例です。エンドポイントにアタッチされると、このポリシーは、すべてのリソースですべてのプリンシパルに、リストされている Amazon Transcribe アクションへのアクセス権を付与します。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Principal": "*",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "transcribe:StartTranscriptionJob",
        "transcribe:ListTranscriptionJobs"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

例: Amazon Transcribe ストリーミング文字起こしアクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、Amazon Transcribeでストリーミング文字起こしを行うためのエンドポイントポリシーの例です。エンドポイントにアタッチされると、このポリシーは、すべてのリソースですべてのプリンシパルに、リストされている Amazon Transcribe アクションへのアクセス権を付与します。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Principal": "*",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "transcribe:StartStreamTranscription",
        "transcribe:StartStreamTranscriptionWebsocket"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

共有サブネット

自分と共有されているサブネットで VPC エンドポイントを作成、説明、変更、または削除することはできません。ただし、VPC エンドポイントを共有するサブネットで使用することはできま

す。VPC 共有の詳細については、「Amazon Virtual Private Cloud ガイド」の「VPC [を他の アカウントと共有する](#)」を参照してください。

のセキュリティのベストプラクティス Amazon Transcribe

以下のベストプラクティスは一般的なガイドラインであり、完全なセキュリティソリューションに相当するものではありません。これらのベストプラクティスはお客様の環境に必ずしも適切または十分でない可能性があるため、処方箋ではなく、あくまで有用な検討事項として使用します。

- 暗号化コンテキストなどのデータ AWS KMS 暗号化を使用する

AWS KMS 暗号化コンテキストは、プレーンテキストの非シークレットキーと値のペアのマップです。このマップは、暗号化コンテキストペアと呼ばれる追加の認証データを表し、データのセキュリティレイヤーを追加できます。

詳細については、「[AWS KMS 暗号化コンテキスト](#)」を参照してください。

- 可能な限り、一時的な認証情報を使用する

長期的に使用できるアクセスキーの代わりに、可能な限り一時的な認証情報を使用します。プログラムによるアクセスと長期的な認証情報を持つ IAM ユーザーが必要なシナリオでは、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。長期的な認証情報を定期的にローテーションすることで、プロセスに慣れることができます。これを行うことで、従業員が退職するときなど、認証情報をローテーションする必要がある場合に役に立ちます。IAM アクセス最終使用者情報を利用して、アクセスキーを安全にローテーションして削除することをおすすめします。

詳細については、「[アクセスキーの更新](#)」および「[IAMでのセキュリティのベストプラクティス](#)」を参照してください。

- Amazon Transcribe アクセスを必要とするアプリケーションと AWS サービスに IAM ロールを使用する

IAM ロールを使用して、にアクセスする必要があるアプリケーションまたはサービスの一時的な認証情報を管理します Amazon Transcribe。ロールを使用する場合、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を Amazon EC2 インスタンスまたは AWS サービスに配布する必要はありません。IAM ロールは、アプリケーションが AWS リソースにリクエストを行うときに使用できる一時的なアクセス許可を提供できます。

詳細については、「[IAM ロール](#)」および「[ロールの一般的なシナリオ: ユーザー、アプリケーション、およびサービス](#)」を参照してください。

- タグベースのアクセスコントロールの使用

タグを使用して、内のアクセスを制御できます AWS アカウント。Amazon Transcribe では、タグは、文字起こしジョブ、カスタム語彙、カスタム語彙フィルター、カスタム言語モデルに追加できます。

詳細については、「[タグベースのアクセスコントロール](#)」を参照してください。

- AWS モニタリングツールを使用する

モニタリングは、および AWS ソリューションの信頼性、セキュリティ、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分 Amazon Transcribe です。Amazon Transcribe を使用して をモニタリングできます CloudTrail。

詳細については、「[によるモニタリング Amazon Transcribe AWS CloudTrail](#)」を参照してください。

- 有効 AWS Config

AWS Config は、AWS リソースの設定を評価、監査、評価できます。を使用すると AWS Config、AWS リソース間の設定や関係の変更を確認できます。また、詳細なリソース設定履歴を調べ、社内ガイドラインで指定された設定に対して、全体的なコンプライアンスを判断することもできます。これにより、コンプライアンス監査、セキュリティ分析、変更管理、運用上のトラブルシューティングを簡素化できます。

詳細については、「[とは](#)」を参照してください AWS Config。

Amazon Transcribe 医療

Amazon Transcribe Medical は、医師によるメモ、医薬品安全性モニタリング、遠隔医療の予約、医師と患者の会話など、医療関連の音声で文字起こししたい医療専門家向けに設計された自動音声認識 (ASR) サービスです。Amazon Transcribe Medical は、リアルタイムストリーミング (マイク経由) またはアップロードされたファイル (バッチ) の文字起こしを通じて利用できます。

⚠ Important

Amazon Transcribe Medical は、専門家による医療の助言、診断、または治療の代用品ではありません。ユースケースに適した信頼しきい値を特定し、高い精度を必要とする状況では高い信頼しきい値を使用してください。特定のユースケースでは、結果は適切なトレーニングを受けた人間によるレビュー担当者によってレビューおよび検証される必要があります。Amazon Transcribe 医療文字起こしは、トレーニングを受けた医療専門家による正確性と健全な医療判断を確認した後に、患者ケアのシナリオでのみ使用してください。

Amazon Transcribe Medical は責任共有モデルの下で運営されており、AWS は Amazon Transcribe Medical を実行するインフラストラクチャを保護する責任を担い、お客様はデータの管理に責任を負います。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe Medical は、米国英語 (en-US) で利用できます。

最良の結果を得るには、PCM 16 ビットエンコーディングの FLAC や WAV などの可逆音声形式を使用してください。Amazon Transcribe Medical は 16,000 Hz 以上のサンプリングレートをサポートしています。

トランスクリプトの分析には、AWS のサービスなどの他の [Amazon Comprehend Medical](#) を使用できます。

サポート対象の専門分野

専門分野	サブ専門分野	音声入力
心臓病学	なし	ストリーミングのみ
神経学	なし	ストリーミングのみ
オンコロジー	なし	ストリーミングのみ

専門分野	サブ専門分野	音声入力
プライマリケア	家庭医療	バッチ、ストリーミング
プライマリケア	内科	バッチ、ストリーミング
プライマリケア	産婦人科 (OB-GYN)	バッチ、ストリーミング
プライマリケア	小児科	バッチ、ストリーミング
放射線学	なし	ストリーミングのみ
泌尿器科	なし	ストリーミングのみ

利用可能なリージョンとクォータ

コール分析は、以下でサポートされています AWS リージョン。

リージョン	文字起こしタイプ
af-south-1 (ケープタウン)	バッチ
ap-east-1 (香港)	バッチ
ap-northeast-1 (東京)	バッチ、ストリーミング
ap-northeast-2 (ソウル)	バッチ、ストリーミング
ap-south-1 (ムンバイ)	バッチ
ap-southeast-1 (シンガポール)	バッチ
ap-southeast-2 (シドニー)	バッチ、ストリーミング
ca-central-1 (カナダ、中部)	バッチ、ストリーミング
eu-central-1 (フランクフルト)	バッチ、ストリーミング
eu-north-1 (ストックホルム)	バッチ

リージョン	文字起こしタイプ
eu-west-1 (アイルランド)	バッチ、ストリーミング
eu-west-2 (ロンドン)	バッチ、ストリーミング
eu-west-3 (パリ)	バッチ
me-south-1 (バーレーン)	バッチ
sa-east-1 (サンパウロ)	バッチ、ストリーミング
us-east-1 (バージニア北部)	バッチ、ストリーミング
us-east-2 (オハイオ)	バッチ、ストリーミング
us-gov-east-1 (GovCloud、米国東部)	バッチ、ストリーミング
us-gov-west-1 (GovCloud、米国西部)	バッチ、ストリーミング
us-west-1 (サンフランシスコ)	バッチ
us-west-2 (オレゴン)	バッチ、ストリーミング

[Amazon Transcribe](#)、Amazon Transcribe Medical、および[コール分析](#)ではリージョンのサポートが異なることに注意してください。

サポートされている各リージョンのエンドポイントを取得するには、「AWS 全般のリファレンス」の「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

文字起こしに関連するクォータのリストについては、「AWS 全般のリファレンス」の「[Service Quotas](#)」を参照してください。一部のクォータは、リクエストに応じて変更することができます。調整可能列に「はい」と表示されている場合は、増加をリクエストできます。そのためには、表示されたリンクを選択します。

医療専門分野と用語

医療文字起こしジョブを作成するときは、ソースファイルの言語、医療専門分野、オーディオタイプを指定します。言語および PRIMARYCARE 医療専門分野として、米国英語 (en-US) を入力します。値として初期診療を入力すると、次の医療分野のソースオーディオから文字起こしを生成できます。

- 家庭医療
- 内科
- 産婦人科 (OB-GYN)
- 小児科

音声タイプに応じて、ディクテーションと会話のどちらかを選択できます。医師が患者の訪問または処置に関する報告を提出している音声ファイルのディクテーションを選択します。医師と患者間の会話、または医師間の会話を伴う音声ファイルの会話を選択します。

文字起こしジョブの出力を保存するには、作成済みの Amazon S3 バケットを選択します。Amazon S3 バケットの詳細については、[「の開始方法 Amazon Simple Storage Service」](#)を参照してください。

サンプル JSON に入力するリクエストパラメータの最小数を次に示します。

```
{
  "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://path to your audio file"
  },
  "OutputBucketName": "your output bucket name",
  "Specialty": "PRIMARYCARE",
  "Type": "CONVERSATION"
}
```

Amazon Transcribe Medical では、代替文字起こしを生成できます。詳細については、[「代替文字起こしの生成」](#)を参照してください。

また、スピーカーパーティショニングを有効にしたり、オーディオ内のチャンネルを特定したりすることもできます。詳細については、[スピーカーパーティショニングを有効にする](#)および[マルチチャンネルの音声文字起こし](#)を参照してください。

医療用語と測定値の文字起こし

Amazon Transcribe Medical は、医学用語と測定値を文字起こしできます。Amazon Transcribe Medical は、話者の用語の略語を出力します。たとえば、「血圧」は BP として文字起こしされます。Amazon Transcribe Medical が医学用語と測定値に使用する規則のリストは、このページの表に

記載されています。[音声用語] 列は、ソースオーディオで話される用語を指します。[出力] 列は、文字起こし結果に表示される略語を示します。

ソースオーディオで話される用語が、ここで文字起こしの出力にどのように対応しているかを確認できます。

ソースオーディオで発音される用語	出力で使用する略語	出力例
摂氏	C	患者の体温は 37.4°C である。
摂氏	C	患者の体温は 37.4°C である。
華氏	F	患者の体温は 101F である。
グラム	g	100g の塊を患者から抽出した。
メートル	m	患者の身長は 1.8m である。
フィート	フィート	患者の身長は 6 フィートである。
キロ	kg	患者の体重は 80kg である。
キログラム	kg	患者の体重は 80kg である。
c c	cc	患者は 100cc の生理食塩水を摂取した。
立方センチメートル	cc	患者は 100cc の生理食塩水を摂取した。
ミリリットル	mL	患者は 100mL の尿を排泄した。
血圧	BP	患者の BP が上昇した。
b p	BP	患者の BP が上昇した。

ソースオーディオで発音される用語	出力で使用する略語	出力例
X オーバー Y	X/Y	患者の BP は 120/80 であった。
心拍数	BPM	患者は 160 BPM の心拍数の心房細動を発症した。
心拍数	BPM	患者は 160 BPM の心拍数の心房細動を発症した。
O 2	O2	患者の O2 飽和度は 98% であった。
CO2	CO2	患者は CO2 上昇のために呼吸支援を必要とした。
術後	術後	患者は、術後評価のために来院した。
術後	術後	患者は、術後評価のために来院した。
CAT スキャン	CT スキャン	脳出血の患者には CT スキャンの使用が必要である。
脈 80	P 80	患者のバイタルは、P 80、R 17、..。
呼吸 17	R 17	患者のバイタルは、P 80、R 17、..。
入出力	I/O	患者は I/O 洞調律であった
L 5	L5	L4 と L5 の間で腰椎穿刺を実施した

文字起こし番号

Amazon Transcribe Medical は、数字を単語ではなく数字として文字起こしします。たとえば、「one thousand two hundred forty-two」と話すと、「1242」と文字起こしされます。

数値は、次のルールに従って文字起こしされます。

ルール	説明
10 を超える基数を数字に変換します。	「Fifty five」 > 55 「a hundred」 > 100 「One thousand and thirty one」 > 1,031 「One hundred twenty-three million four hundred fifty six thousand seven hundred eight nine」 > 123,456,789
「million」または「billion」の後に数字が続かない場合、「million」または「billion」が後に続く基数を、単語が後に続く数字に変換します。	「one hundred million」 > 100 million 「one billion」 > 1 billion 「two point three million」 > 2.3 million
10 を超える序数を数字に変換します。	「Forty third」 > 43rd 「twenty sixth avenue」 > 26th avenue
分数は数値形式に変換します。	「a quarter」 > 1/4 「three sixteenths」 > 3/16 「a half」 > 1/2 「a hundredth」 > 1/100
10 より小さい数値は数字に変換 (行に複数ある場合) します。	「three four five」 > 345 「My phone number is four two five five five five one two one two」 > 4255551212
少数は「ドット」または「点」で示します。	「three hundred and three dot five」 > 303.5 「three point twenty three」 > 3.23 「zero point four」 > 0.4

ルール	説明
	「point three」 > 0.3
数値の後の「percent」という単語をパーセント記号 (%) に変換します。	「twenty three percent」 > 23% 「twenty three point four five percent」 > 23.45%
数字の後の「dollar」、「US dollar」、「Australian dollar」、「AUD」、「USD」という単語を、数字の前のドル記号 (\$) に変換します。	「one dollar and fifteen cents」 > \$1.15 「twenty three USD」 > \$23 「twenty three Australian dollars」 > \$23
「pounds」または「milligrams」を「lbs」または「mg」に変換します。	「twenty three pounds」 > 23 lbs 「forty-five milligrams」 > 45 mg
数字の後の「rupees」、「Indian rupees」、または「INR」という単語を、数字の前のルピー記号 (#) に変換します。	「twenty three rupees」 > #23 「fifty rupees thirty paise」 > #50.30
時刻は数字に変換します。	「seven a m eastern standard time」 > 7 a.m. eastern standard time 「twelve thirty p m」 > 12:30 p.m.
2 桁で表した年は 4 桁に変換します。 20 世紀、21 世紀、および 22 世紀にのみ有効です。	「nineteen sixty two」 > 1962 「the year is twenty twelve」 > the year is 2012 「twenty nineteen」 > 2019 「twenty one thirty」 > 2130
日付は数字に変換します。	「May fifth twenty twelve」 > May 5th 2012 「May five twenty twelve」 > May 5 2012 「five May twenty twelve」 > 5 May 2012
数値範囲は単語「to」で区切ります。	「twenty three to thirty seven」 > 23 to 37

医療会話の文字起こし

Amazon Transcribe Medical を使用すると、バッチ文字起こしジョブまたはリアルタイムストリームを使用して、臨床医と患者の医療会話を文字起こしできます。バッチ文字起こしジョブを使用すると、音声ファイルを変換することができます。Amazon Transcribe Medical が可能な限り高い精度で文字起こし結果を生成するには、文字起こしジョブまたはストリームで臨床医の専門分野を指定する必要があります。

臨床医と患者の訪問は、以下の医療専門分野で文字起こしすることができます。

- 心臓病学: ストリーミング文字起こしのみ利用可能
- 神経学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能
- 腫瘍学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能
- プライマリケア: 次のタイプの医療行為が含まれます。
 - 家庭医療
 - 内科
 - 産婦人科 (OB-GYN)
 - 小児科
- 泌尿器学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能

医療用カスタム語彙を使用すると、文字起こしの精度を向上することができます。医療用カスタム語彙の詳細については、「[医療用カスタム語彙による文字起こしの精度の向上](#)」を参照してください。

デフォルトでは、Amazon Transcribe Medical は信頼度が最も高い文字起こしを返します。代替文字起こしを返すように設定する場合は、「[代替文字起こしの生成](#)」を参照してください。

文字起こし出力で数値と医学的測定値がどのように表示されるかについては、「[文字起こし番号](#)」と「[医療用語と測定値の文字起こし](#)」をご覧ください。

トピック

- [医療に関する会話の音声ファイルの文字起こし](#)
- [リアルタイムストリームで医療に関する会話の文字起こし](#)
- [スピーカーパーティショニングを有効にする](#)
- [マルチチャネルの音声文字起こし](#)

医療に関する会話の音声ファイルの文字起こし

バッチ文字起こしジョブを使用して、医療に関する会話の音声ファイルの文字起こしを行います。これを使用して、臨床医と患者の対話を文字起こしすることができます。[StartMedicalTranscriptionJob](#) API または AWS Management Consoleで、バッチ文字起こしジョブを開始できます。

[StartMedicalTranscriptionJob](#) API で医療分野の文字起こしジョブを開始する場合、PRIMARYCARE を Specialty パラメータの値として指定します。

AWS Management Console

臨床医と患者の対話の文字起こし (AWS Management Console)

を使用して臨床医と患者の対話を AWS Management Console 文字起こしするには、文字起こしジョブを作成し、音声入力タイプの会話を選択します。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成] を選択します。
4. ジョブ詳細を指定 ページ内の ジョブ設定 で次の指定を行います。
 - a. 名前: 文字起こしジョブの名前です。
 - b. 音声入力タイプ – 会話
5. 残りのフィールドでは、音声ファイル Amazon S3 の場所と、文字起こしジョブの出力を保存する場所を指定します。
6. [Next (次へ)] を選択します。
7. [Create] (作成) を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用した医療に関する会話の文字起こしをするには

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. MedicalTranscriptionJobName の場合、AWS アカウントで一意の名前を指定します。

- b. LanguageCode として、音声ファイルで話されている言語と語彙フィルターの言語に対応する言語コードを指定します。
- c. MediaFileUri オブジェクトの Media パラメータの場合、文字起こしを行う音声ファイルの名前を指定します。
- d. Specialty の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を PRIMARYCARE に指定します。
- e. Type の場合、CONVERSATION を指定します。
- f. OutputBucketName の場合、文字起こし結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。

以下は、を使用して、PRIMARYCARE専門分野の臨床医と患者の医療に関する会話を AWS SDK for Python (Boto3) 文字起こしするリクエストの例です。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-med-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Specialty = 'PRIMARYCARE',
    Type = 'CONVERSATION'
)

while True:
    status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
job_name)
    if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
```

```
print(status)
```

次のコード例は、臨床医と患者の会話の文字起こし結果を示しています。

```
{
  "jobName": "conversation-medical-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "... come for a follow up visit today..."
      }
    ],
    "items": [
      {
        ...
        "start_time": "4.85",
        "end_time": "5.12",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "come"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "start_time": "5.12",
        "end_time": "5.29",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "for"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "start_time": "5.29",
        "end_time": "5.33",
```

```
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.9955",
                "content": "a"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "start_time": "5.33",
        "end_time": "5.66",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.9754",
                "content": "follow"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "start_time": "5.66",
        "end_time": "5.75",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "0.9754",
                "content": "up"
            }
        ],
        "type": "pronunciation"
    },
    {
        "start_time": "5.75",
        "end_time": "6.02",
        "alternatives": [
            {
                "confidence": "1.0",
                "content": "visit"
            }
        ]
    },
    ...
},
"status": "COMPLETED"
}
```

AWS CLI

バッチ文字起こしジョブ (AWS CLI) を使用した医療会話の文字起こし

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://example-start-command.json
```

以下のコードは、`example-start-command.json` の内容を示しています。

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-med-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "CONVERSATION"  
}
```

リアルタイムストリームで医療に関する会話の文字起こし

医療に関する会話の音声ストリームは、HTTP/2 または [WebSocket](#) プロトコルで文字起こしを行うことができます。WebSocket プロトコルを使用してストリーミングを開始する方法については、[WebSocket ストリームの設定](#) を参照してください。[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用して HTTP/2 ストリーミングを開始します。

次の専門分野でストリーミングを文字起こしを行うことができます。

- 心臓病学
- 神経学

- 腫瘍学
- プライマリケア
- 泌尿器科

各医療専門分野には、多くのタイプの処置と予定が含まれています。したがって、臨床医は、さまざまな種類のメモを指示します。次の例をガイダンスとして使用して、WebSocket リクエストの specialty URL パラメータまたは Specialty API の [StartMedicalStreamTranscription](#) パラメータの値を指定します。

- 電気生理学または心エコー検査の相談については、CARDIOLOGY を選択します。
- 医学腫瘍学、外科腫瘍学、または放射線腫瘍学の相談については、ONCOLOGY を選択します。
- 一過性脳虚血発作または脳血管発作のいずれかで脳卒中を起こした患者に診察を提供する医師の場合は、NEUROLOGY を選択します。
- 尿失禁に関する相談については、UROLOGY を選択します。
- 年次検診または緊急ケア訪問の場合は、PRIMARYCARE を選択します。
- ホスピタリストの訪問の場合は、PRIMARYCARE を選択します。
- 出産、卵管結紮法、IUD 挿入、または中絶に関する相談については、PRIMARYCARE を選択します。

AWS Management Console

ストリーミングの医療に関する会話を文字起こしする (AWS Management Console)

を使用して臨床医と患者の対話をリアルタイムストリームで AWS Management Console 文字起こしするには、医療会話を文字起こしし、ストリームを開始し、マイクに向かって話し始めるオプションを選択します。

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、リアルタイム文字起こしを選択します。
3. 会話 を選択します。
4. 医療専門分野 の場合、臨床医の専門分野を選択します。
5. [ストリーミングの開始] を選択します。
6. マイクに向かって話してください。

HTTP/2 ストリーミングでの医療会話の文字起こし

HTTP/2 リクエストのパラメータのための構文を次に示します。

医療関係の会話の HTTP/2 ストリーミングを文字起こしする場合、

[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用し、以下を指定します。

- LanguageCode - 言語コードです。有効値は en-US です。
- MediaEncoding - 音声入力に使用されるエンコーディングです。有効な値は、pcm、ogg-opus、flac です。
- Specialty - 医療専門家の専門分野です。
- Type - CONVERSATION

リアルタイムストリーム内の特定の文字起こし精度を向上させるには、カスタム語彙を使用します。カスタム語彙を有効にするには、使用するカスタム語彙の名前に VocabularyName パラメータの値を設定します。詳細については、「[医療用カスタム語彙による文字起こしの精度の向上](#)」を参照してください。

別のスピーカーからの音声にラベルを付ける場合、ShowSpeakerLabel のパラメータ true を設定します。詳細については、「[スピーカーパーティショニングを有効にする](#)」を参照してください。

医療関係の会話を文字起こしするための HTTP/2 ストリーミングの設定の詳細については、[HTTP/2 ストリームの設定](#) を参照してください。

WebSocket ストリーミングでの医療会話の文字起こし

WebSocket リクエストを使用して、医療会話の文字起こしができます。WebSocket リクエストを行う場合、署名付き URL を作成します。この URL には、アプリケーションと Amazon Transcribe Medical の間の音声ストリームをセットアップするために必要な情報が含まれています。WebSocket リクエストの作成の詳細については、「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

署名付き URL を作成するには、次のテンプレートを使用します。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-  
transcription-websocket  
?language-code=languageCode  
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256  
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-  
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request  
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
```

```
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
&X-Amz-SignedHeaders=host
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&session-id=sessionId
&specialty=medicalSpecialty
&type=CONVERSATION
&vocabulary-name=vocabularyName
&show-speaker-label=boolean
```

リアルタイムストリーム内の特定の文字起こし精度を向上させるには、カスタム語彙を使用します。カスタム語彙を有効にするには、使用するカスタム語彙の名前に `vocabulary-name` の値を設定します。詳細については、「[医療用カスタム語彙による文字起こしの精度の向上](#)」を参照してください。

別のスピーカーからの音声にラベルを付けるには、`show-speaker-label` へのパラメータ `true` を設定します。詳細については、「[スピーカーパーティショニングを有効にする](#)」を参照してください。

署名付き URL の作成方法の詳細については、「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

スピーカーパーティショニングを有効にする

Amazon Transcribe Medical でスピーカーパーティショニングを有効にするには、スピーカーダイアライゼーションを使用します。これにより、患者が何を言ったのか、臨床医が文字起こし出力で何を言ったかを確認できます。

話者ダイアライゼーションを有効にすると、Amazon Transcribe Medical は各話者の発話に各話者の一意の識別子をラベル付けします。発話とは発言の単位であり、通常は無音で他の発話と区切られます。バッチ文字起こしでは、臨床医からの発話は `spk_0` のラベルを受け取ることができ、患者の発話は `spk_1` のラベルを受け取ることができます。

ある話者からの発話が別の話者からの発話と重なる場合、Amazon Transcribe Medical は、開始時刻順で文字起こしを指示します。入力音声で発話が被っても文字起こし出力では被りません。

バッチ文字起こしジョブ、またはリアルタイムストリームを使用して音声ファイルを文字起こしする場合、話者ダイアライゼーションを有効にできます。

トピック

- [バッチ文字起こしで、スピーカーパーティショニングを有効にする](#)
- [リアルタイムストリームでスピーカーパーティショニングを有効にする](#)

バッチ文字起こしで、スピーカーパーティショニングを有効にする

[StartMedicalTranscriptionJob](#) API または AWS Management Console でバッチ文字起こしジョブをスピーカーパーティショニングを有効にできます。これにより、臨床医と患者の会話で話者ごとにテキストをパーティション化し、文字起こし出力で誰が何を言ったかを判断できます。

AWS Management Console

を使用して文字起こし AWS Management Console しジョブでスピーカーダイアライゼーションを有効にするには、音声識別を有効にしてからスピーカーパーティショニングを有効にします。

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成] を選択します。
4. [ジョブの詳細を指定する] ページで、文字起こしジョブに関する情報を入力します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. [音声識別] を有効にします。
7. 音声識別タイプでは、[スピーカーパーティショニング] を選択します。
8. 話者の最大数では、音声ファイルで話していると思われる話者の最大数を指定します。
9. [Create] (作成) を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用して、スピーカーパーティショニングを有効にする

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. `MedicalTranscriptionJobName` の場合、AWS アカウントで一意の名前を指定します。
 - b. `LanguageCode` の場合、音声ファイル内で話されている言語に対応する言語コードです。
 - c. `MediaFileUri` オブジェクトの `Media` パラメータの場合、文字起こしを行う音声ファイルの名前を指定します。

- d. Specialty の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を指定します。
- e. Type の場合、CONVERSATION を指定します。
- f. には OutputBucketName、文字起こし結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。
- g. Settings オブジェクトの場合、以下を指定します。
 - i. ShowSpeakerLabels - true.
 - ii. MaxSpeakerLabels - オーディオ内で話していると思われるスピーカーの数を示す 2 ~ 10 の整数です。

次のリクエストでは AWS SDK for Python (Boto3)、を使用して、スピーカーパーティショニングを有効にしたプライマリケア臨床医の患者の対話のバッチ文字起こしジョブを開始します。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media={
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Specialty = 'PRIMARYCARE',
    Type = 'CONVERSATION',
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    Settings = {'ShowSpeakerLabels': True,
                'MaxSpeakerLabels': 2
    }
)
while True:
    status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
    job_name)
    if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
    'FAILED']:
```

```
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

次の例のコードは、スピーカーパーティショニングを有効にした文字起こしジョブの文字起こし結果を示しています。

```
{
  "jobName": "job ID",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "Professional answer."
      }
    ],
    "speaker_labels": {
      "speakers": 1,
      "segments": [
        {
          "start_time": "0.000000",
          "speaker_label": "spk_0",
          "end_time": "1.430",
          "items": [
            {
              "start_time": "0.100",
              "speaker_label": "spk_0",
              "end_time": "0.690"
            },
            {
              "start_time": "0.690",
              "speaker_label": "spk_0",
              "end_time": "1.210"
            }
          ]
        }
      ]
    }
  },
  "items": [
```

```
{
  "start_time": "0.100",
  "end_time": "0.690",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "0.8162",
      "content": "Professional"
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "start_time": "0.690",
  "end_time": "1.210",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "0.9939",
      "content": "answer"
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "alternatives": [
    {
      "content": "."
    }
  ],
  "type": "punctuation"
}
],
"status": "COMPLETED"
}
```

AWS CLI

プライマリケアを実践している臨床医と患者との間の会話の音声ファイルを文字起こしする (AWS CLI)

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://example-start-command.json
```

以下のコードは、`example-start-command.json` の内容を示しています。

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-med-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "CONVERSATION",  
  "Settings": {  
    "ShowSpeakerLabels": true,  
    "MaxSpeakerLabels": 2  
  }  
}
```

リアルタイムストリームでスピーカーパーティショニングを有効にする

リアルタイムストリームでスピーカーをパーティション分割して音声にラベルを付けるには、AWS Management Console または ストリーミングリクエストを使用します。スピーカーパーティショニングは、ストリーミング内のスピーカーが 2~5 人の場合に最も効果的です。Amazon Transcribe Medical は 1 つのストリームに 5 人以上のスピーカーをパーティション分割できますが、その数を超えるとパーティションの精度が低下します。

HTTP/2 リクエストを開始する場合、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用します。WebSocket リクエストを開始する場合、署名付き URL を使用します。URL には、アプリケーションと Amazon Transcribe Medical 間の双方向通信を設定するために必要な情報が含まれています。

マイクで話されている音声のスピーカーパーティショニングを有効にする (AWS Management Console)

を使用して AWS Management Console 、臨床医と患者の会話のリアルタイムストリーム、またはマイクにリアルタイムで話されるディクテーションを開始できます。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、Amazon Transcribe Medical でリアルタイム文字起こしを選択します。
3. 音声入力タイプの場合、文字起こしする医療音声の種類を選択します。
4. [追加設定] では、[スピーカーパーティショニング] を選択します。
5. [ストリーミングを開始] を選択して、リアルタイム音声の文字起こしを開始します。
6. マイクに向かって話してください。

HTTP/2 ストリーム内のスピーカーパーティショニングを有効にする

医療に関する関係の会話の HTTP/2 ストリーム内のスピーカーパーティショニングを有効にする場合、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を選択し、以下を指定します。

- LanguageCode の場合、ストリーム内の言語に対応する言語コードを指定します。有効値は en-US です。
- MediaSampleHertz の場合、音声のサンプルレートを指定します。
- Specialty の場合、提供者の専門分野を指定します。
- ShowSpeakerLabel – true

医療に関する会話を文字起こしするための HTTP/2 ストリームの設定の詳細については、「[HTTP/2 ストリームの設定](#)」を参照してください。

WebSocket リクエスト内のスピーカーパーティショニングを有効にする

API によって WebSocket ストリーミング内のスピーカーをパーティション化する場合、次の形式を使用して WebSocket リクエストをスタートするための署名付き URL を作成し、show-speaker-label を true と特定します。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-transcription-websocket
?language-code=LanguageCode
```

```
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
&X-Amz-SignedHeaders=host
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&session-id=sessionId
&specialty=medicalSpecialty
&type=CONVERSATION
&vocabulary-name=vocabularyName
&show-speaker-label=boolean
```

次のコードは、ストリーミングリクエストの切り捨てられたレスポンス例を示しています。

```
{
  "Transcript": {
    "Results": [
      {
        "Alternatives": [
          {
            "Items": [
              {
                "Confidence": 0.97,
                "Content": "From",
                "EndTime": 18.98,
                "Speaker": "0",
                "StartTime": 18.74,
                "Type": "pronunciation",
                "VocabularyFilterMatch": false
              },
              {
                "Confidence": 1,
                "Content": "the",
                "EndTime": 19.31,
                "Speaker": "0",
                "StartTime": 19,
                "Type": "pronunciation",
```

```
    "VocabularyFilterMatch": false
  },
  {
    "Confidence": 1,
    "Content": "last",
    "EndTime": 19.86,
    "Speaker": "0",
    "StartTime": 19.32,
    "Type": "pronunciation",
    "VocabularyFilterMatch": false
  },
  ...
  {
    "Confidence": 1,
    "Content": "chronic",
    "EndTime": 22.55,
    "Speaker": "0",
    "StartTime": 21.97,
    "Type": "pronunciation",
    "VocabularyFilterMatch": false
  },
  ...
    "Confidence": 1,
    "Content": "fatigue",
    "EndTime": 24.42,
    "Speaker": "0",
    "StartTime": 23.95,
    "Type": "pronunciation",
    "VocabularyFilterMatch": false
  },
  {
    "EndTime": 25.22,
    "StartTime": 25.22,
    "Type": "speaker-change",
    "VocabularyFilterMatch": false
  },
  {
    "Confidence": 0.99,
    "Content": "True",
    "EndTime": 25.63,
    "Speaker": "1",
    "StartTime": 25.22,
    "Type": "pronunciation",
    "VocabularyFilterMatch": false
  }
```

```

        },
        {
            "Content": ".",
            "EndTime": 25.63,
            "StartTime": 25.63,
            "Type": "punctuation",
            "VocabularyFilterMatch": false
        }
    ],
    "Transcript": "From the last note she still has mild sleep deprivation and chronic fatigue True."
}
],
"EndTime": 25.63,
"IsPartial": false,
"ResultId": "XXXXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX",
"StartTime": 18.74
}
]
}
}

```

Amazon Transcribe Medical は、スピーカーの変更や音声の一時停止など、自然な音声セグメントに基づいて着信音声ストリームを切断します。セグメント全体の文字起こしが行われるまで、各レスポンスにさらに多くの文字起こしスピーチが含まれるように、文字起こしは徐々にアプリケーションに返されます。前のコードは、完全に書き起こされたスピーチセグメントの切り捨てられた例です。スピーカーのラベル付けは、完全に書き起こされたセグメントに対してのみ表示されます。

次のリストは、ストリーミング文字起こし出力におけるオブジェクトとパラメータの組織を示しています。

Transcript

各音声セグメントには、それぞれ独自の Transcript オブジェクトがあります。

Results

各 Transcript オブジェクトには独自の Results オブジェクトがあります。このオブジェクトには `isPartial` フィールドが含まれます。その値が `false` の場合、でてくる結果はスピーチセグメント全体に対するものです。

Alternatives

各 Results オブジェクトには Alternatives オブジェクトがあります。

Items

各 Alternatives オブジェクトには独自の Items オブジェクトがあり、それには文字起こし出力の各単語および句読点に関する情報が含まれます。スピーカーパーティショニングを有効にすると、各単語には完全に文字起こしされた音声セグメントの Speaker ラベルが付けられます。Amazon Transcribe Medical はこのラベルを使用して、ストリーム内の各スピーカーに一意的な整数を割り当てます。speaker-change の値を持つ Type パラメータは、ある人が話すのを停止し、別の人が始めようとしていることを示します。

Transcript

各項目の オブジェクトには、文字起こしされた音声セグメントが Transcript フィールドの値として含まれます。

WebSocket リクエストの詳細については、[WebSocket ストリームの設定](#) を参照してください。

マルチチャネルの音声文字起こし

複数のチャネルを持つオーディオファイルまたはストリームがある場合は、チャネル識別を使用して、それらの各チャネルの音声を文字起こしできます。Amazon Transcribe Medical は、各チャネルの音声を個別に文字起こしします。各チャネルの個別のトランスクリプトを単一の文字起こし出力に結合します。

チャネル識別を使用して、音声内の個別のチャネルを特定し、各チャネルの音声の文字起こしを行います。発信者およびエージェントのシナリオなどの状況でこれを有効にします。これを使用して、薬物安全モニタリングを実行するコンタクトセンターからの録音またはストリーミング内のエージェントと発信者を区別します。

バッチ処理とリアルタイムストリームの両方でチャネル識別を有効にできます。次のリストは、メソッドごとに有効にする方法を説明しています。

- バッチ文字起こし – AWS Management Console および [StartMedicalTranscriptionJob](#) API
- ストリーミング文字起こし - WebSocket ストリーミングと [StartMedicalStreamTranscription](#) API

マルチチャネルの音声ファイルの文字起こし

オーディオファイルを文字起こしすると、Amazon Transcribe Medical は各チャネルの項目のリストを返します。アイテムは、文字起こしされた単語または句読点です。各単語には、開始時刻と終了時刻があります。あるチャネルの人が別のチャネルで話しかけると、各チャネルのアイテムの開始時刻と終了時刻が重なり、個人が互いに話しかけ合っています。

デフォルトでは、2つのチャネルで音声ファイルを文字起こしできます。2つ以上のチャネルを持つファイルを文字起こしする必要がある場合は、クォータの引き上げをリクエストできます。クォータ増加の要求の詳細については、「[AWS のサービス クォータ](#)」を参照してください。

バッチ文字起こしジョブでマルチチャネルオーディオを文字起こしするには、AWS Management Console または [StartMedicalTranscriptionJob](#) API を使用します。

AWS Management Console

を使用してバッチ文字起こし AWS Management Console ジョブでチャネル識別を有効にするには、音声識別を有効にしてからチャネル識別を有効にします。チャネル識別は、のオーディオ識別のサブセットです AWS Management Console。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成]を選択します。
4. [ジョブの詳細を指定する] ページで、文字起こしジョブに関する情報を入力します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. [音声識別] を有効にします。
7. 音声識別タイプでは、[チャネルの識別] を選択します。
8. [Create] (作成) を選択します。

API

マルチチャネルの音声ファイルの文字起こし (API)

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. TranscriptionJobName の場合、AWS アカウントで一意の名前を指定します。
 - b. LanguageCode の場合、音声ファイル内で話されている言語に対応する言語コードを指定します。有効値は en-US です。

- c. `MediaFileUri` オブジェクトの `Media` パラメータの場合、文字起こしを行うメディアファイルの名前を指定します。
- d. `Settings` オブジェクトの場合、`ChannelIdentification` を `true` にセットします。

以下は、AWS SDK for Python (Boto3)を使ったリクエストの例です。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_name = "my-first-med-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Specialty = 'PRIMARYCARE',
    Type = 'CONVERSATION',
    Settings = {
        'ChannelIdentification': True
    }
)
while True:
    status = transcribe.get_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName = job_name)
    if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
        'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

AWS CLI

バッチ文字起こしジョブを使用して、マルチチャネル音声ファイルの文字起こしをする (AWS CLI)

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \  
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://example-start-command.json
```

以下は `example-start-command.json` のコードです。

```
{  
  "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-med-transcription-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "OutputKey": "my-output-files/",  
  "LanguageCode": "en-US",  
  "Specialty": "PRIMARYCARE",  
  "Type": "CONVERSATION",  
  
  "Settings": {  
    "ChannelIdentification": true  
  }  
}
```

次のコードは、2つのチャネルで会話がある音声ファイルの文字起こし出力を示しています。

```
{  
  "jobName": "job id",  
  "accountId": "111122223333",  
  "results": {  
    "transcripts": [  
      {  
        "transcript": "When you try ... It seems to ..."  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```
    }
  ],
  "channel_labels": {
    "channels": [
      {
        "channel_label": "ch_0",
        "items": [
          {
            "start_time": "12.282",
            "end_time": "12.592",
            "alternatives": [
              {
                "confidence": "1.0000",
                "content": "When"
              }
            ],
            "type": "pronunciation"
          },
          {
            "start_time": "12.592",
            "end_time": "12.692",
            "alternatives": [
              {
                "confidence": "0.8787",
                "content": "you"
              }
            ],
            "type": "pronunciation"
          },
          {
            "start_time": "12.702",
            "end_time": "13.252",
            "alternatives": [
              {
                "confidence": "0.8318",
                "content": "try"
              }
            ],
            "type": "pronunciation"
          },
          ...
        ]
      }
    ],
    {
```

```
"channel_label": "ch_1",
"items": [
  {
    "start_time": "12.379",
    "end_time": "12.589",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.5645",
        "content": "It"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "start_time": "12.599",
    "end_time": "12.659",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.2907",
        "content": "seems"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  {
    "start_time": "12.669",
    "end_time": "13.029",
    "alternatives": [
      {
        "confidence": "0.2497",
        "content": "to"
      }
    ],
    "type": "pronunciation"
  },
  ...
]
}
```

マルチチャネルの音声ストリームの文字起こし

HTTP/2 ストリーミングまたは WebSocket ストリーミングで、別々のチャネルから音声を文字起こしするには、[StartMedicalStreamTranscription](#) APIを使用します。

デフォルトでは、2 つのチャネルでストリーミングを文字起こしできます。2 つ以上のチャネルを持つストリーミングを文字起こしする必要がある場合、クォータの引き上げをリクエストできます。クォータ増加の要求の詳細については、「[AWS の Service Quotas](#)」を参照してください。

HTTP/2 ストリームでのマルチチャネル音声の文字起こし

HTTP/2 ストリームでのマルチチャネル音声を文字起こしする場合、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用し、以下を指定します。

- LanguageCode - 音声の言語コードです。有効値は en-US です。
- MediaEncoding - 音声のエンコーディングです。有効値は、ogg-opus、flac、pcm です。
- EnableChannelIdentification - true
- NumberOfChannels - ストリーミング音声のチャネル数です。

医療関係の会話を文字起こしするための HTTP/2 ストリーミングの設定の詳細については、[HTTP/2 ストリーミングの設定](#) を参照してください。

WebSocket ストリーム内のマルチチャネル音声の文字起こし

WebSocket ストリーム内でスピーカーをパーティション化する場合、次の形式を使用して署名付き URL を作成し、WebSocket リクエストを開始します。enable-channel-identification を true に、ストリームのチャネル数を number-of-channels に指定します。署名付き URI には、アプリケーションと Amazon Transcribe Medical 間の双方向通信を設定するために必要な情報が含まれています。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-  
transcription-websocket  
?language-code=languageCode  
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256  
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-  
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request  
&X-Amz-Date=20220208T235959Z  
&X-Amz-Expires=300  
&X-Amz-Security-Token=security-token
```

```
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
&X-Amz-SignedHeaders=host
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&session-id=sessionId
&enable-channel-identification=true
&number-of-channels=2
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#) にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、[「共通パラメータ」](#) セクションに記載されています。

WebSocket リクエストの詳細については、[「WebSocket ストリームの設定」](#) を参照してください。

マルチチャネルストリーミング出力

ストリーミング文字起こし出力は、HTTP/2 リクエストと WebSocket リクエストと同じです。以下に出力例を示します。

```
{
  "resultId": "XXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX",
  "startTime": 0.11,
  "endTime": 0.66,
  "isPartial": false,
  "alternatives": [
    {
      "transcript": "Left.",
      "items": [
        {
          "startTime": 0.11,
          "endTime": 0.45,
          "type": "pronunciation",
          "content": "Left",
          "vocabularyFilterMatch": false
        },
        {
          "startTime": 0.45,
          "endTime": 0.45,
          "type": "punctuation",
          "content": ".",
          "vocabularyFilterMatch": false
        }
      ]
    }
  ]
}
```



```
    }  
  ],  
  "channelId": "ch_0"  
}
```

各音声セグメントには、音声が属するチャンネルを示す `channelId` フラグがあります。

メディカルディクテーションの文字起こし

Amazon Transcribe Medical を使用すると、バッチ文字起こしジョブまたはリアルタイムストリームを使用して、臨床医が指示したメディカルノートを書字起こしできます。バッチ文字起こしジョブを使用すると、音声ファイルを変換することができます。Medical が可能な限り高い精度で文字起こし結果 Amazon Transcribe を生成するように、文字起こしジョブまたはストリームで臨床医の専門分野を指定します。

次の専門分野でメディカルディクテーションを文字起こしすることができます。

- 心臓病学: ストリーミング文字起こしのみ利用可能
- 神経学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能
- 腫瘍学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能
- プライマリケア: 次のタイプの医療行為が含まれます。
 - 家庭医療
 - 内科
 - 産婦人科 (OB-GYN)
 - 小児科
- 放射線医学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能
- 泌尿器学: ストリーミング文字起こしでのみ利用可能

カスタム語彙を使用すると、文字起こしの精度を向上することができます。医療用カスタム語彙の詳細については、「[医療用カスタム語彙による文字起こしの精度の向上](#)」を参照してください。

デフォルトでは、Amazon Transcribe Medical は信頼度が最も高い文字起こしを返します。代替文字起こしを返すように設定する場合は、「[代替文字起こしの生成](#)」を参照してください。

文字起こし出力で数値と医学的測定値がどのように表示されるかについては、[文字起こし番号](#) と [医療用語と測定値の文字起こし](#) をご覧ください。

トピック

- [メディカルディクテーションの音声ファイルの文字起こし](#)
- [リアルタイムストリームでメディカルディクテーションの書き起こし](#)

メディカルディクテーションの音声ファイルの文字起こし

バッチ文字起こしジョブを使用して、医療に関する会話の音声ファイルを文字起こしします。これを使用して、臨床医と患者の対話を文字起こしすることができます。[StartMedicalTranscriptionJob](#) API または AWS Management Consoleで、バッチ文字起こしジョブを開始できます。

[StartMedicalTranscriptionJob](#) API で医療分野の文字起こしジョブを開始する場合、PRIMARYCARE を Specialty パラメータの値として指定します。

AWS Management Console

臨床医と患者の対話の文字起こし (AWS Management Console)

を使用して臨床医と患者の対話を AWS Management Console 文字起こしするには、文字起こしジョブを作成し、音声入力タイプの会話を選択します。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成] を選択します。
4. ジョブ詳細を指定 ページ内の ジョブ設定 で次の指定を行います。
 - a. 名前: 文字起こしジョブの名前です。
 - b. 音声入力タイプ – ディクテーション
5. 残りのフィールドでは、音声ファイル Amazon S3 の場所と、文字起こしジョブの出力を保存する場所を指定します。
6. [Next (次へ)] を選択します。
7. [Create] (作成) を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用した医療に関する会話の文字起こしをするには

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. `MedicalTranscriptionJobName` の場合、AWS アカウントで一意的な名前を指定します。
 - b. `LanguageCode` として、音声ファイルで話されている言語と語彙フィルターの言語に対応する言語コードを指定します。
 - c. `MediaFileUri` オブジェクトの `Media` パラメータに、文字起こしを行う音声ファイルの名前を指定します。
 - d. `Specialty` の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を指定します。
 - e. `Type` の場合、`DICTATION` を指定します。
 - f. `OutputBucketName` の場合、文字起こし結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。

以下は、を使用してPRIMARYCARE専門分野の臨床医のメディカルディクテーションを AWS SDK for Python (Boto3) 文字起こしするリクエストの例です。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe')
job_name = "my-first-med-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
    Specialty = 'PRIMARYCARE',
    Type = 'DICTATION'
)
while True:
```

```
status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
job_name)
if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
'FAILED']:
    break
print("Not ready yet...")
time.sleep(5)
print(status)
```

次のコード例は、メディカルディクテーションの文字起こし結果を示しています。

```
{
  "jobName": "dictation-medical-transcription-job",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [
      {
        "transcript": "... came for a follow up visit today..."
      }
    ],
    "items": [
      {
        ...
        "start_time": "4.85",
        "end_time": "5.12",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "came"
          }
        ],
        "type": "pronunciation"
      },
      {
        "start_time": "5.12",
        "end_time": "5.29",
        "alternatives": [
          {
            "confidence": "1.0",
            "content": "for"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

```
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "start_time": "5.29",
  "end_time": "5.33",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "0.9955",
      "content": "a"
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "start_time": "5.33",
  "end_time": "5.66",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "0.9754",
      "content": "follow"
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "start_time": "5.66",
  "end_time": "5.75",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "0.9754",
      "content": "up"
    }
  ],
  "type": "pronunciation"
},
{
  "start_time": "5.75",
  "end_time": "6.02",
  "alternatives": [
    {
      "confidence": "1.0",
      "content": "visit"
    }
  ]
}
```

```
        }
    ]
    ...
},
"status": "COMPLETED"
}
```

AWS CLI

バッチ文字起こしジョブ (AWS CLI) で、スピーカーパーティショニングを有効にする

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \
--region us-west-2 \
--cli-input-json file://example-start-command.json
```

以下のコードは、`example-start-command.json` の内容を示しています。

```
{
  "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-med-transcription-job",
  "Media": {
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"
  },
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
  "OutputKey": "my-output-files/",
  "LanguageCode": "en-US",
  "Specialty": "PRIMARYCARE",
  "Type": "DICTATION"
}
```

リアルタイムストリームでメディカルディクテーションの書き起こし

WebSocket ストリームを使用して、メディカルディクテーションを音声ストリームとして文字起こしします。また、を使用して AWS Management Console、自分や他のユーザーが直接話す音声をマイクに書き起こすこともできます。

HTTP/2 ストリームまたは WebSocket ストリームでは、次の医療分野の音声を文字起こしすることができます。

- 心臓病学
- オンコロジー
- 神経学
- プライマリケア
- 放射線学
- 泌尿器科

各医療専門分野には、多くのタイプの処置と予定が含まれています。したがって、臨床医は、さまざまな種類のメモを指示します。次の例をガイダンスとして使用して、WebSocket リクエストの specialty URL パラメータまたは Specialty API の [StartMedicalStreamTranscription](#) パラメータの値を指定します。

- 電気生理学または心エコー検査後のディクテーションについては、CARDIOLOGY を選択します。
- 外科腫瘍学または放射線腫瘍学の処置後のディクテーションについては、ONCOLOGY を選択します。
- 脳炎の診断を示すメモを指示する医師の場合は、NEUROLOGY を選択します。
- 膀胱結石を壊す手順ノートの口述については、UROLOGY を選択します。
- 内科相談後の臨床医ノートの口述については、PRIMARYCARE を選択します。
- CT スキャン、PET スキャン、MRI、または X 線写真の発見を伝える医師の口述については、RADIOLOGY を選択します。
- 婦人科相談後の医師のメモの口述については、PRIMARYCARE を選択します。

リアルタイムストリーム内の特定の文字起こし精度を向上させるには、カスタム語彙を使用します。カスタム語彙を有効にするには、使用するカスタム語彙の名前に vocabulary-name の値を設定します。

を使用してマイクに話されたディクテーションを文字起こしする AWS Management Console

を使用してメディカルディクテーションのストリーミング音声を AWS Management Console 書き起こすには、メディカルディクテーションを書き起こし、ストリームを開始し、マイクに向かって話し始めます。

メディカルディクテーションの音声ストリームの書き起こし (AWS Management Console)

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、リアルタイム文字起こしを選択します。
3. [ディクテーション] を選択します。
4. 医療専門分野で、ストリームで話す臨床医の専門分野を選択します。
5. [ストリーミングの開始] を選択します。
6. マイクに向かって話してください。

HTTP/2 ストリームでの ディクテーションの文字起こし

医療ディクテーションの HTTP/2 ストリームを書き起こすには、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用し、以下を指定します。

- LanguageCode: 言語コードです。有効値は en-US です。
- MediaEncoding - 音声入力に使用されるエンコーディングです。有効な値は、pcm、ogg-opus、flac です。
- Specialty: 医療専門家の専門分野です。
- Type – DICTATION

医療ディクテーションを文字起こしするための HTTP/2 ストリームの設定の詳細については、[HTTP/2 ストリームの設定](#) を参照してください。

WebSocket ストリーミングリクエストを使用したメディカルディクテーションの文字起こし

WebSocket リクエストを使用してリアルタイムストリームでメディカルディクテーションを書き起こすには、署名付き URL を作成します。この URI には、アプリケーションと Amazon Transcribe Medical 間のオーディオストリームを設定するために必要な情報が含まれています。WebSocket リクエストの作成の詳細については、「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

署名付き URL を作成するには、次のテンプレートを使用します。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-transcription-websocket
?language-code=LanguageCode
```



```
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
&X-Amz-SignedHeaders=host
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&session-id=sessionId
&specialty=medicalSpecialty
&type=DICTATION
&vocabulary-name=vocabularyName
&show-speaker-label=boolean
```

「署名付き URL の作成方法」の詳細については、「[WebSocket ストリームの設定](#)」を参照してください。

医療用カスタム語彙による文字起こしの精度の向上

Amazon Transcribe Medical の文字起こしの精度を向上させるには、1 つ以上の医療カスタム語彙を作成して使用します。カスタム語彙は、ドメイン固有の単語またはフレーズのコレクションです。このコレクションは、これらの単語やフレーズを書き起こす際の Amazon Transcribe Medical のパフォーマンスを向上させるのに役立ちます。

Amazon Transcribe Medical を使用する際、お客様は自身のデータの整合性について責任を負います。カスタム語彙には、機密情報、個人情報 (PII)、または保護対象の医療情報 (PHI) を入力しないでください。

個別の小さなカスタム語彙を作成し、それぞれが特定の音声録音を文字起こしする場合、最良の結果が得られます。すべての録音で使用する大きなカスタム語彙を 1 つ作成した場合よりも、文字起こしの精度が向上します。

デフォルトでは、に最大 100 個のカスタム語彙を含めることができます AWS アカウント。カスタム語彙のサイズは 50 KB を超えることはできません。で利用できるカスタム語彙の数の増加をリクエストする方法については AWS アカウント、「[AWS サービスクォータ](#)」を参照してください。

カスタム語彙は、アメリカ英語 (en-US) で利用できます。

トピック

- [医療用カスタム語彙のテキストファイルを作成する](#)
- [テキストファイルを使用して医療用カスタム語彙を作成する](#)
- [医療用カスタム語彙を使用した音声ファイルの文字起こし](#)
- [医療用カスタム語彙を使用してリアルタイムストリームを文字起こし](#)
- [Amazon Transcribe Medical の文字セット](#)

医療用カスタム語彙のテキストファイルを作成する

カスタム語彙を作成する場合、UTF-8 形式のテキストファイルを作成します。このファイルでは、4 列のテーブルを作成し、各列がフィールドを指定します。各フィールドは、ドメイン固有の用語がどのように発音されるか、またはこれらの用語を文字起こしに表示する方法を Amazon Transcribe Medical に伝えます。これらのフィールドを含むテキストファイルは、Amazon S3 バケットに保存します。

テキストファイルのフォーマット方法を理解する

医療用カスタム語彙を作成するには、列名をヘッダ行として入力します。ヘッダ行の下にある各列の値を入力します。

表の 4 つの列の名前を以下に示します。

- Phrase: 列、値は必要です。
- IPA: 列は必須です。値はオプションでもかまいません。
- SoundsLike: 列は必須です。値はオプションでもかまいません。
- DisplayAs: 列は必須です。値はオプションでもかまいません。

カスタム語彙を作成するときは、次のことを必ず実行してください。

- 各列を 1 つの Tab character で区切ります。列をスペースまたは複数の Tab 文字で区切ろうとすると、エラーメッセージ Amazon Transcribe が表示されます。
- 列内の各値の後に末尾にスペースや空白がないことを確認してください。

各列に入力する値が以下であることを確認します。

- 256 文字未満 (ハイフンを含む)

- 文字セットの文字を使用する場合のみ、「[Amazon Transcribe Medical の文字セット](#)」を参照してください。

テーブルの列の値を入力する

次の情報は、テーブルの 4 つの列の値を指定する方法を示しています。

- **Phrase** – 認識する必要がある語句。この列には値を入力する必要があります。

エントリが句の場合、単語はハイフン (-) で区切ります。たとえば、**cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy** を **cerebral-autosomal-dominant-arteriopathy-with-subcortical-infarcts-and-leukoencephalopathy** として入力します。

頭字語、または文字が単一の文字とそれに続くドットとして個別に発音される必要があるその他の単語 (例: **D.N.A.** や **S.T.E.M.I.**) を入力します。「STEMIs」などの頭字語の複数形を入力するには、頭字語と「s」をハイフンで区切ります (**S.T.E.M.I-s**)。頭字語には大文字または小文字を使用できます。

Phrase 列は必須です。入力言語として許可されている文字はいずれも使用できます。使用できる文字については、「[Amazon Transcribe Medical の文字セット](#)」を参照してください。DisplayAs 列を指定しない場合、Amazon Transcribe Medical は出力ファイルの Phrase 列の内容を使用します。

- **IPA** (列は必須、値はオプション) – 単語または句の発音を指定するには、[国際音声記号 \(IPA\)](#) の文字をこの列に使用することができます。IPA 列には、先頭または末尾にスペースを含めることはできません。また、入力の phoneme を区切るには、1 つのスペースを使用する必要があります。たとえば、英語で **acute-respiratory-distress-syndrome** を **ə k j u t # # s p # # ə t # # i d # s t # # s s # n d # o # m** と入力したとします。**A.L.L.** には **e # # l # l** と入力します。

IPA 列の内容を指定しない場合でも、空白の IPA 列を含める必要があります。IPA 列に値を含めた場合、SoundsLike 列に値を指定することはできません。

特定の言語で使用できる IPA 文字の一覧については、「[Amazon Transcribe Medical の文字セット](#)」を参照してください。Amazon Transcribe Medical で使用できる言語は米国英語のみです。

- **SoundsLike** (列は必須、値はオプション) – 単語や句を小さい断片に分割し、言語の標準的な正書法を使用して各断片の発音を指定することで、単語の発音方法を模倣することができます。たとえば、**cerebral-autosomal-dominant-arteriopathy-with-subcortical-infarcts-**

and-leukoencephalopathy 句の発音ヒントは **sir-e-brul-aut-o-som-ul-dah-mi-nant-ar-ter-ri-o-pa-thy-with-sub-cor-ti-cul-in-farcts-and-lewk-o-en-ce-phul-ah-pu-thy** のように指定することができます。句 **atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia** のヒントは、**ay-tree-o-ven-trick-u-lar-node-al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia** のようになります。ヒントの各部分はハイフン (-) を使って区切ります。

SoundsLike 列の値を指定しない場合でも、空白の SoundsLike 列を含める必要があります。SoundsLike 列に値を含めた場合、IPA 列に値を指定することはできません。

入力言語として許可されている文字はいずれも使用できます。許可された文字の一覧については、「[Amazon Transcribe Medical の文字セット](#)」を参照してください。

- **DisplayAs** (列は必須、値はオプション): 出力時の単語または句の外観を定義します。たとえば、単語または句が **cerebral-autosomal-dominant-arteriopathy-with-subcortical-infarcts-and-leukoencephalopathy** の場合は、ハイフンが表示されないように、cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy という形式で表示されるよう指定することができます。また、出力に用語全体ではなく頭字語を表示する場合、DisplayAs を CADASIL として指定することもできます。

DisplayAs 列を指定しない場合、Amazon Transcribe Medical は出力の入力ファイルの Phrase 列を使用します。

UTF-8 文字はいずれも、DisplayAs 列で使用することができます。

IPA および DisplayAs 列の値にのみスペースを含むことができます。

カスタム語彙のテキストファイルを作成するには、各単語または各語彙を個別の行のテキストファイルに配置します。列はタブ文字で区切ります。IPA および DisplayAs 列の値にのみスペースを含めます。Amazon Transcribe Medical を使用してカスタム語彙を作成する AWS リージョン のと同じ .txt の Amazon S3 バケットに、拡張子を持つファイルを保存します。

Windows でテキストファイルを編集する場合、ファイルが CRLF 形式ではなく LF 形式であることを確認してください。そうしないと、カスタム語彙を作成できなくなります。一部のテキストエディタでは、検索コマンドと置換コマンドで書式を変更できます。

次の例は、カスタム語彙の作成に使用できるテキストを示しています。これらの例からカスタム語彙を作成するには、例をテキストエディタにコピーし、[TAB] を Tab 文字に置き換えて、保存したテキストファイルを Amazon S3 にアップロードします。

```
Phrase[TAB]IPA[TAB]SoundsLike[TAB]DisplayAs
acute-respiratory-distress-syndrome[TAB][TAB][TAB]acute respiratory distress syndrome
A.L.L.[TAB]e# # 1 # 1[TAB][TAB]ALL
atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia[TAB][TAB]ay-tree-o-ven-trick-u-lar-node-
al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia[TAB]
```

列は任意の順序で入力できます。次の例は、カスタム語彙入力ファイルの他の有効な構造を示しています。

```
Phrase[TAB]SoundsLike[TAB]IPA[TAB]DisplayAs
acute-respiratory-distress-syndrome[TAB][TAB][TAB]acute respiratory distress syndrome
A.L.L.[TAB][TAB]e# # 1 # 1[TAB]ALL
atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia[TAB]ay-tree-o-ven-trick-u-lar-node-al-re-
entr-ant-tack-ih-card-ia[TAB][TAB]
```

```
DisplayAs[TAB]SoundsLike[TAB]IPA[TAB]Phrase
acute respiratory distress syndrome[TAB][TAB][TAB]acute-respiratory-distress-syndrome
ALL[TAB][TAB]e# # 1 # 1[TAB]A.L.L.
[TAB]ay-tree-o-ven-trick-u-lar-node-al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia[TAB]
[TAB]atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia
```

読みやすくするために、次の表は、上記の例をより明確に html 形式で示しています。これらは、例の説明のみが目的です。

フレーズ	IPA	SoundsLike	DisplayAs
acute-respiratory-distress-syndrome			acute respiratory distress syndrome
A.L.L.	eɪ ɛ l ɛ l		ALL
atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia		ay-tree-o-ven-trick-u-lar-node-al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia	

フレーズ	SoundsLike	IPA	DisplayAs
acute-respiratory-distress-syndrome			acute respiratory distress syndrome
atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia	ay-tree-o-ven-trick-ular-node-al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia		
A.L.L.		eɪ ɛ ɛ	すべて

DisplayAs	SoundsLike	IPA	フレーズ
acute respiratory distress syndrome			acute-respiratory-distress-syndrome
ALL		eɪ ɛ ɛ	A.L.L.
	ay-tree-o-ven-trick-ular-node-al-re-entr-ant-tack-ih-card-ia		atrioventricular-nodal-reentrant-tachycardia

テキストファイルを使用して医療用カスタム語彙を作成する

カスタム語彙を作成するには、単語またはフレーズのコレクションを含むテキストファイルを準備しておく必要があります。Amazon Transcribe Medical はこのテキストファイルを使用して、それらの単語またはフレーズの文字起こし精度を向上させるために使用できるカスタム語彙を作成します。[CreateMedicalVocabulary](#) API または Amazon Transcribe Medical コンソールを使用してカスタム語彙を作成できます。

AWS Management Console

を使用してカスタム語 AWS Management Console 彙を作成するには、単語またはフレーズを含むテキストファイルの Amazon S3 URI を指定します。

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、カスタム語彙を選択します。

3. 名前 を使用する場合、語彙の設定で、カスタム語彙の名前を選択します。
4. Amazon S3で音声ファイルまたはビデオファイルの場所を指定します。
 - 語彙の設定 の S3 の語彙入力ファイルの場所で、カスタムボキャブラリーの作成に使用するテキストファイルを識別する Amazon S3 URI を指定します。
 - S3 の語彙入力ファイルの場所については、S3 の参照 を選択してテキストファイルを参照し、それを選択します。
5. [語彙の作成] を選択します。

カスタム語彙の処理ステータスが AWS Management Consoleで確認できます。

API

医療用カスタム語彙を作成 (API)するには

- [StartTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. LanguageCode の場合、en-US を指定します。
 - b. にはVocabularyFileUri、カスタム語彙の定義に使用するテキストファイル Amazon S3 の場所を指定します。
 - c. VocabularyName の場合、カスタム語彙の名前を指定します。指定する名前は、内で一意である必要があります AWS アカウント。

カスタム語彙の処理状況を表示する場合、[GetMedicalVocabulary](#) API を使用します。

以下は、を使用してカスタム語 AWS SDK for Python (Boto3) 彙を作成するリクエストの例です。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
vocab_name = "my-first-vocabulary"
response = transcribe.create_medical_vocabulary(
    VocabularyName = job_name,
    VocabularyFileUri = 's3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabularies/my-vocabulary-
table.txt'
    LanguageCode = 'en-US',
)
```

```
while True:
    status = transcribe.get_medical_vocabulary(VocabularyName = vocab_name)
    if status['VocabularyState'] in ['READY', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

AWS CLI

バッチ文字起こしジョブ (AWS CLI) で、スピーカーパーティショニングを有効にする

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe create-medical-vocabulary \
--vocabulary-name my-first-vocabulary \
--vocabulary-file-uri s3://amzn-s3-demo-bucket/my-vocabularies/my-vocabulary-  
file.txt \
--language-code en-US
```

医療用カスタム語彙を使用した音声ファイルの文字起こし

[StartMedicalTranscriptionJob](#) または を使用して AWS Management Console 、文字起こしの精度を向上させるためにカスタム語彙を使用する文字起こしジョブを開始します。

AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成] を選択します。
4. [ジョブの詳細を指定する] ページで、文字起こしジョブに関する情報を入力します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. カスタマイズで、カスタム語彙を有効にします。
7. 語彙選択で、カスタム語彙を選択します。
8. [Create] (作成) を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用して音声ファイル内のスピーカーパーティショニングを有効にするには

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. `MedicalTranscriptionJobName` の場合、AWS アカウントで一意的な名前を指定します。
 - b. `LanguageCode` として、音声ファイルで話されている言語と語彙フィルターの言語に対応する言語コードを指定します。
 - c. `MediaFileUri` オブジェクトの `Media` パラメータの場合、文字起こしを行う音声ファイルの名前を指定します。
 - d. `Specialty` の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を指定します。
 - e. `Type` の場合、音声ファイルが会話かディクテーションかを指定します。
 - f. `OutputBucketName` の場合、文字起こし結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。
 - g. `Settings` オブジェクトの場合、以下を指定します。
 - `VocabularyName` – カスタム語彙の名前です。

次のリクエストでは AWS SDK for Python (Boto3) を使用して、カスタム語彙でバッチ文字起こしジョブを開始します。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-med-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
    OutputKey = 'my-output-files/',
    LanguageCode = 'en-US',
```

```
Specialty = 'PRIMARYCARE',
Type = 'CONVERSATION',
Settings = {
    'VocabularyName': 'example-med-custom-vocab'
}
)

while True:
    status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
job_name)
    if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

医療用カスタム語彙を使用してリアルタイムストリームを文字起こし

リアルタイムストリームで文字起こしの精度を向上させるために、HTTP/2 ストリームまたは WebSocket ストリームを使用してカスタム語彙を使用できます。HTTP/2 リクエストを開始する場合、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用します。カスタム語彙は、[StartMedicalStreamTranscription](#) API AWS Management Console、または WebSocket プロトコルを使用してリアルタイムで使用できます。

マイクに話されているディクテーションの文字起こし (AWS Management Console)

を使用してメディカルディクテーションのストリーミング音声を AWS Management Console 書き起こすには、メディカルディクテーションを書き起こし、ストリームを開始し、マイクに向かって話し始めるオプションを選択します。

メディカルディクテーションの音声ストリームの書き起こし (AWS Management Console)

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、リアルタイム文字起こしを選択します。
3. 医療専門分野の場合、ストリームで話す臨床医の専門分野を選択します。
4. 音声入力タイプ の場合、会話 または ディクテーション のいずれかを選択します。

5. 追加設定の場合、カスタム語彙 を選択します。

- 語彙選択で、カスタム語彙を選択します。

6. [ストリーミングの開始] を選択します。

7. マイクに向かって話してください。

HTTP/2 ストリームでスピーカーパーティションを有効にする

HTTP/2 リクエストのパラメータのための構文を次に示します。

```
POST /medical-stream-transcription HTTP/2
host: transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com
authorization: Generated value
x-amz-target: com.amazonaws.transcribe.Transcribe.StartMedicalStreamTranscription
x-amz-content-sha256: STREAMING-MED-AWS4-HMAC-SHA256-EVENTS
x-amz-date: 20220208T235959Z
x-amzn-transcribe-session-id: my-first-http2-med-stream
x-amzn-transcribe-language-code: en-US
x-amzn-transcribe-media-encoding: flac
x-amzn-transcribe-sample-rate: 16000
x-amzn-transcribe-vocabulary-name: my-first-med-vocab
x-amzn-transcribe-specialty: PRIMARYCARE
x-amzn-transcribe-type: CONVERSATION
x-amzn-transcribe-show-speaker-label: true
Content-type: application/vnd.amazon.eventstream
transfer-encoding: chunked
```

パラメータの説明

- host: (前の例の AWS リージョン 「us-west-2」) を呼び出している で更新 AWS リージョン します。有効な のリストについては AWS リージョン、[AWS リージョン 「」 および 「エンドポイント」](#) を参照してください。
- authorization: これは生成されたフィールドです。署名の作成の詳細については、[「署名バージョン 4 を使用した AWS リクエストの署名」](#) を参照してください。
- x-amz-target: このフィールドは変更しないでください。前の例で示した内容を使用してください。
- x-amz-content-sha256: これは生成されたフィールドです。署名の計算の詳細については、[「署名バージョン 4 を使用した AWS リクエストの署名」](#) を参照してください。

- x-amz-date: 署名が作成された日時。形式は YYYYMMDDTHHMMSSZ で、YYY = 年、MM = 月、DD = 日、HH = 時間、MM = 分、SS = 秒、「T」と「Z」は固定文字です。詳細については、「[署名バージョン 4 で日付を扱う](#)」を参照してください。
- x-amzn-transcribe-session-id: ストリーミングセッションの名前。
- x-amzn-transcribe-media-encoding: 入力音声に使用されるエンコード。有効な値のリストについては、「[StartMedicalStreamTranscription](#)」または「[サポートされている言語および言語固有の機能](#)」を参照してください。
- x-amzn-transcribe-media-encoding: 入力音声に使用されるエンコード。有効な値は、pcm、ogg-opus、flac です。
- x-amzn-transcribe-sample-rate: 入力オーディオのサンプルレート (ヘルツ単位)。は 8,000 Hz ~ 48,000 Hz の範囲 Amazon Transcribe をサポートします。電話音声などの低品質音声は、通常 8,000 Hz 前後です。高品質の音声は、通常 16,000 Hz から 48,000 Hz の範囲です。指定するサンプルレートは音声のサンプルレートと一致する必要があることに注意してください。
- x-amzn-transcribe-vocabulary-name: 文字起こしに使用したいボキャブラリーの名前。
- x-amzn-transcribe-specialty: 文字起こしの対象となる医療専門分野。
- x-amzn-transcribe-type: デイクテーションにするか会話にするかを選択します。
- x-amzn-transcribe-show-speaker-label: ダイアライゼーションを有効にするには、この値が true でなければなりません。
- content-type: このフィールドは変更しないでください。前の例で示した内容を使用してください。

WebSocket リクエストでスピーカーパーティショニングを有効にする

API による WebSocket ストリーム内のスピーカーをパーティション化する場合、次の形式を使用して WebSocket リクエストをスタートするための署名付き URL を作成し、vocabulary-name をカスタム語彙の名前に特定します。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-
transcription-websocket
?language-code=en-US
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request
&X-Amz-Date=20220208T235959Z
&X-Amz-Expires=300
&X-Amz-Security-Token=security-token
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature
```

```
&X-Amz-SignedHeaders=host
&media-encoding=flac
&sample-rate=16000
&session-id=sessionId
&specialty=medicalSpecialty
&type=CONVERSATION
&vocabulary-name=vocabularyName
&show-speaker-label=boolean
```

Amazon Transcribe Medical の文字セット

Amazon Transcribe Medical でカスタム語彙を使用するには、次の文字セットを使用します。

英語の文字セット

英語のカスタム語彙の場合、Phrase 列および SoundsLike 列に次の文字を使用できます。

- a～z
- A～Z
- ' (apostrophe)
- - (ハイフン)
- . (ピリオド)

語彙入力ファイルの IPA 列には、国際音声記号 (IPA) 文字を使用できます。

文字	コード	文字	コード
au	0061 028A	w	0077
aɪ	0061 026A	z	007A
b	0062	æ	00E6
d	0064	ð	00F0
eɪ	0065 026A	ŋ	014B
f	0066	ɑ	0251

文字	コード	文字	コード
g	0067	ɔ	0254
h	0068	ɔɪ	0254 026A
i	0069	ə	0259
j	006A	ɛ	025B
k	006B	ʒ	025D
l	006C	g	0261
ɹ	006C 0329	ɪ	026A
m	006D	ɹ	0279
n	006E	ʃ	0283
ŋ	006E 0329	ʊ	028A
ou	006F 028A	ʌ	028C
p	0070	ʌ	028D
s	0073	ʒ	0292
t	0074	ɔʒ	02A4
u	0075	ʃ	02A7
v	0076	θ	03B8

文字起こしにおける個人の健康情報 (PHI) の特定

個人の健康情報の識別を使用して、文字起こし結果に個人の健康情報 (PHI) にラベル付けします。ラベル付けを確認することで、患者の識別に使用できる PHI を見つけることができます。

リアルタイムストリームまたはバッチ文字起こしジョブを使用して PHI を識別できます。

独自の後処理を使用して、文字起こし出力で識別された PHI を編集できます。

個人の健康情報の識別を使用して、次のタイプの PHI を識別します。

- 個人の PHI:
 - 名前 — 氏名または姓とイニシャル
 - 性別
 - 年齢
 - 電話番号
 - 患者に直接関係する日付 (年を含まない)
 - E メールアドレス
- 地理的 PHI:
 - 物理アドレス
 - ZIP コード
 - 医療センターまたは診療所の名前
- PHI アカウント:
 - ファックス番号
 - 社会保障番号 (SSN)
 - 健康保険受取人番号
 - 口座番号
 - 証明書/免許証番号
- 車両 PHI:
 - 車両識別番号 (VIN)
 - ナンバープレート番号
- その他の PHI:
 - ウェブユニフォームリソースの場所 (URL)
 - インターネットプロトコル (IP) アドレス番号

Amazon Transcribe Medical は、1996 年の医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA) の対象となるサービスです。詳細については、「[Amazon Transcribe 医療](#)」を参照してください。音声ファイル内の PHI の識別については、「[音声ファイル内の PHI の識別](#)」を参照してください。ストリーミング内の PHI の識別については、「[リアルタイムストリームでの PHI の識別](#)」を参照してください。

トピック

- [音声ファイル内の PHI の識別](#)
- [リアルタイムストリームでの PHI の識別](#)

音声ファイル内の PHI の識別

バッチ文字起こしジョブを使用して、音声ファイルを書き起こし、その中の個人の健康情報 (PHI) を特定します。個人健康情報 (PHI) 識別を有効にすると、Amazon Transcribe Medical は文字起こし結果で識別した PHI にラベルを付けます。Amazon Transcribe Medical が識別できる PHI の詳細については、「」を参照してください[文字起こしにおける個人の健康情報 \(PHI\) の特定](#)。

[StartMedicalTranscriptionJob](#) API または AWS Management Console でバッチ文字起こしジョブを開始できます。

AWS Management Console

を使用して臨床医と患者の対話を AWS Management Console 文字起こしするには、文字起こしジョブを作成し、音声入力タイプの会話を選択します。

音声ファイルを書き起こし、PHI (AWS Management Console) を識別するには

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成] を選択します。
4. [ジョブ詳細を指定] ページ内の [ジョブ設定] で次の指定を行います。
 - a. 名前 – に固有の文字起こしジョブの名前 AWS アカウント。
 - b. 音声入力タイプ – [会話] または [ディクテーション]。
5. 残りのフィールドでは、音声ファイル Amazon S3 の場所と、文字起こしジョブの出力を保存する場所を指定します。
6. [Next (次へ)] を選択します。
7. [音声設定] で、[PHI 識別] を選択します。
8. [作成] を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用して音声ファイルを書き起こし、その PHI を識別するには、

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. `MedicalTranscriptionJobName` の場合、AWS アカウントに一意の名前を指定します。
 - b. `LanguageCode` の場合、音声ファイルで話されている言語に対応する言語コードを指定します。
 - c. `MediaFileUri` パラメータがある `Media` オブジェクトの場合、文字起こしを行う音声ファイルの名前を指定します。
 - d. `Specialty` の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を `PRIMARYCARE` として指定します。
 - e. `Type` の場合、`CONVERSATION` または `DICTATION` のいずれかを指定します。
 - f. `OutputBucketName` の場合、文字起こし結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。

以下は、を使用して音声ファイルを書き起こし、患者の PHI AWS SDK for Python (Boto3) を識別するリクエストの例です。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac"
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {'MediaFileUri': job_uri},
    LanguageCode = 'en-US',
    ContentIdentificationType = 'PHI',
    Specialty = 'PRIMARYCARE',
    Type = 'type', # Specify 'CONVERSATION' for a medical conversation. Specify
    'DICTATION' for a medical dictation.
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket'
)
while True:
```

```
status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
job_name)
if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
'FAILED']:
    break
print("Not ready yet...")
time.sleep(5)
print(status)
```

次のコード例は、患者 PHI を識別した場合の文字起こし結果を示しています。

```
{
  "jobName": "my-medical-transcription-job-name",
  "accountId": "111122223333",
  "results": {
    "transcripts": [{
      "transcript": "The patient's name is Bertrand."
    }],
    "items": [{
      "id": 0,
      "start_time": "0.0",
      "end_time": "0.37",
      "alternatives": [{
        "confidence": "0.9993",
        "content": "The"
      }],
      "type": "pronunciation"
    }, {
      "id": 1,
      "start_time": "0.37",
      "end_time": "0.44",
      "alternatives": [{
        "confidence": "0.9981",
        "content": "patient's"
      }],
      "type": "pronunciation"
    }, {
      "id": 2,
      "start_time": "0.44",
      "end_time": "0.52",
```

```
    "alternatives": [{
      "confidence": "1.0",
      "content": "name"
    }],
    "type": "pronunciation"
  }, {
    "id": 3,
    "start_time": "0.52",
    "end_time": "0.92",
    "alternatives": [{
      "confidence": "1.0",
      "content": "is"
    }],
    "type": "pronunciation"
  }, {
    "id": 4,
    "start_time": "0.92",
    "end_time": "0.9989",
    "alternatives": [{
      "confidence": "1.0",
      "content": "Bertrand"
    }],
    "type": "pronunciation"
  }, {
    "id": 5,
    "alternatives": [{
      "confidence": "0.0",
      "content": "."
    }],
    "type": "punctuation"
  }],
  "entities": [{
    "content": "Bertrand",
    "category": "PHI*-Personal*",
    "startTime": 0.92,
    "endTime": 1.2,
    "confidence": 0.9989
  }],
  "audio_segments": [
    {
      "id": 0,
      "transcript": "The patient's name is Bertrand.",
      "start_time": "0.0",
      "end_time": "0.9989",
```

```
        "items": [
            0,
            1,
            2,
            3,
            4,
            5
        ]
    },
    "status": "COMPLETED"
}
```

AWS CLI

バッチ文字起こしジョブ (AWS CLI) を使用して音声ファイルを書き起こし、その PHI を識別するには

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-medical-transcription-job \
--medical-transcription-job-name my-medical-transcription-job-name \
--language-code en-US \
--media MediaFileUri="s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac" \
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \
--specialty PRIMARYCARE \
--type type \ # Choose CONVERSATION to transcribe a medical conversation.
               Choose DICTATION to transcribe a medical dictation.
--content-identification-type PHI
```

リアルタイムストリームでの PHI の識別

HTTP/2 ストリーミングまたは WebSocket ストリーミングのいずれかで、個人の健康情報 (PHI) を識別できます。PHI 識別を有効にすると、Amazon Transcribe Medical は文字起こし結果で識別した PHI にラベルを付けます。Amazon Transcribe Medical が識別できる PHI の詳細については、「」を参照してください [文字起こしにおける個人の健康情報 \(PHI\) の特定](#)。

マイクで話されるディクテーションで PHI を識別する

を使用してマイクが取得した音声を AWS Management Console 書き起こし、PHI を特定するには、オーディオ入力タイプとしてディクテーションを選択し、ストリームを開始して、コンピュータのマイクに向かって話し始めます。

を使用してディクテーション内の PHI を識別するには AWS Management Console

1. [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. ナビゲーションペインで、[リアルタイム文字起こし] を選択します。
3. [音声入力タイプ] で、[ディクテーション] を選択します。
4. 追加設定の場合、[PHI の識別] を選択します。
5. [ストリーミングの開始] を選択し、マイクに向かって話してください。
6. [ストリーミングの停止] を選択すると、ディクテーションが終了します。

HTTP/2 ストリーミング内の PHI の識別

PHI 識別をアクティブにして HTTP/2 ストリーミングを開始するには、[StartMedicalStreamTranscription](#) API を使用し、以下を指定してください。

- LanguageCode の場合、ストリーミング内の言語に対応する言語コードを指定してください。米国英語の場合は、[en-US] を指定してください。
- MediaSampleHertz の場合、音声のサンプルレートを指定します。
- content-identification-type の場合、PHI を指定します。

WebSocket ストリーミング内の PHI の識別

PHI 識別を有効にした状態で WebSocket ストリーミングを開始するには、次の形式を使用して、署名付き URL を作成します。

```
GET wss://transcribestreaming.us-west-2.amazonaws.com:8443/medical-stream-  
transcription-websocket?  
&X-Amz-Algorithm=AWS4-HMAC-SHA256  
&X-Amz-Credential=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE%2F20220208%2Fus-  
west-2%2Ftranscribe%2Faws4_request  
&X-Amz-Date=20220208T235959Z  
&X-Amz-Expires=300
```

```
&X-Amz-Security-Token=security-token  
&X-Amz-Signature=Signature Version 4 signature  
&X-Amz-SignedHeaders=host  
&language-code=en-US  
&media-encoding=flac  
&sample-rate=16000  
&specialty=medical-specialty  
&content-identification-type=PHI
```

パラメータ定義は [API リファレンス](#)にあります。すべての AWS API オペレーションに共通のパラメータは、「[共通パラメータ](#)」セクションに記載されています。

代替文字起こしの生成

Amazon Transcribe Medical を使用すると、信頼度が最も高い文字起こしが得られます。ただし、信頼性レベルが低い追加の文字起こしを返すように Amazon Transcribe Medical を設定できます。

代替文字起こしを使用して、変換された音声のさまざまな解釈を確認します。たとえば、ユーザーが文字起こしをレビューできるアプリケーションでは、選択できる代替文字起こしを提示できます。

AWS Management Console または [StartMedicalTranscriptionJob](#) API を使用して代替文字起こしを生成できます。

AWS Management Console

を使用して代替文字起こし AWS Management Console を生成するには、ジョブを設定するときに代替結果を有効にします。

1. [AWS Management Console](#)にサインインします。
2. ナビゲーションペインの Amazon Transcribe Medical で、文字起こしジョブを選択します。
3. [ジョブの作成]を選択します。
4. [ジョブの詳細を指定する] ページで、文字起こしジョブに関する情報を入力します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. [代替結果] を有効にする。
7. [代替の最大数] には、2 から 10 までの整数値を入力して、出力に必要な代替文字起こしの最大数を指定します。
8. [Create] (作成) を選択します。

API

バッチ文字起こしジョブ (API) を使用して、音声ファイル内のスピーカーごとにテキストを分離する

- [StartMedicalTranscriptionJob](#) API では、以下のものを指定します。
 - a. `MedicalTranscriptionJobName` の場合、AWS アカウントで一意の名前を指定します。
 - b. `LanguageCode` として、音声ファイルで話されている言語と語彙フィルターの言語に対応する言語コードを指定します。
 - c. `MediaFileUri` オブジェクトの `Media` パラメータで、文字起こしする音声ファイルの場所を指定します。
 - d. `Specialty` の場合、音声ファイルで話す臨床医の専門分野を指定します。
 - e. `Type` の場合、医療会話を文字起こしするか、口述を筆記するかを指定します。
 - f. `OutputBucketName` の場合、トランスクリプション結果を保存する Amazon S3 バケットを指定します。
 - g. `Settings` オブジェクトの場合、以下を指定します。
 - i. `ShowAlternatives` - `true`.
 - ii. `MaxAlternatives` - 2 から 10 までの整数値で、文字起こし出力に必要な代替文字起こしの数を示します。

次のリクエストでは、AWS SDK for Python (Boto3) を使用して、最大 2 つの代替文字起こしを生成する文字起こしジョブを開始します。

```
from __future__ import print_function
import time
import boto3
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')
job_name = "my-first-transcription-job"
job_uri = s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-file.flac
transcribe.start_medical_transcription_job(
    MedicalTranscriptionJobName = job_name,
    Media = {
        'MediaFileUri': job_uri
    },
    OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
```

```
OutputKey = 'my-output-files/',
LanguageCode = 'en-US',
Specialty = 'PRIMARYCARE',
Type = 'CONVERSATION',
Settings = {
    'ShowAlternatives': True,
    'MaxAlternatives': 2
}
)

while True:
    status = transcribe.get_medical_transcription_job(MedicalTranscriptionJobName =
job_name)
    if status['MedicalTranscriptionJob']['TranscriptionJobStatus'] in ['COMPLETED',
'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)
```

AWS CLI

プライマリケアを実践している臨床医と患者との間の会話を音声ファイルに文字起こしする (AWS CLI)

- 以下のコードを実行します。

```
aws transcribe start-transcription-job \
--cli-input-json file://filepath/example-start-command.json
```

以下のコードは、example-start-command.json の内容を示しています。

```
{
    "MedicalTranscriptionJobName": "my-first-transcription-job",
    "LanguageCode": "en-US",
    "Specialty": "PRIMARYCARE",
    "Type": "CONVERSATION",
```



```
"OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
"Media": {
  "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-audio-
file.flac"
},
"Settings": {
  "ShowAlternatives": true,
  "MaxAlternatives": 2
}
}
```

Amazon Transcribe Medical およびインターフェイス VPC エンドポイント (AWS PrivateLink)

インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、VPC と Amazon Transcribe Medical の間にプライベート接続を確立できます。インターフェイスエンドポイントは、インターネットゲートウェイ [AWS PrivateLink](#)、NAT デバイス、VPN 接続、AWS Direct Connect 接続のいずれも必要とせずに Amazon Transcribe Medical APIs にプライベートにアクセスできるテクノロジーである を利用しています。VPC 内のインスタンスは、パブリック IP アドレスがなくても Amazon Transcribe Medical APIs と通信できます。VPC と Amazon Transcribe Medical 間のトラフィックは Amazon ネットワークを離れません。

各インターフェイスエンドポイントは、サブネット内の 1 つ以上の [Elastic Network Interface](#) によって表されます。

詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイス VPC エンドポイント \(AWS PrivateLink\)](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe Medical VPC エンドポイントに関する考慮事項

Amazon Transcribe Medical 用のインターフェイス VPC エンドポイントを設定する前に、Amazon VPC 「ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントのプロパティと制限](#)」を確認してください。

Amazon Transcribe Medical は、VPC からのすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

Amazon Transcribe Medical 用のインターフェイス VPC エンドポイントの作成

Amazon Transcribe Medical サービスの VPC エンドポイントは、AWS Management Console または [AWS CLI](#) を使用して作成できます。詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントの作成](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe Medical でのバッチ文字起こしでは、次のサービス名を使用して VPC エンドポイントを作成します。

- `com.amazonaws.us-west-2.transcribe`

Amazon Transcribe Medical で文字起こしをストリーミングするには、次のサービス名を使用して VPC エンドポイントを作成します。

- `com.amazonaws.us-west-2.transcribestreaming`

エンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、のデフォルトの DNS 名を使用して Amazon Transcribe Medical に API リクエストを行うことができます。AWS リージョンたとえば、です `transcribestreaming.us-east-2.amazonaws.com`。

詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイスエンドポイントを介したサービスへアクセスする](#)」を参照してください。

Amazon Transcribe Medical ストリーミング用の VPC エンドポイントポリシーの作成

Amazon Transcribe Medical へのアクセスを制御するエンドポイントポリシーを VPC エンドポイントにアタッチできます。このポリシーでは、以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル。
- 実行可能なアクション。
- アクションを実行できるリソース。

詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[VPC エンドポイントでサービスへのアクセスを制御する](#)」を参照してください。

例: Amazon Transcribe Medical ストリーミング文字起こしアクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、Amazon Transcribe Medical で文字起こしをストリーミングするためのエンドポイントポリシーの例です。エンドポイントにアタッチされると、このポリシーは、すべてのリソースのすべてのプリンシパルに対して、リストされている Amazon Transcribe Medical アクションへのアクセスを許可します。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Principal": "*",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "transcribe:StartMedicalStreamTranscription",
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

例: Amazon Transcribe Medical バッチ文字起こしアクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、Amazon Transcribe Medical でのバッチ文字起こしのエンドポイントポリシーの例です。エンドポイントにアタッチされると、このポリシーは、すべてのリソースのすべてのプリンシパルに対して、リストされている Amazon Transcribe Medical アクションへのアクセスを許可します。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Principal": "*",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "transcribe:StartMedicalTranscriptionJob"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

共有サブネット

自分と共有されているサブネットで VPC エンドポイントを作成、説明、変更、または削除することはできません。ただし、VPC エンドポイントを共有するサブネットを使用することはできます。VPC 共有の詳細については、「[Amazon Virtual Private Cloud ガイド](#)」の「[他のアカウントと VPC を共有する](#)」を参照してください。

AWS HealthScribe

AWS HealthScribe は、HIPAA 対応の機械学習 (ML) 機能です。音声認識と生成 AI を組み合わせて、患者と臨床医の会話を文字起こしし、easy-to-review 臨床ノートを作成します。AWS HealthScribe は、医療ソフトウェアベンダーがドキュメントの負担を軽減し、コンサルティングエクスペリエンスを向上させる臨床アプリケーションを構築するのに役立ちます。このサービスは、豊富な会話トランスクリプトを自動的に提供し、話者の役割を識別し、会話を分類し、医学用語を抽出して、予備的な臨床ノートを作成します。AWS HealthScribe はこれらの機能を組み合わせて、個別の AI サービスを統合および最適化する必要がないため、実装を迅速に行うことができます。

一般的なユースケース

- 文書作成する時間の短縮 — 臨床医は、AI が生成した臨床メモを使用して臨床文書を迅速に完成させることができます。臨床メモはアプリケーション内で簡単に表示、調整、確定できます。
- 医療従事者が効率よく仕事できる — AI が生成したトランスクリプトや臨床メモ、診察音声を経験済みの医療従事者に提供することで、文書作成までの時間を短縮できます。
- 患者の診察を効率的に要約する — ユーザーがアプリケーション内で会話の要点をすばやく思い出せるようなエクスペリエンスを作ります。

Important

AWS HealthScribe によって生成された結果は確率的であり、さまざまな要因により必ずしも正確であるとは限りません。オーディオ品質、バックグラウンドノイズ、話し手の明確さ、医学用語の複雑さ、コンテキスト固有の言語のニュアンス、および[機械学習と生成 AI の性質](#)。AWS HealthScribe は、臨床医と医療書記の補助的な役割で使用するよう設計されています。AWS HealthScribe 出力は、患者ケアシナリオでのみ使用してください。以下を含みます。ただし、電子医療記録の一部としてに限定されません。トレーニングを受けた医療専門家による正しい医療判断の正確性と実施の確認後。AWS HealthScribe 出力は、専門的な医療アドバイスに代わるものではありません。診断、または 処理、とは、修復を目的としていません。treat、緩和、防止、または、疾患や健康状態を診断します。

トピック

- [セキュリティ](#)
- [サービスの可用性](#)

- [技術要件](#)
- [サポートされている医療専門分野](#)
- [ワークフロー](#)
- [AWS HealthScribe トランスクリプトファイル](#)
- [AWS HealthScribe 臨床ドキュメントファイル](#)
- [AWS HealthScribe 文字起こしジョブ](#)
- [AWS HealthScribe ストリーミング](#)
- [AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化](#)

セキュリティ

AWS HealthScribe AWS は責任共有モデルに基づいて運用されており、AWS HealthScribe を実行するインフラストラクチャを保護する責任は [AWS が負い](#)、データを管理する責任はユーザーにあります。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

デフォルトでは、AWS HealthScribe は保管時の暗号化を提供し、Amazon S3マネージドキーを使用して機密データを保護します。AWS HealthScribe 文字起こしジョブを作成するとき、またはストリームを開始するときに、カスタマーマネージドキーを指定できます。これにより、2 番目の暗号化レイヤーが追加されます。詳細については、「[AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化](#)」を参照してください。

サービスの可用性

AWS HealthScribe は、米国東部 (バージニア北部) リージョンで利用できます。

技術要件

- サポートされている言語：米国英語 (en-US)
- 推奨されるオーディオ形式：可逆オーディオ (FLAC や WAV など)
- エンコード：PCM 16 ビット
- サンプルレート：16,000 Hz 以上

サポートされている医療専門分野

AWS HealthScribe は現在、以下の専門分野をサポートしています。

- 一般医療
- 整形

ワークフロー

AWS HealthScribe ワークフローには、文字起こしジョブとストリーミングが含まれます。文字起こしジョブを実行またはストリームを完了すると、AWS HealthScribe は文字起こしファイルを生成し、各会話ターンのturn-by-turn文字起こし出力とインサイトを提供します。また、概要と証拠リンクを含む臨床ドキュメントファイルを生成します。詳細については、「[AWS HealthScribe トランスクリプトファイル](#)」および「[AWS HealthScribe 臨床ドキュメントファイル](#)」を参照してください。

- 文字起こしジョブ – 文字起こしジョブを使用すると、AWS HealthScribe は Amazon S3 バケットから完了した医療相談メディアファイルを分析します。以下は、AWS HealthScribe 文字起こしジョブに固有の API オペレーションです。

- [StartMedicalScribeJob](#)
- [ListMedicalScribeJobs](#)
- [GetMedicalScribeJob](#)
- [DeleteMedicalScribeJob](#)

コード例を含む詳細については、「」を参照してください[AWS HealthScribe 文字起こしジョブ](#)。

- ストリーミング – AWS HealthScribe ストリーミングは、1 つのチャンネルでオーディオストリームを受け入れ、もう 1 つのチャンネルでオーディオ文字起こしを提供するリアルタイムの HTTP2 ベースの双方向サービスです。

以下は、AWS HealthScribe ストリーミングに固有の API オペレーションです。

- [StartMedicalScribeStream](#)
- [GetMedicalScribeStream](#)

コード例を含む詳細については、「」を参照してください[AWS HealthScribe ストリーミング](#)。

AWS HealthScribe トランスクリプトファイル

トランスクリプトファイルでは、単語レベルのタイムスタンプを含む標準のturn-by-turn文字起こし出力に加えて、AWS HealthScribe には以下が用意されています。

- 参加者ロールの検出により、会話トランスクリプトで患者と臨床医を区別できます。
- トランスクリプトセクショニングは、トランスクリプトの会話を、雑談、主観、客観などの臨床的な関連性に基づいて分類します。これを使用して、トランスクリプトの特定の部分を表示できます。
- 臨床エンティティには、会話の中で言及された薬、病状、治療法などの構造化された情報が含まれます。

さらに、会話のターンごとに以下のインサイトが得られます。

- 参加者ロール — 各参加者には、臨床医または患者のどちらかのラベルが付けられます。会話の各カテゴリに複数の参加者がいる場合、各参加者には番号が割り当てられます。例えば、CLINICIAN_0、CLINICIAN_1、および PATIENT_0、PATIENT_1 です。
- セクション — ダイアログの各ターンは、特定された内容に基づいて 4 つのセクションのうちの 1 つに割り当てられます。
 - 主観的 — 患者が自身の健康上の懸念について提供する情報。
 - 客観的 — 臨床医が身体検査、臨床検査、画像検査、または診断検査を通じて観察した情報。
 - 評価と計画 — 医師の評価と治療計画に関する情報。
 - フロー管理にアクセス — 小規模な会話や移行に関する情報。
- インサイト — 会話に存在する臨床関連エンティティ (ClinicalEntity) を抽出します。AWS HealthScribe は [Amazon Comprehend Medical](#) でサポートされているすべての臨床エンティティを検出します。

文字起こしジョブからの文字起こしの例については、「」の文字起こし出力を参照してください [文字起こしジョブの出力例](#)。ストーリーミングからのトランスクリプトの例については、「」のトランスクリプト出力を参照してください [ストーリーミング文字起こし出力の例](#)。

AWS HealthScribe 臨床ドキュメントファイル

AWS HealthScribe は、臨床メモの概要に次のいずれかのテンプレートを使用できます。デフォルトは HISTORY_AND_PHYSICAL です。

- HISTORY_AND_PHYSICAL: 臨床ドキュメントの主要なセクションの概要を提供します。セクションの例には、主席苦情、現在の病気の履歴、システムのレビュー、過去の医療履歴、評価、計画などがあります。
- GIRPP: 目標に向けた患者の進捗状況に基づいて概要を提供します。セクションの例には、目標、介入、対応、進捗状況、計画などがあります。
- BIRP: 患者の行動パターンと反応に焦点を当てます。セクションの例には、動作、介入、対応、計画などがあります。
- SIRP: 治療の状況コンテキストを強調します。セクションの例には、状況、介入、対応、計画などがあります。
- DAP: 臨床ドキュメントの簡略化された形式を提供します。セクションの例には、データ、評価、計画などがあります。
- BH_SOAP: 動作ヘルスに焦点を当てたドキュメント形式。セクションの例には、主観的、目的、評価、計画などがあります。
- PH_SOAP: 物理的なヘルスに焦点を当てたドキュメント形式。セクションの例には、主観的、目的、評価、計画などがあります。

使用するテンプレートを指定するには、以下を実行します。

- 文字起こしジョブの場合は、[StartMedicalScribeJob](#) API オペレーション `NoteTemplate` の `ClinicalNoteGenerationSettings` Settings の で使用するテンプレートを指定します。
- ストリーミングでは、[MedicalScribeConfigurationEvent](#) `NoteTemplate` の `ClinicalNoteGenerationSettings` `PostStreamAnalyticsSettings` の で使用するテンプレートを指定します。

トピック

- [HISTORY_AND_PHYSICAL テンプレートセクション](#)
- [GIRPP テンプレートセクション](#)
- [BIRP テンプレートセクション](#)
- [SIRP テンプレートセクション](#)
- [DAP テンプレートセクション](#)
- [BH_SOAP テンプレートセクション](#)
- [PH_SOAP テンプレートセクション](#)

HISTORY_AND_PHYSICAL テンプレートセクション

HISTORY_AND_PHYSICAL インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
主訴	臨床医を訪問した患者の理由の簡単な説明。
現在の病歴	重症度、発症、発症時期、現在の治療法、患部など、患者の病気に関する情報を記載したメモ。
体組織の確認	さまざまな体組織について患者が報告した症状の評価。
既往歴	患者の以前の病状、手術、治療の詳細。
評価	臨床医による患者の健康評価に関する情報を記載したメモ。
計画	治療、生活習慣の調整、予約などを記載したメモ。
物理_削除	患者の身体システムおよびバイタルの身体検査からの臨床医の検出結果のドキュメント。
PAST_FAMILY_HISTORY	患者の家族で実行される病状に関する情報。
PAST_SOCIAL_HISTORY	患者の社会生活、習慣、職業、健康に影響する環境要因に関する詳細。
診断_テスト	検査、画像検査、その他の診断手順の結果と解釈。

に存在する各文には、要約されたトランスクリプト内の関連するダイアログSegmentIdのEvidenceLinksを提供する Summaryが含まれています。これにより、ユーザーはアプリケーションで概要の精度を検証できます。説明可能性と同様に、AI が生成したインサイトにトレーサビリティと透明性を提供することは、責任ある AI の原則と一致しています。これらのリファレンスを臨

床医や医療書記者への概要メモとともに提供すると、信頼が育まれ、臨床現場での AI の安全な使用が促進されます。

文字起こしジョブの臨床ドキュメントファイルの例については、「」の臨床ドキュメントファイルの例を参照してください[文字起こしジョブの出力例](#)。ストリーミングからの臨床ドキュメントファイルの例については、「」の臨床ドキュメントファイルの例を参照してください[ストリーミング文字起こし出力の例](#)。

GIRPP テンプレートセクション

GIRPP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
目標	処理を通じて対処する必要がある特定された問題、課題、または動作。
介入	特定された目標を達成するために臨床医が使用する特定の治療、方法、または手法。
レスポンス	参加レベル、反応、フィードバックなど、患者が介入にどのように反応したか。
進行状況	患者の改善や障壁の観察など、治療目標に向けた動きに関する臨床医の評価。
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

BIRP テンプレートセクション

BIRP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
行動	患者が提示する問題と、治療に対する反応。

セクション	説明
介入	特定された目標を達成するために臨床医が使用する特定の治療、方法、または手法。
レスポンス	参加レベル、反応、フィードバックなど、患者が介入にどのように反応したか。
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

SIRP テンプレートセクション

SIRP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
状況	患者が提示する問題と、治療を求める目標。
介入	特定された目標を達成するために臨床医が使用する特定の治療、方法、または手法。
レスポンス	参加レベル、反応、フィードバックなど、患者が介入にどのように反応したか。
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

DAP テンプレートセクション

DAP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
[データ]	治療を求める患者の理由と患者に関する情報。
評価	患者の状態に関する臨床医の診断。

セクション	説明
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

BH_SOAP テンプレートセクション

BH_SOAP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
主観的	クライアントの待遇や経験、既存および過去の問題に関する目標。
目的	クライアントに関するデータと事実。
評価	患者の状態に関する臨床医の診断。
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

PH_SOAP テンプレートセクション

PH_SOAP インサイトテンプレートには、以下のセクションが含まれています。

セクション	説明
主観的	クライアントの待遇や経験、既存および過去の問題に関する目標。
目的	クライアントに関するデータと事実。
評価	患者の状態に関する臨床医の診断。
計画	今後の介入、宿題の割り当て、紹介など、処理の次のステップ。

AWS HealthScribe 文字起こしジョブ

An AWS HealthScribe 文字起こしジョブは、Amazon S3 バケットからのメディアファイル进行处理します。メディアファイル进行处理すると、患者と臨床医の会話が文字起こしされ、医療相談が分析され、トランスクリプトファイルと臨床ドキュメントファイルの2つのJSON 出力ファイルが生成されます。

以下は、AWS HealthScribe 文字起こしジョブに固有のAPI オペレーションです。

- [StartMedicalScribeJob](#)
- [ListMedicalScribeJobs](#)
- [GetMedicalScribeJob](#)
- [DeleteMedicalScribeJob](#)

AWS HealthScribe 文字起こしジョブの開始

CLI または AWS SDKs を使用して、AWS HealthScribe AWS ジョブを開始できます。

AWS CLI

この例では [start-medical-scribe-job](#) コマンドを使用しています。詳細については、「[StartMedicalScribeJob](#)」を参照してください。

```
aws transcribe start-medical-scribe-job \
--region us-west-2 \
--medical-scribe-job-name my-first-medical-scribe-job \
--media MediaFileUri=s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac \
--output-bucket-name amzn-s3-demo-bucket \
--DataAccessRoleArn=arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole \
--settings ShowSpeakerLabels=false,ChannelIdentification=true \
--channel-definitions ChannelId=0,ParticipantRole=CLINICIAN
ChannelId=1,ParticipantRole=PATIENT
```

[start-medical-scribe-job](#) コマンド、および追加設定を含むリクエストボディを使用した別の例になります。

```
aws transcribe start-medical-scribe-job \
```

```
--region us-west-2 \  
--cli-input-json file://filepath/my-first-medical-scribe-job.json
```

ファイル `my-first-medical-scribe-job.json` は以下のリクエストボディを含みます。

```
{  
  "MedicalScribeJobName": "my-first-medical-scribe-job",  
  "Media": {  
    "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
  },  
  "OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",  
  "DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole",  
  "Settings": {  
    "ShowSpeakerLabels": false,  
    "ChannelIdentification": true  
  },  
  "ChannelDefinitions": [  
    {  
      "ChannelId": 0,  
      "ParticipantRole": "CLINICIAN"  
    }, {  
      "ChannelId": 1,  
      "ParticipantRole": "PATIENT"  
    }  
  ]  
}
```

AWS SDK for Python (Boto3)

次の例では AWS SDK for Python (Boto3) 、 を使用して [start="_scribe_job"](#) リクエストを行います。詳細については、「[StartMedicalScribeJob](#)」を参照してください。

```
from __future__ import print_functionimport timeimport boto3  
transcribe = boto3.client('transcribe', 'us-west-2')  
job_name = "my-first-medical-scribe-job"  
job_uri = "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"  
transcribe.start_medical_scribe_job(  
    MedicalScribeJobName = job_name,  
    Media = {
```

```

    'MediaFileUri': job_uri
},
OutputBucketName = 'amzn-s3-demo-bucket',
DataAccessRoleArn = 'arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole',
Settings = {
    'ShowSpeakerLabels': false,
    'ChannelIdentification': true
},
ChannelDefinitions = [
    {
        'ChannelId': 0,
        'ParticipantRole': 'CLINICIAN'
    }, {
        'ChannelId': 1,
        'ParticipantRole': 'PATIENT'
    }
]
)
while True:
    status = transcribe.get_medical_scribe_job(MedicalScribeJobName = job_name)
    if status['MedicalScribeJob']['MedicalScribeJobStatus'] in ['COMPLETED', 'FAILED']:
        break
    print("Not ready yet...")
    time.sleep(5)
print(status)

```

Note

AWS マネジメントコンソールは現在、AWS HealthScribe ジョブをサポートしていません。

文字起こしジョブの出力例

StartMedicalScribeJob リクエストでは、トランスクリプトに加えて、別の臨床ドキュメントが生成されます。どちらのファイルも JSON 形式で、リクエストで指定した出力場所に保存されます。各出力タイプの例を以下に示します。

トランスクリプトの出力例

An AWS HealthScribe トランスクリプトファイル (StartMedicalScribeJob リクエストから) の形式は次のとおりです。


```
{
  "Conversation": {
    "ConversationId": "sampleConversationUUID",
    "JobName": "sampleJobName",
    "JobType": "ASYNC",
    "LanguageCode": "en-US",
    "ClinicalInsights": [
      {
        "Attributes": [],
        "Category": "MEDICAL_CONDITION",
        "InsightId": "insightUUID1",
        "InsightType": "ClinicalEntity",
        "Spans": [
          {
            "BeginCharacterOffset": 12,
            "Content": "pain",
            "EndCharacterOffset": 15,
            "SegmentId": "uuid1"
          }
        ],
        "Type": "DX_NAME"
      },
      {
        "Attributes": [],
        "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
        "InsightId": "insightUUID2",
        "InsightType": "ClinicalEntity",
        "Spans": [
          {
            "BeginCharacterOffset": 4,
            "Content": "mammogram",
            "EndCharacterOffset": 12,
            "SegmentId": "uuid2"
          }
        ],
        "Type": "TEST_NAME"
      },
      {
        "Attributes": [],
        "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
        "InsightId": "insightUUID3",
        "InsightType": "ClinicalEntity",

```

```

    "Spans": [
      {
        "BeginCharacterOffset": 15,
        "Content": "pap smear",
        "EndCharacterOffset": 23,
        "SegmentId": "uuid3"
      }
    ],
    "Type": "TEST_NAME"
  },
  {
    "Attributes": [],
    "Category": "MEDICATION",
    "InsightId": "insightUUID4",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [
      {
        "BeginCharacterOffset": 28,
        "Content": "phentermine",
        "EndCharacterOffset": 38,
        "SegmentId": "uuid4"
      }
    ],
    "Type": "GENERIC_NAME"
  },
  {
    "Attributes": [
      {
        "AttributeId": "attributeUUID1",
        "Spans": [
          {
            "BeginCharacterOffset": 38,
            "Content": "high",
            "EndCharacterOffset": 41,
            "SegmentId": "uuid5"
          }
        ],
        "Type": "TEST_VALUE"
      }
    ],
    "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
    "InsightId": "insightUUID5",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [

```

```

        {
            "BeginCharacterOffset": 14,
            "Content": "weight",
            "EndCharacterOffset": 19,
            "SegmentId": "uuid6"
        }
    ],
    "Type": "TEST_NAME"
},
{
    "Attributes": [],
    "Category": "ANATOMY",
    "InsightId": "insightUUID6",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [
        {
            "BeginCharacterOffset": 60,
            "Content": "heart",
            "EndCharacterOffset": 64,
            "SegmentId": "uuid7"
        }
    ],
    "Type": "SYSTEM_ORGAN_SITE"
}
],
"TranscriptItems": [
    {
        "Alternatives": [
            {
                "Confidence": 0.7925,
                "Content": "Okay"
            }
        ],
        "BeginAudioTime": 0.16,
        "EndAudioTime": 0.6,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [
            {
                "Confidence": 0,
                "Content": "."
            }
        ]
    }
],

```

```
    "BeginAudioTime": 0.17,  
    "EndAudioTime": 0.9,  
    "Type": "PUNCTUATION"  
  },  
  {  
    "Alternatives": [  
      {  
        "Confidence": 1,  
        "Content": "Good"  
      }  
    ],  
    "BeginAudioTime": 0.61,  
    "EndAudioTime": 0.92,  
    "Type": "PRONUNCIATION"  
  },  
  {  
    "Alternatives": [  
      {  
        "Confidence": 1,  
        "Content": "afternoon"  
      }  
    ],  
    "BeginAudioTime": 0.92,  
    "EndAudioTime": 1.54,  
    "Type": "PRONUNCIATION"  
  },  
  {  
    "Alternatives": [  
      {  
        "Confidence": 0,  
        "Content": "."  
      }  
    ],  
    "BeginAudioTime": 0,  
    "EndAudioTime": 0,  
    "Type": "PUNCTUATION"  
  },  
  {  
    "Alternatives": [  
      {  
        "Confidence": 0.9924,  
        "Content": "You"  
      }  
    ],  
  },  
]
```

```
    "BeginAudioTime": 1.55,
    "EndAudioTime": 1.88,
    "Type": "PRONUNCIATION"
  },
  {
    "Alternatives": [
      {
        "Confidence": 1,
        "Content": "lost"
      }
    ],
    "BeginAudioTime": 1.88,
    "EndAudioTime": 2.19,
    "Type": "PRONUNCIATION"
  },
  {
    "Alternatives": [
      {
        "Confidence": 1,
        "Content": "one"
      }
    ],
    "BeginAudioTime": 2.19,
    "EndAudioTime": 2.4,
    "Type": "PRONUNCIATION"
  },
  {
    "Alternatives": [
      {
        "Confidence": 1,
        "Content": "lb"
      }
    ],
    "BeginAudioTime": 2.4,
    "EndAudioTime": 2.97,
    "Type": "PRONUNCIATION"
  }
],
"TranscriptSegments": [
  {
    "BeginAudioTime": 0.16,
    "Content": "Okay.",
    "EndAudioTime": 0.6,
    "ParticipantDetails": {
```

```
    "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
  },
  "SectionDetails": {
    "SectionName": "SUBJECTIVE"
  },
  "SegmentId": "uuid1"
},
{
  "BeginAudioTime": 0.61,
  "Content": "Good afternoon.",
  "EndAudioTime": 1.54,
  "ParticipantDetails": {
    "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
  },
  "SectionDetails": {
    "SectionName": "OTHER"
  },
  "SegmentId": "uuid2"
},
{
  "BeginAudioTime": 1.55,
  "Content": "You lost one lb.",
  "EndAudioTime": 2.97,
  "ParticipantDetails": {
    "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
  },
  "SectionDetails": {
    "SectionName": "SUBJECTIVE"
  },
  "SegmentId": "uuid3"
},
{
  "BeginAudioTime": 2.98,
  "Content": "Yeah, I think it, uh, do you feel more energy?",
  "EndAudioTime": 6.95,
  "ParticipantDetails": {
    "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
  },
  "SectionDetails": {
    "SectionName": "SUBJECTIVE"
  },
  "SegmentId": "uuid5"
},
{
```

```

    "BeginAudioTime": 6.96,
    "Content": "Yes.",
    "EndAudioTime": 7.88,
    "ParticipantDetails": {
      "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
      "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid6"
  },
  {
    "BeginAudioTime": 7.89,
    "Content": "Uh, how about craving for the carbohydrate or sugar or fat or anything?",
    "EndAudioTime": 17.93,
    "ParticipantDetails": {
      "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
      "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid7"
  }
]
}
}

```

[start-medical-scribe-job](#) コマンド、および追加設定を含むリクエストボディを使用した別の例になります。

```

aws transcribe start-medical-scribe-job \
--region us-west-2 \
--cli-input-json file://filepath/my-first-medical-scribe-job.json

```

ファイル `my-first-medical-scribe-job.json` には、次のリクエストボディが含まれています。

```

{

```

```

"MedicalScribeJobName": "my-first-medical-scribe-job",
"Media": {
  "MediaFileUri": "s3://amzn-s3-demo-bucket/my-input-files/my-media-file.flac"
},
"OutputBucketName": "amzn-s3-demo-bucket",
"DataAccessRoleArn": "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole",
"Settings": {
  "ShowSpeakerLabels": false,
  "ChannelIdentification": true
},
"ChannelDefinitions": [
  {
    "ChannelId": 0,
    "ParticipantRole": "CLINICIAN"
  }, {
    "ChannelId": 1,
    "ParticipantRole": "PATIENT"
  }
]
}

```

臨床ドキュメント出力の例

ドキュメントのインサイトファイル (StartMedicalScribeJob リクエストによる) の形式は次のとおりです。

```

{
  "ClinicalDocumentation": {
    "Sections": [
      {
        "SectionName": "CHIEF_COMPLAINT",
        "Summary": [
          {
            "EvidenceLinks": [
              {
                "SegmentId": "uuid1"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid2"
              }
            ]
          }
        ]
      }
    ]
  }
}

```



```

        "SegmentId": "uuid3"
      },
      {
        "SegmentId": "uuid4"
      },
      {
        "SegmentId": "uuid5"
      },
      {
        "SegmentId": "uuid6"
      }
    ],
    "SummarizedSegment": "Weight loss."
  }
]
},
{
  "SectionName": "HISTORY_OF_PRESENT_ILLNESS",
  "Summary": [
    {
      "EvidenceLinks": [
        {
          "SegmentId": "uuid7"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid8"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid9"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid10"
        }
      ],
      "SummarizedSegment": "The patient is seen today for a follow-up of weight
loss."
    },
    {
      "EvidenceLinks": [
        {
          "SegmentId": "uuid11"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid12"
        }
      ]
    }
  ]
}

```

```

        },
        {
            "SegmentId": "uuid13"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "They report feeling more energy and craving
carbohydrates, sugar, and fat."
},
{
    "EvidenceLinks": [
        {
            "SegmentId": "uuid14"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid15"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid16"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "The patient is up to date on their mammogram and pap
smear."
},
{
    "EvidenceLinks": [
        {
            "SegmentId": "uuid17"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid18"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid19"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid20"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "The patient is taking phentermine and would like to
continue."
}
]
},
{

```

```

    "SectionName": "REVIEW_OF_SYSTEMS",
    "Summary": [
      {
        "EvidenceLinks": [
          {
            "SegmentId": "uuid21"
          },
          {
            "SegmentId": "uuid22"
          }
        ],
        "SummarizedSegment": "Patient reports intermittent headaches, occasional
chest pains but denies any recent fevers or chills."
      },
      {
        "EvidenceLinks": [
          {
            "SegmentId": "uuid23"
          },
          {
            "SegmentId": "uuid24"
          }
        ],
        "SummarizedSegment": "No recent changes in vision, hearing, or any
respiratory complaints."
      }
    ],
  },
  {
    "SectionName": "PAST_MEDICAL_HISTORY",
    "Summary": [
      {
        "EvidenceLinks": [
          {
            "SegmentId": "uuid25"
          },
          {
            "SegmentId": "uuid26"
          }
        ],
        "SummarizedSegment": "Patient has a history of hypertension and was
diagnosed with Type II diabetes 5 years ago."
      },
      {

```

```

        "EvidenceLinks": [
            {
                "SegmentId": "uuid27"
            },
            {
                "SegmentId": "uuid28"
            }
        ],
        "SummarizedSegment": "Underwent an appendectomy in the early '90s and had a
fracture in the left arm during childhood."
    }
]
},
{
    "SectionName": "ASSESSMENT",
    "Summary": [
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid29"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid30"
                }
            ],
            "SummarizedSegment": "Weight loss"
        }
    ]
},
{
    "SectionName": "PLAN",
    "Summary": [
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid31"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid32"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid33"
                }
            ],
            {

```

```

        "SegmentId": "uuid34"
      }
    ],
    "SummarizedSegment": "For the condition of Weight loss: The patient was
given a 30-day supply of phentermine and was advised to follow up in 30 days."
  }
]
}
}
}

```

AWS HealthScribe ストリーミング

AWS HealthScribe ストリーミングを使用すると、医療に関する会話をリアルタイムで文字起こしできます。AWS HealthScribe ストリーミングは、1 つのチャンネルで音声ストリームを受け入れ、他のチャンネルで音声文字起こしを提供するリアルタイムの HTTP2 ベースの双方向サービスです。ストリーミングが完了すると、AWS HealthScribe はストリームの内容を分析し、トランスクリプト JSON ファイルと臨床ノート JSON ファイルを生成します。

ストリーミングを開始するには、[StartMedicalScribeStream](#) API オペレーションを使用します。この API は、音声イベントのストリーミングに使用する HTTP2 ベースの双方向チャンネルを開始します。

ストリームを開始するときは、まず `MedicalScribeConfigurationEvent` でストリーム設定を指定します。このイベントには、チャンネル定義、暗号化設定、集約されたトランスクリプトの出力設定や臨床メモの生成などのストリーム後分析設定が含まれます。

音声のストリーミングを開始したら、次のようにストリームを管理します。

- 完了したら、ストリーム後の分析で結果の処理を開始するには、`Type` を `MedicalScribeSessionControlEvent` として `END_OF_SESSION` を送信し、AWS HealthScribe が分析を開始します。
- ストリーミングを一時停止するには、`MedicalScribeSessionControlEvent` を送信せずに入力ストリームを完了します。
- 一時停止したストリームを再開するには、`StartMedicalScribeStream` API オペレーションを使用して同じ `SessionId` を指定します。これは最初にストリームを開始したときに使用した `SessionId` です。

トピック

- [ガイドラインと要件](#)
- [ResourceAccessRoleArn ロールのアクセス許可](#)
- [Starting AWS HealthScribe ストリーミング文字起こし](#)

ガイドラインと要件

以下は、AWS HealthScribe ストリーミングのガイドラインと要件です。

- オーディオイベントを送信する前に、まず `StreamConfigurationEvent` を送信する必要があります。[StreamConfigurationEvent](#)。
- ストリーム後分析を実行するには、`ResourceAccessRoleArn` の正しいアクセス許可 `StreamConfigurationEvent` が必要です。詳細については、「[ResourceAccessRoleArn ロールのアクセス許可](#)」を参照してください。
- セッションは、最初のストリーム作成から 5 時間以内に何回でも再開できます。
- すべてのストリーミングリクエストで、セッション中に最大 2 時間のオーディオをストリーミングできます。
- デフォルトでは、AWS HealthScribe は保管時の暗号化を提供し、Amazon S3 マネージドキーを使用して顧客の機密データを保護します。ストリームを開始するときに、2 番目の暗号化レイヤーの AWS KMS キーを指定できます。には、AWS KMS キーを使用するためのアクセス許可 `ResourceAccessRoleArn` が必要です。詳細については、「[AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化](#)」を参照してください。
- AWS SDKs、SDK で AWS HealthScribe ストリーミングを使用できます。
- ストリームの終了後に `LimitExceededException` 例外が発生した場合は、セッションを再起動しても、ストリーム後の分析を生成できます。ストリームを再起動するには、[StartMedicalScribeStream](#) API を使用し、同じ `SessionID` を使用します。次に、`MedicalScribeSessionControlEvent` を `Type` として送信 `END_OF_SESSION` し、AWS HealthScribe が分析を開始します。

ResourceAccessRoleArn ロールのアクセス許可

ストリーム後分析を実行するには、`ResourceAccessRoleArn` の `AmazonS3OutputBucket` が Amazon S3 出力バケットにアクセスできる必要があります。また、指定した場合はキーにアクセスできる `StreamConfigurationEvent` が必要です。また、ロールの信頼ポリ

シーは、ロールを引き受けるアクセス許可をtranscribe.streaming.amazonaws.comサービスに付与する必要があります。

以下は、Amazon S3 バケットのアクセス許可とキーのアクセス許可を付与する IAM ポリシーの例です。AWS KMS 詳細については、「[AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化](#)」を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket",
        "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket/*"
      ],
      "Effect": "Allow"
    },
    {
      "Action": [
        "kms:DescribeKey",
        "kms:Decrypt",
        "kms:Encrypt",
        "kms:GenerateDataKey*"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:123456789012:key/1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE",
      "Effect": "Allow",
    }
  ]
}
```

以下に示しているのは、信頼ポリシーの例です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": [
```

```
        "transcribe.streaming.amazonaws.com"
    ],
    },
    "Action": "sts:AssumeRole"
}
]
```

Starting AWS HealthScribe ストリーミング文字起こし

次のコード例は、AWS SDKs を使用して AWS HealthScribe ストリーミング文字起こしを設定する方法を示しています。

トピック

- [SDK for Java 2.x](#)
- [ストリーミング文字起こし出力の例](#)

SDK for Java 2.x

次の例では、SDK for Java 2.x を使用してストリーミングを設定し、[StartMedicalScribeStream](#) リクエストを行います。

```
package org.example;

import io.reactivex.rxjava3.core.BackpressureStrategy;
import io.reactivex.rxjava3.core.Flowable;
import org.reactivestreams.Publisher;
import org.reactivestreams.Subscriber;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.AwsCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.auth.credentials.DefaultCredentialsProvider;
import software.amazon.awssdk.core.SdkBytes;
import software.amazon.awssdk.regions.Region;
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.TranscribeStreamingAsyncClient;
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.ClinicalNoteGenerationSettings;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.LanguageCode;
import software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MediaEncoding;

import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MedicalScribeInputStream;
```



```

import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MedicalScribePostStreamAnalyticsSett
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MedicalScribeSessionControlEventType
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MedicalScribeTranscriptEvent;
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.MedicalScribeTranscriptSegment;
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.StartMedicalScribeStreamRequest;
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.StartMedicalScribeStreamResponseHand
import
    software.amazon.awssdk.services.transcribestreaming.model.medicalscribeinputstream.DefaultConf

import software.amazon.awssdk.http.nio.netty.NettyNioAsyncHttpClient;

import javax.sound.sampled.AudioFormat;
import javax.sound.sampled.AudioInputStream;
import javax.sound.sampled.AudioSystem;
import javax.sound.sampled.DataLine;
import javax.sound.sampled.LineUnavailableException;
import javax.sound.sampled.TargetDataLine;
import java.io.BufferedInputStream;
import java.io.IOException;
import java.io.InputStream;
import java.io.UncheckedIOException;
import java.util.Arrays;
import java.util.concurrent.CompletableFuture;

public class HealthScribeStreamingDemoApp {
    private static final int CHUNK_SIZE_IN_BYTES = 6400;
    private static final int SAMPLE_RATE = 16000;
    private static final Region REGION = Region.US_EAST_1;
    private static final String sessionId = "1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE";
    private static final String bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
    private static final String resourceAccessRoleArn =
"arn:aws:iam::123456789012:role/resource-access-role";
    private static TranscribeStreamingAsyncClient client;

    public static void main(String args[]) {

        client = TranscribeStreamingAsyncClient.builder()

```

```

        .credentialsProvider(getCredentials())
        .httpClientBuilder(NettyNioAsyncHttpClient.builder())
        .region(REGION)
        .build();
    try {
        StartMedicalScribeStreamRequest request =
StartMedicalScribeStreamRequest.builder()
            .languageCode(LanguageCode.EN_US.toString())
            .mediaSampleRateHertz(SAMPLE_RATE)
            .mediaEncoding(MediaEncoding.PCM.toString())
            .sessionId(sessionId)
            .build();

        MedicalScribeInputStream endSessionEvent =
MedicalScribeInputStream.sessionControlEventBuilder()
            .type(MedicalScribeSessionControlEventType.END_OF_SESSION)
            .build();

        CompletableFuture<Void> result = client.startMedicalScribeStream(
            request,
            new AudioStreamPublisher(getStreamFromMic(),
getConfigurationEvent(),endSessionEvent),
            getMedicalScribeResponseHandler());
        result.get();
        client.close();
    } catch (Exception e) {
        System.err.println("Error occurred: " + e.getMessage());
        e.printStackTrace();
    }
}

private static AudioInputStream getStreamFromMic() throws LineUnavailableException
{
    // Signed PCM AudioFormat with 16kHz, 16 bit sample size, mono
    AudioFormat format = new AudioFormat(SAMPLE_RATE, 16, 1, true, false);
    DataLine.Info info = new DataLine.Info(TargetDataLine.class, format);

    if (!AudioSystem.isLineSupported(info)) {
        System.out.println("Line not supported");
        throw new LineUnavailableException("The audio system microphone line is not
supported.");
    }
    TargetDataLine line = (TargetDataLine) AudioSystem.getLine(info);

```

```

        int bufferSize = (CHUNK_SIZE_IN_BYTES / format.getFrameSize()) *
format.getFrameSize();
        line.open(format);
        line.start();

        // Create a wrapper class that can be closed when Enter is pressed
        AudioInputStream audioStream = new AudioInputStream(line);

        // Start a thread to monitor for Enter key
        System.out.println("Recording... Press Enter to stop");
        Thread monitorThread = new Thread(() -> {
            try {
                System.in.read();
                line.stop();
                line.close();
            } catch (IOException e) {
                e.printStackTrace();
            }
        });
        monitorThread.setDaemon(true); // Set as daemon thread so it doesn't prevent
JVM shutdown
        monitorThread.start();

        return new AudioInputStream(
            new BufferedInputStream(new AudioInputStream(line)),
            format,
            AudioSystem.NOT_SPECIFIED
        );
    }

    private static AwsCredentialsProvider getCredentials() {
        return DefaultCredentialsProvider.create();
    }

    private static StartMedicalScribeStreamResponseHandler
getMedicalScribeResponseHandler() {

        return StartMedicalScribeStreamResponseHandler.builder()
            .onResponse(r -> {
                System.out.println("Received Initial response");
            })
            .onError(Throwable::printStackTrace)
            .onComplete(() -> {
                System.out.println("=== All records streamed successfully ===");
            })
    }

```

```

    })
    .subscriber(event -> {
        if (event instanceof MedicalScribeTranscriptEvent) {
            MedicalScribeTranscriptSegment segment =
                ((MedicalScribeTranscriptEvent) event).transcriptSegment();
            if (segment != null && segment.content() != null && !
                segment.content().isEmpty()) {
                System.out.println(segment.content());
            }
        }
    })
    .build();
}

private static DefaultConfigurationEvent getConfigurationEvent() {
    MedicalScribePostStreamAnalyticsSettings postStreamSettings =
        MedicalScribePostStreamAnalyticsSettings
            .builder()
            .clinicalNoteGenerationSettings(
                ClinicalNoteGenerationSettings.builder()
                    .outputBucketName(bucketName)
                    .build()
            )
            .build();
    return (DefaultConfigurationEvent)
        MedicalScribeInputStream.configurationEventBuilder()
            .resourceAccessRoleArn(resourceAccessRoleArn)
            .postStreamAnalyticsSettings(postStreamSettings)
            .build();
}

private static class AudioStreamPublisher implements
    Publisher<MedicalScribeInputStream> {
    private final InputStream audioInputStream;
    private final MedicalScribeInputStream configEvent;
    private final MedicalScribeInputStream endSessionEvent;

    private AudioStreamPublisher(AudioInputStream audioInputStream,
        MedicalScribeInputStream configEvent,
        MedicalScribeInputStream endSessionEvent) {
        this.audioInputStream = audioInputStream;
        this.configEvent = configEvent;
        this.endSessionEvent = endSessionEvent;
    }
}

```

```

@Override
public void subscribe(Subscriber<? super MedicalScribeInputStream> subscriber)
{
    createAudioFlowable()
        .doOnComplete(() -> {
            try {
                audioInputStream.close();
            } catch (IOException e) {
                throw new UncheckedIOException(e);
            }
        })
        .subscribe(subscriber);
}

private Flowable<MedicalScribeInputStream> createAudioFlowable() {
    // Start with config event
    Flowable<MedicalScribeInputStream> configFlow = Flowable.just(configEvent);

    // Create audio chunk flowable
    Flowable<MedicalScribeInputStream> audioFlow = Flowable.create(emitter -> {
        byte[] buffer = new byte[CHUNK_SIZE_IN_BYTES];
        int bytesRead;

        try {
            while (!emitter.isCancelled() && (bytesRead =
audioInputStream.read(buffer)) > 0) {
                byte[] audioData = bytesRead < buffer.length
                    ? Arrays.copyOfRange(buffer, 0, bytesRead)
                    : buffer;

                MedicalScribeInputStream audioEvent =
MedicalScribeInputStream.audioEventBuilder()
                    .audioChunk(SdkBytes.fromByteArray(audioData))
                    .build();

                emitter.onNext(audioEvent);
            }
            emitter.onComplete();
        } catch (IOException e) {
            emitter.onError(e);
        }
    }, BackpressureStrategy.BUFFER);
}

```

```
        // End with session end event
        Flowable<MedicalScribeInputStream> endFlow =
Flowable.just(endSessionEvent);

        // Concatenate all flows
        return Flowable.concat(configFlow, audioFlow, endFlow);
    }
}
}
```

ストリーミング文字起こし出力の例

ストリーミングが完了すると、AWS HealthScribe はストリームの内容を分析し、トランスクリプト JSON ファイルと臨床メモ JSON ファイルを生成します。各出力タイプの例を以下に示します。

トランスクリプトの出力例

以下は、ストリーミングセッションからの a AWS HealthScribe トランスクリプトファイルの例です。

```
{
  "Conversation": {
    "ClinicalInsights": [{
      "Attributes": [],
      "Category": "MEDICAL_CONDITION",
      "InsightId": "insightUUID1",
      "InsightType": "ClinicalEntity",
      "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 12,
        "Content": "pain",
        "EndCharacterOffset": 15,
        "SegmentId": "uuid1"
      }],
      "Type": "DX_NAME"
    }, {
      "Attributes": [],
      "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
      "InsightId": "insightUUID2",
      "InsightType": "ClinicalEntity",
      "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 4,
        "Content": "mammogram",
        "EndCharacterOffset": 12,
```

```

        "SegmentId": "uuid2"
    }],
    "Type": "TEST_NAME"
}, {
    "Attributes": [],
    "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
    "InsightId": "insightUUID3",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 15,
        "Content": "pap smear",
        "EndCharacterOffset": 23,
        "SegmentId": "uuid3"
    }],
    "Type": "TEST_NAME"
}, {
    "Attributes": [],
    "Category": "MEDICATION",
    "InsightId": "insightUUID4",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 28,
        "Content": "phentermine",
        "EndCharacterOffset": 38,
        "SegmentId": "uuid4"
    }],
    "Type": "GENERIC_NAME"
}, {
    "Attributes": [{
        "AttributeId": "attributeUUID1",
        "Spans": [{
            "BeginCharacterOffset": 38,
            "Content": "high",
            "EndCharacterOffset": 41,
            "SegmentId": "uuid5"
        }],
        "Type": "TEST_VALUE"
    }],
    "Category": "TEST_TREATMENT_PROCEDURE",
    "InsightId": "insightUUID5",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 14,
        "Content": "weight",

```

```

        "EndCharacterOffset": 19,
        "SegmentId": "uuid6"
    }],
    "Type": "TEST_NAME"
}, {
    "Attributes": [],
    "Category": "ANATOMY",
    "InsightId": "insightUUID6",
    "InsightType": "ClinicalEntity",
    "Spans": [{
        "BeginCharacterOffset": 60,
        "Content": "heart",
        "EndCharacterOffset": 64,
        "SegmentId": "uuid7"
    }],
    "Type": "SYSTEM_ORGAN_SITE"
}],
"ConversationId": "sampleConversationUUID",
"LanguageCode": "en-US",
"SessionId": "sampleSessionUUID",
"TranscriptItems": [{
    "Alternatives": [{
        "Confidence": 0.7925,
        "Content": "Okay"
    }],
    "BeginAudioTime": 0.16,
    "EndAudioTime": 0.6,
    "Type": "PRONUNCIATION"
},
{
    "Alternatives": [{
        "Confidence": 0,
        "Content": "."
    }],
    "BeginAudioTime": 0,
    "EndAudioTime": 0,
    "Type": "PUNCTUATION"
},
{
    "Alternatives": [{
        "Confidence": 1,
        "Content": "Good"
    }],
    "BeginAudioTime": 0.61,

```



```
        "EndAudioTime": 0.92,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 1,
            "Content": "afternoon"
        }],
        "BeginAudioTime": 0.92,
        "EndAudioTime": 1.54,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 0,
            "Content": "."
        }],
        "BeginAudioTime": 0,
        "EndAudioTime": 0,
        "Type": "PUNCTUATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 0.9924,
            "Content": "You"
        }],
        "BeginAudioTime": 1.55,
        "EndAudioTime": 1.88,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 1,
            "Content": "lost"
        }],
        "BeginAudioTime": 1.88,
        "EndAudioTime": 2.19,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 1,
            "Content": "one"
        }],

```

```

        "BeginAudioTime": 2.19,
        "EndAudioTime": 2.4,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    },
    {
        "Alternatives": [{
            "Confidence": 1,
            "Content": "lb"
        }],
        "BeginAudioTime": 2.4,
        "EndAudioTime": 2.97,
        "Type": "PRONUNCIATION"
    }
],
"TranscriptSegments": [{
    "BeginAudioTime": 0.16,
    "Content": "Okay.",
    "EndAudioTime": 0.6,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
        "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid1"
}, {
    "BeginAudioTime": 0.61,
    "Content": "Good afternoon.",
    "EndAudioTime": 1.54,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
        "SectionName": "OTHER"
    },
    "SegmentId": "uuid2"
}, {
    "BeginAudioTime": 1.55,
    "Content": "You lost one lb.",
    "EndAudioTime": 2.97,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {

```

```

        "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid3"
}, {
    "BeginAudioTime": 2.98,
    "Content": "Yeah, I think it, uh, do you feel more energy?",
    "EndAudioTime": 6.95,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
        "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid4"
}, {
    "BeginAudioTime": 6.96,
    "Content": "Yes.",
    "EndAudioTime": 7.88,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
        "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid5"
}, {
    "BeginAudioTime": 7.89,
    "Content": "Uh, how about craving for the carbohydrate or sugar or fat or
anything?",
    "EndAudioTime": 17.93,
    "ParticipantDetails": {
        "ParticipantRole": "CLINICIAN_0"
    },
    "SectionDetails": {
        "SectionName": "SUBJECTIVE"
    },
    "SegmentId": "uuid6"
}]
}
}

```

臨床ドキュメントの出力例

以下は、ストリーミングセッションからの a AWS HealthScribe 臨床ドキュメントインサイトファイルの例です。

```
{
  "ClinicalDocumentation": {
    "Sections": [
      {
        "SectionName": "CHIEF_COMPLAINT",
        "Summary": [
          {
            "EvidenceLinks": [
              {
                "SegmentId": "uuid1"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid2"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid3"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid4"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid5"
              },
              {
                "SegmentId": "uuid6"
              }
            ],
            "SummarizedSegment": "Weight loss."
          }
        ]
      },
      {
        "SectionName": "HISTORY_OF_PRESENT_ILLNESS",
        "Summary": [
          {
            "EvidenceLinks": [
              {
                "SegmentId": "uuid7"
              }
            ]
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

```

        {
            "SegmentId": "uuid8"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid9"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid10"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "The patient is seen today for a follow-up of weight
loss."
},
{
    "EvidenceLinks": [
        {
            "SegmentId": "uuid11"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid12"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid13"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "They report feeling more energy and craving
carbohydrates, sugar, and fat."
},
{
    "EvidenceLinks": [
        {
            "SegmentId": "uuid14"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid15"
        },
        {
            "SegmentId": "uuid16"
        }
    ],
    "SummarizedSegment": "The patient is up to date on their mammogram and pap
smear."
},
{

```

```

        "EvidenceLinks": [
            {
                "SegmentId": "uuid17"
            },
            {
                "SegmentId": "uuid18"
            },
            {
                "SegmentId": "uuid19"
            },
            {
                "SegmentId": "uuid20"
            }
        ],
        "SummarizedSegment": "The patient is taking phentermine and would like to
continue."
    }
]
},
{
    "SectionName": "REVIEW_OF_SYSTEMS",
    "Summary": [
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid21"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid22"
                }
            ],
            "SummarizedSegment": "Patient reports intermittent headaches, occasional
chest pains but denies any recent fevers or chills."
        },
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid23"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid24"
                }
            ],

```

```

        "SummarizedSegment": "No recent changes in vision, hearing, or any
respiratory complaints."
    }
]
},
{
    "SectionName": "PAST_MEDICAL_HISTORY",
    "Summary": [
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid25"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid26"
                }
            ],
            "SummarizedSegment": "Patient has a history of hypertension and was
diagnosed with Type II diabetes 5 years ago."
        },
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid27"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid28"
                }
            ],
            "SummarizedSegment": "Underwent an appendectomy in the early '90s and had a
fracture in the left arm during childhood."
        }
    ]
},
{
    "SectionName": "ASSESSMENT",
    "Summary": [
        {
            "EvidenceLinks": [
                {
                    "SegmentId": "uuid29"
                },
                {
                    "SegmentId": "uuid30"
                }
            ]
        }
    ]
}

```

```

        }
      ],
      "SummarizedSegment": "Weight loss"
    }
  ]
},
{
  "SectionName": "PLAN",
  "Summary": [
    {
      "EvidenceLinks": [
        {
          "SegmentId": "uuid31"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid32"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid33"
        },
        {
          "SegmentId": "uuid34"
        }
      ],
      "SummarizedSegment": "For the condition of Weight loss: The patient was
given a 30-day supply of phentermine and was advised to follow up in 30 days."
    }
  ]
}
],
"SessionId": "sampleSessionUUID"
}
}

```

AWS HealthScribe の保管時のデータ暗号化

デフォルトでは、AWS HealthScribe は保管時の暗号化を提供し、AWS HealthScribe managed AWS Key Management Service (AWS KMS) キーを使用して顧客の機密データを保護します。デフォルトでは、保管中のデータを暗号化することで、機密データの保護に伴う運用のオーバーヘッドと複雑な作業を軽減できます。また、厳格な暗号化コンプライアンスと規制要件を満たす安全なアプリケーションを構築することもできます。AWS HealthScribe 文字起こしジョブを作成するとき、ま

たはストリームを開始するときに、カスタマーマネージドキーを指定できます。これにより、2 番目の暗号化レイヤーが追加されます。

- **AWS HealthScribe マネージド AWS KMS キー** — AWS HealthScribe はデフォルトで AWS HealthScribe managed AWS Key Management Service (AWS KMS) キーを使用して、中間ファイルを自動的に暗号化します。この暗号化レイヤーを無効にしたり、別の暗号化タイプを選択したりすることはできません。キーを表示、管理、使用したり、その使用を監査したりすることはできません。ただし、データを暗号化するキーを保護するためのアクションの実施やプログラムの変更を行う必要はありません。
- **カスタマーマネージドキー** — AWS HealthScribe は、ユーザーが作成、所有、管理する対称カスタマーマネージドキーの使用をサポートし、既存の AWS 所有の暗号化に 2 番目の暗号化レイヤーを追加します。この暗号化層はユーザーが完全に制御できるため、次のようなタスクを実行できます。
 - キーポリシーの策定と維持
 - IAM ポリシーと許可の確立と維持
 - キーポリシーの有効化と無効化
 - キー暗号化マテリアルのローテーション
 - タグの追加
 - キーエイリアスの作成
 - キー削除のスケジュール設定

詳細については、「AWS Key Management Service デベロッパーガイド」の「[カスタマーマネージドキー](#)」を参照してください。

Note

AWS HealthScribe は、個人を特定できるデータを無料で保護するために AWS、所有キーを使用して保管時の暗号化を自動的に有効にします。ただし、カスタマーマネージドキーの使用には AWS KMS 料金が適用されます。料金の詳細については、「[AWS Key Management Service の料金](#)」を参照してください。

詳細については AWS KMS、[「とは AWS Key Management Service」](#)を参照してください。

トピック

- [カスタマーマネージドキーの作成](#)
- [AWS HealthScribe でのカスタマーマネージドキーの指定](#)
- [AWS KMS 暗号化コンテキスト](#)
- [AWS HealthScribe の暗号化キーのモニタリング](#)

カスタマーマネージドキーの作成

対称カスタマーマネージドキーは AWS Management Console、[AWS CLI](#)、または AWS KMS APIs を使用して作成できます。対称カスタマーマネージドキーを作成するには、「AWS Key Management Service デベロッパーガイド」の「[対称カスタマーマネージドキーの作成](#)」の手順に従います。

キーポリシーは、カスタマーマネージドキーへのアクセスを制御します。すべてのカスタマーマネージドキーには、キーポリシーが 1 つだけ必要です。このポリシーには、そのキーを使用できるユーザーとその使用方法を決定するステートメントが含まれています。キーポリシーは、カスタマーマネージドキーの作成時に指定できます。詳細については、「AWS Key Management Service デベロッパーガイド」の「[カスタマーマネージドキーへのアクセスの管理](#)」を参照してください。

AWS KMSAWS HealthScribe の キーポリシー

StartMedicalScribeJob または DataAccessRole [StartMedicalScribeStream](#) リクエストトResourceAccessRoleで として指定した IAM ロールと同じアカウントのキーを使用している場合は、キーポリシーを更新する必要はありません。[StartMedicalScribeJob](#) DataAccessRole (文字起こしジョブの場合) または ResourceAccessRole (ストリーミングの場合) として別のアカウントでカスタマーマネージドキーを使用するには、キーポリシーのそれぞれのロールを信頼して以下のアクションを行う必要があります。

- [kms:Encrypt](#) — カスタマーマネージドキーを使用した暗号化を許可します。
- [kms:Decrypt](#) — カスタマーマネージドキーを使用した復号を許可します。
- [kms:DescribeKey](#) — カスタマーマネージドキーの詳細を提供し、AWS HealthScribe がキーを検証できるようにします。

以下は、ResourceAccessRole クロスアカウントアクセス許可を付与して AWS HealthScribe ストリーミングにカスタマーマネージドキーを使用するためのキーポリシーの例です。このポリシーを文字起こしジョブに使用するには、DataAccessRole ARN を使用するPrincipalように を更新し、暗号化コンテキストを削除または変更します。

```
{
```

```

"Version":"2012-10-17",
"Statement":[
  {
    "Sid": "Allow access for key administrators",
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:root"
    },
    "Action" : [
      "kms:*"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid":"Allow access to the ResourceAccessRole for StartMedicalScribeStream",
    "Effect":"Allow",
    "Principal":{
      "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:role/ResourceAccessRole"
    },
    "Action":[
      "kms:Encrypt",
      "kms:Decrypt",
      "kms:GenerateDataKey*"
    ]
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "EncryptionContext":[
          "aws:us-east-1:transcribe:medical-scribe:session-
id": "1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
        ]
      }
    }
  },
  {
    "Sid":"Allow access to the ResourceAccessRole for DescribeKey",
    "Effect":"Allow",
    "Principal":{
      "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:role/ResourceAccessRole"
    },
    "Action": "kms:DescribeKey",
    "Resource": "*"
  }
]

```

```
}
```

アクセスロールの IAM ポリシーのアクセス許可

DataAccessRole または ResourceAccessRole にアタッチされた IAM ポリシーは、カスタマー管理のキーとロールが同じアカウントにあるか異なるアカウントにあるかにかかわらず、必要な AWS KMS アクションを実行するためのアクセス許可を付与する必要があります。また、ロールの信頼ポリシーは、ロールを引き受けるアクセス許可を AWS HealthScribe に付与する必要があります。

次の IAM ポリシーの例は、AWS HealthScribe ストリーミングに ResourceAccessRole アクセス許可を付与する方法を示しています。このポリシーを文字起こし `transcribe.amazonaws.com` しジョブに使用するには、`transcribe.streaming.amazonaws.com` に置き換え、暗号化コンテキストを削除または変更します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "kms:Encrypt",
        "kms:Decrypt",
        "kms:GenerateDataKey*"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:123456789012:key/Key_ID",
      "Effect": "Allow",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "kms:ViaService": "transcribe.streaming.amazonaws.com",
          "EncryptionContext": [
            "aws:us-east-1:transcribe:medical-scribe:session-id":
"1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
          ]
        }
      }
    },
    {
      "Action": [
        "kms:DescribeKey"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:123456789012:key/Key_ID",
      "Effect": "Allow",
      "Condition": {
```

```

        "StringEquals": {
            "kms:ViaService": "transcribe.streaming.amazonaws.com"
        }
    }
}

```

ResourceAccessRole の信頼ポリシーの例を次に示します。DataAccessRole の場合は、transcribe.streaming.amazonaws.comを に置き換えますtranscribe.amazonaws.com。

```

{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "transcribe.streaming.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceAccount": "123456789012"
        },
        "StringLike": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:transcribe:us-west-2:123456789012:*"
        }
      }
    }
  ]
}

```

<https://docs.aws.amazon.com/kms/latest/developerguide/policy-evaluation.html#example-no-iam>

AWS HealthScribe でのカスターマネージドキーの指定

カスターマネージドキーは、文字起こしジョブまたはストリーミングの 2 番目のレイヤー暗号化として指定できます。

- 文字起こしジョブの場合は、[StartMedicalScribeJob](#) API オペレーションの [OutputEncryptionKMSKeyId](#) でキーを指定します。
- ストリーミングの場合は、[MedicalScribeConfigurationEvent](#) の [MedicalScribeEncryptionSettings](#) でキーを指定します。 [MedicalScribeConfigurationEvent](#)

AWS KMS 暗号化コンテキスト

AWS KMS 暗号化コンテキストは、プレーンテキストの非シークレットキーと値のペアのマップです。このマップは、暗号化コンテキストペアと呼ばれる追加の認証済みデータを表します。これにより、データにセキュリティレイヤーが追加されます。AWS HealthScribe は、お客様が指定した Amazon S3 バケットへの AWS HealthScribe 出力を暗号化するために対称暗号化キーを必要とします。[詳細については、「AWS KMSの非対称キー」を参照してください。](#)

暗号化コンテキストペアを作成するときは、機密情報を含めないでください。暗号化コンテキストはシークレットではなく、CloudTrail ログ内のプレーンテキストで表示されます (暗号化オペレーションを識別して分類するために使用できます)。暗号化コンテキストのキーと値には、アンダースコア (_)、ダッシュ (-)、スラッシュ (/、\)、コロン (:) などの特殊文字を含めることができます。

Tip

暗号化コンテキストペアの値を暗号化されるデータに関連付けると便利です。必須ではありませんが、ファイル名、ヘッダー値、暗号化されていないデータベースフィールドなど、暗号化されたコンテンツに関連する機密性のないメタデータを使用することをお勧めします。API で出力暗号化を使用するには、[StartMedicalScribeJob](#) オペレーションで [KMSEncryptionContext](#) パラメータを設定します。出力暗号化オペレーションの暗号化コンテキストを提供するには、[OutputEncryptionKMSKeyId](#) パラメータで対称 AWS KMS キー ID を参照する必要があります。

ストリーミングでは、[MedicalScribeConfigurationEvent](#) [KmsEncryptionContext](#) の [MedicalScribeEncryptionSettings](#) で のキーと値のペアを指定します。

[MedicalScribeEncryptionSettings](#) [MedicalScribeConfigurationEvent](#)

IAM ポリシーで [AWS KMS 条件キー](#) を使用して、暗号化 [オペレーションのリクエストで使用された暗号化コンテキストに基づいて、対称暗号化](#) AWS KMS キーへのアクセスを制御できます。暗号化コンテキストポリシーの例については、「[AWS KMS 暗号化コンテキストポリシー](#)」を参照してください。

暗号化コンテキストの使用は任意ですが、推奨されています。詳細については、「[暗号化コンテキスト](#)」を参照してください。

AWS HealthScribe 暗号化コンテキスト

AWS HealthScribe は、すべての暗号化オペレーションで同じ AWS Key Management Service 暗号化コンテキストを使用します。暗号化コンテキストは、文字列から文字列へのマップであり、任意の内容にカスタマイズできます。

```
"encryptionContext": {
  "ECKey": "ECValue"
  ...
}
```

AWS HealthScribe ストリームの場合、デフォルトのサービス生成の暗号化コンテキストは次のとおりです。このコンテキストは、指定した暗号化コンテキストの上に適用されます。

```
"encryptionContext": {
  "aws:<region>:transcribe:medical-scribe:session-id":
  "1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
}
```

AWS HealthScribe 文字起こしジョブの場合、デフォルトのサービス生成暗号化コンテキストは次のとおりです。このコンテキストは、指定した暗号化コンテキストの上に適用されます。

```
"encryptionContext": {
  "aws:<region>:transcribe:medical-scribe:job-name": "<job-name>",
  "aws:<region>:transcribe:medical-scribe:start-time-epoch-ms": "<job-start-time>"
}
```

暗号化コンテキストを指定しない場合、サービス生成の暗号化コンテキストのみがすべての AWS KMS 暗号化オペレーションに使用されます。

暗号化コンテキストを使用した AWS HealthScribe のモニタリング

対称カスタマーマネージドキーを使用して AWS HealthScribe に保管中のデータを暗号化する場合、監査レコードとログの暗号化コンテキストを使用して、カスタマーマネージドキーがどのように使用されているかを特定することもできます。暗号化コンテキストは、AWS CloudTrail または CloudWatch Logs によって生成されたログにも表示されます。

暗号化コンテキストを使用してカスタマーマネージドキーへのアクセスを制御する

対称カスタマーマネージドキー (CMK) へのアクセスを制御するための条件として、キーポリシーと IAM ポリシー内の暗号化コンテキストを使用することもできます。

次に、特定の暗号化コンテキストのカスターマネージドキーへのアクセスを付与するキーポリシーステートメントの例を示します。このポリシーステートメントの条件では、KMS キーの使用に、暗号化コンテキストを指定する暗号化コンテキストの制約が必要です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "Allow access to the ResourceAccessRole for
StartMedicalScribeStream",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:role/ResourceAccessRole"
      },
      "Action": [
        "kms:Encrypt",
        "kms:Decrypt",
        "kms:GenerateDataKey*"
      ],
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:123456789012:key/Key_ID",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          // below is the service generated encryption context example
          "kms:EncryptionContext:aws:us-east-1:transcribe:medical-
scribe:session-id": "1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE",
          // plus any encryption context that you specify in the request
          "kms:EncryptionContext:${EKey}": "${ECValue}"
        }
      }
    },
    {
      "Sid": "Allow access to the ResourceAccessRole for DescribeKey",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:role/ResourceAccessRole"
      },
      "Action": "kms:DescribeKey",
      "Resource": "arn:aws:kms:us-west-2:123456789012:key/Key_ID"
    }
  ]
}
```


AWS HealthScribe の暗号化キーのモニタリング

AWS HealthScribe で AWS Key Management Service カスタマーマネージドキーを使用すると、AWS CloudTrail または CloudWatch Logs を使用して、AWS HealthScribe が送信するリクエストを追跡できます AWS KMS。

次の例は、AWS HealthScribe がカスタマーマネージドキーをどのように使用しているかをモニタリングできる CloudTrail Encrypt および Decrypt イベントです。

暗号化

```
{
  "eventVersion": "1.09",
  "userIdentity": {
    "type": "AssumedRole",
    "principalId": "AROAIQDTESTANDEXAMPLE:Sampleuser01",
    "arn": "arn:aws:sts::123456789012:assumed-role/Admin/Sampleuser01",
    "accountId": "123456789012",
    "accessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE3",
    "sessionContext": {
      "sessionIssuer": {
        "type": "Role",
        "principalId": "AROAIQDTESTANDEXAMPLE:Sampleuser01",
        "arn": "arn:aws:sts::123456789012:assumed-role/Admin/Sampleuser01",
        "accountId": "123456789012",
        "userName": "Admin"
      },
      "attributes": {
        "creationDate": "2024-08-16T01:10:05Z",
        "mfaAuthenticated": "false"
      }
    },
    "invokedBy": "transcribe.streaming.amazonaws.com"
  },
  "eventTime": "2024-08-16T01:10:05Z",
  "eventSource": "kms.amazonaws.com",
  "eventName": "Encrypt",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "transcribe.streaming.amazonaws.com",
  "userAgent": "transcribe.streaming.amazonaws.com",
  "requestParameters": {
    "encryptionContext": {
```

```

    "aws:us-east-1:transcribe:medical-scribe:session-
id":"1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
  },
  "encryptionAlgorithm":"SYMMETRIC_DEFAULT",
  "keyId":"1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab"
},
"responseElements":null,
"requestID":"cbe0ac33-8cca-49e5-9bb5-dc2b8dfcb389",
"eventID":"1b9fedde-aa96-48cc-9dd9-a2cce2964b3c",
"readOnly":true,
"resources":[
  {
    "accountId":"123456789012",
    "type":"AWS::KMS::Key",
    "ARN":"arn:aws:kms:us-
west-2:123456789012:key/1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
  }
],
"eventType":"AwsApiCall",
"managementEvent":true,
"recipientAccountId":"123456789012",
"eventCategory":"Management"
}

```

Decrypt

```

{
  "eventVersion":"1.09",
  "userIdentity":{
    "type":"AssumedRole",
    "principalId":"AROAIQDTESTANDEXAMPLE:Sampleuser01",
    "arn":"arn:aws:sts::123456789012:assumed-role/Admin/Sampleuser01",
    "accountId":"123456789012",
    "accessKeyId":"AKIAIOSFODNN7EXAMPLE3",
    "sessionContext":{
      "sessionIssuer":{
        "type":"Role",
        "principalId":"AROAIQDTESTANDEXAMPLE:Sampleuser01",
        "arn":"arn:aws:sts::123456789012:assumed-role/Admin/Sampleuser01",
        "accountId":"123456789012",
        "userName":"Admin"
      }
    }
  }
}

```

```

    },
    "attributes":{
        "creationDate":"2024-08-16T20:47:04Z",
        "mfaAuthenticated":"false"
    }
},
    "invokedBy":"transcribe.streaming.amazonaws.com"
},
"eventTime":"2024-08-16T20:47:04Z",
"eventSource":"kms.amazonaws.com",
"eventName":"Decrypt",
"awsRegion":"us-east-1",
"sourceIPAddress":"transcribe.streaming.amazonaws.com",
"userAgent":"transcribe.streaming.amazonaws.com",
"requestParameters":{
    "keyId":"mrk-de27f019178f4fbf86512ab03ba860be",
    "encryptionAlgorithm":"SYMMETRIC_DEFAULT",
    "encryptionContext":{
        "aws:us-east-1:transcribe:medical-scribe:session-
id":"1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
    }
},
"responseElements":null,
"requestID":"8b7fb865-48be-4e03-ac3d-e7bee3ba30a1",
"eventID":"68b7a263-d410-4701-9e2b-20c196628966",
"readOnly":true,
"resources":[
    {
        "accountId":"123456789012",
        "type":"AWS::KMS::Key",
        "ARN":"arn:aws:kms:us-
west-2:123456789012:key/1234abcd-12ab-34cd-56ef-123456SAMPLE"
    }
],
"eventType":"AwsApiCall",
"managementEvent":true,
"recipientAccountId":"123456789012",
"eventCategory":"Management"
}

```

のドキュメント履歴 Amazon Transcribe

- ドキュメントの最新更新日: 2023 年 11 月 13 日

次の表に、の各リリースにおける重要な変更点を示します Amazon Transcribe。このドキュメントの更新に関する通知を受け取るには、RSS フィードにサブスクライブできます。

変更	説明	日付
新機能	AWS HealthScribe は、臨床メモの概要の新しいテンプレート、BIRP、SIRP、DAP、BH_SOAP、PH_SOAP をサポートするようになりました。詳細については、 AWS HealthScribe 臨床ドキュメントファイル 」を参照してください。	2025 年 5 月 30 日
新機能	AWS HealthScribe は、臨床メモの概要の GIRPP テンプレートをサポートするようになりました。詳細については、 AWS HealthScribe 臨床ドキュメントファイル 」を参照してください。	2025 年 2 月 4 日
新機能	AWS HealthScribe は、医療会話をリアルタイムで文字起こしするためのストリーミングをサポートするようになりました。	2025 年 1 月 29 日
セクション更新	8000 頻度の ar-SA 言語サポートの更新。	2025 年 1 月 16 日

セクション更新	8000 頻度の ar-SA 言語サポートの更新。	2025 年 1 月 16 日
セクション更新	サポートされている言語セクションを、AWS GovCloud (US) (米国西部、us-gov-west-1) AWS GovCloud (US)、(米国東部、us-gov-east-1)、またはアフリカ (ケープタウン、af-south-1) リージョンでサポートされていないサポートされていない言語コードで更新しました。	2025年1月14日
セクション更新	「audio_segments」という新しいフィールドで Transcribe Batch JSON 出力を拡張します。	2024 年 7 月 15 日
機能更新	ダイアライゼーションの最大スピーカーを 10 ではなく 30 に更新します。	2024 年 5 月 10 日
セクション更新	生成呼び出しの要約を更新し、エラー出力の詳細を追加しました。	2024 年 4 月 30 日
セクション更新	カスタム語彙列の更新 - IPA と SoundsLike。	2024 年 4 月 30 日
機能更新	Amazon Transcribe Call Analytics が生成通話の要約をサポートするようになりました。	2023 年 11 月 29 日
セクション更新	PII のマスキングと言語識別の新しい出力形式を更新しました。	2023 年 11 月 13 日

機能更新	ダイアライゼーションをチャネル識別と組み合わせることができるようになりました。	2023 年 3 月 6 日
機能更新	チャネル識別をダイアライゼーションと組み合わせることができるようになりました。	2023 年 3 月 6 日
セクション更新	IAM ベストプラクティスが更新されました。	2023 年 2 月 13 日
新しい言語	Amazon Transcribe がベトナム語とスウェーデン語をサポートできるようになりました。	2022 年 12 月 6 日
新機能	Amazon Transcribe がリアルタイムコール分析をサポートできるようになりました。	2022 年 11 月 28 日
機能更新	ストリーミングリダクションと識別がヒンディー語とタイ語で利用できるようになりました。	2022 年 11 月 11 日
セクション更新	新しい PII カテゴリがストリーミングリダクションおよび識別できるようになりました。	2022 年 9 月 14 日
セクション更新	カスタム言語モデルのセクションが改訂されました。	2022 年 6 月 18 日
セクション更新	バッチ言語識別で、音声ファイルごとに複数の言語を識別できるようになりました。	2022 年 5 月 31 日

ガイドの更新	Amazon Transcribe API リファレンスがスタンドアロンガイドになりました。	2022 年 4 月 1 日
新しい章	Amazon Transcribe、Amazon Transcribe Medical、および Amazon Transcribe Call Analytics の新しい比較テーブルが含まれています。	2022 年 3 月 21 日
新しい章	新しい SDK コード例の章が含まれています。	2022 年 3 月 21 日
機能更新	コール分析では、コールサマリーが提供されるようになりました。	2022 年 3 月 21 日
章の更新	入門章では、Amazon Transcribe ユースケースを紹介するようになりました。	2022 年 3 月 21 日
章の更新	「はじめに」の章がメソッド固有のものになるように更新されました。	2022 年 3 月 21 日
章の更新	ストリーミングの章が更新され、再構成されました。	2022 年 3 月 21 日
機能更新	言語識別では、ストリーミング文字起こしによるカスタム語彙とカスタム語彙フィルターがサポートされるようになりました。	2022 年 3 月 11 日
新しいイベント	新しいイベントタイプがあります。語彙イベントです。	2022 年 2 月 7 日
セクション更新	カスタム語彙のセクションが更新されました。	2022 年 1 月 20 日

新機能	ストリーミング文字起こしによる言語識別が可能になりました。	2021 年 11 月 23 日
新機能	言語識別は、カスタム言語モデル、カスタム語彙、語彙フィルタリング、コンテンツリダクションで使えるようになりました。	2021 年 10 月 29 日
新機能	Amazon Transcribe は、ストリーミング文字起こしを使用したカスタム言語モデルをサポートするようになりました。	2021 年 10 月 20 日
新機能	Amazon Transcribe でビデオファイルの字幕を生成できるようになりました。	2021 年 9 月 16 日
新機能	Amazon Transcribe でストリーミング用の PII の秘匿化と識別がサポートされるようになりました。	2021 年 9 月 14 日
新機能	Amazon Transcribe は、AWS アカウント リソースのセキュリティレベルを高めるために AWS KMS 暗号化コンテキストをサポートするようになりました。	2021 年 9 月 10 日
新しい言語	Amazon Transcribe では、アフリカーン語、デンマーク語、標準中国語 (繁体字)、タイ語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語がサポートされるようになりました。	2021 年 8 月 26 日

新機能

Amazon Transcribe でリソースのタグ付けがサポートされるようになりました。

2021 年 8 月 24 日

新機能

Amazon Transcribe は、バッチ文字起こしジョブのコール分析をサポートするようになりました。

2021 年 8 月 4 日

新機能

Amazon Transcribe では、バッチカスタム言語モデルでのカスタム語彙の使用がサポートされるようになりました。

2021 年 5 月 12 日

新機能

Amazon Transcribe は、ストリーミング文字起こしで部分的な結果の安定化をサポートするようになりました。

2021 年 5 月 11 日

新機能

Amazon Transcribe は、カスタム言語モデルでオーストラリア英語、英国英語、ヒンディー語、米国スペイン語をサポートするようになりました。

2021 年 3 月 19 日

新機能

Amazon Transcribe は、オーディオ文字起こしをストリーミングするための OGG/OPUS コーデックと FLAC コーデックをサポートするようになりました。

2020 年 11 月 24 日

新しい言語	Amazon Transcribe では、音声文字起こしのストリーミングに関するイタリア語とドイツ語のサポートが追加されました。	2020 年 11 月 4 日
AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe がフランクフルト (eu-central-1) とロンドン (eu-west-2) で利用可能になりました。	2020 年 11 月 4 日
新機能	Amazon Transcribe は、バッチ文字起こしでのインターフェイス VPC エンドポイントのサポートを追加します。	2020 年 10 月 9 日
新機能	Amazon Transcribe は、ストリーミングでのチャンネル識別のサポートを追加します。	2020 年 9 月 17 日
新機能	Amazon Transcribe では、バッチ文字起こしにおける自動言語識別のサポートが追加されました。	2020 年 9 月 15 日
新機能	Amazon Transcribe では、ストリーミングでのスピーカーパーティショニングのサポートが追加されました。	2020 年 8 月 19 日
新機能	Amazon Transcribe にカスタム言語モデルのサポートが追加されました。	2020 年 8 月 5 日
新機能	Amazon Transcribe は、ストリーミングのインターフェイス VPC エンドポイントのサポートを追加します。	2020 年 6 月 26 日

新機能

Amazon Transcribe では、ストリーミングでの語彙フィルタリングのサポートが追加されました。

2020 年 5 月 20 日

新機能

Amazon Transcribe は、個人を特定できる情報を自動的に編集するためのサポートを追加します。

2020 年 2 月 26 日

新機能

Amazon Transcribe は、文字起こしからフィルタリングする単語のカスタム語彙を作成するためのサポートを追加します。

2019 年 12 月 20 日

新機能

Amazon Transcribe では、文字起こしジョブのキューイングのサポートが追加されました。

2019 年 12 月 19 日

新しい言語

Amazon Transcribe では、アラビア語、ヘブライ語、日本語、マレー語、スイスドイツ語、テルグ語、トルコ語のサポートが追加されました。

2019 年 11 月 21 日

AWS リージョン 拡張

Amazon Transcribe がアジアパシフィック (東京) (ap-north-east-1) で利用可能になりました。

2019 年 11 月 21 日

新機能

Amazon Transcribe は、代替文字起こしのサポートを追加します。

2019 年 11 月 20 日

新しい言語

Amazon Transcribe は、オランダ語、ペルシア語、インドネシア語、アイルランド英語、ポルトガル語、スコットランド英語、タミル語、ウェールズ英語のサポートを追加します。

2019 年 11 月 12 日

新しい言語

Amazon Transcribe は、オーストラリア英語 (en-AU) のストリーミング文字起こしをサポートするようになりました。

2019 年 10 月 25 日

AWS リージョン 拡張

Amazon Transcribe が中国 (北京) (cn-north-1) および中国 (寧夏) (cn-northwest-1) で利用可能になりました。

2019 年 10 月 9 日

新機能

Amazon Transcribe では、独自の を指定 KMS key して文字起こし出力ファイルを暗号化できます。詳細については、[\[文字起こしのストリーミングをスタートする\]](#) API の「[KMSKeyId の暗号化を出力する](#)」パラメータを参照してください。

2019 年 9 月 24 日

新しい言語

Amazon Transcribe では、中国語 (北京語)、簡体字、中国本土、ロシア語のサポートが追加されました。

2019 年 8 月 23 日

新機能	Amazon Transcribe では、WebSocket プロトコルを使用した音声文字起こしのストリーミングのサポートが追加されました。	2019 年 7 月 19 日
新機能	AWS CloudTrail は、 StartStreamTranscription API のイベントを記録するようになりました。	2019 年 7 月 19 日
AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe が米国西部 (北カリフォルニア) (us-west-1) で利用可能になりました。	2019 年 6 月 27 日
新しい言語	Amazon Transcribe では、モダンスタンダードアラビア語のサポートが追加されました。	2019 年 5 月 28 日
新機能	Amazon Transcribe は、数値単語を米国英語の数字に文字起こしするようになりました。たとえば、「forty-two」は「42」に書き起こされます。	2019 年 5 月 23 日
新しい言語	Amazon Transcribe にヒンディー語とインド英語のサポートが追加されました。	2019 年 5 月 15 日
新しい SDK	AWS SDK for C++ がをサポートするようになりました Amazon Transcribe。	2019 年 5 月 8 日

新しい言語	Amazon Transcribe はスペイン語のサポートを追加します。	2019 年 4 月 19 日
AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe が欧州 (フランクフルト) (eu-central-1) およびアジアパシフィック (ソウル) (ap-northeast-2) で利用可能になりました。	2019 年 4 月 18 日
新しい言語	Amazon Transcribe は、英国英語、フランス語、カナダフランス語のストリーミング文字起こしのサポートを追加します。	2019 年 4 月 5 日
新機能	AWS SDK for Ruby V3 がサポートするようになりました Amazon Transcribe	2019 年 3 月 25 日
新機能	Amazon Transcribe では、音声入力で Amazon Transcribe 認識する特定の単語のリストであるカスタム語彙を使用できます。	2019 年 3 月 25 日
新しい言語	Amazon Transcribe では、ドイツ語と韓国語のサポートが追加されました。	2019 年 3 月 22 日
新しい言語	Amazon Transcribe は、米国スペイン語 (es-US) のストリーミング文字起こしをサポートするようになりました。	2019 年 2 月 7 日

AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe が南米 (サンパウロ) (sa-east-1) で利用可能になりました。	2019 年 2 月 7 日
AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe が、アジアパシフィック (ムンバイ) (ap-south-1)、アジアパシフィック (シンガポール) (ap-southeast-1)、欧州 (ロンドン) (eu-west-2)、欧州 (パリ) (eu-west3) で利用可能になりました。	2019 年 1 月 24 日
新しい言語	Amazon Transcribe では、フランス語、イタリア語、ブラジルポルトガル語のサポートが追加されました。	2018 年 12 月 20 日
新機能	Amazon Transcribe でオーディオストリームの文字起こしがサポートされるようになりました。	2018 年 11 月 19 日
新しい言語	Amazon Transcribe では、オーストラリア英語、英国英語、カナダフランス語のサポートが追加されました。	2018 年 11 月 15 日
AWS リージョン 拡張	Amazon Transcribe がカナダ (中部) (ca-central-1) およびアジアパシフィック (シドニー) (ap-southeast-2) で利用可能になりました。	2018 年 7 月 17 日
新機能	文字起こしジョブからの出力を保存する独自の場所を指定できるようになりました。	2018 年 7 月 11 日

[新機能](#)

AWS CloudTrail と Amazon CloudWatch Events の統合が追加されました。

2018 年 6 月 28 日

[新機能](#)

Amazon Transcribe は、カスタム語彙のサポートを追加します。

2018 年 4 月 4 日

[新しいガイド](#)

これは Amazon Transcribe デベロッパーガイドの初回リリースです。

2017 年 11 月 29 日

AWS 用語集

最新の AWS 用語については、「AWS の用語集 リファレンス」の[AWS 「用語集」](#)を参照してください。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。